

シラバス 2025

理学療法学科

授業科目名	総合国語								
担当者	仲村 稔								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)本科目の目的は、広く社会に通用する国語の知識、言語表現能力を身につけることにある。									
(到達目標)①社会人として、また医療人として求められる基礎的な国語力を身につける。 ②わかりやすい国語表現について理解し、実践できるようになる。 ③文章作成における基本的方法を学ぶ。また、医療人として必要な論理的文章表現を学修する。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	講義の概要説明 国語表現① 言語表現力・思考力を高める							講義	仲村 稔
2	国語表現② 人とつながるコミュニケーション							講義	仲村 稔
3	国語表現③ 人とつながるコミュニケーション							講義	仲村 稔
4	国語表現④ 人とつながるコミュニケーション							講義	仲村 稔
5	国語の常識							講義	仲村 稔
6	日本文学史 文学の流れ①							講義	仲村 稔
7	日本文学史 文学の流れ②							講義	仲村 稔
8	日本文学史 文学の流れ③ / 郷土の文学①(琉球文学と沖縄の文学)							講義	仲村 稔
9	郷土の文学②(琉球文学と沖縄の文学)							講義	仲村 稔
10	国語表現⑤ 言語表現力・思考力を高める							講義	仲村 稔
11	国語表現⑥ 言語表現力・思考力を高める							講義	仲村 稔
12	文章力を磨こう① 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける							講義	仲村 稔
13	文章力を磨こう② 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける							講義	仲村 稔
14	文章力を磨こう③ 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける							講義	仲村 稔
15	筆記試験・まとめ							講義・試験	仲村 稔
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (15) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業態度、出席) (5) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
資料配布									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど） 学習プリントを配布しますので各自取り組んでください。（期末試験に出題します）									

授業科目名	心理学								
担当者	野村 学								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)テキストにそって、心理学の様々な分野について概観し、リハビリ実務者にとって有効な心理学的視点を学んでいく。									
(到達目標)①心理学の基礎知識を役立てて、人間の心や行動を理解しようとする姿勢を持つことができる。 ②人間の心や行動が様々な要因(生物—心理—社会的要因)の影響を受けている事を理解できる。 ③心理学的視点を、自己理解にも活かすことができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
講義中心になりますが、積極的に参加してください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	イントロダクション 心理学を学ぶにあたって						講義	野村 学	
2	心理学とは						講義	野村 学	
3	感覚・知覚・注意・認知						講義	野村 学	
4	情動・動機付け・パーソナリティ・社会						講義	野村 学	
5	記憶・学習						講義	野村 学	
6	言語・概念・思考						講義	野村 学	
7	発達と知能						講義	野村 学	
8	臨床心理学とは						講義	野村 学	
9	防衛機制						講義	野村 学	
10	心理アセスメント						講義	野村 学	
11	臨床で用いられる心理検査						講義	野村 学	
12	臨床心理学の介入方法(行動的)						講義	野村 学	
13	臨床心理学の介入方法(内面的)						講義	野村 学	
14	臨床心理学の介入方法(相談的)						講義	野村 学	
15	まとめ・期末試験						講義・試験	野村 学	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席日数) (30) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハベーシック 心理学・臨床心理学			内山靖・藤井浩美・立石雅子 編			医歯薬出版株式会社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
テキストに対応した講義資料を配布し、これに基づいて行います。									

授業科目名	生物学								
担当者	砂川 昌信/ 照屋 若夏/ 専任教員								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)リハビリテーション医療を理解する上で必要な生物の知識を「人体のしくみ」を中心に学ぶ。									
(到達目標)①生物の用語を含めた基礎知識を理解できる ②生物の知識と人体の構造や機能とつなげて考えることができる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	細胞のしくみ						講義	照屋 若夏	
2	細胞のはたらき						講義	照屋 若夏	
3	生体物質のはたらき						講義	照屋 若夏	
4	遺伝子とそのはたらき						講義	照屋 若夏	
5	生殖と遺伝						講義	照屋 若夏	
6	体液の恒常性						講義	照屋 若夏	
7	体温のしくみ						講義	照屋 若夏	
8	刺激伝達のしくみ						講義	砂川 昌信	
9	神経のしくみ						講義	砂川 昌信	
10	特殊感覚						講義	砂川 昌信	
11	生体防御と循環						講義	照屋 若夏	
12	呼吸系のしくみ						講義	照屋 若夏	
13	排泄や吸収系のしくみ						講義	照屋 若夏	
14	内分泌系のしくみ						講義	照屋 若夏	
15	まとめ						講義・試験	砂川 昌信	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
楽しくわかる生物・化学・物理			岡田 隆夫			羊土社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 生物は「人体のしくみ」を知る上での基盤となり、理学療法士をめざす上ではとても重要な科目となります。また入学後、すぐに始まる解剖・生理学の理解の一助となると思います。覚えることが多い科目ですが、自分の体や日常生活に目を向けながら、関連付けて覚えていきましょう。									

授業科目名	医学関連英語								
担当者	新垣 均								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)医療専門職として医学用語を国際共通語である英語で理解することがより深い知識向上に繋がる。									
(到達目標)①英語医学用語の構成を理解し、用語の組立ができるようになる。 ②筋肉・骨格を英名で理解できるようになる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	基本用語及びテキストフレーム P1～150						講義	新垣 均	
2	基本用語及びテキストフレーム P151～300						講義	新垣 均	
3	基本用語及びテキストフレーム P301～450						講義	新垣 均	
4	テキストフレーム P451～600						講義	新垣 均	
5	クイズ1 テキストフレーム P601～750						講義	新垣 均	
6	テキストフレーム P751～900						講義	新垣 均	
7	テキストフレーム P901～1050						講義	新垣 均	
8	テキストフレーム P1051～1200						講義	新垣 均	
9	クイズ2 テキストフレーム P1201～1350						講義	新垣 均	
10	テキストフレーム P1351～1500						講義	新垣 均	
11	医学省略語Ⅰ						講義	新垣 均	
12	医学省略語Ⅱ						講義	新垣 均	
13	クイズ3 医学用語 骨格編						講義	新垣 均	
14	医学用語 筋肉編						講義	新垣 均	
15	まとめ						講義・試験	新垣 均	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (45) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出欠・受講態度等) (5) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
プログラム学習による医学用語の学び方						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 暗記事項が多いので毎回講義後復習し、記憶することが必要です。									

授業科目名	情報処理								
担当者	砂川 昌信								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	8	時間数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)・コンピューターの基本操作を習得し、レポート作成方法やデータのまとめ作業及び発表を行う。 ・情報モラル、情報セキュリティ、個人情報の取り扱いを学ぶ。 ・インターネットを適切に使用し、情報処理能力をつけるとともに情報検索ができる。									
(到達目標)・Word、Excel、PowerPointの基本操作方法を理解し、レポート作成やデータのまとめ方、表計算の仕方を理解する。 ・インターネットを使用し、情報セキュリティ、個人情報の取り扱いが適切にできる。 ・インターネットを使用し、情報検索ができる。また、社会人として最低限のルールを知り、メールのやり取りができる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
①他の学生の学習機会を損なう行為(講義に関係のない私語、行為など)を禁止する。 ②講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	情報モラル&情報セキュリティ						講義・演習	砂川 昌信	
2	個人情報の取り扱い						講義・演習	砂川 昌信	
3	情報検索						講義・演習	砂川 昌信	
4	ワープロソフトの活用						講義・演習	砂川 昌信	
5	プレゼンテーションソフトの活用						講義・演習	砂川 昌信	
6	表計算ソフトの活用						講義・演習	砂川 昌信	
7	レポート作成方法						講義・演習	砂川 昌信	
8	まとめ・確認試験						講義・演習	砂川 昌信	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (100) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
情報リテラシー Windows11 Office2021対応						FOM出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど） 分からない箇所は、講義中でも構わないので質問をすること。									

授業科目名	人間発達学								
担当者	溝田 康司								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)(概要)理学療法・作業療法の基礎として、各年齢の発達段階を、胎生期から老年期に渡る生涯発達学としての人間発達を学ぶ。また、フロイトやエリクソン、ピアジェといった生得的要因と環境要因の双方から俯瞰した発達理論の概要を学び、発達の課題について理解を深める。									
(到達目標)(到達目標)1)胎生期から終末を迎えるまでの人(ヒト)の発達過程について理解する。 2)人(ヒト)は生涯にわたって発達する存在であることを理解する。 3)発達論の概要にふれ、人(ヒト)の発達が生物学的な存在である一方環境と関わりながら社会的存在であることを理解する。 4)各年齢期の発達課題を理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
初回到配布する講義進行表に記載された教科書の該当ページを事前学習として一読して講義に臨むこと。 講義2回目から14回目まで毎回web復習クイズを実施。VTR視聴に合わせて課題クイズを実施。各講義終了時に当日の学びの振り返りシートを記載し提出。(講義開始時の出席登録と講義終了時の振り返りシート登録の2つがそろって出席扱いとなる)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション/人間発達学とは							溝田 康司	
2	発育の4原則						講義・クイズ	溝田 康司	
3	胎芽期・胎児期・出生の概要						講義・クイズ	溝田 康司	
4	VTR:赤ちゃんの秘密						義・クイズ・課題	溝田 康司	
5	出生・新生児期の概要						講義	溝田 康司	
6	形態発育・乳幼児の概要・運動発達序論						講義・クイズ	溝田 康司	
7	反射・反応の概要						講義・クイズ	溝田 康司	
8	運動発達の概要・VTR(運動機能の発達)						義・クイズ・課題	溝田 康司	
9	巧緻動作/身辺自立/対人/思考認識の発達・VTR(認知・思考の発達)						義・クイズ・課題	溝田 康司	
10	5歳までの発達/VTR(ことばの発達)・ピアジェの発達理論(序)						義・クイズ・課題	溝田 康司	
11	ピアジェの発達理論						講義・クイズ	溝田 康司	
12	フロイト・エリクソン・ゲゼルの発達理論						講義・クイズ	溝田 康司	
13	学童期・青年期(成人期前期)						講義・クイズ	溝田 康司	
14	成人期中期～後期・高齢期						講義・クイズ	溝田 康司	
15	まとめ						試験	溝田 康司	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (VTRに関するクイズを実施) (0) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカルのための専門基礎分野テキスト 『人間発達学』			福田恵美子編			中外医学社			
参考書									
書名			著者			出版社			
リハビリテーションのための人間発達学			大城昌平編			メディカルプレス			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
毎回の講義の進行はおおよそ下記の通り。1)Web復習クイズ→2)教科書確認→3)学びシート→4)講義→5)振り返りシートの記入→6)講義終了									

授業科目名	コミュニケーション論								
担当者	羽鳥 訓秀/ 島袋 尚美								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	8	時間数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人間性を高め、人として自分を成長させる素地を養う。さらに自己肯定感の高い、心身ともに健康な医療者を育てる。また、社会人として必要な資質、医療専門職として求められる資質を理解し、演習を通してスキルを身に付ける。									
(到達目標)・自己への理解を深め、自分自身の成長課題を明らかにし、自己成長課題に取り組む姿勢を理解する。 ・社会人として必要なマナーを学び、身に付ける。 ・医療専門職として求められる資質を理解し、基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力(スキル)を援助の下で実践できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為(講義に関係のない私語、行為など)を禁止する。 ②講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	概要:なぜコミュニケーションを学ぶのか					講義・演習	島袋 尚美		
2	自分を理解しよう					講義・演習	島袋 尚美		
3	自律した自分になる					講義・演習	島袋 尚美		
4	コミュニケーション力を育もう(主に学内を想定して)					講義・演習	島袋 尚美		
5	社会人のマナーとしてのコミュニケーション(主に臨床現場を想定して)					講義・演習	島袋 尚美		
6	医療の現場におけるコミュニケーションスキル					講義・演習	島袋 尚美		
7	メンタルヘルスとコミュニケーション					講義・演習	島袋 尚美		
8・9	認知症の方の理解を深める					講義・演習	羽鳥 訓秀/ 島袋 尚美		
10	OSCE実施・まとめ					講義・演習	島袋 尚美		
<input type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 (20) % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者			出版社				
リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論		内山靖・藤井浩美・立石雅子編			医歯薬出版				
参考書									
書名		著者			出版社				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
・資料は、適宜配布します。 ・本講義は、主にワークショップ方式で行います。ワークショップ方式とは、小グループでのディスカッションや、2人1組でのロールプレイを通して考えたこと、感じたことを伝えあい、お互いの学びを共有する方法です。 ・わからないことは、講義中でも構わないので、質問してください。									

授業科目名	解剖学								
担当者	久高 将臣/ 高山 千利/ 専任教員/ 泉水 奏/ 木村 亮介								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	60	時間数	120	単位数	4
授業の概要・到達目標									
(概要)中等教育での生物学の続きとして、解剖学教育では、個体レベルの形態学の認識を深める。解剖学の理解のために、比較解剖学を念頭においた講義を先行して行い、骨学実習や解剖学実習(2年次)を進める。									
(到達目標)①講義と実習を通して、人体の正常構造を理解する。 ②人体の構造に付けられた解剖学用語を習得する。 ③解剖学用語と人体構造の実物ならびに画像を結びつけることができる科学的思考を身につける。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
毎回、教科書を使用します。 各単元毎の試験結果が及第点に満たない場合は再試験を受験すること(未受験の場合は単位を認めません)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	1.解剖学総論 解剖学とは一解剖学用語と人体の区分 P1~P8 人体の構成、骨学総論、関節と靭帯学総論							講義	久高 将臣
2	2.骨学 上肢骨 P68~P77							講義	久高 将臣
3	3.関節と靭帯学 上肢の連結 P123~P137							講義	久高 将臣
4	2.骨学 下肢骨 P78~P92							講義	久高 将臣
5	2.骨学 下肢骨 P78~P92							講義	久高 将臣
6・7	骨学実習①							実習	木村 亮介
8	3.関節と靭帯学 下肢の連結 P137~P154							講義	久高 将臣
9	3.関節と靭帯学 下肢の連結 P137~P154							講義	久高 将臣
10	2.骨学 頭蓋 P46~P57							講義	久高 将臣
11	3.関節と靭帯学 頭蓋の連結 P113~P114							講義	久高 将臣
12・13	骨学実習②							実習	木村 亮介
14	2.骨学 脊柱・胸郭 P58~P67							講義	久高 将臣
15	3.関節と靭帯学 脊柱・頭蓋・胸郭の連結 P114~P122							講義	久高 将臣
16・17	骨学実習③および口頭試験							実習・試験	木村 亮介
18	1~15 まとめ 1.解剖学総論 人体の構成、2.骨学総論、3.関節と靭帯学総論、4.筋学総論							講義・試験	久高 将臣
19	4.筋学 背部浅層の筋 P190~P192、上肢帯の筋 P196~P199							講義	久高 将臣
20	4.筋学 上腕の筋 P198~P200、前腕の屈筋群 P201~P203							講義	久高 将臣
21	4.筋学 前腕の伸筋群 P203~P207							講義	久高 将臣
22	4.筋学 手の筋 P207~P210							講義	久高 将臣
23	4.筋学 19~22まとめ、腕神経叢							試験・講義	久高 将臣
24	4.筋学 下肢帯の筋 P211~P214							講義	久高 将臣
25	4.筋学 大腿の伸筋群 P215~P217、大腿内転筋群 P217~P218							講義	久高 将臣
26	4.筋学 大腿の屈筋群 P217~P219、下腿の伸筋・屈筋群P219~P222							講義	久高 将臣
27	4.筋学 腓骨筋群P223、足の筋P224~P227							講義	久高 将臣
28	4.筋学 24~27まとめ、腰・仙骨神経叢							試験・講義	久高 将臣
29	4.筋学 頭頸部の筋 P179~P183							講義	久高 将臣
30	4.筋学 体幹の筋 P185~P195							講義	久高 将臣
31	4.筋学 19~31 まとめ							試験	久高 将臣
32・33	脊髄神経							講義	高山 千利
34・35	脳神経							講義	高山 千利
36・37	脳神経核							講義	高山 千利
38・39	脊髄、脳							講義	高山 千利

40・41	運動系伝導路	講義	高山 千利
42・43	感覚系伝導路	講義	高山 千利
44	32～43まとめ	講義・試験	専任教員
45	感覚器系 P319～P332	講義	泉水 奏
46	内臓の基本構造 P333～P334	講義	泉水 奏
47	循環器系1 P335～P339	講義	泉水 奏
48	循環器系2 P335～P339	講義	泉水 奏
49	循環器系3 P335～P339	講義	泉水 奏
50	循環器系4 P335～P339	講義	泉水 奏
51	45～51 まとめ	講義・試験	専任教員
52	呼吸器系 P360～P369	講義	泉水 奏
53	消化器系1 P370～P383	講義	泉水 奏
54	消化器系2 P370～P383	講義	泉水 奏
55	消化器系3 P370～P383	講義	泉水 奏
56	消化器系4 P370～P383	講義	泉水 奏
57	泌尿生殖器 P384～P397	講義	泉水 奏
58	内分泌系 P398～P404	講義	泉水 奏
59	人体の発生 P21～P36	講義	泉水 奏
60	52～59 まとめ	講義・試験	専任教員
<p>■期末試験（93）％ □提出物（ ）％ □小テスト（ ）％ □実技試験（ ）％ ■口頭試問（7）％ □発表（ ）％ □その他（ ）（ ）％</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
書名		著者	
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系		医学書院	
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学		医学書院	
参考書			
書名		著者	
イラストレイテッドカラーテキスト 神経解剖学		三輪書店	
基礎運動学		医歯薬出版株式会社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど） 予習として講義開始前日までには事前に教科書の黙読を行うこと。復習として小テストなどを繰り返し解くことや模写等をすすめる。先に位置関係や構造をイメージしたり理解をすることで、暗記量を少なくすることが可能になります。			

授業科目名	解剖学演習								
担当者	久高 将臣/ 高山 千利/ 木村 亮介								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)人体解剖学の学部教育では、個体レベルの形態学の認識を深めてゆく必要がある。解剖学実習では、学生たちが後に学ぶ臨床科目との兼ね合いと限られた時間の中で、重点を決めて実習を進めていく。また、画像診断の進展を考え、まさに「切り口」の違いから解剖学はできるが、画像は読めないという状況をなくすため、実習室内で様々な画像(とくに脳)と対比させながら実習を進める。</p> <p>(到達目標)①実習を通して、人体の正常構造を理解する。 ②人体の構造に付けられた解剖学用語を習得する。 ③解剖学用語と人体構造の実物ならびに画像を結びつけることができる科学的思考を身につける。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
解剖学演習前までには、教科書に記載されている名称や位置関係を理解できるよう事前に予習復習を各自で行うこと。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
0	オリエンテーション・観察する内容の学習・確認						講義	久高 将臣	
1・2	神経解剖学実習見学						実習	高山 千利	
3・4	神経解剖学実習見学						実習	高山 千利	
5	人体解剖学実習見学オリエンテーション 観察する内容の学習・確認(頸部体幹表層の筋、胸腔・腹腔臓器)						講義	木村 亮介	
6	観察する内容の学習・確認(頸部体幹表層の筋、胸腔・腹腔臓器)						講義	久高 将臣	
7・8	人体解剖学実習見学(頸部体幹・上肢・体壁表層の筋、胸腔・腹腔臓器)						実習	木村 亮介	
9	観察する内容の学習・確認(頭頸部体幹および上下肢の骨・関節・筋、神経叢、咽頭喉頭)						講義	久高 将臣	
10・11	人体解剖学実習見学(上肢・下肢の筋)						実習	木村 亮介	
12・13	人体解剖学実習見学(上肢・下肢の筋、口頭試問、四肢の関節・神経叢の観察)						実習・試験	木村 亮介	
14・15	人体解剖学実習見学(四肢の関節、頭頸部の血管、咽頭喉頭、骨盤内蔵の観察)						実習	木村 亮介	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 口頭試問 (50) % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席点) (50) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
プロメテウス解剖学コアアトラス						医学書院			
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系						医学書院			
基礎運動学						医歯薬出版株式会社			
イラストレイテッドカラーテキスト 神経解剖学						三輪書店			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
1年次の解剖学・運動学教科書および、徒手筋力検査法・整形外科学・神経内科学等の教科書にて解剖学的知識の復習を事前に行ない、本演習にて画像診断学や触診と結び付けられるよう、学習に取り組んでください。									

授業科目名	生理学 I								
担当者	松下 正之								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人体のはたらきとメカニズムを理解し、医療従事者として基礎知識を習得する。									
(到達目標)①人体のはたらきとメカニズムが理解できる。 ②わからないことや興味のある事柄は自分で調べられる。 ③要点をまとめて、わかりやすく説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	第1章 生理学の基礎(1~3)						講義	松下 正之	
2	第1章 生理学の基礎(4~5)						講義	松下 正之	
3	第2章 神経系の基本的機能(1~2)						講義	松下 正之	
4	第2章 神経機能の基本的機能(3~4)						講義	松下 正之	
5	第3章 神経系の機能(1)						講義	松下 正之	
6	第3章 神経系の機能(2)						講義	松下 正之	
7	第3章 神経系の機能(3)						講義	松下 正之	
8	第3章 神経系の機能(4)						講義	松下 正之	
9	第4章 感覚の生理(1~2)						講義	松下 正之	
10	第4章 感覚の生理(3~4)						講義	松下 正之	
11	第5章 感覚の生理(5)						講義	松下 正之	
12	第5章 筋肉・運動の生理(1)						講義	松下 正之	
13	第5章 筋肉・運動の生理(2)						講義	松下 正之	
14	神経系の疾患の病態生理						講義	松下 正之	
15	まとめ・試験						講義・試験	松下 正之	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカル専門基礎科目シリーズ 生理学						理工図書			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学 ノート						医葉薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 授業後に小テスト(基礎から学ぶ生理学ノートや過去の国家試験より)を実施して学習効率が上がるようにします。									

授業科目名	生理学Ⅱ								
担当者	松下 正之								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人体のはたらきとメカニズムを理解し、医療従事者として基礎知識を習得する。									
(到達目標)①人体のはたらきとメカニズムが理解できる。 ②わからないことや興味のある事柄は自分で調べられる。 ③要点をまとめて、わかりやすく説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	第6章 運動の制御機構(1~3)						講義	松下 正之	
2	第7章 血液の生理(1~2)						講義	松下 正之	
3	第7章 血液の生理(3)						講義	松下 正之	
4	第8章 循環の生理(1~2)						講義	松下 正之	
5	第8章 循環の生理(3~4)						講義	松下 正之	
6	第8章 循環の生理(5~6)						講義	松下 正之	
7	第8章 循環の生理(7~8)						講義	松下 正之	
8	第8章 循環の生理(9~11)						講義	松下 正之	
9	第9章 呼吸(1~2)						講義	松下 正之	
10	第9章 呼吸(3~4)						講義	松下 正之	
11	第9章 呼吸(5~6)						講義	松下 正之	
12	第9章 呼吸(7~8)						講義	松下 正之	
13	第10章 消化・吸収(1~3)						講義	松下 正之	
14	第10章 消化・吸収(4~6)						講義	松下 正之	
15	まとめ・試験						講義・試験	松下 正之	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカル専門基礎科目シリーズ 生理学						理工図書			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学 ノート						医葉薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 授業後に小テスト(基礎から学ぶ生理学ノートや過去の国家試験より)を実施して学習効率が上がるようにします。									

授業科目名	生理学Ⅲ								
担当者	松下 正之								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)生理学の基礎である細胞の機能と臓器や個体の制御機構を理解する。特に、本講義では神経系、感覚器、運動などの動物性生理学についての各論について講義を行う。									
(到達目標)①生理学の基礎である、細胞の機能や恒常性維持機構を学ぶ。 ②神経や感覚器などについて理解する。 ③筋肉や骨格による運動の生理学を学ぶ。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	第11章 栄養と代謝(1~2)							講義	松下 正之
2	第11章 栄養と代謝(3~4)							講義	松下 正之
3	第12章 腎臓の生理(1)							講義	松下 正之
4	第12章 腎臓の生理(2~3)							講義	松下 正之
5	第13章 体液の恒常性(1~2)							講義	松下 正之
6	第13章 体液の恒常性(3~4)							講義	松下 正之
7	第13章 体液の恒常性(5~7)							講義	松下 正之
8	第14章 内分泌(1)							講義	松下 正之
9	第14章 内分泌(2)							講義	松下 正之
10	第14章 内分泌(3)							講義	松下 正之
11	第15章 体温の調節(1~2)							講義	松下 正之
12	第15章 体温の調節(3~4)							講義	松下 正之
13	第15章 体温の調節(5~6)							講義	松下 正之
14	内分泌疾患関連							講義	松下 正之
15	まとめ・試験							講義・試験	松下 正之
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカル専門基礎科目シリーズ 生理学						理工図書			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート						医薬薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
授業後に小テスト(基礎から学ぶ生理学ノートや過去の国家試験より)を実施して学習効率が上がるようにします。									

授業科目名	生理学演習								
担当者	佐久田 衛/ 青野 健治/ 島袋 公史/ 平良 進								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)主たる生理機能である、心・循環・呼吸・筋活動のそれぞれについて、基本的な機能評価とそのプロセスについて学ぶ。									
(到達目標)各項目について、評価の意義及び意味を説明することができる。 各項目について、検査機器の実際的な操作方法を身につけ、実施できる。 各検査項目より得られたデータを解釈し、説明することができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
① 事前に項目毎の予備知識を整理しておく。⇒個々の実習の目的 ② 実習進行上の手順について確実に身につけておく。 ③ 手引きに不明の事項などがあれば、文献等で確認し、また指導教員に確認しておく。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション(概要説明・準備・注意事項など)						講義	青野 健治	
2	事前学習(グループ及び個別)・血圧						講義	佐久田 衛/ 島袋 公史	
3	事前学習(グループ及び個別)・筋電図						講義・演習	平良 進	
4	事前学習(グループ及び個別)・心電図						講義・演習	青野 健治	
5	演習 血圧						講義・演習	佐久田 衛/ 島袋 公史	
6	演習 血圧						講義・演習	佐久田 衛/ 島袋 公史	
7	まとめ 血圧						講義・演習	佐久田 衛/ 島袋 公史	
8	演習 筋電図/心電図						講義・演習	青野 健治/ 平良 進	
9	演習 筋電図/心電図						講義・演習	青野 健治/ 平良 進	
10	演習 心電図/筋電図						講義・演習	青野 健治/ 平良 進	
11	演習 心電図/筋電図						講義・演習	青野 健治/ 平良 進	
12	まとめ 心電図						講義・演習	青野 健治	
13	まとめ 筋電図						講義・演習	平良 進	
14	まとめ 筋電図						講義・演習	平良 進	
15	総まとめ						講義・試験	青野 健治	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (25) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (発表、態度など) (25) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート						医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
わからないことは授業中、授業外を問わず質問して構わないので、学修内容を理解するよう努めること。また、講義終了後には事後学修として、該当範囲の内容の整理をしておくこと。									

授業科目名	運動学総論								
担当者	砂川 昌信								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	23	時間数	46	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)教科書の3章を内容に沿って進めていきます。 運動表記ができること、筋の特性について理解すること、反射の意味を理解することが目標となります。									
(到達目標)専門書・専門分野の表現や意味を、テキストを読み込んで理解する。 復習中心の学習スタイルを確立する。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	身体運動の面と軸						講義・演習	砂川 昌信	
2	関節の分類・関節の機能と構造						講義・演習	砂川 昌信	
3	関節運動の表し方・骨と関節の運動						講義・演習	砂川 昌信	
4	筋収縮のためのエネルギー産生と供給						講義・演習	砂川 昌信	
5	細胞の興奮						講義・演習	砂川 昌信	
6	骨格筋						講義・演習	砂川 昌信	
7	収縮の基本的性質・筋収縮の様態・筋の働き・筋肥大と筋萎縮						講義・演習	砂川 昌信	
8	上肢帯の運動学						講義・演習	砂川 昌信	
9	肩関節の運動学						講義・演習	砂川 昌信	
10	筋と関節の相互作用						講義・演習	砂川 昌信	
11	肘関節と前腕の運動学						講義・演習	砂川 昌信	
12	手関節の運動学						講義・演習	砂川 昌信	
13	手の運動学						講義・演習	砂川 昌信	
14	骨盤帯の運動学						講義・演習	砂川 昌信	
15	股関節の運動学						講義・演習	砂川 昌信	
16	膝関節の運動学						講義・演習	砂川 昌信	
17	足関節の運動学						講義・演習	砂川 昌信	
18	屈筋反射と交叉性伸展反射、立位姿勢保持の3系統、原始反射の統合。						講義・演習	砂川 昌信	
19	局在性体節性汎在性の分類、ATNRとSTNR、写真と成人のケース。						講義・演習	砂川 昌信	
20	緊張性迷路反射、反射統合。						講義・演習	砂川 昌信	
21	立ち直り反応、平衡斑と半規管の特性、頭部制御の重要性。						講義・演習	砂川 昌信	
22	姿勢反射						講義・演習	砂川 昌信	
23	試験						講義・演習	砂川 昌信	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (20) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (80) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
基礎運動学 第7版 補訂			中村隆一、齋藤宏、長崎浩			医歯薬出版株式会社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
予習はしなくて結構ですが、復習は必要だと思います。1コマ毎の理解を積み重ねて欲しいと思います。									

授業科目名	運動学 I								
担当者	佐久田 衛								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)主に教科書の4章を中心に学習する。 ヒトの上肢・下肢において、運動とてこ、各関節の構造、関節運動に作用する筋、筋を支配する神経の組み合わせを学ぶ。 正常な関節運動の仕組みを網羅的に学ぶ。									
(到達目標)①各関節のてこ、関節構造、運動に関与する筋を述べるができる ②各筋を支配している神経を述べるができる ③関節運動を観察し、運動方向や関与する筋を述べるができる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
①事前に配布する教科書の範囲を熟読して臨むこと。次回の講義では確認のミニテストを実施する。 ②講義で配布する資料や文書等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	力・てこ、肩甲帯の運動						講義	佐久田 衛	
2	解剖学的肩関節、機能的肩関節の運動						講義	佐久田 衛	
3	肩甲帯の筋と支配神経						講義	佐久田 衛	
4	肘・前腕部の運動						講義	佐久田 衛	
5	肘・前腕部の筋と支配神経						講義	佐久田 衛	
6	手・手指の構造と機能						講義	佐久田 衛	
7	手・手指の筋と支配神経						講義	佐久田 衛	
8	上肢のまとめ						講義	佐久田 衛	
9	股関節の運動						講義	佐久田 衛	
10	股関節の筋と支配神経						講義	佐久田 衛	
11	膝関節の運動						講義	佐久田 衛	
12	膝関節の筋と支配神経						講義	佐久田 衛	
13	足関節・足部の運動						講義	佐久田 衛	
14	足関節・足部の筋と支配神経						講義	佐久田 衛	
15	下肢のまとめ						試験	佐久田 衛	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (40) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
基礎運動学 第6版			中村隆一			医歯薬出版株式会社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
わからないことがあれば講義中でも構わないので質問すること。講義内容の範囲を教科書で予習・復習をすると理解が深まります。									

授業科目名	運動学Ⅱ								
担当者	平良 進								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)頸部・体幹・胸郭・骨盤の解剖学及び機能的作用を学び、臨床における異常な運動を解析するために必要な姿勢、正常歩行について、基礎知識を学習する。国家試験で求められる知識の理解に努める。									
(到達目標)体幹に関する機能解剖を理解する。 骨、関節、靭帯及び筋の働きを学び、運動器としての機能を理解する。 体節の各運動器が共同して起こる姿勢や正常歩行を学び、異常動作との違いを理解する。 国家試験で求められる知識について理解できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
小テストを実施し、前回講義の確認を行う。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	体幹①（頸椎の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
2	体幹②（頸椎・胸椎の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
3	体幹③（胸椎と腰椎の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
4	体幹④（腰椎と骨盤の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
5	体幹⑤（腰椎と骨盤の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
6	胸郭①（呼吸の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
7	胸郭②（呼吸の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
8	顔面①（咀嚼の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
9	顔面②（表情筋の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
10	姿勢①（重心の運動学、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
11	正常歩行①（歩行用語、歩行周期、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
12	正常歩行②（ランチョロス歩行周期、重心移動について、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
13	正常歩行③（筋電図、関節角度について、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
14	正常歩行④（床反力、小児・高齢者、走行、CPGIについて、関連する国試問題解説）						講義	平良 進	
15	まとめ						講義・試験	平良 進	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験（50）% <input type="checkbox"/> 提出物（ ）% <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（50）% <input type="checkbox"/> 実技試験（ ）% <input type="checkbox"/> 口頭試問（ ）% <input type="checkbox"/> 発表（ ）% <input checked="" type="checkbox"/> その他（提出物は必要時に実施する。）（0）% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
基礎運動学			中村隆一			医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
プロメテウス									
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	専門基礎セミナーⅠ								
担当者	平良 進/ 末吉 勇樹								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 挨拶や身だしなみ、時間の有効利用について学び、考える。1年次に学習する専門基礎分野の科目(特に解剖学・生理学・運動学)の必要性について考える。グループ学習を通して理解を深めるとともに、各科目の学習が円滑に進められるように、学習の計画や方法について実践を通じて学ぶ。									
(到達目標) 基本的な生活態度、学習方法について考える。理学療法学の基礎となる解剖学・生理学・運動学の理解を深める。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
提出物はレスポンスシート									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	挨拶・身だしなみ						講義		
2	ストレスについて						講義		
3	時間の有効利用						講義		
4	行動すること						講義		
5	解剖学・生理学・運動学の必要性 (国試問題を解いて、必要性についてグループワーク)						アクティブラーニング		
6	解剖学の勉強方法についてグループワーク						アクティブラーニング		
7	生理学の勉強方法についてグループワーク						アクティブラーニング		
8	見学実習前・トークン能力向上講座						講義		
9	見学実習前・リスニング能力向上講座						講義		
10	解剖学・生理学・運動学のグループ学習の実践						アクティブラーニング		
11	解剖学・生理学・運動学のグループ学習の実践						アクティブラーニング		
12	解剖学・生理学・運動学のグループ学習の実践						アクティブラーニング		
13	解剖学・生理学・運動学のグループ学習の実践						アクティブラーニング		
14	解剖学・生理学・運動学のグループ学習の実践						アクティブラーニング		
15	まとめ 試験								
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (40) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (60) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	病理学								
担当者	和田 直樹								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人体の病的な状態を、主に肉眼・顕微鏡を利用した形態学的観察により得られるを基に、疾病の成因や生体反応の意義を認識する学問であり、昨今では分子レベルでの反応を含んだ病因を追求する学問である。人体病態総論とそれぞれの病態の臓器別の疾患を概説する。									
(到達目標)人体における疾患の原因を理解できる。 病態の専門用語を理解できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	①病理学の領域 ②細胞・組織とその障害 ③再生と修復 教科書(p1~31)						講義	和田 直樹	
2	①先天異常 ②新生児の病理 ③老化と老年病 教科書(p121~155)						講義	和田 直樹	
3	①循環障害 ②循環器系 教科書(p33~52, 185~205)						講義	和田 直樹	
4	代謝異常 教科書(p99~120)						講義	和田 直樹	
5	呼吸器系 教科書(p207~225)						講義	和田 直樹	
6	①脳・神経系 ②運動器系 教科書(p323~355)						講義	和田 直樹	
7	①炎症②免疫とアレルギー 教科書(p53~84)						講義	和田 直樹	
8	①感染症②腫瘍 教科書(p87~98, 157~174)						講義	和田 直樹	
9	①歯科口腔系②消化器系 教科書(p227~260)						講義	和田 直樹	
10	内分泌系 教科書(p261~275)						講義	和田 直樹	
11	①腎泌尿器系②生殖器・乳腺 教科書(p291~321)						講義	和田 直樹	
12	①造血器系 ②感覚器系 教科書(p227~286, 359~374)						講義	和田 直樹	
13	まとめ①						講義	和田 直樹	
14	まとめ②						講義	和田 直樹	
15	まとめ・試験						講義・試験	和田 直樹	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
カラーで学べる病理学						ヌーヴェルヒロカワ			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	神経内科学								
担当者	遠藤 一博/ 宮城 朋/ 崎間 洋邦/ 城本 高志/ 神里 尚美/ 西村 正彦/ 石原 聡/ 渡慶次 裕也/ 名嘉 太郎/ 山城 貴之/ 赤嶺 博行								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	26	時間数	52	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)PT・OTに必要な神経系機能解剖と疾患の病態を理解させる。									
(到達目標)①病態を理解するための神経機能解剖を学ぶ。 ②正しい神経学用語を身につける。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	神経症候学(意識の生理と解剖)						講義	神里 尚美	
2	神経症候学(てんかんと睡眠の生理)						講義	神里 尚美	
3	神経症候学(高次脳機能(認知機能を含めて))						講義	遠藤 一博	
4	神経症候学(脳神経の生理と解剖)						講義	遠藤 一博	
5	神経症候学(運動と反射の生理と解剖) 動画						講義	遠藤 一博	
6	神経症候学(感覚系、自律神経系の生理と解剖)						講義	遠藤 一博	
7	末梢神経障害(自己免疫機構、GBS/CIDP)						講義	渡慶次 裕也	
8	中枢神経系・脱髄、変性(MS/NMOSD)						講義	石原 聡	
9	運動ニューロン疾患						講義	名嘉 太郎	
10	感染症(髄膜炎、HAM/TSP)						講義	宮城 朋	
11	脳血管障害の病態・治療・疫学						講義	崎間 洋邦	
12	神経症候学(痙縮の生理・解剖、ボツリヌス治療)						講義	城本 高志	
13	中間試験・まとめ						講義・試験		
14	血管障害(血管内治療、先端医療)						講義	山城 貴之	
15	アルツハイマー病、抗体治療を含めて						講義	赤嶺 博行	
16	神経放射線						講義	西村 正彦	
17	脳腫瘍						講義	西村 正彦	
18	水頭症、脊髄空洞症						講義	西村 正彦	
19	頭部外傷・感染症						講義	西村 正彦	
20	神経症候学(小脳の生理と解剖、脊髄小脳失調症)						講義	神里 尚美	
21	基底核疾患(パーキンソン病など)						講義	神里 尚美	
22	基底核疾患(ジストニア、ボツリヌス治療)						講義	神里 尚美	
23	分子遺伝学、先天代謝性疾患						講義	神里 尚美	
24	筋疾患(自己免疫機構、多発筋炎、重症筋無力症)						講義	神里 尚美	
25	筋疾患(分子遺伝、筋ジストロフィー、代謝性疾患)						講義	神里 尚美	
26	期末試験・まとめ						講義・試験		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (50) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準理学療法作業療法学専門分野 神経内科学						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
絵でみる脳と神経						医学書院			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	精神医学								
担当者	宮平 良尚								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)精神医学の基礎と臨床を学び、精神科リハビリテーションを理解する。									
(到達目標)①精神疾患を理解して説明できる。 ②精神科リハビリテーションについて理解を深める。 ③精神障害者に対する理解を深める。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	精神医学序論						講義	宮平 良尚	
2	医学心理学						講義	宮平 良尚	
3	精神症状学						講義	宮平 良尚	
4	精神医学的診断学						講義	宮平 良尚	
5	統合失調症(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
6	統合失調症(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
7	気分障害(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
8	気分障害(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
9	症状・器質性精神障害						講義	宮平 良尚	
10	てんかん						講義	宮平 良尚	
11	アルコール・薬物による精神障害						講義	宮平 良尚	
12	治療論(薬物療法)						講義	宮平 良尚	
13	治療論(精神療法、生活療法)						講義	宮平 良尚	
14	中間特論						講義	宮平 良尚	
15	中間まとめ・試験						講義・試験	宮平 良尚	
16	神経症(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
17	神経症(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
18	睡眠障害						講義	宮平 良尚	
19	心身症						講義	宮平 良尚	
20	パーソナリティ障害						講義	宮平 良尚	
21	児童・思春期精神医学(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
22	児童・思春期精神医学(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
23	老年期精神医学(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
24	老年期精神医学(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
25	精神医学と社会(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
26	精神医学と社会(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
27	精神科リハビリテーション(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
28	精神科リハビリテーション(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
29	期末特論						講義	宮平 良尚	
30	期末まとめ・試験						講義・試験	宮平 良尚	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験(90)% <input type="checkbox"/> 提出物()% <input type="checkbox"/> 小テスト()% ; <input type="checkbox"/> 実技試験()% <input type="checkbox"/> 口頭試問()% <input type="checkbox"/> 発表()% <input checked="" type="checkbox"/> その他(出席状況・態度)(10)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			

New Simple Step 精神科		総合医学社
参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
現代臨床精神医学	大熊 輝雄	
<p>教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど） 講義および教科書から得られた知識を、参考書などでさらに広げて理解を深めてください。</p>		

授業科目名	一般臨床医学 I								
担当者	吉見 直己/ 久高 将臣/ 高橋 智佐子/ 新川 武/ 徳元 亮太/ 非常勤講師/ 武村 克哉								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)わが国は超高齢社会となり、内科的疾患をもつリハビリテーション対象者が急増している。内科的疾患の病態や老化現象を理解し、適切なリハビリテーションを行う上での基盤を築く。									
(到達目標)内科的疾患の症候、診断学的手法について説明できる。 臓器や組織の解剖、生理機能について説明できる。 各疾患の概念、病態および老化現象について説明できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	医学一般総論・概論1							講義	吉見 直己
2	医学一般総論・概論2							講義	吉見 直己
3	医学一般総論・概論3							講義	吉見 直己
4	循環器疾患1							講義	武村 克哉
5	循環器疾患2							講義	武村 克哉
6	代謝・内分泌疾患1							講義	徳元 亮太
7	代謝・内分泌疾患2							講義	徳元 亮太
8	腎・泌尿器疾患							講義	徳元 亮太
9	皮膚疾患							講義	高橋 智佐子
10	呼吸器学総論							講義	非常勤講師
11	呼吸器学各論							講義	非常勤講師
12	老年症候学(不眠・めまい・しびれ・尿失禁・便秘)							講義	久高 将臣
13	老年症候学(褥瘡・脱水・浮腫・低栄養・フレイル・サルコペニア)							講義	久高 将臣
14	膠原病・アレルギー疾患							講義	新川 武
15	感染性疾患							講義	新川 武
16	まとめ							講義・試験	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準理学療法学作業療法学分野 内科学						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
病気がみえる 7 脳・神経						MEDIC MEDIA			
カラーで学べる病理学						ヌーヴェルヒロカワ			
リハビリテーション総論						診断と治療社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	一般臨床医学Ⅱ								
担当者	松崎 俊博/ 西尾 康孝/ 非常勤講師/ 加島 ひとみ/ 崎浜 悠貴								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	8	時間数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要) 骨格・運動器系疾患、中枢神経系疾患、血管性障害などについて、画像診断の特徴的な所見を学ぶ。 薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解したうえで、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。 リハビリテーションでの機能回復を円滑に進めるためには、栄養状態が良好なことが必要である。そのために必要な栄養に関する基礎知識について学ぶ</p> <p>(到達目標) レントゲン、CT、MRI画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。 薬物の基本事項(作用機序、投与方法、体内動態など)、対象疾患に対する薬物療法について理解し説明できる。 摂食・嚥下障害、サルコペニアなどの主な病態の栄養療法についての知識を修得する。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
<p>①ほかの学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。</p>									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	画像診断 X線、CT、MRIの基本的な特徴について						講義	西尾 康孝	
2	画像診断 運動器系疾患、中枢神経系疾患、内部障害などの画像診断の特徴的な所見につ						講義	西尾 康孝	
3	薬理学(薬の作用機序、体内動態と投与方法)						講義	松崎 俊博	
4	薬理学(感染・炎症・疼痛の制御と薬物療法)						講義	松崎 俊博	
5	薬理学(神経・精神疾患の薬物療法)						講義	松崎 俊博	
6	薬理学(循環器と代謝性疾患の薬物療法)						講義	松崎 俊博	
7	栄養の基礎 栄養素の役割						講義	加島 ひとみ	
8	運動時の栄養 おもな病態の栄養療法(低栄養、摂食障害、嚥下障害、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドローム)						講義	崎浜 悠貴	
<p>■ 期末試験 (100) % □ 提出物 () % □ 小テスト () % □ 実技試験 () % □ 口頭試問 () % □ 発表 () % □ その他 () () %</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハベーシック薬理学・臨床薬理学						医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
PT・OTのための治療薬ガイドブック			本間光信・高橋仁美			MEDICAL VIEW			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	救急救命法								
担当者	安村 香代/ 安里 初乃/ 下里 真司/ 嘉陽 宗司/ 非常勤講師/ 福田 芙見子/ 與那 恵美								
開講年次	3年	開講期	3年前期, 3年後期	授業回数	12	時間数	24	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)リハビリテーションの対象となる患者では呼吸循環系に危険因子を持つことも多く、リハビリテーション実施中に起こる急変に敏速に対応できる必要がある。</p> <p>そこで本科目では、感染コントロールと吸引、ならびにBasic life support(BLS)などの医療的処置を学習する。</p>									
<p>(到達目標)① 理学療法場面で起こりえる医療事故(インシデントを含む)やリスクを列挙できる ② 一次救命処置(BLS)について説明できる ③ 一次救命処置(BLS)が実施できる ④ 吸引の意義や生体に与える影響について理解し、標準予防策および吸引の基本的な手順を実践できる</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	吸引の基本手技、標準予防策(スタンダードプレコーション)						講義	與那 恵美	
2	吸引の基本手技、標準予防策(スタンダードプレコーション)						実技	與那 恵美	
3	吸引の基本手技、標準予防策(スタンダードプレコーション)						実技	安里 初乃	
4	吸引の基本手技、標準予防策(スタンダードプレコーション)						実技	安里 初乃	
5	救急法基礎(一次救命処置)						実技	非常勤講師	
6	救急法基礎(一次救命処置)						実技	非常勤講師	
7	救急法基礎(一次救命処置)						実技	非常勤講師	
8	急変時の基本対応						講義	嘉陽 宗司	
9	院内での急変時対応						講義	福田 芙見子	
10	通所リハビリでの急変時対応						講義	下里 真司	
11	訪問リハビリでの急変時対応						講義	安村 香代	
12	まとめ						講義・まとめ		
<input type="checkbox"/> 期末試験()% <input checked="" type="checkbox"/> 提出物(100)% <input type="checkbox"/> 小テスト()% <input type="checkbox"/> 実技試験()% <input type="checkbox"/> 口頭試問()% <input type="checkbox"/> 発表()% <input type="checkbox"/> その他() ()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	整形外科学								
担当者	屋比久 博己/ 吉川 誉士郎/ 宮平 誉丸/ 高江洲 美香/ 山内 純/ 上原 史成/ 米田 晋/ 神谷 武志/ 親富祖 徹/ 村上 かおり/ 大城 裕理/ 知念 修子/ 池間 知里/ 國吉 さくら 中島 慶太/ 仲宗根 素子/ 長嶺 覚子/ 東 千夏/ 当真 孝/ 比嘉 浩太郎/ 鷲崎 郁之								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	23	時間数	46	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)基礎から臨床まで幅広く整形外科を学ぶ。									
(到達目標)運動器の構造を学ぶ。 運動器疾患の臨床を理解する。 得た知識をリハビリに活用できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	整形外科の概観と生理(骨、軟骨)						講義	山内 純	
2	整形外科の生理(筋、神経、関節)						講義	池間 知里	
3	運動器の構造と整形外科(診察、検査、治療)						講義	親富祖 徹	
4	小児整形/骨系統疾患						講義	神谷 武志	
5	関節リウマチ/代謝性疾患(骨粗鬆症など)						講義	東 千夏	
6	末梢神経・循環障害:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	知念 修子	
7	骨・軟部腫瘍						講義	大城 裕理	
8	外傷総論/運動器(骨・関節・筋)の感染症						講義	鷲崎 郁之	
9	外傷(上肢・小児の骨折)						講義	吉川 誉士郎	
10	外傷(下肢・高齢者の骨折)						講義	國吉 さくら	
11	中間まとめ						講義・試験		
12	スポーツ外傷と障害						講義	上原 史成	
13	股関節:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	高江洲 美香	
14	膝関節:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	比嘉 浩太郎	
15	足関節:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	屋比久 博己	
16	肩・上腕:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	当真 孝	
17	肘関節・前腕:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	米田 晋	
18	手関節・手:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	仲宗根 素子	
19	頸胸椎:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	中島 慶太	
20	腰椎:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	宮平 誉丸	
21	運動器リハビリテーション(装具を含む):作業療法						講義	村上 かおり	
22	運動器リハビリテーション(装具を含む):理学療法						講義	長嶺 覚子	
23	期末まとめ						講義・試験		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (50) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
PT・OTの整形外科学						文光堂			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	小児科学								
担当者	吉田 朝秀/ 兼次 拓也/ 知念 安紹/ 仲村 貞郎/ 浜田 聡/ 浜田 和弥/ 名嘉山 賀子								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	10	時間数	20	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)小児の生理および疾患の病態を学ぶ。									
(到達目標)①小児の正常な身体発育、精神発達、予防接種、生活状況を理解できる。 ②小児の年齢差による特徴を理解できる。 ③小児の様々な疾患の概要を理解できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	小児科序論・新生児疾患						講義	吉田 朝秀	
2	先天性疾患						講義	知念 安紹	
3	呼吸器疾患・循環器疾患						講義	吉田 朝秀	
4	消化器疾患						講義	名嘉山 賀子	
5	内分泌疾患						講義	兼次 拓也	
6	膠原病・腎・アレルギー疾患						講義	浜田 和弥	
7	神経・筋・運動器疾患						講義	仲村 貞郎	
8	血液・悪性腫瘍						講義	浜田 聡	
9	感染症						講義	名嘉山 賀子	
10	まとめ・試験						講義・試験		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
小児看護(1)(2)/系統看護学講座						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
講義に出席すること。 教科書の小児看護は、目をとおしておくこと。 講義で使用したプリントや今までの問題を見直すこと。									

授業科目名	臨床心理学								
担当者	野村 学								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)臨床心理学の基本を学び、援助実務者にとって有用な視点を身に付ける。									
(到達目標)①臨床心理学の基礎知識を学び、臨床心理学的援助の基本技法を概観する。 ②学びを通して自己理解を深め、チーム実践へ向けてのイメージアップをする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
講義中心ですが積極的に参加してください。また、4回を予定している小テストは評価の対象です。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	はじめに:前期「心理学」試験の振り返り～後期「臨床心理学」へ向けて/(小テスト)					講義	野村 学		
2	臨床心理学的査定・診断(心理アセスメント) 1					講義	野村 学		
3	臨床心理学的査定・診断(心理アセスメント) 2					講義	野村 学		
4	臨床心理学的援助 1 歴史と成り立ち					講義	野村 学		
5	臨床心理学的援助 2 心理療法の特徴 (小テスト)					講義	野村 学		
6	臨床心理学的援助 3 クライアント中心療法・エンカウンターグループ・フォーカシング					講義	野村 学		
7	臨床心理学的援助 4 応答構成法(クライアント中心療法)					講義	野村 学		
8	臨床心理学的援助 5 精神分析療法・プレイセラピー・箱庭療法・芸術療法					講義	野村 学		
9	臨床心理学的援助 6 集団精神療法・心理劇 (小テスト)					講義	野村 学		
10	臨床心理学的援助 7 催眠療法・自律訓練法・動作法・内観療法・森田療法					講義	野村 学		
11	臨床心理学的援助 8 行動療法・認知行動療法・バイオフィードバック法・家族療法・他					講義	野村 学		
12	臨床心理学的援助 9 心理療法の事例と考察					講義	野村 学		
13	ライフサイクルと心理臨床 (小テスト)					講義	野村 学		
14	心理臨床活動の領域・倫理					講義	野村 学		
15	まとめ・試験					講義・試験	野村 学		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席日数) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者			出版社				
臨床心理学		名嘉幸一 編			中外医学社				
参考書									
書名		著者			出版社				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
テキストに対応した講義資料を配布し、これに基づいて行います。									

授業科目名	医学特論								
担当者	宮平 誠司								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	8	時間数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)命の大切さを理解し、患者さんの社会的背景を考慮しながら、個々人にとって最善の医療を行えるスペシャリストを育成する。									
(到達目標)①自らすすんで勉強し、生涯学習の姿勢を身につける。 ②患者さんの身体を治すだけでなく、不安を取り除くことができる。 ③基本的な挨拶など、対人関係におけるマナーを身につけ、思いやりの心で接する。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
ハキハキと大きな声で返事し、皆に聞こえるように音読する。 私語は慎む。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	人間の生命を考える					講義	宮平 誠司		
2	人間の生命を考える					講義	宮平 誠司		
3	病気の原因、病気による身体の変化					講義	宮平 誠司		
4	病気の原因、病気による身体の変化					講義	宮平 誠司		
5	病気の治療とリハビリテーション					講義	宮平 誠司		
6	病気の治療とリハビリテーション					講義	宮平 誠司		
7	医学および看護の生命へのアプローチ					講義	宮平 誠司		
8	医学および看護の生命へのアプローチ					講義	宮平 誠司		
9	まとめ・試験					講義・試験	宮平 誠司		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
現代医学概論						医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
復習に重点をおく。 講義の翌日までに教科書を読みなおす。									

授業科目名	リハビリテーション概論Ⅰ								
担当者	久高 将臣								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)リハビリテーションの概念とそれらを具体化する医学的リハビリテーションの概要について、「全人的」視点からリハビリテーション専門職として求められる姿とともに明らかにする。									
(到達目標)1)リハビリテーションの概念と構成について理解するための基礎知識を学ぶ。2)医学的リハビリテーションについて理解し、チーム医療としてのリハ専門職の責任と役割を説明できる。3)我が国における医療・保健・福祉の各分野におけるリハビリテーションとのかわりについて大まかに説明することができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
タブレットでクイズや出席確認を行いますので、準備をお願いします。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	リハビリテーションとは、その理念と哲学(A-1)					講義	久高 将臣		
2	医療・保健・福祉(A-2)、リハ・マインド(A-3)					講義	久高 将臣		
3	老化(B-12)、廃用症候群(A-4)					講義	久高 将臣		
4	廃用症候群、病期とリハビリテーション①(A-5・6)					講義	久高 将臣		
5	病期とリハビリテーション②(A-5・6)					講義	久高 将臣		
6	病期とリハビリテーション②(A-5・6)					講義	久高 将臣		
7	国際障害分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF)(A-6・7)					講義	久高 将臣		
8	ICFと社会参加(A-7)					講義	久高 将臣		
9	チーム医療としてのリハビリテーション(A-8・9・10・12・13)					講義	久高 将臣		
10	医学的リハビリテーションの展開と評価(A-14・15・16)					講義	久高 将臣		
11	福祉用具①(A-17・18・19・20・21)					講義	久高 将臣		
12	福祉用具②(A-17・18・19・20・21)					講義	久高 将臣		
13	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム(A-23)					講義	久高 将臣		
14	医療・社会・福祉と法律(A-22)					講義	久高 将臣		
15	まとめ、期末試験					講義・試験	久高 将臣		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (93) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (講義終了後の振り返り) (7) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者			出版社				
リハビリテーション総論					診断と治療社				
参考書									
書名		著者			出版社				
セラピストのための概説リハビリテーション					文光堂				
リハビリテーション医学大辞典					医歯薬出版株式会社				
目で見るリハビリテーション医学					東京大学出版会				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 概念は理解しづらいと思いますが言葉の意味を捉えるようにすると良いと思います。講義内容のA○○は、教科書の範囲を示しております。予習として教科書右側の「MEMO」にある用語と意味を読んでください。									

授業科目名	リハビリテーション概論Ⅱ								
担当者	久高 将臣/ 溝田 康司/ 座波 信司/ 専任教員/ 島袋 公史/ 比嘉 正彦/ 非常勤講師								
開講年次	3年	開講期	3年前期, 3年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 障害者や高齢者における自立生活について、まず自立の意義から学修を進め、それを支援する意義や方法、制度について理解を深める。自立支援には対象者と対象者を取り巻く環境を吟味することが求められるため、様々な職種の立場から自立生活支援に関わる技術・手法を学ぶことにより、包括的に自立支援を考えていく。									
(到達目標) “自立生活”の意義を考え、理解できる “自立生活”を支える制度が理解できる “自立生活”を支援することを実際に考えることができる									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為（主に私語）を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	国際支援における理学療法士の役割						講義	溝田 康司	
2	国際支援の実際						講義	溝田 康司	
3	災害時における活動支援の概要						講義	溝田 康司	
4	災害時の理学療法士の役割						講義	溝田 康司	
5	地域包括ケアシステムとは						講義	比嘉 正彦	
6	地域包括ケアシステムにおける街づくりでの理学療法士の役割						講義	比嘉 正彦	
7	自立とは①～自立と自律～						講義	座波 信司	
8	自立とは②～ノーマライゼーションの理念～						講義	座波 信司	
9	自立生活支援について						講義	座波 信司	
10	就労支援とは 障がい者雇用・就労の動向						講義	非常勤講師	
11	労働施策の概要と労働法規の概要						講義	非常勤講師	
12	就労支援制度・サービスの概要 就労支援に係る専門職の役割						講義	非常勤講師	
13	障害者スポーツ支援の概要						講義	島袋 公史	
14	障害者スポーツ支援における理学療法士の役割						講義	島袋 公史	
15	まとめ						講義・試験	専任教員	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (100) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	リハビリテーション医学								
担当者	渡名喜 良明								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)疾患とそのリハビリテーションにつき、基本的な事項と概要の理解をすすめる。									
(到達目標)疾患とそのリハビリテーションの概要が理解できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	脳卒中						講義	渡名喜 良明	
2	脳卒中						講義	渡名喜 良明	
3	脳卒中						講義	渡名喜 良明	
4	脳卒中						講義	渡名喜 良明	
5	外傷性脳損傷						講義	渡名喜 良明	
6	パーキンソン症候群						講義	渡名喜 良明	
7	多発性硬化症・神経・筋疾患						講義	渡名喜 良明	
8	脊髄損傷						講義	渡名喜 良明	
9	四肢切断						講義	渡名喜 良明	
10	運動器・関節リウマチ						講義	渡名喜 良明	
11	慢性疼痛脳性麻痺						講義	渡名喜 良明	
12	心筋梗塞						講義	渡名喜 良明	
13	呼吸器						講義	渡名喜 良明	
14	生活習慣病						講義	渡名喜 良明	
15	まとめ・試験						講義・試験	渡名喜 良明	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハビリテーション総論						診断と治療社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 教科書中心に講義します。									

授業科目名	社会福祉学								
担当者	宮城 美智子								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)この講義は、人・社会・生活と福祉に関する知識と方法について学ぶことを目的とする。また、保健医療と福祉の連携についてもふれる。									
(到達目標)①現代社会の特質と福祉政策の意義や理念を理解する。 ②社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ③ニーズと社会資源について理解し福祉政策の課題について理解する。 ④ソーシャルワークについて理解する。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
私語はつつしむこと。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション						講義	宮城 美智子	
2	社会福祉とは何か						講義	宮城 美智子	
3	社会福祉の歴史						講義	宮城 美智子	
4	社会福祉法制						講義	宮城 美智子	
5	最低生活保障と生活保護制度①						講義	宮城 美智子	
6	最低生活保障と生活保護制度②						講義	宮城 美智子	
7	児童福祉と次世代育成						講義	宮城 美智子	
8	ソーシャルワークの理解						講義	宮城 美智子	
9	障がい者の自立と福祉①						講義	宮城 美智子	
10	障がい者の自立と福祉②						講義	宮城 美智子	
11	高齢者の生活と福祉①						講義	宮城 美智子	
12	高齢者の生活と福祉②						講義	宮城 美智子	
13	地域福祉の展開と地域包括ケアシステム①						講義	宮城 美智子	
14	地域福祉の展開と地域包括ケアシステム②						講義	宮城 美智子	
15	まとめ						講義・試験	宮城 美智子	
<input type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 (10) % <input type="checkbox"/> その他 (積極性) (20) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
新 社会福祉とは何か			大久保秀子			中央法規			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
医療や福祉サービスを必要とする方がたの良き理解者となることを目指して、真摯な姿勢で学んでほしい。 ※授業スケジュールは、事前に説明した上で、変更する場合があります。									

授業科目名	理学療法概論 I								
担当者	砂川 昌信								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)理学療法を学ぶに当たり、基本的な態度と知識を身につける。そのため理学療法の歴史、関係法則、障害モデルなどを包括的に俯瞰する。									
(到達目標)リハビリテーションにおける理学療法士の位置づけを説明できる。 理学療法について理解を深め、今後修得が必要な専門知識の概要を理解する。 理学療法士を目指す学生に必要な能動的学習姿勢を身につける。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション・理学療法の概念と歴史						講義	砂川 昌信	
2	理学療法士の法律						講義	砂川 昌信	
3	理学療法士の関連法規						講義	砂川 昌信	
4	理学療法の意義と役割						講義	砂川 昌信	
5	理学療法の対象						講義	砂川 昌信	
6	理学療法の方法						講義	砂川 昌信	
7	理学療法士の組織						講義	砂川 昌信	
8	理学療法士教育						講義	砂川 昌信	
9	医療・保険分野の理学療法						講義	砂川 昌信	
10	地域リハビリテーションと理学療法						講義	砂川 昌信	
11	医療事故とリスクマネジメント						講義	砂川 昌信	
12	個人情報の管理と対象者の権利						講義	砂川 昌信	
13	理学療法士を目指す学生に求められているもの						講義	砂川 昌信	
14	臨床教育の実践・理学療法士と研究						講義	砂川 昌信	
15	まとめ						講義・試験	砂川 昌信	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
理学療法概論			千住秀明			神陵文庫			
参考書									
書名			著者			出版社			
リハビリテーション総論 要点と用語解説 改訂第2版			椿原彰夫			診断と治療社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
分からないこと、疑問に思ったことなどは講義名および講義終了後でも構わないので質問すること。									

授業科目名	理学療法概論Ⅱ								
担当者	石田 隆志								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)理学療法に共通する機能障害の病態やそのメカニズムの概要について学びます。									
(到達目標)理学療法の概要を学ぶことで理学療法が取り扱う領域全般に対する知識を習得する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	筋委縮1						講義	石田 隆志	
2	筋委縮2						講義	石田 隆志	
3	靭帯損傷1						講義	石田 隆志	
4	靭帯損傷2						講義	石田 隆志	
5	骨折1						講義	石田 隆志	
6	骨折2						講義	石田 隆志	
7	関節拘縮						講義	石田 隆志	
8	麻痺/感覚障害1						講義	石田 隆志	
9	麻痺/感覚障害2						講義	石田 隆志	
10	高次脳機能障害1						講義	石田 隆志	
11	高次脳機能障害2						講義	石田 隆志	
12	疼痛						講義	石田 隆志	
13	認知症						講義	石田 隆志	
14	その他						講義	石田 隆志	
15	まとめ						講義	石田 隆志	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (30) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 本講義を通して、調べ方、学び方などを身に付けていきましょう。									

授業科目名	臨床運動学								
担当者	砂川 昌信								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)動作分析の基本として力学的に重心位置と動作の関係を理解し、観察のためのポイントを習得し、説明できるようにする。									
(到達目標)支持基底面と重心の高さの関係を理解する。 基本動作と重心の関係を理解する。 基本動作の観察のポイントを理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	重心の意味、重心位置の特定(求め方)、静止物と重心、重心の合成						講義	砂川 昌信	
2	身体合成重心と重心移動、回転運動と重心						講義	砂川 昌信	
3	固定と可動、運動軸、						講義	砂川 昌信	
4	剛体と分節、カウンターウエイト						講義	砂川 昌信	
5	寝返り動作の力学的概要、幼児の寝返り動作の観察						講義	砂川 昌信	
6	寝返り動作の相分けと観察ポイント、臥位姿勢での中枢部と末梢部						講義・演習	砂川 昌信	
7	寝返り動作の確認と操作、下肢、上肢、頭部からの操作						講義・演習	砂川 昌信	
8	立ち上がり動作の重心軌跡の説明、演習用データ処理の説明と開始						講義・演習	砂川 昌信	
9	立ち上がりデータ エクセル入力、グラフ作成						講義・演習	砂川 昌信	
10	立ち上がりグラフ波形解説						講義・演習	砂川 昌信	
11	歩行運動の重心移動概説						演習	砂川 昌信	
12	演習用歩行データ処理						講義・演習	砂川 昌信	
13	歩行前額面重心図仕上げ						講義・演習	砂川 昌信	
14	歩行時前額面での重心移動解説						演習	砂川 昌信	
15	まとめ、試験						講義・試験	砂川 昌信	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (30) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
誰でもわかる動作分析			小島正義			南江堂			
動作分析 臨床活用講座			石井慎一郎			メディカルビュー			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 必要資料は適宜配布します。									

授業科目名	理学療法特論								
担当者	専任教員/ 非常勤講師								
開講年次	3年	開講期	3年前期, 3年後期	授業回数	60	時間数	120	単位数	4
授業の概要・到達目標									
(概要) 理学療法教育基礎、専門基礎および理学療法専門の知識の整理を行う。									
(到達目標) 基礎分野の各個人の不得意分野を確認し取り組むことができる。 専門分野の各個人の不得意分野を確認し取り組むことができる。									
履修における注意事項 (受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1・2	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
3・4	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
5・6	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
7・8	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
9・10	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
11・12	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
13・14	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
15・16	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
17・18	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
19・20	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
21・22	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
23・24	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
25・26	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
27・28	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
29・30	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
31・32	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
33・34	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
35・36	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
37・38	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
39・40	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
41・42	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
43・44	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
45・46	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
47・48	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
49・50	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
51・52	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
53・54	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
55・56	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
57・58	知識のまとめ(学内模試・業者模試・分野別特異別講義・グループ学習)						講義	専任教員/ 非常勤講師	
59・60	まとめ						講義	専任教員	
<input type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	理学療法管理学 I								
担当者	青野 健治								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。また、臨床の現場で理学療法士に求められる高い倫理観や生涯学習の必要性について学習する。									
(到達目標)① 理学療法教育の概要について説明できる。 ② コンプライアンス・法令違反について説明できる。 ③ 診療報酬について説明できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為（主に私語）を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション(授業の概要と求める態度)						講義	青野 健治	
2	病院の分類と組織 医療法における医療と医療圏						講義	青野 健治	
3	病院の分類と組織 病院内の組織とその役割						講義	青野 健治	
4	専門職とチームケア						講義	青野 健治	
5	社会保障のしくみ						講義	青野 健治	
6	医療保険制度						講義	青野 健治	
7	介護保険制度						講義	青野 健治	
8	保健・医療・介護・福祉の連携 地域包括ケアシステム						講義	青野 健治	
9	業務管理 理学療法士の業務						講義	青野 健治	
10	情報管理 理学療法業務に必要な情報と記録、その管理						講義	青野 健治	
11	リスク管理 インシデントとアクシデント						講義	青野 健治	
12	感染症管理						講義	青野 健治	
13	職業倫理						講義	青野 健治	
14	教育管理 理学療法教育						講義	青野 健治	
15	まとめと試験						講義	青野 健治	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (40) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (30) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (グループ内評価) (30) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	理学療法管理学Ⅱ								
担当者	専任教員/ 末吉 恒一郎								
開講年次	3年	開講期	3年前期, 3年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本について学ぶ。理学療法士として、職業倫理やチーム医療における理学療法士の役割について理解するとともに、病院・施設の組織および記録・報告、臨床におけるリスク管理、の理学療法部門の管理運営について学習する。									
(到達目標)理学療法部門の管理・運営について説明できる。 医療専門職として倫理感を有し、理学療法を遂行できる。 チーム医療を認識し、その中での理学療法士の役割について説明できる。 医療事故の原因を理解し、事故の予防に努め、リスク管理ができる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為（主に私語）を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	診療・介護報酬と収益構造						講義	末吉 恒一郎	
2	業務管理① 他職種との連携						講義	末吉 恒一郎	
3	業務管理② 業務・労務管理						講義	末吉 恒一郎	
4	業務管理③ 人事考課、監査への対応						講義	末吉 恒一郎	
5	業務管理④ 職場環境のデザイン、機器の点検、管理						講義	末吉 恒一郎	
6	情報管理						講義	末吉 恒一郎	
7	リスク管理						講義	末吉 恒一郎	
8	権利擁護と職業倫理①						講義	末吉 恒一郎	
9	権利擁護と職業倫理②						講義	末吉 恒一郎	
10	教育管理①臨床教育について						講義	末吉 恒一郎	
11	教育管理②生涯学習の管理						講義	末吉 恒一郎	
12	理学療法士に関する政治・政策について						講義	末吉 恒一郎	
13	キャリアデザイン①						講義	末吉 恒一郎	
14	キャリアデザイン②						講義	末吉 恒一郎	
15	まとめ						講義	専任教員	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (100) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
理学療法管理学						中山書店			
参考書									
書名			著者			出版社			
理学療法概論						九州神陵文庫			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
1年生で履修した「理学療法管理学Ⅰ」を振り返りながら進めますので、ノートや配布資料を準備してください。									

授業科目名	理学療法評価学 I								
担当者	佐久田 衛/ 島袋 公史								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)EBPTにつながる基本として、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。									
(到達目標)1.理学療法評価の目的と評価方法について説明できる 2.理学療法実施に関わる推論過程について説明できる 3.診療ガイドラインについて説明できる									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。 他学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1～2	評価の基本概念(評価と目的)						講義・演習	島袋 公史	
3～4	評価の基本概念(構成要素)、評価の流れ、記載方法						講義・演習	島袋 公史	
5～7	理学療法評価及び検査・発表						講義・演習	島袋 公史	
8～9	評価の解釈と例題検討						講義・演習	島袋 公史	
10	診療ガイドライン						講義・演習	島袋 公史	
11	キャリアマネジメント						講義・演習	佐久田 衛	
12～13	クリティカルシンキング						講義・演習	佐久田 衛	
14	目標設定						講義・演習	佐久田 衛	
15	診療参加型実習						講義	佐久田 衛	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (50) % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (30) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
理学療法評価学 改訂第6版			松澤正・江口勝彦			金原出版株式会社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
<ul style="list-style-type: none"> ・わからないことなどがあれば、講義中でもかまわないので質問するようにしましょう。 ・参考資料は適時配布します。 									

授業科目名	理学療法評価学Ⅱ								
担当者	佐久田 衛								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 疾病や障害から生ずる機能障害を把握するために理学療法士が実施する種々の検査測定技術を習得し、その結果の解釈について学ぶ									
(到達目標) ①機能形態測定(四肢長、周径など)が実施できる ②関節可動域の程度と関連要因を把握する評価が実施できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
実技が主になる講義なので動きやすい格好または適切な露出ができるよう準備をすること。 爪切りや髪を結ぶなど衛生管理をするようにしてください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	姿勢と機能形態					講義・実技	佐久田 衛		
2~5	形態測定(身長、体重、四肢長、四肢周径)					実技	佐久田 衛		
6	形態測定(結果から解釈)					実技	佐久田 衛		
7	形態測定まとめ					講義・実技	佐久田 衛		
8	関節可動域総論					講義・実技	佐久田 衛		
9	関節可動域測定(肩甲帯・肩関節)					実技	佐久田 衛		
10	関節可動域測定(肘・手関節)					実技	佐久田 衛		
11	関節可動域測定(股関節)					実技	佐久田 衛		
12	関節可動域測定(膝・足関節)					実技	佐久田 衛		
13	関節可動域測定(頸部)					実技	佐久田 衛		
14	関節可動域測定(胸腰部)					実技	佐久田 衛		
15	関節可動域測定まとめ					講義・実技	佐久田 衛		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (40) % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
理学療法評価学 改訂第6版			松澤正・江口勝彦			金原出版株式会社			
参考書									
書名			著者			出版社			
臨床での測定精度を高める！ROM測定法			斎藤慶一郎			株式会社メジカルビュー社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 理学療法の業務の基礎となる技術です。繰り返し練習して修得しましょう。									

授業科目名	理学療法評価学Ⅲ								
担当者	石田 隆志								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)徒手筋力検査法(MMT)としてもっとも普及しているダニエルの徒手筋力検査法を学ぶ。検査主義をビデオおよび実技指導で学んだ後に、学生同士でそれぞれ検査者、被験者役を決め、実践練習する。									
(到達目標)1. MMTの意義と適応および検査方法を理解できる。 2. 筋力低下症状に対してMMT検査法を選択する考え方を身に付ける。 3. MMT検査を実施できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
1. 講義は毎回、検査手技の練習があるためジャージ等動きやすい服装で参加すること。 2. 講義前後には学習したMMT検査の予習復習として実技練習を行うこと。 3. 国家試験問題を学習しMMT検査に対する知識を向上させること。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	徒手筋力検査の概念と考え方、段階付けの定義					講義・実技	石田 隆志		
2	上肢1 肘関節					講義・実技	石田 隆志		
3	上肢2 肩甲上腕関節					講義・実技	石田 隆志		
4	上肢3 健康胸郭関節					講義・実技	石田 隆志		
5	上肢4 前腕					講義・実技	石田 隆志		
6	上肢5 手関節					講義・実技	石田 隆志		
7	上肢まとめ					講義・実技	石田 隆志		
8	体幹・骨盤1					講義・実技	石田 隆志		
9	体幹・骨盤2					講義・実技	石田 隆志		
10	下肢1 股関節i					講義・実技	石田 隆志		
11	下肢2 股関節ii					講義・実技	石田 隆志		
12	下肢3 膝関節					講義・実技	石田 隆志		
13	下肢4 足関節					講義・実技	石田 隆志		
14	下肢まとめ					講義・実技	石田 隆志		
15	上肢・下肢・体幹まとめ					講義・実技	石田 隆志		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
新・徒手筋力検査法 第9班			Helen J. Hislop			協同医書出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
教員からのメッセージー正確なMMT検査を実施実施するためには、繰り返し練習する必要があります。 1. 講義資料のMMT検査早見表を参照して基本的手技を暗記しましょう 2. 自分の身体で検査運動を練習しましょう 3. 友人に被験者になって頂いて検査手技を練習しましょう 講義前に前回講義で学習した検査を確認しますので、各自復習を行うようにして下さい。反復して練習すれば着実にMMT検査技術は向上します、自らの成長を感じ楽しみながら学習していきましょう。									

授業科目名	理学療法評価学Ⅳ								
担当者	佐久田 衛/末吉 勇樹								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)本講義はリハビリテーションの対象となることの多い整形外科疾患について、主に評価方法の理解と徒手検査の実践を行う。具体的には、上肢・脊椎・下肢の疾患により生じる運動器障害に対する検査の選択と実施(実技)について、講義と演習を組み合わせながら行っていく。									
(到達目標)1.整形外科疾患の病態に対する理解を深め、適切な検査が選択できる 2.選択した検査について説明と実施ができる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
・実技が行いやすい恰好かつ衛生管理(爪を切る、手指消毒の徹底)に努める。不衛生もしくは不適切と判断した場合は、その場で改善を求めることもある。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション、整形外科的テストとは					講義・実技	佐久田 衛		
2	肩関節周囲の代表的な整形外科的テスト①					講義・実技	佐久田 衛		
3	肩関節周囲の代表的な整形外科的テスト②					講義・実技	佐久田 衛		
4	肘関節・手関節周囲の代表的な整形外科的テスト					講義・実技	佐久田 衛		
5	腰部の代表的な整形外科的テスト①					講義・実技	佐久田 衛		
6	腰部の代表的な整形外科的テスト②					講義・実技	佐久田 衛		
7	骨盤の代表的な整形外科的テスト					講義・実技	佐久田 衛		
8	股関節の代表的な整形外科的テスト					講義・実技	末吉 勇樹		
9	膝関節周囲の代表的な整形外科的テスト①					講義・実技	末吉 勇樹		
10	膝関節周囲の代表的な整形外科的テスト②					講義・実技	末吉 勇樹		
11	足関節・足部の代表的な整形外科的テスト					講義・実技	末吉 勇樹		
12	頸部の代表的な整形外科的テスト①					講義・実技	末吉 勇樹		
13	頸部の代表的な整形外科的テスト②					講義・実技	末吉 勇樹		
14	ケーススタディ					講義・実技	末吉 勇樹		
15	ケーススタディ、まとめ					講義・実技	佐久田 衛/末吉 勇樹		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (40) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
病態動画から学ぶ臨床整形外科的！エスト～的確な検査法に基づく実践と応用～			吉田 一也・隈元 庸夫 編集			ヒューマンプレス			
参考書									
書名			著者			出版社			
運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈(上肢編)			林 典雄 監修			運動と医学の出版社			
運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈(下肢編)			林 典雄 監修			運動と医学の出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
・事前に講義で予定されている部位の解剖学、運動学の復習とweb動画を視聴してください(60分程度)									

授業科目名	理学療法評価学Ⅴ								
担当者	石田 隆志								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)小脳疾患、パーキンソン病の病態を理解し、適切な検査を実施できるようにする。									
(到達目標)1.小脳疾患、パーキンソン病の病態を理解する。 2.小脳疾患、パーキンソン病の症状に対して検査を選択して、実施できるようになる。 3.症例に対する適切なパフォーマンス評価を選択し、実施できるようになる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
指定映像教材で予習してから受講すること。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	小脳疾患の病態と脳画像						講義・実技	石田 隆志	
2	小脳疾患の症状						講義・実技	石田 隆志	
3	小脳疾患の検査1						講義・実技	石田 隆志	
4	小脳疾患の検査2						講義・実技	石田 隆志	
5	Scale for the assessment and rating of ataxia (SARA)						講義・実技	石田 隆志	
6	パーキンソン病の病態と脳画像						講義・実技	石田 隆志	
7	パーキンソン病の症状						講義・実技	石田 隆志	
8	パーキンソン病の検査1						講義・実技	石田 隆志	
9	パーキンソン病の検査2						講義・実技	石田 隆志	
10	Unified Parkinson's Disease Rating Scale (UPDRS)1						講義・実技	石田 隆志	
11	Unified Parkinson's Disease Rating Scale (UPDRS)2						講義・実技	石田 隆志	
12	パフォーマンス評価1						講義・実技	石田 隆志	
13	パフォーマンス評価2						講義・実技	石田 隆志	
14	パフォーマンス評価3						講義・実技	石田 隆志	
15	小脳、パーキンソン病検査まとめ						講義・実技	石田 隆志	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (30) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
ベッドサイドの神経の診かた			田崎義明			南山堂			
参考書									
書名			著者			出版社			
よくわかる理学療法の検査・測定・評価			齋藤昭彦			秀和システム			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
ほとんどの方はまだ小脳疾患、パーキンソン病の症状を実際に見たことは無いとおもいます。 このため、本講義では映像教材、参考書を用いて小脳のイメージをつかんでもらってから、症状に対する検査手技を学習します。 みなさんにとってあまり馴染みのない疾患かもしれませんが、臨床では片麻痺の次に多く多く接する疾患です。 中枢疾患を発症して困っている患者様の力になれるよう、知識と検査技術を身に付けていきましょう。 併せてすべての疾患に共通するパフォーマンス評価の検査手技も学習します。									

授業科目名	理学療法評価学Ⅵ								
担当者	青野 健治								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)呼吸器疾患、循環器疾患の病態と障害に対する評価法について実技を交え学習する。									
(到達目標)呼吸器、循環器の解剖と生理について理解する。 代表的な呼吸循環疾患の病態とその評価法について理解し、実施することができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション、呼吸器系の解剖						講義	青野 健治	
2	体表解剖(含実技)						講義・実技	青野 健治	
3	呼吸器系の生理						講義	青野 健治	
4	血液ガスと酸塩基平衡						講義	青野 健治	
5	肺機能						講義	青野 健治	
6	呼吸理学療法評価(フィジカルアセスメント、呼吸困難、運動耐用能、ADL、QOL)						講義・実技	青野 健治	
7	フィジカルアセスメント・視診・触診・打診・聴診(含実技)						講義・実技	青野 健治	
8	フィジカルアセスメント・視診・触診・打診・聴診(含実技)						講義・実技	青野 健治	
9	画像所見						講義	青野 健治	
10	循環器系の解剖と生理						講義	青野 健治	
11	心電図						講義	青野 健治	
12	心電図(実技)						講義・実技	青野 健治	
13	脈拍・血圧測定(含実技)						講義・実技	青野 健治	
14	循環器の評価						講義	青野 健治	
15	まとめ						講義	青野 健治	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (40) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準理学療法学 内部障害理学療法学			奈良 勲			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
単元終了ごとに小テストを行うので、復習を欠かさず行うこと。									

授業科目名	理学療法基礎治療学 I								
担当者	末吉 勇樹								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 理学療法の主要な治療手段である運動療法の基礎を学ぶ。総論として運動療法の定義や手段・方法や禁忌などを学習する。また、解剖学・運動学・生理学の知識をもとに、運動が身体に及ぼす影響と運動療法の効果を理解する。後半では関節障害や筋力低下に対する基本的な治療手技を実技を交えながら学習する。									
(到達目標) 1. 運動療法の開始や禁忌事項、患者の権利などを理解し、安全な運動療法を提供することの重要性を知る 2. 運動が身体に及ぼす影響について、基礎知識をもとに説明できる 3. 関節や筋の機能と障害を理解し、改善を目的とした基本的な手技を習得する									
履修における注意事項 (受講ルールなど)									
・小テストや課題にて到達目標や講義の理解度を確認する ・実技の際は動きやすい格好かつ衛生管理(爪を切る、手指消毒の徹底)に努める。不衛生もしくは危険と判断した場合には、その場で改善を求めることもある									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション、運動療法の定義と特徴						講義	末吉 勇樹	
2	運動療法の目的、歴史、今後の展望						講義	末吉 勇樹	
3	運動の手段と方法、運動の分類						講義	末吉 勇樹	
4	運動療法の順序や禁忌、インフォームドコンセント						講義	末吉 勇樹	
5	運動における関節可動性						講義	末吉 勇樹	
6	関節可動性障害に対する運動療法						講義・実技	末吉 勇樹	
7	関節可動域訓練						講義・実技	末吉 勇樹	
8	関節モビライゼーション①						講義・実技	末吉 勇樹	
9	関節モビライゼーション②						講義・実技	末吉 勇樹	
10	ストレッチング①						講義・実技	末吉 勇樹	
11	ストレッチング②						講義・実技	末吉 勇樹	
12	ケーススタディ						グループワーク	末吉 勇樹	
13	運動における筋の機能						講義	末吉 勇樹	
14	筋力増強の理論						講義・実技	末吉 勇樹	
15	ケーススタディ						グループワーク	末吉 勇樹	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (30) % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (60) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (10) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
CrossLink 理学療法テキスト 運動療法学			対馬 栄輝 監修			MEDICALVIEW			
参考書									
書名			著者			出版社			
シンプル理学療法シリーズ 運動療法学テキスト 第3版			細田 多穂 監修			南江堂			
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版			市橋 則明 編集			文光堂			
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外にも補足資料を配布することがあります ・講義の理解を深めるためにも教科書をよく読んで予習をしておいてください(30分程度) ・講義では解剖学・生理学・運動学で学んだ知識も必要になります。これら周辺領域と関連付けて理解できるようにしてください 									

授業科目名	理学療法基礎治療学Ⅱ								
担当者	末吉 勇樹								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)本講義では、理学療法の重要な部分を占める運動療法の基礎を学ぶ。特に、疾患別の理学療法の講義に入る前段階として位置づけ、基本的な運動療法を筋・神経系に分類し、各組織の障害と障害別の運動療法について、実技を交えながら学習する。									
(到達目標)1. 各機能障害が動作や活動に及ぼす影響を理解する 2. 機能障害に適した運動療法を選択し、リスク管理を含め正しく実践できる 3. ケーススタディを通して学んだ知識・技術が身についたか確認することができる									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
・実技の際には動きやすい恰好かつ衛生管理に努める(爪は切る、手指消毒の徹底など)不衛生もしくは危険と判断した場合には、その場で改善を求めることもある。 ・提出物の内容やケーススタディで講義に対する理解度を確認する。また、グループワークへの貢献度や積極的参加度合いも評価対象となる									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	運動と生理機能①						講義	末吉 勇樹	
2	運動と生理機能②、筋持久力低下に対する運動療法						講義	末吉 勇樹	
3	ケーススタディ						グループワーク	末吉 勇樹	
4	中枢神経機能と運動療法①						講義	末吉 勇樹	
5	中枢神経機能と運動療法②						講義	末吉 勇樹	
6	バランス機能と運動療法						講義	末吉 勇樹	
7	協調性機能と運動療法						講義・実技	末吉 勇樹	
8	ケーススタディ						グループワーク	末吉 勇樹	
9	末梢神経障害に対する運動療法						講義	末吉 勇樹	
10	運動学習と運動療法①						講義	末吉 勇樹	
11	運動学習と運動療法②						講義	末吉 勇樹	
12	疼痛のメカニズムと運動療法						講義	末吉 勇樹	
13	ストレス反応とリラクゼーション訓練						講義・実技	末吉 勇樹	
14	加齢に対する運動療法						講義	末吉 勇樹	
15	ケーススタディ、まとめ						グループワーク	末吉 勇樹	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (30) % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (60) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (10) % <input type="checkbox"/> その他 () () %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
CrossLink 理学療法学テキスト 運動療法学			対馬 栄輝 監修			MEDICALVIEW			
参考書									
書名			著者			出版社			
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版			市橋 則明 編集			文光堂			
理学療法NAVI 臨床思考が身につく運動療法Q&A			高橋 哲也 編集			医学書院			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
・教科書以外にも補足資料を配布することがあります ・運動療法は、理学療法士にとって最も基本となる治療手技であり、その技術習得には原則原理の理解が必要です。講義の理解を深めるためにも予習をしておいてください(30分程度)									

授業科目名	骨関節障害理学療法学Ⅰ								
担当者	平良 進								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)骨関節障害(主に股関節、膝関節、足関節)に対する理学療法の基本的な考え方、ADL指導法について学びます。それに加え、基本的な実技の習得、国家試験で求められる知識の理解に努める。									
(到達目標)代表的な骨関節障害(主に股関節、膝関節、足関節)の基本的な考え方について理解できる。 基本的な実技とADL(主に股関節、膝関節、足関節)について理解できる。 国家試験で求められる知識(主に股関節、膝関節、足関節)について理解できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
小テストを実施し、前回講義の確認を行う。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	総論(骨関節障害とは、それに伴う検査・測定・理学療法)						講義	平良 進	
2	股関節①(股関節の機能解剖、基本的な運動療法に関する国試問題解説)						講義・実技	平良 進	
3	股関節②(変形性股関節症に関する病態と運動療法、関連する国試問題解説)						講義・実技	平良 進	
4	股関節③(発育性股関節形成不全症、Perthes病・大腿骨頭すべり症の運動療法、装具につ						講義・実技	平良 進	
5	股関節④(大腿骨頭部骨折治療法、手術前後の運動療法、術後のリスク管理、関連する国試						講義・実技	平良 進	
6	股関節⑤(大腿骨頭部骨折手術後のADL指導、前方アプローチと後方アプローチのリスク管理						講義・実技	平良 進	
7	膝関節①(機能解剖、膝蓋骨脱臼の病態と評価、引き寄せ鋼線締結法、基本的なROMexと						講義・実技	平良 進	
8	膝関節②(膝靭帯の整形外科テスト、変形性膝関節症について、X-PとMRIの特徴、関連する						講義・実技	平良 進	
9	膝関節③(変形性膝関節症の症状・歩様について、治療の流れ、K/L分類、Ober test、大腿						講義・実技	平良 進	
10	膝関節④(大腿四頭筋筋力増強訓練の基本、成人と高齢者の姿勢制御の違い、ADL訓練に						講義・実技	平良 進	
11	膝関節⑤(深部静脈血栓症、homans徴候、RICE処置、内側側副靭帯損傷リハ、前十字靭帯						講義・実技	平良 進	
12	膝関節⑥(半月板損傷リハ、McMurrayテスト、後十字靭帯リハ、Osgood-Schlatter症候群リハ						講義・実技	平良 進	
13	足関節②(足関節②(機能解剖、足関節可動域訓練、足部の回外回内について、距骨下関						講義・実技	平良 進	
14	足関節③(三果骨折、松葉杖使用方法の工夫と介助法確認、庄上動作確認、アキレス腱断						講義・実技	平良 進	
15	まとめ						講義・試験	平良 進	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験(50)% <input type="checkbox"/> 提出物()% <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト(50)% <input type="checkbox"/> 実技試験()% <input type="checkbox"/> 口頭試問()% <input type="checkbox"/> 発表()% <input checked="" type="checkbox"/> その他(提出物は必要時に実施する。)(0)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準整形外科学			仲村利孝・松野丈夫			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	骨関節障害理学療法学Ⅱ								
担当者	平良 進								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)骨関節障害(主に脊柱、胸郭、上肢)に対する理学療法の基本的な考え方、ADL指導法について学びます。それに加え、基本的な実技の習得、国家試験で求められる知識の理解に努める。									
(到達目標)代表的な骨関節障害(主に脊柱、胸郭、上肢)の基本的な考え方について理解できる。 基本的な実技とADL(主に脊柱、胸郭、上肢)について理解できる。 国家試験で求められる知識(主に脊柱、胸郭、上肢)について理解できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
小テストを実施し、前回講義の確認を行う。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	骨関節Ⅰの復習実技。テーピングを利用した下肢運動療法の実技練習						講義	平良 進	
2	骨関節Ⅰの復習実技。下肢運動療法の応用、運動連鎖の実技練習						講義・実技	平良 進	
3	脊柱①(機能解剖、RAの特徴と禁忌、運動療法とADLについてについて、関連する国試問題解説)						講義・実技	平良 進	
4	脊柱②(RAの運動療法とADLについて。多発性筋炎と皮膚筋炎の運動療法とADLについてについて)						講義・実技	平良 進	
5	脊柱③(脊柱管狭窄症の運動療法とADLについて、関連する国試問題解説)						講義・実技	平良 進	
6	脊柱④(Williams体操、側弯症の運動療法とADLについて、関連する国試問題解説)						講義・実技	平良 進	
7	脊柱⑤(ペーラー体操、脊椎圧迫骨折の評価と運動療法とADLについて、関連する国試問題解説)						講義・実技	平良 進	
8	脊柱⑥(腰椎分離症、腰椎すべり症、腰椎ヘルニアの評価と運動療法とADLについて、関連する国試問題解説)						講義・実技	平良 進	
9	胸郭①(胸郭の機能解剖、胸郭出口症候群の病態について、関連する国試問題解説)						講義・実技	平良 進	
10	胸郭②(胸郭出口症候群の治療、ADL、評価、運動療法について、関連する国試問題解説)						講義・実技	平良 進	
11	胸郭③(重心と姿勢評価について、関連する国試問題解説) 上肢①(肩関節機能解剖と)						講義・実技	平良 進	
12	上肢②(第2肩関節、肩甲上腕関節のフォースカップルについて。インピンジメント症候群、腱鞘炎)						講義・実技	平良 進	
13	上肢③(運動療法の安定性と可動性について。Codman体操の方法、理学療法介入グレード)						講義・実技	平良 進	
14	上肢④(上腕骨近位端骨折の病態とリハビリについて。スポーツリハ、投球相分け、野球肘、テニス肘)						講義・実技	平良 進	
15	まとめ						講義・試験	平良 進	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (50) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (提出物は必要時に実施する。) (0) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準整形外科学			仲村利孝・松野丈夫			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	神経障害理学療法学 I								
担当者	砂川 昌信								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)脳機能局在を理解し脳血管障害後片麻痺の特徴を把握する。また脳血管障害に対する各種検査の意義・目的を把握する。									
(到達目標)運動と感覚の脳機能局在を説明できる。 脳血管障害後片麻痺の障害像について説明できる。 脳血管障害後片麻痺の運動機能について理解し、検査法および評価法を説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
①提出物は提出日が定められた課題の他、毎講義後のレスポンスシートを含むものとする。 ②講義およびグループ活動に対し、積極的な参加を求める。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション・脳の構造と機能						講義	砂川 昌信	
2	神経回路(運動路・感覚路)						講義	砂川 昌信	
3	神経回路(運動路・感覚路)						講義	砂川 昌信	
4	脳卒中の病型と重症度						講義	砂川 昌信	
5	脳卒中の画像のみかた						講義	砂川 昌信	
6	症状・姿勢の特徴(臥位・座位・立位)						講義/実技	砂川 昌信	
7	症状・姿勢の特徴(臥位・座位・立位)						講義/実技	砂川 昌信	
8	片麻痺機能検査(Brunnstrom test)・深部腱反射・筋緊張検査・感覚検査						講義/実技	砂川 昌信	
9	片麻痺機能検査(Brunnstrom test)・深部腱反射・筋緊張検査・感覚検査						講義/実技	砂川 昌信	
10	片麻痺機能検査(Brunnstrom test)・深部腱反射・筋緊張検査・感覚検査						講義/実技	砂川 昌信	
11	脳神経検査						講義	砂川 昌信	
12	脳神経検査						講義	砂川 昌信	
13	高次脳機能障害						講義	砂川 昌信	
14	高次脳機能障害						講義	砂川 昌信	
15	まとめ						講義・試験	砂川 昌信	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで			正門由久・高木誠			医歯薬			
PT OT ST 脳画像			前田真治			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
脳卒中理学療法の理論と技術			吉尾雅春・原寛美			メジカルビュー			
病気がみえる 脳・神経						メディックメディア			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
本講義では1年次に履修した解剖学(中枢神経系)の内容も含まれています。適宜その資料も参考にしながら予習復習を行ってください。検査に関しては実技を行いますので事前に服装の確認を行ってください。									

授業科目名	神経障害理学療法学Ⅱ								
担当者	島袋 公史/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)脳卒中片麻痺患者の機能的評価と日常生活活動(ADL)評価を結びつけ基本的な理学療法立案および運動療法を学ぶ。									
(到達目標)脳卒中片麻痺患者の動作とADLの関連を理解する。 脳卒中片麻痺患者の機能評価とADL評価の統合と解釈ができるようになる。 脳卒中片麻痺患者の問題点を挙げ、基本的な理学療法を立案および運動療法を試みることができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
他の学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。 携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	脳卒中片麻痺患者の検査と評価(1)					講義・実技	島袋 公史		
2	脳卒中片麻痺患者の検査と評価(2)					講義・実技	島袋 公史		
3	脳卒中片麻痺患者の検査と評価(3)					実技	島袋 公史		
4	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈(臥位・起居動作)					実技	島袋 公史		
5	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈(臥位・起居動作)					実技	島袋 公史		
6	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈(座位・立ち上がり)					実技	島袋 公史		
7	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈(座位・立ち上がり)					実技	島袋 公史		
8	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈(座位・立ち上がり)					実技	島袋 公史		
9	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈(立位・歩行)					講義・実技	島袋 公史		
10	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈(立位・歩行)					講義・実技	島袋 公史		
11	脳卒中片麻痺患者の姿勢と動作の特性および解釈(ADL動作)					講義・実技	島袋 公史		
12	病期におけるリハビリテーション(急性期)					講義・実技	非常勤講師		
13	病期におけるリハビリテーション(回復期)					講義・実技	非常勤講師		
14	病期におけるリハビリテーション(生活期)					講義・実技	島袋 公史		
15	まとめ					講義・試験	島袋 公史		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
脳卒中最前線			福井 囿彦・藤田 勉・宮坂 元麿			医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像			大村 優慈			メジカルビュー			
病気がみえる 7 脳・神経						メディックメディア			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
・前期(神経理学療法Ⅰ)で使用した資料も講義中に使用しますので準備してください。 ・実技も行いますので動きやすい服装をお願いします。 ・課題発表もありますのでわからないことがあれば随時担当教員へ声をかけてください。									

授業科目名	神経障害理学療法学Ⅲ								
担当者	溝田 康司/ 又吉 喬野								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)理学療法の対象となる小児期の発達と代表的疾患について学ぶ。デュシャンヌ型筋ジストロフィー症、二分脊椎、ダウン症、学習障害の基礎知識について学ぶ。また、脳性麻痺については医学的知識に加え、分類、特徴、評価、治療など系統的障害像を学ぶ。また、障がい児教育の日米比較について概要を学ぶ。									
(到達目標)1)運動発達を主として正常発達の流れを理解する。 2)小児期の運動障害を主訴とする代表的疾患の特徴を理解する。 3)狭義の発達障害について理解する。4)脳性麻痺の全般を系統的に理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
初回に配布する講義進行表に記載された教科書の該当ページを事前学習として一読して講義に臨むこと。講義3回目から9回目まで毎回web復習クイズを実施。各講義終了時に当日の学びの振り返りシートを記載し提出。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	小児の理学療法の概要						講義・国試過去問	溝田 康司	
2	0～1歳までの正常運動発達概要						講義・単元クイズ	溝田 康司	
3	原始反射						クイズ・国試過去問	溝田 康司	
4	立ち直り反応・平衡反応						クイズ・単元クイズ	溝田 康司	
5	デュシャンヌ型筋ジストロフィー症						クイズ・国試過去問	溝田 康司	
6	二分脊椎						クイズ・単元クイズ	溝田 康司	
7	ダウン症・知的障害						クイズ・国試過去問	溝田 康司	
8	発達障害						クイズ・単元クイズ	溝田 康司	
9	障害児教育と理学療法						クイズ・国試過去問	溝田 康司	
10	施設における脳性麻痺の療育と臨床						講義	又吉 喬野	
11	脳性麻痺の概要・知識の整理						講義	又吉 喬野	
12	分類と特徴(痙直型・アトーゼ・失調・弛緩型)						講義	又吉 喬野	
13	脳性麻痺の評価						講義	又吉 喬野	
14	脳性麻痺に対する理学療法						講義	又吉 喬野	
15	定期試験+国試過去問						試験	溝田 康司	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
イラストでわかる小児理学療法			上杉雅之監修			医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
PT・OTのための発達障害ガイド			新田收他編			金原出版			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
毎回の講義の進行はおおよそ下記の通り。1)Web復習クイズ→2)教科書確認→3)学びシート→4)講義(50～60分程度)→5)単元クイズ(5分)→6)当日分の振り返りシート記入(10分程度)→6)講義終了 講義の2回に1回、国試過去問受験を実施。9割りでクリア。クリアしても毎々受験が必要。定期試験までにクリア出来ない場合、定期試験時に受験。早期にクリアすれば加点が高い。 ※第10回～第14回は外部講師となります。シラバスの内容と異なる場合があります。									

授業科目名	神経障害理学療法学Ⅳ								
担当者	玉城 和弥/ 松川 英一/ 石田 隆志/ 川端 晋也/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)神経症状を呈する特殊疾患や脊髄損傷における病態および障害の理解を深め、理学療法の知識および実践を学ぶ。									
(到達目標)①神経筋疾患ならびに脊髄損傷の病態を理解する。 ②病態から生じる症状や問題を理解する。 ③症状や問題点に対する治療内容を理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	パーキンソン病(症候群)の分類、症状、その他の特徴						講義	石田 隆志	
2	パーキンソン病(症候群)の評価、リスク、運動療法						講義	石田 隆志	
3	失調症の症状						講義	石田 隆志	
4	失調症の評価、リスク管理、運動療法						講義	石田 隆志	
5	パーキンソン病についてまとめ、失調症についてまとめ						講義	石田 隆志	
6	筋疾患①デュシャンヌ型ジストロフィー						講義	松川 英一	
7	筋疾患②重症筋無力症 多発性硬化症(MS)・ギランバレー症候群など						講義	松川 英一	
8	神経変性疾患③筋萎縮性側索硬化症(ALS)						講義	松川 英一	
9	脊髄損傷とは、受傷起点と障害(像)						講義	川端 晋也	
10	脊髄損傷の病態生理						講義	川端 晋也	
11	障害分類:ASIA、運動機能障害、感覚障害、自律神経障害など						講義	川端 晋也	
12	脊髄損傷の日常生活活動						講義	玉城 和弥	
13	車椅子操作と松葉杖、床上動作など						講義	玉城 和弥	
14	社会復帰のために必要な生活環境、リハの流れとゴール設定						講義	玉城 和弥	
15	まとめ						講義・試験	石田 隆志	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験(100)% <input type="checkbox"/> 提出物()% <input type="checkbox"/> 小テスト()% ; <input type="checkbox"/> 実技試験()% <input type="checkbox"/> 口頭試問()% <input type="checkbox"/> 発表()% <input type="checkbox"/> その他() ()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	内部障害理学療法学 I								
担当者	青野 健治/ 島袋 尚美/ 徳元 亮太								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)内部障害理学療法学 I では呼吸器疾患に対する理学療法の基本手技の実践について実技を交えて学ぶ。また、がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割や一連の流れについて講義する。									
(到達目標)① 呼吸器疾患、特に間質性肺炎と慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態について理解し、理学療法が実施できる。 ② 外科手術後、ICU 管理、人工呼吸器管理状態における理学療法について説明できる。 ③ がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割と理学療法の実践について説明できる。									
履修における注意事項 (受講ルールなど)									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為 (主に私語) を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	オリエンテーション、呼吸理学療法総論(歴史、対象)							講義	青野 健治
2	呼吸理学療法 コンディショニング(リラクゼーション、呼吸練習、呼吸筋トレーニング)							講義・実技	青野 健治
3	呼吸理学療法 排痰法とは、排痰法の実践							講義・実技	青野 健治
4	呼吸理学療法 排痰法(呼吸介助法)							講義・実技	青野 健治
5	呼吸理学療法 運動処方							講義	青野 健治
6	呼吸理学療法 酸素療法・人工呼吸療法							講義	青野 健治
7	呼吸理学療法 ICUにおける理学療法、術後の呼吸理学療法							講義	青野 健治
8	呼吸理学療法 ケーススタディ							講義	青野 健治
9	がんのリハビリテーション がん(悪性腫瘍)とは、がんの分類、がんの検査							講義	島袋 尚美
10	がんのリハビリテーション がんの進行と病期・ステージ、がんの治療、緩和ケア							講義	島袋 尚美
11	がんのリハビリテーション 理学療法の目的と目標、理学療法評価							講義	島袋 尚美
12	がんのリハビリテーション 理学療法を行う上でのリスク							講義	島袋 尚美
13	がんのリハビリテーション 疾患別理学療法の概要							講義	島袋 尚美
14	がんのリハビリテーション 終末期患者に対する対応、エビデンス							講義	島袋 尚美
15	まとめと試験							講義・試験	青野 健治/ 島袋 尚美
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準理学療法学 内部障害理学療法学			奈良勲			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど) わからないことは授業中、授業外を問わず質問して構わないので、学修内容を理解するよう努めること。また、講義終了後には事後学修として、該当範囲の内容の整理をしておくこと。									

授業科目名	内部障害理学療法学Ⅱ								
担当者	上原 夏希/ 青野 健治/ 徳元 亮太/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)循環器疾患、糖尿病、腎疾患について、その病態を理解するとともに、理学療法評価および治療について学ぶ。									
(到達目標)代表的な循環器疾患の症状および病態を理解し、循環器疾患に対する理学療法の基本技術の目的や方法を理解する。 糖尿病の症状および病態を理解し、理学療法の基本技術の目的や方法を理解する。 腎疾患の症状および病態を理解し、理学療法の基本技術の目的や方法を理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション(グループ学習の効果、課題提示)						講義	青野 健治	
2	グループ学習						講義	青野 健治	
3	循環器リハの実際						講義	上原 夏希	
4	循環器リハの実際						講義	上原 夏希	
5	循環器リハの実際						講義	上原 夏希	
6	循環器リハの実際						講義	上原 夏希	
7	循環器リハの実際						講義	上原 夏希	
8	循環器リハの実際						講義	上原 夏希	
9	循環器リハの実際						講義	上原 夏希	
10	循環器リハの実際						講義	上原 夏希	
11	糖尿病リハの実際						講義	非常勤講師	
12	糖尿病リハの実際						講義	非常勤講師	
13	腎リハの実際						講義	非常勤講師	
14	腎リハの実際						講義	非常勤講師	
15	まとめと試験						講義・試験	青野 健治	
■期末試験(90)% ■提出物(10)% □小テスト()% □実技試験()% □口頭試問()% □発表()% □その他() ()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準理学療法学 内部障害理学療法学			奈良勲			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
わからないことは授業中、授業外を問わず質問して構わないので、学修内容を理解するよう努めること。また、講義終了後には事後学修として、該当範囲の内容の整理をしておくこと。									

授業科目名	物理療法学								
担当者	末吉 勇樹								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)物理療法実施による生体反応、適応疾患、機器特性について教授する									
(到達目標)①各種物理療法の特性を理解する ②各種物理療法が生体へ与える生理学的、機械的作用を理解する ③各種物理療法の適応、禁忌を理解する									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
講義への積極的参加を求める 講義への参加がみられない場合には、欠席になりうる									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	物理療法総論					講義	末吉 勇樹		
2	痛みの生理学と病理学①					講義	末吉 勇樹		
3	痛みの生理学と病理学②					講義	末吉 勇樹		
4	炎症と組織の修復					講義	末吉 勇樹		
5	関節可動域制限					講義	末吉 勇樹		
6	温熱療法に必要な物理学と生理学					講義	末吉 勇樹		
7	ホットパック・パラフィン					講義	末吉 勇樹		
8	水治療法					講義	末吉 勇樹		
9	超短波療法・極超短波療法					講義	末吉 勇樹		
10	超音波療法					講義	末吉 勇樹		
11	寒冷療法					講義	末吉 勇樹		
12	電気をを用いた治療法					講義	末吉 勇樹		
13	光線療法					講義	末吉 勇樹		
14	牽引療法・圧迫療法					講義	末吉 勇樹		
15	試験					試験	末吉 勇樹		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (30) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版			庄本 康治			洋土社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 毎回、講義前又は講義後に復習の小テストを行います。講義後には、その都度、内容をまとめ復習を行い小テストに望んでください。									

授業科目名	物理療法演習								
担当者	砂川 昌信/ 末吉 勇樹								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)物理療法実施による生体反応、適応疾患、機器特性を踏まえ種々の物理療法機器の適応、実践を理解する									
(到達目標)①各種物理療法の特性を理解し、実践できる ②各種物理療法の適応、禁忌を理解し、物理療法を実践できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
グループワークが主となる。そのため演習への個々人の積極的な参加を求める。 講義への参加がみられない場合には、欠席になりうる									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	物理療法機器を使用した実験方法とデータ収集方法					講義	末吉 勇樹		
2	物理療法演習2(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
3	物理療法演習3(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
4	物理療法演習4(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
5	物理療法演習5(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
6	物理療法演習6(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
7	物理療法演習7(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
8	物理療法演習8(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
9	物理療法演習9(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
10	物理療法演習10(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
11	物理療法演習11(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
12	物理療法演習12(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
13	物理療法演習13(物理療法機器を使用した実験及びデータ収集)					グループ演習	末吉 勇樹		
14	まとめ					講義	末吉 勇樹		
15	試験					試験	末吉 勇樹		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (40) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (60) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第1版			庄本 康治			羊土社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
前期で学んだ物理療法学を事前に復習し、種々の機器特性を理解したうえで演習に臨むこと。									

授業科目名	義肢装具学総論								
担当者	砂田 宏典/ 島袋 公史								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)理学療法における義肢・装具の役割や治療の位置づけを理解し、装具利用に必要な知識や背景を学ぶ。									
(到達目標)1. 義肢と装具の違いについて説明できる。 2. 各種義肢装具の使用目的を説明できる。 3. 義肢装具の製作過程を理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。 他学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	義肢装具の歴史・義肢装具とチーム医療					講義	島袋 公史		
2~3	義肢とは(種類・製作過程)					講義	島袋 公史		
4~5	装具とは(種類・製作過程)					講義	島袋 公史		
6	装具の名称・付属品					講義	島袋 公史		
7	頸部装具(チェックアウト・種類・疾患別)					講義	砂田 宏典		
8	体幹装具(チェックアウト・種類・疾患別)					講義	砂田 宏典		
9	その他装具(小児用装具・免荷装具など)					講義	砂田 宏典		
10	上肢装具(種類・対応障害)					講義	砂田 宏典		
11	義手の種類と特徴					講義	砂田 宏典		
12	義足 各ソケットの特徴・種類					講義	砂田 宏典		
13	義足の部品					講義	砂田 宏典		
14	義足のチェックポイント					講義	砂田 宏典		
15	まとめ					講義・試験	島袋 公史		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
義肢装具学テキスト			細田多穂、他			南江堂			
参考書									
書名			著者			出版社			
PT・OTビジュアルテキスト 義肢装具学 第1版			高田治実、他			羊土社			
脳卒中の下肢装具 第3版			渡邊英夫、他			医学書院			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
・資料は適時配布します。 ・わからないことなどがあれば、講義中でもかまわないので質問するようにしましょう。									

授業科目名	義肢装具学各論								
担当者	安室 真紀/ 砂田 和幸/ 島袋 公史/ 立津 統								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 義肢装具総論で学んだ基礎知識をもとに義肢装具の構造と機能を理解し、適応となる疾患や障害を学ぶ。加えて装具の処方及び効果判定や、切断術直後の断端管理や義肢適合のチェックアウトについて学習し、理学療法士としての役割を理解する。									
(到達目標) 1. 装具のチェックアウトや種類ならびに適応疾患について学習する。 2. 義足の種類や構造ならびにベンチアライメントやスタティックアライメントについて学習する。 3. 義肢装着者の歩行分析ならびに指導方法について学習する。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
携帯電話等のカメラ機能を使用した黑板およびスライドの撮影を禁止する。 講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。 他学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	上肢装具 ① チェックアウト、種類 疾患別						講義	島袋 公史	
2	膝装具 ① チェックアウト、種類						講義	立津 統	
3	膝装具 ② 疾患別						講義	立津 統	
4	免荷装具 ① チェックアウト、種類 疾患別						講義	立津 統	
5	長下肢装具 ① チェックアウト、種類 疾患別						講義	島袋 公史	
6	切断者の断端管理						講義	島袋 公史	
7	体幹装具 ① チェックアウト、種類 疾患別						講義	島袋 公史	
8	短下肢装具 ① チェックアウト、種類						講義	安室 真紀	
9	短下肢装具 ② 疾患別						講義	安室 真紀	
10	靴型装具						講義	砂田 和幸	
11	義足 スタティックアライメント						講義	砂田 和幸	
12	大腿義足(ダイナミックアライメント)						講義	砂田 和幸	
13	下腿義足(ダイナミックアライメント)						講義	砂田 和幸	
14	義足患者の理学療法						講義	島袋 公史	
15	まとめ						講義・試験	島袋 公史	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
義肢装具学テキスト			細田多穂、他			南江堂			
参考書									
書名			著者			出版社			
PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学			高田治美、他			羊土社			
脳卒中の下肢装具 第3版			渡邊英夫、他			医学書院			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
・わからないことなどがあれば、講義中でもかまわないので質問するようにしましょう。 ・参考資料は適時配布します。									

授業科目名	日常生活活動 I								
担当者	島袋 尚美								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)日常生活活動(Activity of Dily Living)の概念、分類、評価について学び、基礎的知識を理解した上でADL評価を行っている。 評価した内容に基づき、実技を通して介助および動作指導を実施していく。									
(到達目標)①ADLと障害の概念を理解しICIDH、ICF等を用いて構造化することが出来る。 ②FIM、BI等の指標を用いてADL評価が行える。 ③ADL動作を観察、評価し適切な動作指導・介助が行える。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
他の学生の学習機会を損なう行為(講義に関係のない私語など)を禁止する。講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	ADLの概念と範囲					講義	島袋 尚美		
2	ADLと障害(ICIDHとICF)					講義	島袋 尚美		
3	ADL評価法					講義	島袋 尚美		
4	ADL評価法の実際①(FIM・BI)					講義	島袋 尚美		
5	ADL評価法の実際②(FIM・BI)					講義	島袋 尚美		
6	実技演習①(寝返り動作・実技グループにて)					実技	島袋 尚美		
7	実技演習振り返り(寝返り動作)					実技	島袋 尚美		
8	実技演習②(起き上がり動作・実技グループにて)					実技	島袋 尚美		
9	実技演習振り返り(起き上がり動作)					実技	島袋 尚美		
10	実技演習③(立ち上がり動作・実技グループにて)					実技	島袋 尚美		
11	実技演習振り返り(立ち上がり動作)					実技	島袋 尚美		
12	実技演習④(座位・立位・その他など・実技グループにて)					実技	島袋 尚美		
13	実技演習振り返り(座位・立位・その他など)					実技	島袋 尚美		
14	身の回り動作のについて					講義	島袋 尚美		
15	まとめ					講義・試験	島袋 尚美		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
適宜資料を配布します。分からない事は、授業中でも構わないので質問すること。授業中の内容は必ずメモを取ること。									

授業科目名	日常生活活動Ⅱ								
担当者	金城 知子/ 具志堅 司/ 佐久田 衛/ 三代 達也/ 山城 貴大/ 島袋 公史/ 島袋 尚美								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)補助具、自助具や環境設定についての概念およびその適応について講義や演習を通して学習する。									
(到達目標)①症状や障害に応じた適切な歩行補助具を選択し、歩行の介助・指導ができる ②症状や障害に応じた適切な車いすを選択・調整し、車いすの介助・操作指導ができる ③生活環境を評価・調整し、環境設定を提案できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
①講義で配布する資料や文書等をインターネット上に公開することを禁止する ②他の学生の学習機会を損なう行為(講義に関係のない私語など)を禁止する									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	歩行と歩行補助具						講義・演習	佐久田 衛	
2	演習①杖歩行						演習	佐久田 衛	
3	演習②歩行器歩行						演習	佐久田 衛	
4	車いすの種類と構造						講義・演習	佐久田 衛	
5	演習③普通型車いす						演習	佐久田 衛	
6	演習④リクライニング車いす・他						演習	佐久田 衛	
7	リハビリテーションにかかわる社会資源						講義	佐久田 衛	
8~11	リハビリテーション支援機器(起居・移乗・移動)						実技	金城 知子/ 島袋 公史/ 島袋 尚美	
12	車いすシーティング						実技	具志堅 司/ 山城 貴大	
13	車いすシーティング						実技	具志堅 司/ 山城 貴大	
14	リハビリテーション支援機器(日常生活活動)						講義・演習	島袋 公史	
15	まとめ						講義・試験	佐久田 衛/ 島袋 公史	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
日常生活活動学テキスト改訂第3版			河元岩男/坂口勇人/村田伸 編			南江堂			
PT・OTビジュアルテキスト			柴 喜崇, 下田信明/編			羊土社			
参考書									
書名			著者			出版社			
日常生活活動(ADL)第2版			千住秀明			神陵文庫			
日常生活活動学・生活環境学 第5版			鶴見隆正/隆島研吾			医学書院			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
わからないことがあれば、講義中でも構わないので質問すること 課題発表があるので、不明な点は随時担当教員に確認すること									

授業科目名	触察法								
担当者	佐久田 衛								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 触察は理学療法分野において、評価・治療手段の重要な要素となる。本講義で触察の知識・技術を身につけ、後に受講する評価学や治療学の講義に役立てる。									
(到達目標) 1. 骨・筋を触察する際の要点や注意点が説明できる 2. 体表から骨指標や筋の走行を示すことができる 3. 本講義を通して患者様への接し方を学ぶ									
履修における注意事項 (受講ルールなど)									
<ul style="list-style-type: none"> 解剖学、運動学の進捗状況に照らし合わせ、骨の触察を7回、筋の触察を7回実施する 実技中心の講義のため、動きやすい格好または肌が露出できるよう準備すること 衛生管理上、爪は切る・手指消毒の徹底など清潔を保つよう心がける。不衛生もしくは危険と判断した場合には、その場で改善を 									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション、触察の方法・注意点						講義・実技	佐久田 衛	
2	上肢帯の骨①						講義・実技	佐久田 衛	
3	上肢帯の骨②						講義・実技	佐久田 衛	
4	下肢帯の骨①						講義・実技	佐久田 衛	
5	下肢帯の骨②						講義・実技	佐久田 衛	
6	骨盤帯、頰椎の骨						講義・実技	佐久田 衛	
7	脊椎						講義・実技	佐久田 衛	
8	上肢帯の筋①						講義・実技	佐久田 衛	
9	上肢帯の筋②						講義・実技	佐久田 衛	
10	上肢帯の筋③						講義・実技	佐久田 衛	
11	下肢帯の筋①						講義・実技	佐久田 衛	
12	下肢帯の筋②						講義・実技	佐久田 衛	
13	下肢帯の筋③						講義・実技	佐久田 衛	
14	頸部・体幹の筋						講義・実技	佐久田 衛	
15	まとめ						講義・試験	佐久田 衛	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (50) % <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (30) % <input checked="" type="checkbox"/> 口頭試問 (10) % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学第5版			編集 野村 嶺			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版			林 典雄 執筆			MEDICAL VIEW			
プロメテウス 解剖学総論/運動器系 第3版			坂井 健雄、松村 譲児			医学書院			
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
<ul style="list-style-type: none"> 本講義は解剖学、運動学と関連づけると理解が深まります。各講義前に30分程度、予習として取り入れてください ヒトの身体は性差や個体差があります。講義ではペアの触察だけでなく、より多くの人に触れ、触察の技術を高めてください 									

授業科目名	理学療法研究法								
担当者	砂川 昌信/ 島袋 尚美								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要) 研究の視点および進め方と要点を学ぶことを目的とする。主に方法論を重点的に理解し、結果に至るまでを学習する。また、データの性質を理解し、統計解析手法の選択や結果の見方、活用方法を学ぶ。									
(到達目標) 批判的視点での思考過程を理解する。また、研究の流れを理解し、方法論を把握する。さらに問題提起の視点を模索することができる。 ・研究テーマに対して、統計解析手法を選択し、統計解析ソフトを使用することができる。さらに出力された結果を理解し、正しく表示、活用することができる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
①他の学生の学習機会を損なう行為(講義に関係のない私語、行為など)を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板及びスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション、理学療法研究の必要性(EBM・EBPT、診療ガイドライン)、文献検索						講義・演習	砂川 昌信/ 島袋 尚美	
2	研究倫理、研究の具体化(PICO)						講義・演習	砂川 昌信/ 島袋 尚美	
3	文献を読む(文献要約、研究の具体化)						講義・演習	砂川 昌信/ 島袋 尚美	
4	研究デザイン、研究計画の立て方						講義・演習	砂川 昌信/ 島袋 尚美	
5	データ特性の表現(代表値・バラツキ)						講義・演習	砂川 昌信/ 島袋 尚美	
6	先行研究論文の抄読、研究計画書の作成						講義・演習	砂川 昌信/ 島袋 尚美	
7	先行研究論文の抄読、研究計画書の作成						講義・演習	砂川 昌信/ 島袋 尚美	
8	統計解析の実際①						講義・演習	島袋 尚美	
9	統計解析の実際②						講義・演習	島袋 尚美	
10	統計解析の実際③						講義・演習	島袋 尚美	
11	統計解析の実際④						講義・演習	島袋 尚美	
12	統計解析の実際⑤						講義・演習	島袋 尚美	
13	統計解析の実際⑥						講義・演習	島袋 尚美	
14	統計解析の実際⑦						講義・演習	島袋 尚美	
15	統計解析の実際⑧						講義・演習	島袋 尚美	
16	統計解析の実際⑨						講義・演習	島袋 尚美	
17	統計解析の実際⑩中間試験						講義・演習	島袋 尚美	
18	研究データ収集						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
19	研究データ収集						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
20	収集した研究データの整理・解析						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
21	収集した研究データの整理・解析						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
22	論文作成						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
23	論文作成						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
24	論文作成						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
25	論文作成						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
26	論文作成						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
27	プレゼンテーション資料、配付資料作成						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
28	プレゼンテーション資料、配付資料作成						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
29	研究報告会						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
30	研究報告会						演習	島袋 尚美/ 砂川 昌信	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (40) % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (60) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
すぐできる！リハビリテーション統計(解析ソフト付)改訂第2版			(監修) 山本澄子、谷浩明			南江堂			
最新理学療法学講座 理学療法研究法			(編著) 対馬栄輝			医歯薬出版			
参考書									

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		
<ul style="list-style-type: none">・参考として、適宜資料を配布します。PC、スマートフォンでの検索作業がありますので持参してください。・わからないことは質問し、学習内容を理解するよう努めてください。・また、毎講義終了時には事後学習として、該当範囲の内容の整理をしておいてください。		

授業科目名	臨床理学療法演習Ⅰ								
担当者	専任教員/非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)理学療法評価学および治療学にて学習した内容を基に、対象者の状態や病態に即した検査項目の抽出を論理的に展開し、評価実習の準備として、知識及び実技の総復習を行う。 障害理解の根幹である障害論を学習し、さらには情報収集から治療プログラム立案までの一連の理学療法評価プロセスを学習する									
(到達目標)患者の状態、病態に即した検査項目を抽出し、その理由を論理的に説明できるようになる。 検査データをアセスメントし、患者の問題点を論理的に抽出できるようになる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション						講義	専任教員	
2	運動器系疾患理学療法(疾患に即した検査項目の抽出)						講義・演習	専任教員	
3	運動器系疾患理学療法(疾患に即した検査項目の抽出)						講義・演習	専任教員	
4	運動器系疾患理学療法(検査の実施)						演習	専任教員	
5	運動器系疾患理学療法(検査の実施)						演習	専任教員	
6	内部障害理学療法(疾患に即した検査項目の抽出)						講義・演習	専任教員	
7	内部障害理学療法(疾患に即した検査項目の抽出)						講義・演習	専任教員	
8	内部障害理学療法(検査の実施)						演習	専任教員	
9	内部障害理学療法(検査の実施)						演習	専任教員	
10	中枢神経系理学療法(疾患に即した検査項目の抽出)						講義・演習	専任教員	
11	中枢神経系理学療法(疾患に即した検査項目の抽出)						講義・演習	専任教員	
12	中枢神経系理学療法(検査の実施)						演習	専任教員	
13	中枢神経系理学療法(検査の実施)						演習	専任教員	
14	評価実習に向けての知識の確認						講義	専任教員	
15	評価実習に向けての実技の確認						実技	専任教員/非常勤講師	
16	評価実習に向けての実技の確認						実技	専任教員/非常勤講師	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (50) % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	臨床理学療法演習Ⅱ								
担当者	佐久田 衛/ 石田 隆志/ 専任教員/ 島袋 公史/ 非常勤講師								
開講年次	3年	開講期	3年前期, 3年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)運動器系疾患、内部障害、中枢神経系疾患それぞれで症例を提示し、プログラム立案およびリスク管理に配慮した基本的運動療法を実践する。									
(到達目標)抽出した問題点の優先順位を挙げ、その問題点に即した一般的理学療法のプログラム立案ができる。疾患別または時期別(急性期・回復期・維持期)の基本的な運動療法ができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
講義およびグループ活動に対し、積極的な参加を求める。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	運動器系疾患理学療法						講義・演習	専任教員	
2	運動器系疾患理学療法						講義・演習	専任教員	
3	運動器系疾患理学療法						講義・演習	専任教員	
4	内部障害理学療法						講義・演習	専任教員	
5	内部障害理学療法						講義・演習	専任教員	
6	内部障害理学療法						講義・演習	専任教員	
7	中枢神経系理学療法						講義・演習	専任教員	
8	中枢神経系理学療法						講義・演習	専任教員	
9	中枢神経系理学療法						講義・演習	専任教員	
10	CBT						試験	専任教員	
11	OSCE						実技試験	専任教員/ 非常勤講師	
12	OSCE						実技試験	専任教員/ 非常勤講師	
13	運動器系疾患理学療法まとめ						講義・演習	専任教員	
14	内部障害理学療法まとめ						講義・演習	専任教員	
15	中枢神経系理学療法まとめ						講義・演習	専任教員	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (20) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (60) % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 提出物などは講義(運動器系疾患・内部障害・中枢神経系)によって内容が若干異なります。									

授業科目名	予防理学療法論								
担当者	島袋 公史/ 島袋 尚美/ 非常勤講師								
開講年次	3年	開講期	3年前期, 3年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 近年疾病や外傷を防ぐという予防の重要性が示されている。理学療法士においても予防の面での関りが求められるようになってきており、予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理のあり方について学ぶ。									
(到達目標) ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法士の役割について説明できる。 産業理学療法における理学療法士の役割について説明できる。 介護予防における理学療法士の役割について説明できる。 健康維持、健康増進における理学療法士の役割について説明できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為（主に私語）を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	予防理学療法の定義						講義		
2	予防理学療法の領域、制度について						講義		
3	予防理学療法領域での理学療法士の役割						講義	島袋 公史	
4	予防理学療法の研究、再発予防						講義	島袋 公史	
5	がんに対する予防理学療法						講義	島袋 尚美	
6	栄養の視点からみる予防理学療法						講義	非常勤講師	
7	虚弱高齢者に対する予防理学療法-1						講義	非常勤講師	
8	虚弱高齢者に対する予防理学療法-2						講義	非常勤講師	
9	スポーツ障害に対する予防理学療法						講義	非常勤講師	
10	内部疾患に対する予防理学療法						講義	非常勤講師	
11	認知症に対する予防理学療法						講義	非常勤講師	
12	地域マネジメント(行政)における予防理学療法						講義	非常勤講師	
13	ウィメンズヘルスにおける理学療法						講義	非常勤講師	
14	脳卒中に対する予防理学療法						講義	非常勤講師	
15	まとめ						講義・試験		
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (100) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	生活環境論								
担当者	島袋 尚美								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)基本的な生活情報、環境情報の重要性を知ることにより、対象者の今後の治療方針のあり方にどのように影響してくるのかを考える力を養う。また、理学療法だけではなく、生活環境を変えるための手段をどのように用い、患者に対応する技術があることも知る。									
(到達目標)①環境整備の概要を理解する(基本的事項)。 ②環境整備の方法論を理解する。住宅改修内容、福祉用具等。 ③実際場面を想定し、ある程度の改修方法を展開できるようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	生活環境学とは					講義	島袋 尚美		
2	リハビリと生活支援					講義	島袋 尚美		
3	日本における生活環境の特徴と課題、家庭内事故					講義	島袋 尚美		
4	住環境についての法的諸制度					講義	島袋 尚美		
5	生活を支えるリハ関連機器①					講義・演習	島袋 尚美		
6	生活を支えるリハ関連機器②					講義・演習	島袋 尚美		
7	生活環境整備の留意点①					講義・演習	島袋 尚美		
8	生活環境整備の留意点②					講義・演習	島袋 尚美		
9	住環境の評価と改善計画①					講義・演習	島袋 尚美		
10	住環境の評価と改善計画②					講義・演習	島袋 尚美		
11	生活環境改修方法 疾患別					講義・演習	島袋 尚美		
12	生活環境整備 事例					講義	島袋 尚美		
13	筆記試験					試験	島袋 尚美		
14	住環境整備課題発表①					演習	島袋 尚美		
15	住環境整備課題発表②、まとめ					演習	島袋 尚美		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (40) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
・適宜、資料を配布します。									

授業科目名	地域理学療法学Ⅰ								
担当者	武富 新太郎								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)地域理学療法学の中で「地域理学療法学」とは何かを示し、地域というフィールドで理学療法士の役割として何が求められているかを学ぶ。									
(到達目標)①地域理学療法学とは何かを説明できる。 ②地域社会で知っておくべき制度などを知る。 ③理学療法士が地域で働くイメージができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	地域理学療法背景および概念						講義	武富 新太郎	
2	地域リハビリテーションの流れ①						講義	武富 新太郎	
3	地域リハビリテーションの流れ②						講義	武富 新太郎	
4	地域リハビリテーションを支えるシステム						講義	武富 新太郎	
5	介護予防と地域リハビリテーションについて						講義	武富 新太郎	
6	障害者の心理と障害受容						講義	武富 新太郎	
7	対象者の捉え方(ニーズの捉え方)						講義	武富 新太郎	
8	地域における連携						講義	武富 新太郎	
9	地域理学療法の展開(成人障害者施設)						講義	武富 新太郎	
10	地域理学療法の展開(介護老人保健施設)						講義	武富 新太郎	
11	地域理学療法の展開(通所リハビリテーション)						講義	武富 新太郎	
12	地域理学療法の展開(訪問リハビリテーション)						講義	武富 新太郎	
13	地域理学療法の実際①						講義	武富 新太郎	
14	地域理学療法の実際②						講義	武富 新太郎	
15	まとめ						講義・試験	武富 新太郎	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験(100)% <input type="checkbox"/> 提出物()% <input type="checkbox"/> 小テスト()% ; <input type="checkbox"/> 実技試験()% <input type="checkbox"/> 口頭試問()% <input type="checkbox"/> 発表()% <input type="checkbox"/> その他() ()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
地域理学療法学 第5版						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	地域理学療法学Ⅱ								
担当者	城間 定治/ 西平 美果/ 石田 晋也/ 非常勤講師								
開講年次	3年	開講期	3年前期, 3年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)近年地域における理学療法のあり方が問われている。よって、実際現場(地域施設)で理学療法を展開している理学療法士に講義して頂いて、現場での利用者との関りがどうなのかを講義を通じて学んでいくことを目標に講義を実施していく。									
(到達目標)各々の施設で現場での理学療法士がどのような考えのもとに業務当たっているのかを講義を通じて考えてもらい、今後病院以外での理学療法士のあり方について考え、さらに、維持期、生活期に向けてどのような事を考えて利用者へ対応していかねばならないのかその道筋をしっかりと理解して事を到達目標として達成して欲しいと考えている。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	地域理学療法について(概要等)①					講義	城間 定治		
2	地域理学療法について(概要等)②					講義	城間 定治		
3	障害者施設における地域理学療法①					講義	城間 定治		
4	障害者施設における地域理学療法②					講義	城間 定治		
5	障害者施設における地域理学療法③					講義	城間 定治		
6	生活期における地域理学療法①(福祉施設)					講義	西平 美果		
7	生活期における地域理学療法②(福祉施設)					講義	西平 美果		
8	生活期における地域理学療法③(福祉施設)					講義	西平 美果		
9	生活期における地域理学療法④(福祉施設)					講義	西平 美果		
10	高齢者施設における地域理学療法①(老人保健施設)					講義	石田 晋也		
11	高齢者施設における地域理学療法②(老人保健施設)					講義	石田 晋也		
12	高齢者施設における地域理学療法③(老人保健施設)					講義	石田 晋也		
13	高齢者施設における地域理学療法④(老人保健施設)					講義	石田 晋也		
14	高齢者施設における地域理学療法⑤(老人保健施設)					講義	石田 晋也		
15	まとめ					講義・試験			
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (最後にまとめで課題提出にて対応する) (100) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	地域実習								
担当者	各施設実習指導者・学科教員/専任教員								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	40	時間数	80	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)地域でのリハビリテーションを実習指導者のもとで見学および経験する。また、生活期における理学療法の役割・優先課題等を理解すると同時に、他職種や家族との連携、社会資源の活用による対象者の支援ができる能力の習得をめざす。									
(到達目標)対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成する。 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる。 地域における理学療法の見学体験を通して、自己の理学療法観を育成できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組むこと。 ・実習施設では、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること ・実習施設における規則・心得を守ること									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
	施設実習(2週)							各施設実習指導者・学科教員	
	報告会							専任教員	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (50) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (50) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
	書名	著者				出版社			
参考書									
	書名	著者				出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
前日の実習内容を確認し、次の日の実習のために十分な準備をして臨むこと。 「わからないこと」は、積極的に質問し、自己学修につなげること。									

授業科目名	情報処理								
担当者	砂川 昌信								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)・コンピューターの基本操作を習得し、レポート作成方法やデータのまとめ作業及び発表を行う ・情報モラル、情報セキュリティ、個人情報の取り扱いを学ぶ ・インターネットを適切に使用し、情報処理能力をつけるとともに情報検索ができる ・関連領域における情報検索、情報の取捨選択ができる</p>									
<p>(到達目標)・Word、Excel、PowerPointの基本操作方法を理解し、レポート作成やデータのまとめ方、表計算の仕方を理解する。 ・インターネットを使用し、情報セキュリティ、個人情報の取り扱いが適切にできる。 ・インターネットを使用し、情報検索ができる。また、社会人として最低限のルールを知り、メールのやり取りができる。</p>									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
<p>①他の学生の学習機会を損なう行為(講義に関係のない私語、行為など)を禁止する。 ②講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。</p>									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	情報モラル&情報セキュリティ						講義・演習	砂川 昌信	
2	個人情報の取り扱い						講義・演習	砂川 昌信	
3	情報検索						講義・演習	砂川 昌信	
4	Wordの操作方法						講義・演習	砂川 昌信	
5	Excelの操作方法						講義・演習	砂川 昌信	
6	Powerpointの操作方法						講義・演習	砂川 昌信	
7	文献検索						講義・演習	砂川 昌信	
8	文献要約						講義・演習	砂川 昌信	
9	文献紹介(発表資料作成)						講義・演習	砂川 昌信	
10	文献紹介(発表資料作成)						講義・演習	砂川 昌信	
11	文献紹介(発表資料作成)						講義・演習	砂川 昌信	
12	発表						講義・演習	砂川 昌信	
13	発表						講義・演習	砂川 昌信	
14	レポート作成方法						講義・演習	砂川 昌信	
15	まとめ・確認試験						講義・演習	砂川 昌信	
<p>■期末試験(80)% □提出物()% □小テスト()% ; □実技試験()% □口頭試問()% ■発表(20)% □その他() ()%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
情報リテラシー windows11 office2021対応						FOM出版			
<p>教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 分からない箇所は、講義中でも構わないので質問をすること。</p>									

授業科目名	コミュニケーション論								
担当者	羽鳥 訓秀/ 島袋 尚美								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)人間性を高め、人として自分を成長させる素地を養う。さらに自己肯定感の高い、心身ともに健康な医療者を育てる。また、社会人として必要な資質、医療専門職として求められる資質を理解し、演習を通してスキルを身に付ける。									
(到達目標)・自己への理解を深め、自分自身の成長課題を明らかにし、自己成長課題に取り組む姿勢を理解する。 ・社会人として必要なマナーを学び、身に付ける。 ・医療専門職として求められる資質を理解し、基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力(スキル)を援助の下で実践できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
①ほかの学生の学習機会を損なう行為(講義に関係のない私語、行為など)を禁止する。 ②講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	概要						講義・演習	島袋 尚美	
2	自己概念:自分を知る、他人からみた自分						講義・演習	島袋 尚美	
3	自分の態度、医療者として求められている態度						講義・演習	島袋 尚美	
4	人間の心を理解する、自我状態(交流分析理論)						講義・演習	島袋 尚美	
5	対人コミュニケーション分析、コミュニケーションの基礎的知識						講義・演習	島袋 尚美	
6	コミュニケーション技法:「みる」						講義・演習	島袋 尚美	
7	コミュニケーション技法:「きく」						講義・演習	島袋 尚美	
8	コミュニケーション技法:「伝える」						講義・演習	羽鳥 訓秀/ 島袋 尚美	
9	自己管理:時間管理、健康管理、感情管理						講義・演習	島袋 尚美	
10	自己存在と自己実現						講義・演習	島袋 尚美	
11	まとめ、筆記試験						試験	島袋 尚美	
12	医療面接:「話す」技術、「聴く」技術(傾聴)						講義・演習	島袋 尚美	
13・14	認知症の方とのコミュニケーション						講義・演習	島袋 尚美	
15	まとめ、実技試験						試験	島袋 尚美	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (30) % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド 第3版			山口美和			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
・資料は、適宜配布します。 ・本講義は、主にワークショップ方式で行います。ワークショップ方式とは、小グループでのディスカッションや、2人1組でのロールプレイを通して考えたこと、感じたことを伝えあい、お互いの学びを共有する方法です。 ・わからないことは、講義中でも構わないので、質問してください。									

授業科目名	専門基礎総論 I								
担当者	佐久田 衛/ 石田 隆志								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)本科目は、理学療法士としての学びの土台を築く導入的な科目であり、1年次の重要基礎科目、実習との橋渡しを行う。この科目において、医療職に必要な倫理観や基本姿勢を身につけるとともに、「解剖学」「運動学」「生理学」といった基礎科目への学習につなげるための基礎学力を養う。									
(到達目標)受講生は以下のことができるようになる。 1. 医療倫理・コミュニケーションの基本概念を理解し実践できる。 2. 理学療法士の職業観を育成することで基本的なマナーや行動様式を理解し、見学実習に備えた態度を身につける。 3. 「解剖学」「運動学」「生理学」などの基礎専門科目の学習に必要な基礎学力を身につけ、これらの分野の間に答えることが出来る。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
グループワークには積極的に取り組むようにして下さい									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者						
1	骨学の基礎:骨学の学び方	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
2	骨学の基礎:骨の構造と名称	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
3	骨学の基礎:骨部位の特徴と名称①	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
4	骨学の基礎:骨部位の特徴と名称②	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
5	骨学の基礎:骨部位の特徴と名称③	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
6	骨学の基礎:骨部位の特徴と名称④	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
7	理学療法士の職域調査①	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
8	理学療法士の職域調査②	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
9	理学療法士の職域調査③	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
10	理学療法士の職域調査④	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
11	理学療法士の職域発表①	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
12	理学療法士の職域発表②	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
13	見学実習概説	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
14	見学実習対策実技(コミュニケーション技法)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
15	見学実習対策実技(バイタル計測)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
16	見学実習対策実技(車椅子操作)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
17	見学実習対策実技(起き上がり)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
18	見学実習対策実技(移乗)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
19	基礎科目の学び方(解剖・運動・生理)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
20	解剖(骨)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
21	解剖(筋)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
22	解剖(神経)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
23	運動学(上肢)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
24	運動学(下肢)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
25	運動学(体幹)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
26	運動学(頭頸部)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
27	生理学(代謝・免疫)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
28	生理学(呼吸・循環)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
29	生理学(消化・排泄・病理)	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
30	まとめ	グループワーク	佐久田 衛/ 石田 隆志						
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (発表) (50) %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									

書名	著者	出版社
参考書		
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	専門基礎総論Ⅱ								
担当者	佐久田 衛/石田 隆志								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)「基礎総論Ⅱ」では、1年次に学習した基礎知識(解剖・運動・生理)をもとに、評価学、中枢神経・整形外科系の基礎疾患とそのリハビリテーションに関する初歩的な理解を深める。また、2年次後半に予定されている評価実習に向け、検査測定のス��を養う。									
(到達目標)受講生は以下のことができるようになる: 1. 解剖・運動・生理の基礎を復習し、実際の患者理解につなげられる。 2. 評価学で扱う基本的な検査測定の意義や方法を理解し、実施できる。 3. 中枢神経疾患・整形外科の疾患に対する初歩的な知識を持ち、リハビリテーションにおける視点を育てる。 4. 評価実習において必要な心構え・マナー・記録方法を理解し、簡単なシミュレーションができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
実技の際は実習に準じた服装で受講すること グループワークには問題意識を持ち積極的に参加すること									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者			
1	解剖学応用①				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
2	解剖学応用②				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
3	解剖学応用③				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
4	解剖学応用④				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
5	解剖学応用⑤				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
6	運動学応用①				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
7	運動学応用②				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
8	運動学応用③				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
9	運動学応用④				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
10	運動学応用⑤				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
11	生理学応用①				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
12	生理学応用②				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
13	生理学応用③				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
14	生理学応用④				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
15	生理学応用⑤				グループワーク	佐久田 衛/石田 隆志			
16	検査測定練習 MMT①				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
17	検査測定練習 MMT②				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
18	検査測定練習 MMT③				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
19	検査測定練習 ROM①				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
20	検査測定練習 ROM②				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
21	検査測定練習 ROM③				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
22	整形外科的検査練習 ①				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
23	整形外科的検査練習 ②				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
24	整形外科的検査練習 ③				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
25	神経学的検査 ①				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
26	神経学的検査 ②				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
27	神経学的検査 ③				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
28	評価演習 ①				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
29	評価演習 ②				実技	佐久田 衛/石田 隆志			
30	まとめ				講義	佐久田 衛/石田 隆志			
■期末試験(60)% □提出物()% ■小テスト(40)% □実技試験()%									
□口頭試問()% □発表()% □その他() ()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									

教科書		
書名	著者	出版社

参考書		
書名	著者	出版社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

シラバス 2025

作業療法学科

授業科目名	総合国語								
担当者	仲村 稔								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)本科目の目的は、広く社会に通用する国語の知識、言語表現能力を身につけることにある。									
(到達目標)①社会人として、また医療人として求められる基礎的な国語力を身につける。 ②わかりやすい国語表現について理解し、実践できるようになる。 ③文章作成における基本的方法を学ぶ。また、医療人として必要な論理的文章表現を学修する。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	講義の概要説明 国語表現① 言語表現力・思考力を高める						講義	仲村 稔	
2	国語表現② 人とつながるコミュニケーション						講義	仲村 稔	
3	国語表現③ 人とつながるコミュニケーション						講義	仲村 稔	
4	国語表現④ 人とつながるコミュニケーション						講義	仲村 稔	
5	国語の常識						講義	仲村 稔	
6	日本文学史 文学の流れ①						講義	仲村 稔	
7	日本文学史 文学の流れ②						講義	仲村 稔	
8	日本文学史～文学の流れ③～ / 郷土の文学①(琉球文学と沖縄の文学)						講義	仲村 稔	
9	郷土の文学②(琉球文学と沖縄の文学)						講義	仲村 稔	
10	国語表現⑤ 言語表現力・思考力を高める						講義	仲村 稔	
11	国語表現⑥ 言語表現力・思考力を高める						講義	仲村 稔	
12	文章力を磨こう① 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける						講義	仲村 稔	
13	文章力を磨こう② 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける						講義	仲村 稔	
14	文章力を磨こう③ 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける						講義	仲村 稔	
15	筆記試験・まとめ						講義・試験	仲村 稔	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (15) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業態度、出席) (5) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
資料配布									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど） 学習プリントを配布しますので各自取り組んでください。（期末試験に出題します）									

授業科目名	心理学								
担当者	野村 学								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)テキストにそって、心理学の様々な分野について概観し、リハビリ実務者にとって有効な心理学的視点を学んでいく。									
(到達目標)①心理学の基礎知識を役立てて、人間の心や行動を理解しようとする姿勢を持つことができる。 ②人間の心や行動が様々な要因(生物—心理—社会的要因)の影響を受けている事を理解できる。 ③心理学的視点を、自己理解にも活かすことができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
講義中心になりますが、積極的に参加してください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	イントロダクション 心理学を学ぶにあたって						講義	野村 学	
2	心理学とは						講義	野村 学	
3	感覚・知覚・注意・認知						講義	野村 学	
4	情動・動機付け・パーソナリティ・社会						講義	野村 学	
5	記憶・学習						講義	野村 学	
6	言語・概念・思考						講義	野村 学	
7	発達と知能						講義	野村 学	
8	臨床心理学とは						講義	野村 学	
9	防衛機制						講義	野村 学	
10	心理アセスメント						講義	野村 学	
11	臨床で用いられる心理検査						講義	野村 学	
12	臨床心理学の介入方法(行動的)						講義	野村 学	
13	臨床心理学の介入方法(内面的)						講義	野村 学	
14	臨床心理学の介入方法(相談的)						講義	野村 学	
15	まとめ・試験						講義・試験	野村 学	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席日数) (30) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハベーシック 心理学・臨床心理学			内山靖・藤井浩美・立石雅子 編			医歯薬出版株式会社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
テキストに対応した講義資料を配布し、これに基づいて行います。									

授業科目名	社会学								
担当者	小倉 宏樹								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)社会における諸問題について学ぶ。 体験学習法の手法により、グループワーク等を通じて学びを深める。									
(到達目標)社会に目を向け、広い視野を持ちつつ、作業療法に取り組むことができる。 体験とふりかえりにより、自分自身を見つめつつ、他者とのコミュニケーションを深めることができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	オリエンテーション/講義の進め方について 自己と他者を知る							講義	小倉 宏樹
2	自己と他者を知る							講義	小倉 宏樹
3	幼児教育							講義	小倉 宏樹
4	幼児教育 現場見学							演習	小倉 宏樹
5	幼児教育 現場見学							演習	小倉 宏樹
6	遊びと学び							講義	小倉 宏樹
7	グループコミュニケーション							演習	小倉 宏樹
8	グループコミュニケーション							演習	小倉 宏樹
9	グループプロセス							講義	小倉 宏樹
10	グループワーク ~社会問題							演習	小倉 宏樹
11	グループワーク ~社会問題							演習	小倉 宏樹
12	グループワーク ~社会問題							演習	小倉 宏樹
13	NPO							講義	小倉 宏樹
14	民主主義と法							講義	小倉 宏樹
15	まとめ・試験							講義・試験	小倉 宏樹
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (50) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者				出版社		
参考書									
書名			著者				出版社		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 予習・復習は特に必要ありませんので、講義やワークにしっかり取り組んでください。									

授業科目名	日常英語								
担当者	Tarbert Joan Marie								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)基礎英語:日常に必要な英会話を身につける									
(到達目標)①英語で自己紹介や家族の紹介ができるようになる ②日常英会話でよく使われる基礎的な表現を理解し、使えるようになる ③英語で簡単な質疑応答ができるようになる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
教科書を使わず毎回プリントを配るので、A4ファイルを用意しそれを必ずファイリングすること。 1回目の授業に英語の質問例を配るので、毎回それを使って出来るだけ英語で質問すること。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	Self-introductions / Classroom English						講義	Tarbert Joan Marie	
2	Quiz/Basic grammar review						講義	Tarbert Joan Marie	
3	Quiz/Wh-questions						講義	Tarbert Joan Marie	
4	Quiz/Wh-questions						講義	Tarbert Joan Marie	
5	Wh-questions						講義	Tarbert Joan Marie	
6	Describing people						講義	Tarbert Joan Marie	
7	Quiz/Describing people						講義	Tarbert Joan Marie	
8	Describing people						講義	Tarbert Joan Marie	
9	Wh-questions / Quiz / How often						講義	Tarbert Joan Marie	
10	Quiz / Wh-questions / How often						講義	Tarbert Joan Marie	
11	Past						講義	Tarbert Joan Marie	
12	Quiz/Making requests / Asking for permission						講義	Tarbert Joan Marie	
13	Quiz/Review/Interview						講義	Tarbert Joan Marie	
14	Quiz/Review/Interview						講義	Tarbert Joan Marie	
15	まとめ						講義・試験	Tarbert Joan Marie	
■ 期末試験(40)% ■ 提出物(40)% ■ 小テスト(40)% <input type="checkbox"/> 実技試験()% ■ 口頭試問(20)% <input type="checkbox"/> 発表()% <input type="checkbox"/> その他() ()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) クラスには英語が得意な人と苦手な人がいるはずですが、わからないことがあれば周りの人を気にせずに質問をすること。 間違いを気にせず積極的に英語を使うこと。それが上達の道です。 小テストの評価が40%なので、講義後必ず復習することと提出物の期限を守ることが大切です。									

授業科目名	医学関連英語								
担当者	古川 宗宏								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)作業療法領域の基本的な医学英語を学ぶ。 作業療法関連の英文抄録の活用法が理解できる。 国際社会における作業療法の現状と課題を理解し、実践するための基礎的素養を身に付ける。</p>									
<p>(到達目標)作業療法の臨床で基礎的な専門用語が英語で使えるために、必要な基礎知識を理解する。 作業療法関連の英文抄録の活用ができる。 国際社会における作業療法の現状と課題が説明できる。</p>									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
<p>授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。</p>									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション、医学英語						講義	古川 宗宏	
2	医学英語						講義・小テスト	古川 宗宏	
3	医学英語						講義・小テスト	古川 宗宏	
4	医学英語						講義・小テスト	古川 宗宏	
5	医学英語						講義・小テスト	古川 宗宏	
6	医学英語						講義・小テスト	古川 宗宏	
7	医学英語						講義・小テスト	古川 宗宏	
8	医学英語						講義	古川 宗宏	
9	リハビリテーション医療に関する略語						講義	古川 宗宏	
10	リハビリテーション医療に関する略語						講義	古川 宗宏	
11	OT関連英文抄録の構成						講義	古川 宗宏	
12	OT関連英文抄録の読解						講義・演習	古川 宗宏	
13	OT関連英文抄録の読解						講義・演習	古川 宗宏	
14	国際社会における作業療法の現状						講義・演習	古川 宗宏	
15	まとめ						講義・試験	古川 宗宏	
<p>■期末試験（50）% ■提出物（10）% ■小テスト（40）% □実技試験（ ）% □口頭試問（ ）% □発表（ ）% □その他（ ）（ ）%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハビリテーションの基礎英語			清水雅子 編著			メジカルビュー社			
参考書									
書名			著者			出版社			
<p>教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど） 学習した内容の確認を小テストでしますので、復習するようにしましょう。</p>									

授業科目名	解剖学								
担当者	久高 将臣/ 高山 千利/ 専任教員/ 泉水 奏/ 木村 亮介								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	60	時間数	120	単位数	4
授業の概要・到達目標									
(概要)(概要)中等教育での生物学の続きとして、解剖学教育では、個体レベルの形態学の認識を深める。解剖学の理解のために、比較解剖学を念頭においた講義を先行して行い、骨学実習や解剖学実習(2年次)を進める。									
(到達目標)(到達目標)①講義と実習を通して、人体の正常構造を理解する。 ②人体の構造に付けられた解剖学用語を習得する。 ③解剖学用語と人体構造の実物ならびに画像を結びつけることができる科学的思考を身につける。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
毎回、教科書を使用します。 各単元毎の試験結果が及第点に満たない場合は再試験を受験すること(未受験の場合は単位を認めません)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	1.解剖学総論 解剖学とは一解剖学用語と人体の区分 P3~P8 人体の構成、骨学総論、関節と靭帯学総論							講義	久高 将臣
2	2.骨学 上肢骨 P68~P77							講義	久高 将臣
3	3.関節と靭帯学 上肢の連結 P123~P137							講義	久高 将臣
4	2.骨学 下肢骨 P78~P92							講義	久高 将臣
5	2.骨学 下肢骨 P78~P92							講義	久高 将臣
6・7	骨学実習①							実習	木村 亮介
8	3.関節と靭帯学 下肢の連結 P137~P154							講義	久高 将臣
9	3.関節と靭帯学 下肢の連結 P137~P154							講義	久高 将臣
10	2.骨学 頭蓋P46~P57							講義	久高 将臣
11	3.関節と靭帯学 頭蓋の連結 P113-P114							講義	久高 将臣
12・13	骨学実習②							実習	木村 亮介
14	2.骨学 脊柱・胸郭 P58-P67							講義	久高 将臣
15	3.関節と靭帯学 脊柱・頭蓋・胸郭の連結 P114~P122							講義	久高 将臣
16・17	骨学実習③および口頭試問							実習・試験	木村 亮介
18	1~15 まとめ 1.解剖学総論 人体の構成、2.骨学総論、3.関節と靭帯学総論、4.筋学総論							講義・試験	久高 将臣
19	4.筋学 背部浅層の筋 P190~P192、上肢帯の筋 P196~P199							講義	久高 将臣
20	4.筋学 上腕の筋 P198~P200、前腕の屈筋群 P201~P203							講義	久高 将臣
21	4.筋学 前腕の伸筋群 P203~P207							講義	久高 将臣
22	4.筋学 手の筋 P207~P210							講義	久高 将臣
23	4.筋学 19~22 上肢まとめ、腕神経叢							試験・講義	久高 将臣
24	4.筋学 下肢帯の筋 P211~P214							講義	久高 将臣
25	4.筋学 大腿の伸筋群 P215~P217、大腿の内転筋群 P217~P218							講義	久高 将臣
26	4.筋学 大腿の屈筋群 P217~P219、下腿の伸筋・屈筋群 P219~P222							講義	久高 将臣
27	4.筋学 腓骨筋群 P223、足の筋 P224~P227							講義	久高 将臣
28	4.筋学 24~27 まとめ、腰・仙骨神経叢							試験・講義	久高 将臣
29	4.筋学 頭頸部の筋 P179~P183							講義	久高 将臣
30	4.筋学 体幹の筋 P185~P195							講義	久高 将臣
31	4.筋学 19~31 まとめ							講義・試験	久高 将臣
32・33	脊髄神経							講義	高山 千利
34・35	脳神経							講義	高山 千利

36・37	脳神経核	講義	高山 千利
38・39	脊髄・脳	講義	高山 千利
40・41	運動系伝導路	講義	高山 千利
42・43	感覚系伝導路	講義	高山 千利
44	32～43まとめ	講義	高山 千利
45	感覚器系 P319～P332	講義	泉水 奏
46	内臓の基本構造 P333～P334	講義	泉水 奏
47	循環器系1 P335～P339	講義	泉水 奏
48	循環器系2 P335～P339	講義	泉水 奏
49	循環器系3 P335～P339	講義	泉水 奏
50	循環器系4 P335～P339	講義	泉水 奏
51	45～51 まとめ	講義・試験	専任教員
52	呼吸器系 P360～P369	講義	泉水 奏
53	消化器系1 P370～P383	講義	泉水 奏
54	消化器系2 P370～P383	講義	泉水 奏
55	消化器系3 P370～P383	講義	泉水 奏
56	消化器系4 P370～P383	講義	泉水 奏
57	泌尿生殖器 P384～P397	講義	泉水 奏
58	内分泌系 P398～P404	講義	泉水 奏
59	人体の発生 P21～P36	講義	泉水 奏
60	52～59 まとめ	講義・試験	専任教員

■期末試験（93）％ □提出物（ ）％ □小テスト（ ）％；□実技試験（ ）％
 ■口頭試問（7）％ □発表（ ）％ □その他（ ）（ ）％

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教科書

書名	著者	出版社
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学 コアアトラス		医学書院
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学		医学書院

参考書

書名	著者	出版社
イラストレイテッドカラーテキスト 神経解剖学		三和書店
基礎運動学		医歯薬出版株式会社

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

予習として講義開始前日までには事前の教科書の黙読を行うこと。復習として小テストなどを繰り返し解くことや模写等をすすめる。先に位置関係や構造をイメージしたり理解をすることで、暗記量を少なくすることが可能になります。

授業科目名	解剖学演習								
担当者	久高 将臣/ 高山 千利/ 木村 亮介/ 砂川 昌信								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)人体解剖学の学部教育では、個体レベルの形態学の認識を深めてゆく必要がある。解剖学実習では、学生たちが後に学ぶ臨床科目との兼ね合いと限られた時間の中で、重点を決めて実習を進めていく。また、画像診断の進展を考え、まさに「切り口」の違いから解剖学はできるが、画像は読めないという状況をなくすため、実習室内で様々な画像(とくに脳)と対比させながら実習を進める。</p> <p>(到達目標)①実習を通して、人体の正常構造を理解する。 ②人体の構造に付けられた解剖学用語を習得する。 ③解剖学用語と人体構造の実物ならびに画像を結びつけることができる科学的思考を身につける。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
解剖学演習前までには、教科書に記載されている位置関係を理解できるよう事前に予習復習を各自で行うこと。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
0	オリエンテーション・神経解剖学実習見学で観察する内容の学習・確認						講義	久高 将臣	
1・2	神経解剖学実習見学						講義	高山 千利	
3・4	神経解剖学実習見学						講義	高山 千利	
5	人体解剖学実習見学オリエンテーション						講義	木村 亮介	
6	観察する内容の学習・確認(頸部体幹表層の筋、胸腔・腹腔臓器)						講義	久高 将臣	
7・8	人体解剖学実習見学(頸部体幹表層の筋、胸腔・腹腔臓器観察)						講義	木村 亮介	
9	観察する内容の学習・確認(頭頸部体幹および上下肢の骨・関節・筋、神経叢、咽頭喉頭)						講義	久高 将臣	
10・11	人体解剖学実習見学(胸部・腹腔臓器、上肢・下肢の筋)						実習	木村 亮介	
12・13	人体解剖学実習見学(上肢・下肢の筋、口頭試問、四肢の関節・神経叢の観察)						実習・試験	木村 亮介	
14・15	人体解剖学実習見学(四肢の関節、頭頸部の血管、咽頭・喉頭、骨盤内蔵の観察)						実習	木村 亮介	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 口頭試問 (50) % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席点) (50) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
プロメテウス解剖学コアアトラス						医学書院			
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
イラストレイテッドカラーテキスト神経解剖学						三輪書店			
プロメテウス解剖学解剖学総論運動器系						医学書院			
基礎運動学						医歯薬出版株式会社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
1年生で習得した解剖学・運動学教科書および、徒手筋力検査法・整形外科学・神経内科学等の教科書にて解剖学的知識の復習を事前に行い、本演習にて画像診断学や触診と結びつけられるよう、学習に取り組んでください。									

授業科目名	生理学 I								
担当者	松下 正之								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人体のはたらきとメカニズムを理解し、医療従事者として基礎知識を習得する。									
(到達目標)①人体のはたらきとメカニズムが理解できる。 ②わからないことや興味のある事柄は自分で調べられる。 ③要点をまとめて、わかりやすく説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	第1章 生理学の基礎(1~3)							講義	松下 正之
2	第1章 生理学の基礎(4~5)							講義	松下 正之
3	第2章 神経系の基本的機能(1~2)							講義	松下 正之
4	第2章 神経機能の基本的機能(3~4)							講義	松下 正之
5	第3章 神経系の機能(1)							講義	松下 正之
6	第3章 神経系の機能(2)							講義	松下 正之
7	第3章 神経系の機能(3)							講義	松下 正之
8	第3章 神経系の機能(4)							講義	松下 正之
9	第4章 感覚の生理(1~2)							講義	松下 正之
10	第4章 感覚の生理(3~4)							講義	松下 正之
11	第5章 感覚の生理(5)							講義	松下 正之
12	第5章 筋肉・運動の生理(1)							講義	松下 正之
13	第5章 筋肉・運動の生理(2)							講義	松下 正之
14	神経系の疾患の病態生理							講義	松下 正之
15	まとめ・試験							講義・試験	松下 正之
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカル専門基礎科目シリーズ 生理学						理工図書			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学						医葉薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 授業後に小テスト(基礎から学ぶ生理学ノートや過去の国家試験より)を実施して学習効率が上がるようにします。									

授業科目名	生理学Ⅱ								
担当者	松下 正之								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人体のはたらきとメカニズムを理解し、医療従事者として基礎知識を習得する。									
(到達目標)①人体のはたらきとメカニズムが理解できる。 ②わからないことや興味のある事柄は自分で調べられる。 ③要点をまとめて、わかりやすく説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	第6章 運動の制御機構(1~3)						講義	松下 正之	
2	第7章 血液の生理(1~2)						講義	松下 正之	
3	第7章 血液の生理(3)						講義	松下 正之	
4	第8章 循環の生理(1~2)						講義	松下 正之	
5	第8章 循環の生理(3~4)						講義	松下 正之	
6	第8章 循環の生理(5~6)						講義	松下 正之	
7	第8章 循環の生理(7~8)						講義	松下 正之	
8	第8章 循環の生理(9~11)						講義	松下 正之	
9	第9章 呼吸(1~2)						講義	松下 正之	
10	第9章 呼吸(3~4)						講義	松下 正之	
11	第9章 呼吸(5~6)						講義	松下 正之	
12	第9章 呼吸(7~8)						講義	松下 正之	
13	第10章 消化・吸収(1~3)						講義	松下 正之	
14	第10章 消化・吸収(4~6)						講義	松下 正之	
15	まとめ・試験						講義・試験	松下 正之	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカル専門基礎科目シリーズ 生理学						理工図書			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学 ノート						医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
授業後に小テスト(基礎から学ぶ生理学ノートや過去の国家試験より)を実施して学習効率が上がるようにします。									

授業科目名	生理学Ⅲ								
担当者	松下 正之								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)生理学の基礎である細胞の機能と臓器や個体の制御機構を理解する。特に、本講義では神経系、感覚器、運動などの動物性生理学についての各論について講義を行う。									
(到達目標)①生理学の基礎である、細胞の機能や恒常性維持機構を学ぶ。 ②神経や感覚器などについて理解する。 ③筋肉や骨格による運動の生理学を学ぶ。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	第11章 栄養と代謝(1~2)							講義	松下 正之
2	第11章 栄養と代謝(3~4)							講義	松下 正之
3	第12章 腎臓の生理(1)							講義	松下 正之
4	第12章 腎臓の生理(2~3)							講義	松下 正之
5	第13章 体液の恒常性(1~2)							講義	松下 正之
6	第13章 体液の恒常性(3~4)							講義	松下 正之
7	第13章 体液の恒常性(5~7)							講義	松下 正之
8	第14章 内分泌(1)							講義	松下 正之
9	第14章 内分泌(2)							講義	松下 正之
10	第14章 内分泌(3)							講義	松下 正之
11	第15章 体温の調節(1~2)							講義	松下 正之
12	第15章 体温の調節(3~4)							講義	松下 正之
13	第15章 体温の調節(5~6)							講義	松下 正之
14	内分泌疾患関連							講義	松下 正之
15	まとめ・試験							講義・試験	松下 正之
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカル専門基礎科目シリーズ						理工図書			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート						医薬薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
授業後に小テスト(基礎から学ぶ生理学ノートや過去の国家試験より)を実施して学習効率が上がるようにします。									

授業科目名	生理学演習								
担当者	専任教員								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)主たる生理機能である、心・循環・呼吸・筋活動のそれぞれについて、基本的な機能評価とそのプロセスについて学ぶ。									
(到達目標)各項目について、評価の意義及び意味を説明することができる。 各項目について、検査機器の実際的な操作方法を身につけ、実施できる。 各検査項目より得られたデータを解釈し、説明することができる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション(概要説明・準備・注意事項など)						講義	専任教員	
2	事前学習(グループ及び個別)・準備						講義	専任教員	
3	演習①血圧						講義	専任教員	
4	演習①血圧						講義	専任教員	
5	演習した項目についてディスカッション						講義	専任教員	
6	演習②心電図						講義	専任教員	
7	演習②心電図						講義	専任教員	
8	演習した項目についてディスカッション						講義	専任教員	
9	演習③呼吸						講義	専任教員	
10	演習③呼吸						講義	専任教員	
11	演習した項目についてディスカッション						講義	専任教員	
12	演習④筋電図						講義	専任教員	
13	演習④筋電図						講義	専任教員	
14	演習した項目についてディスカッション						講義	専任教員	
15	まとめ						講義・試験	専任教員	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席・態度) (20) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカル専門基礎科目シリーズ 生理学						理工図書			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	運動学 I								
担当者	西村 正彦								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人間の身体運動を理解するため、生体力学について学ぶ									
(到達目標)①身体運動の運動軸・面、関節運動を説明できる。 ②生体運動の運動学的分析を記述できる。 ③運動法則を関節運動に応用して説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	基礎運動学(医歯薬出版)						講義	西村 正彦	
2	身体運動と力学、運動における時間と空間						講義	西村 正彦	
3	身体運動の面と軸、関節の表現						講義	西村 正彦	
4	運動の観測と運動学的分析						講義	西村 正彦	
5	運動の観測と運動学的分析(落下運動)演習①						講義	西村 正彦	
6	運動の観測と運動学的分析(関節運動)演習②						講義	西村 正彦	
7	骨・関節の構造と機能						講義	西村 正彦	
8	骨格筋の構造と機能						講義	西村 正彦	
9	円運動、筋力と重力						講義	西村 正彦	
10	モーメント、運動の法則						講義	西村 正彦	
11	仕事とエネルギー、身体とてこ						講義	西村 正彦	
12	関節モーメント						講義	西村 正彦	
13	筋活動						講義	西村 正彦	
14	運動の観測と運動学的分析(腕立て伏せ)演習③						講義	西村 正彦	
15	まとめ						講義・試験	西村 正彦	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
基礎運動学						医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	運動学Ⅱ								
担当者	西村 正彦								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人間の身体運動理解のため、四肢・体幹の運動について学習する。									
(到達目標)①関節の構造と機能について述べるができる。 ②関節運動時の腱・人体の役割について説明できる。 ③動作の遂行に必要な関節運動と作用する筋について説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	上肢帯と肩関節の運動						講義	西村 正彦	
2	上肢帯と肩関節の運動						講義	西村 正彦	
3	肘関節と前腕の運動						講義	西村 正彦	
4	肘関節と前腕の運動						講義	西村 正彦	
5	手関節と手の運動						講義	西村 正彦	
6	手関節と手の運動						講義	西村 正彦	
7	下肢帯と股関節の運動						講義	西村 正彦	
8	下肢帯と股関節の運動						講義	西村 正彦	
9	膝関節の運動						講義	西村 正彦	
10	膝関節の運動						講義	西村 正彦	
11	足関節と足の運動						講義	西村 正彦	
12	足関節と足の運動						講義	西村 正彦	
13	体幹の運動						講義	西村 正彦	
14	頭部の運動						講義	西村 正彦	
15	まとめ						講義・試験	西村 正彦	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (40) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
基礎運動学						医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
プロメテウス解剖学									
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	運動学Ⅲ								
担当者	富盛 真太郎								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)姿勢制御、歩行、運動処方、運動学習の基礎的性質について学び、リハビリテーション分野において、どのように活用されるかについて学ぶ。									
(到達目標)・姿勢とその制御に関するメカニズムを理解し、説明できる。 ・運動処方の原則と運動学習について理解し、説明できる。 ・正常歩行の分析法を理解し、説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	姿勢とその制御						講義・演習	富盛 真太郎	
2	姿勢反射について						講義・演習	富盛 真太郎	
3	立位姿勢の安定、立位姿勢の異常						講義・演習	富盛 真太郎	
4	運動学習①						講義・演習	富盛 真太郎	
5	運動学習②						講義・演習	富盛 真太郎	
6	運動学習③						講義・演習	富盛 真太郎	
7	体力と運動処方①						講義・演習	富盛 真太郎	
8	体力と運動処方②						講義・演習	富盛 真太郎	
9	体力と運動処方③						講義・演習	富盛 真太郎	
10	歩行(歩行周期・歩行パターン)①						講義・演習	富盛 真太郎	
11	歩行(歩行周期・歩行パターン)②						講義・演習	富盛 真太郎	
12	歩行(歩行周期・歩行パターン)③						講義・演習	富盛 真太郎	
13	異常歩行(歩行周期・歩行パターン)						講義・演習	富盛 真太郎	
14	総復習(姿勢制御～歩行)						講義・演習	富盛 真太郎	
15	まとめ						講義・まとめ	富盛 真太郎	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
基礎運動学 第6版補訂			中村隆一			医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	人間発達学								
担当者	溝田 康司								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)理学療法・作業療法の基礎として、各年齢の発達段階を、胎生期から老年期に渡る生涯発達学としての人間発達を学ぶ。また、フロイトやエリクソン、ピアジェといった生得的要因と環境要因の双方から俯瞰した発達理論の概要を学び、発達の課題について理解を深める。									
(到達目標)1)胎生期から終末を迎えるまでの人(ヒト)の発達過程について理解する。2)人(ヒト)は生涯にわたって発達する存在であることを理解する。3)発達論の概要にふれ、人(ヒト)の発達が生物学的な存在である一方環境と関わりながら社会的存在であることを理解する。4)各年齢期の発達課題を理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
初回に配布する講義進行表に記載された教科書の該当ページを事前学習として一読して講義に臨むこと。講義2回目から14回目まで毎回web復習クイズを実施。VTR視聴に合わせて課題クイズを実施。各講義終了時に当日の学びの振り返りシートを記載し提出。 (講義開始時の出席登録と講義終了時の振り返りシート登録の2つがそろって出席扱いとなる)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション/人間発達学とは						講義	溝田 康司	
2	発育の4原則						講義・クイズ	溝田 康司	
3	胎芽期・胎児期・出生の概要						講義・クイズ	溝田 康司	
4	VTR:赤ちゃんの秘密						義・クイズ・課題	溝田 康司	
5	出生・新生児期の概要						講義・クイズ	溝田 康司	
6	形態発育・乳幼児の概要・運動発達序論						講義・クイズ	溝田 康司	
7	反射・反応の概要						講義・クイズ	溝田 康司	
8	運動発達の概要・VTR(運動機能の発達)						義・クイズ・課題	溝田 康司	
9	巧緻動作/身辺自立/対人/思考認識の発達・VTR(認知・思考の発達)						義・クイズ・課題	溝田 康司	
10	5歳までの発達/VTR(ことばの発達)・ピアジェの発達理論(序)						講義・クイズ	溝田 康司	
11	ピアジェの発達理論						講義・クイズ	溝田 康司	
12	フロイト・エリクソン・ゲゼルの発達理論						講義・クイズ	溝田 康司	
13	学童期・青年期(成人期前期)						講義・クイズ	溝田 康司	
14	成人期中期～後期・高齢期						講義・クイズ	溝田 康司	
15	まとめ						試験	溝田 康司	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカルのための専門基礎分野テキスト 『人間発達学』			福田恵美子編			中外医学社			
参考書									
書名			著者			出版社			
リハビリテーションのための人間発達学			大城昌平編			メディカルプレス			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
毎回の講義の進行はおおよそ下記の通り。1)Web復習クイズ→2)教科書確認→3)学びシート→4)講義→5)振り返りシートの記入→6)講義終了									

授業科目名	病理学								
担当者	和田 直樹								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人体の病的な状態を、主に肉眼・顕微鏡を利用した形態学的観察により得られるを基に、疾病の成因や生体反応の意義を認識する学問であり、昨今では分子レベルでの反応を含んだ病因を追求する学問である。人体病態総論とそれぞれの病態の臓器別の疾患を概説する。									
(到達目標)人体における疾患の原因を理解できる。 病態の専門用語を理解できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	①病理学の領域 ②細胞・組織とその障害 ③再生と修復 教科書(p1~31)						講義	和田 直樹	
2	①先天異常②新生児の病理③老化と老年病 教科書(p121~155)						講義	和田 直樹	
3	①循環障害②循環器系 教科書(p33~52, 185~205)						講義	和田 直樹	
4	代謝異常 教科書(p99~120)						講義	和田 直樹	
5	呼吸器系 教科書(p207~225)						講義	和田 直樹	
6	①脳神経系②運動器系 教科書(p323~355)						講義	和田 直樹	
7	①炎症②免疫とアレルギー 教科書(p53~84)						講義	和田 直樹	
8	①感染症②腫瘍 教科書(p87~98, 157~174)						講義	和田 直樹	
9	①歯科口腔系②消化器系 教科書(p227~260)						講義	和田 直樹	
10	内分泌系 教科書(p261~275)						講義	和田 直樹	
11	①腎泌尿器系②生殖器・乳腺 教科書(p291~321)						講義	和田 直樹	
12	①造血器系 ②感覚器系 教科書(p227~286, 359~374)						講義	和田 直樹	
13	まとめ①						講義	和田 直樹	
14	まとめ②						講義	和田 直樹	
15	まとめ・試験						講義・試験	和田 直樹	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
カラーで学べる病理学						ヌーベルヒロカワ			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	神経内科学									
担当者	遠藤 一博/ 宮城 朋/ 崎間 洋邦/ 山城 貴之/ 城本 高志/ 神里 尚美/ 西村 正彦 / 石原 聡/ 赤嶺 博行/ 渡慶次 裕也/ 名嘉 太郎									
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	26	時間数	52	単位数	2	
授業の概要・到達目標										
(概要)PT・OTに必要な神経系機能解剖と疾患の病態を理解させる。										
(到達目標)①病態を理解するための神経機能解剖を学ぶ。 ②正しい神経学用語を身につける。										
履修における注意事項（受講ルールなど）										
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。										
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	神経症候学(意識の生理と解剖)							講義	神里 尚美	
2	神経症候学(てんかんと睡眠の生理)							講義	神里 尚美	
3	神経症候学(高次脳機能(認知機能を含めて))							講義	遠藤 一博	
4	神経症候学(脳神経の生理と解剖)							講義	遠藤 一博	
5	神経症候学(運動と反射の生理と解剖) 動画							講義	遠藤 一博	
6	神経症候学(感覚系、自律神経系の生理と解剖)							講義	遠藤 一博	
7	末梢神経障害(自己免疫機構、GBS/CIDP)							講義	渡慶次 裕也	
8	中枢神経系・脱髄、変性(MS/NMOSD)							講義	石原 聡	
9	運動ニューロン疾患							講義	名嘉 太郎	
10	感染症(髄膜炎、HAM/TSP)							講義	宮城 朋	
11	脳血管障害の病態・治療・疫学							講義	崎間 洋邦	
12	神経症候学(痙縮の生理・解剖、ボツリヌス治療)							講義	城本 高志	
13	中間試験・まとめ							講義・試験		
14	脳血管障害(血管内治療、先端医療)							講義	山城 貴之	
15	アルツハイマー病、抗体治療を含めて							講義	赤嶺 博行	
16	神経放射線							講義	西村 正彦	
17	脳腫瘍							講義	西村 正彦	
18	水頭症、脊髄空洞症							講義	西村 正彦	
19	頭部外傷・感染症							講義	西村 正彦	
21	基底核疾患(パーキンソン病など)							講義	西村 正彦	
22	基底核疾患(ジストニア、ボツリヌス治療)							講義	神里 尚美	
23	分子遺伝学、先天代謝性疾患							講義	神里 尚美	
24	筋疾患(自己免疫機構、多発筋炎、重症筋無力症)							講義	神里 尚美	
25	筋疾患(分子遺伝、筋ジストロフィー、代謝性疾患)							講義	神里 尚美	
26	期末試験・まとめ							講義・試験	神里 尚美	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (50) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。										
教科書										
書名			著者			出版社				
標準理学療法学作業療法学専門分野 神経内科学						医学書院				
参考書										
書名			著者			出版社				
絵でみる脳と神経						医学書院				
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）										

授業科目名	精神医学								
担当者	宮平 良尚								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)精神医学の基礎と臨床を学び、精神科リハビリテーションを理解する。									
(到達目標)①精神疾患を理解して説明できる。 ②精神科リハビリテーションについて理解を深める。 ③精神障害者に対する理解を深める。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	精神医学序論						講義	宮平 良尚	
2	医学心理学						講義	宮平 良尚	
3	精神症状学						講義	宮平 良尚	
4	精神医学的診断学						講義	宮平 良尚	
5	統合失調症(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
6	統合失調症(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
7	気分障害(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
8	気分障害(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
9	症状・器質性精神障害						講義	宮平 良尚	
10	てんかん						講義	宮平 良尚	
11	アルコール・薬物による精神障害						講義	宮平 良尚	
12	治療論(薬物療法)						講義	宮平 良尚	
13	治療論(精神療法、生活療法)						講義	宮平 良尚	
14	中間特論						講義	宮平 良尚	
15	中間まとめ・試験						講義・試験	宮平 良尚	
16	神経症(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
17	神経症(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
18	睡眠障害						講義	宮平 良尚	
19	心身症						講義	宮平 良尚	
20	パーソナリティ障害						講義	宮平 良尚	
21	児童・思春期精神医学(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
22	児童・思春期精神医学(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
23	老年期精神医学(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
24	老年期精神医学(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
25	精神医学と社会(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
26	精神医学と社会(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
27	精神科リハビリテーション(Ⅰ)						講義	宮平 良尚	
28	精神科リハビリテーション(Ⅱ)						講義	宮平 良尚	
29	期末特論						講義	宮平 良尚	
30	期末まとめ・試験						講義・試験	宮平 良尚	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席状況・態度) (10) %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									

教科書		
書名	著者	出版社
New Simple Step 精神科		総合医学社
参考書		
書名	著者	出版社
現代臨床精神医学	大熊 輝雄	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		
講義および教科書から得られた知識を、参考書などでさらに広げて理解を深めてください。		

授業科目名	一般臨床医学Ⅰ								
担当者	吉見 直己/ 久高 将臣/ 高橋 智佐子/ 新川 武/ 徳元 亮太/ 武村 克哉								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)わが国は超高齢社会となり、内科的疾患をもつリハビリテーション対象者が急増している。内科的疾患の病態や老化現象を理解し、適切なリハビリテーションを行う上での基盤を築く。									
(到達目標)①内科的疾患の症候、診断学的手法について説明できる。 ②臓器や組織の解剖、生理機能について説明できる。 ③各疾患の概念、病態および老化現象について説明できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	医学一般総論・概論1							講義	吉見 直己
2	医学一般総論・概論2							講義	吉見 直己
3	医学一般総論・概論3							講義	吉見 直己
4	循環器疾患1							講義	武村 克哉
5	循環器疾患2							講義	武村 克哉
6	代謝・内分泌疾患1							講義	徳元 亮太
7	代謝・内分泌疾患2							講義	徳元 亮太
8	腎・泌尿器疾患							講義	徳元 亮太
9	皮膚疾患							講義	高橋 智佐子
10	呼吸器学総論							講義	
11	呼吸器学各論							講義	
12	老年症候学(不眠・めまい・しびれ・尿失禁・便秘)							講義	久高 将臣
13	老年症候学(褥瘡・脱水・浮腫・低栄養・フレイル・サルコペニア)							講義	久高 将臣
14	膠原病・アレルギー疾患							講義	新川 武
15	感染性疾患							講義	新川 武
16	まとめ・試験							講義・試験	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準理学療法学作業療法学専門分野 内科学						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
病気が見える 7 脳・神経						MEDIC MEDIA			
カラーで見える病理学						ヌーヴェルヒロカワ			
リハビリテーション総論						診断と治療社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	一般臨床医学Ⅱ								
担当者	松崎 俊博/ 西尾 康孝/ 非常勤講師/ 加島 ひとみ/ 崎浜 悠貴								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	8	時間数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要) 骨格・運動器系疾患、中枢神経系疾患、血管性障害などについて、画像診断の特徴的な所見を学ぶ。 薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解したうえで、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。 リハビリテーションでの機能回復を円滑に進めるためには、栄養状態が良好なことが必要である。そのために必要な栄養に関する基礎知識について学ぶ。</p> <p>(到達目標) レントゲン、CT、MRI画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。 薬物の基本事項(作用機序、投与方法、体内動態など)、対象疾患に対する薬物療法について理解し説明できる。 摂食・嚥下障害、サルコペニアなどの主な病態の栄養療法についての知識を修得する。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
<p>①ほかの学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。 ②携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 ③講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。</p>									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	画像診断 X線、CT、MRIの基本的な特徴について						講義	西尾 康孝	
2	画像診断 運動器系疾患、中枢神経系疾患、内部障害などの画像診断の特徴的な所見につ						講義	西尾 康孝	
3	薬理学(薬の作用機序、体内動態と投与方法)						講義	松崎 俊博	
4	薬理学(感染・炎症・疼痛の制御と薬物療法)						講義	松崎 俊博	
5	薬理学(神経・精神疾患の薬物療法)						講義	松崎 俊博	
6	薬理学(循環器と代謝性疾患の薬物療法)						講義	松崎 俊博	
7	栄養学基礎 栄養素の役割						講義	加島 ひとみ	
8	運動時の栄養 おもな病態の栄養療法(低栄養、摂食障害、嚥下障害、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドローム)						講義	崎浜 悠貴	
<p>■期末試験(100)% □提出物()% □小テスト()% □実技試験()% □口頭試問()% □発表()% □その他() ()%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハベーシック薬理学・臨床薬理学						医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
PT・OTのための治療薬ガイドブック			本間光信・高橋仁美			MEDICAL VIEW			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	整形外科学								
担当者	吉川 誉士郎/ 宮平 誉丸/ 高江洲 美香/ 上原 史成/ 神谷 武志/ 村上 かおり/ 米田 晋/ 大城 裕理/ 知念 修子/ 仲宗根 素子/ 長嶺 覚子/ 当真 孝/ 比嘉 浩太郎/ 鷺崎 郁之/ 國吉 さくら/ 山内 純/ 池間 知里/ 親富祖 徹/ 東 千夏/ 屋比久 博己/ 中島 慶太								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	23	時間数	46	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)基礎から臨床まで幅広く整形外科を学ぶ。									
(到達目標)①運動器の構造を学ぶ。 ②運動器疾患の臨床を理解する。 ③得た知識をリハビリに活用できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	整形外科の概観と生理(骨、軟骨)						講義	山内 純	
2	整形外科の生理(筋、神経、関節)						講義	池間 知里	
3	運動器の構造と整形外科(診察、検査、治療)						講義	親富祖 徹	
4	小児整形/骨系統疾患						講義	神谷 武志	
5	関節リウマチ/代謝性疾患(骨粗鬆症など)						講義	東 千夏	
6	末梢神経・循環障害:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	知念 修子	
7	骨・軟部腫瘍						講義	大城 裕理	
8	外傷総論/運動器(骨・関節・筋)の感染症						講義	鷺崎 郁之	
9	外傷(上肢・小児の骨折)						講義	吉川 誉士郎	
10	外傷(下肢・高齢者の骨折)						講義	國吉 さくら	
11	中間まとめ						講義・試験		
12	スポーツ外傷と障害						講義	上原 史成	
13	股関節:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	高江洲 美香	
14	膝関節:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	比嘉 浩太郎	
15	足関節:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	屋比久 博己	
16	肩・上腕:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	当真 孝	
17	肘関節・前腕:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	米田 晋	
18	手関節・手:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	仲宗根 素子	
19	頸胸椎:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	中島 慶太	
20	腰椎:病態と診断(画像を含)、治療法、手術について						講義	宮平 誉丸	
21	運動器リハビリテーション(装具を含む):作業療法						講義	村上 かおり	
22	運動器リハビリテーション(装具を含む):理学療法						講義	長嶺 覚子	
23	期末まとめ						講義・試験		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (50) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
PT・OTの整形外科学						文光堂			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	小児科学								
担当者	吉田 朝秀/ 兼次 拓也/ 知念 安紹/ 仲村 貞郎/ 浜田 聡/ 浜田 和弥/ 名嘉山 賀子								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	10	時間数	20	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)小児の生理および疾患の病態を学ぶ。									
(到達目標)①小児の正常な身体発育、精神発達、予防接種、生活状況を理解できる。 ②小児の年齢差による特徴を理解できる。 ③小児の様々な疾患の概要を理解できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	小児科序論・新生児疾患						講義	吉田 朝秀	
2	先天性疾患						講義	知念 安紹	
3	呼吸器疾患・循環器疾患						講義	吉田 朝秀	
4	消化器疾患						講義	名嘉山 賀子	
5	内分泌疾患						講義	兼次 拓也	
6	膠原病・腎・アレルギー疾患						講義	浜田 和弥	
7	神経・筋・運動器疾患						講義	仲村 貞郎	
8	血液・悪性腫瘍						講義	浜田 聡	
9	感染症						講義	名嘉山 賀子	
10	まとめ・試験						講義・試験		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
小児看護(1)(2)/系統看護学講座						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
講義に出席すること。 教科書の小児看護は、目をとおしておくこと。 講義で使用したプリントや今までの問題を見直すこと。									

授業科目名	臨床心理学								
担当者	野村 学								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)臨床心理学の基本を学び、援助実務者にとって有用な視点を身に付ける。									
(到達目標)①臨床心理学の基礎知識を学び、臨床心理学的援助の基本技法を概観する。 ②学びを通して自己理解を深め、チーム実践へ向けてのイメージアップをする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
講義中心ですが積極的に参加してください。また、4回を予定している小テストは評価の対象です。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	はじめに:前期「心理学」試験の振り返り～後期「臨床心理学」へ向けて/(小テスト)						講義	野村 学	
2	臨床心理学的査定・診断(心理アセスメント) 1						講義	野村 学	
3	臨床心理学的査定・診断(心理アセスメント) 2						講義	野村 学	
4	臨床心理学的援助 1 歴史と成り立ち						講義	野村 学	
5	臨床心理学的援助 2 心理療法の特徴 (小テスト)						講義	野村 学	
6	臨床心理学的援助 3 クライアント中心療法・エンカウンターグループ・フォーカシング						講義	野村 学	
7	臨床心理学的援助 4 応答構成法(クライアント中心療法)						講義	野村 学	
8	臨床心理学的援助 5 精神分析療法・プレイセラピー・箱庭療法・芸術療法						講義	野村 学	
9	臨床心理学的援助 6 集団精神療法・心理劇 (小テスト)						講義	野村 学	
10	臨床心理学的援助 7 催眠療法・自律訓練法・動作法・内観療法・森田療法						講義	野村 学	
11	臨床心理学的援助 8 行動療法・認知行動療法・バイオフィードバック法・家族療法・他						講義	野村 学	
12	臨床心理学的援助 9 心理療法の事例と考察						講義	野村 学	
13	ライフサイクルと心理臨床 (小テスト)						講義	野村 学	
14	心理臨床活動の領域・倫理						講義	野村 学	
15	まとめ・試験						講義・試験	野村 学	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席日数) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
臨床心理学			名嘉幸一 編			中外医学社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
テキストに対応した講義資料を配布し、これに基づいて行います。									

授業科目名	医学特論								
担当者	宮平 誠司								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	8	時間数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)命の大切さを理解し、患者さんの社会的背景を考慮しながら、個々人にとって最善の医療を行えるスペシャリストを育成する。									
(到達目標)①自らすすんで勉強し、生涯学習の姿勢を身につける。 ②患者さんの身体を治すだけでなく、不安を取り除くことができる。 ③基本的な挨拶など、対人関係におけるマナーを身につけ、思いやりの心で接する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
ハキハキと大きな声で返事し、皆に聞こえるように音読する。 私語は慎む。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	人間の生命を考える						講義	宮平 誠司	
2	人間の生命を考える						講義	宮平 誠司	
3	病気の原因、病気による身体の変化						講義	宮平 誠司	
4	病気の原因、病気による身体の変化						講義	宮平 誠司	
5	病気の治療とリハビリテーション						講義	宮平 誠司	
6	病気の治療とリハビリテーション						講義	宮平 誠司	
7	医学および看護の生命へのアプローチ						講義	宮平 誠司	
8	医学および看護の生命へのアプローチ						講義	宮平 誠司	
9	まとめ・試験						講義・試験	宮平 誠司	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
現代医学概論						医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
復習に重点をおく。 講義の翌日までに教科書を読みなおす。									

授業科目名	老年期障害の臨床医学								
担当者	伊波 翔吾/ 照屋 若夏/ 富加見 昌隆								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	8	時間数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)高齢者の加齢による生理的变化、老年期特有の障害について学び、リスク管理につなげる									
(到達目標)①老年期における生理的变化や罹りやすい疾患について理解する ②老年期作業療法におけるリスクを管理し、緊急時の救命法を実施できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	加齢の特徴・老化とは						講義	照屋 若夏	
2	老年期に注意する症状(老年症候群 フレイル サルコペニア 廃用症候群など)						講義・演習	照屋 若夏	
3	老年期に特徴的な疾患(骨粗鬆症 骨折 末梢循環器障害など)						講義	照屋 若夏	
4	老年期に特徴的な疾患(認知症 老年期うつ せん妄など)						講義	照屋 若夏	
5	リスク管理と救命法						講義	富加見 昌隆	
6	リスク管理と救命法						講義	富加見 昌隆	
7	リスク管理と救命法						講義・演習	伊波 翔吾	
8	まとめ						講義・試験	照屋 若夏	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (30) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
高齢期作業療法学 第3版						医学書院			
柔道整復師のための救急医学						南江堂			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	基礎科目ゼミナール								
担当者	富盛 真太郎								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	8	時間数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)臨床実践能力向上のため基礎知識と治療技術の基礎を理解する。									
(到達目標)①基礎分野を学び表現能力を身につける。 ②専門基礎分野を理解し、説明できる。 ③専門分野を理解し、臨床場面で実施できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	生理学(消化と吸収)						講義・演習	富盛 真太郎	
2	生理学(肝機能)						義・グループ演	富盛 真太郎	
3	生理学(呼吸・循環)						義・グループ演	富盛 真太郎	
4	解剖学(筋)						義・グループ演	富盛 真太郎	
5	解剖学(神経)						義・グループ演	富盛 真太郎	
6	運動学(関節の運動、運動面・軸)						義・グループ演	富盛 真太郎	
7	運動学(運動力学、バイオメカニク 運動学(モーメント、仕事量))						義・グループ演	富盛 真太郎	
8	まとめ・試験						試験	富盛 真太郎	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (態度) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
教科書全般と配布資料									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 持参すべき教科書および参考書はその都度指示する。									

授業科目名	リハビリテーション概論 I								
担当者	久高 将臣								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)リハビリテーションの概念とそれらを具体化する医学的リハビリテーションの概要について、「全人間的」視点から専門職として求められる姿とともに明らかにする。									
(到達目標)1)リハビリテーションの概念と構成について理解するための基礎知識を学ぶ。2)医学的リハビリテーションについて理解し、チーム医療としてのリハ専門職の責任と役割を説明できる。3)我が国における医療・保健・福祉の各分野におけるリハビリテーションとのかかわりについて大まかに説明することができる。もに、チーム医療としての専門職の役割を説明できる。 ③我が国における医療・保健・福祉制度の概要を理解し、リハビリテーションとの関わりについて大まかに説明することができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
タブレットでクイズや出席確認を行いますので、準備をお願いします。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	リハビリテーションとは、その理念と哲学(A-1)						講義	久高 将臣	
2	医療・保健・福祉(A-2)、リハ・マインド(A-3)						講義	久高 将臣	
3	老化(B-12)・廃用症候群(A-4)						講義	久高 将臣	
4	廃用症候群、病期とリハビリテーション①(A-5・6)						講義	久高 将臣	
5	病期とリハビリテーション②(A-5・6)						講義	久高 将臣	
6	病期とリハビリテーション③(A-5・6)						講義	久高 将臣	
7	国際障害分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF)(A-6・7)						講義	久高 将臣	
8	ICFと社会参加(A-7)						講義	久高 将臣	
9	チーム医療としてのリハビリテーション(A-8・9・10・12・13)						講義	久高 将臣	
10	医学的リハビリテーションの展開と評価(A-14・15・16)						講義	久高 将臣	
11	福祉用具①(A-17・18・19・20・21)						講義	久高 将臣	
12	福祉用具②(A-17・18・19・20・21)						講義	久高 将臣	
13	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム(A-23)						講義	久高 将臣	
14	医療・社会・福祉と法律(A-22)						講義	久高 将臣	
15	まとめ・試験						講義・試験	久高 将臣	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (93) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (講義終了後の振り返り) (7) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハビリテーション総論 改訂第3版			編著 椿原 彰夫			診断と治療社			
参考書									
書名			著者			出版社			
セラピストのための概説リハビリテーション						文光堂			
リハビリテーション医学大辞典						医歯薬出版			
目で見るリハビリテーション医学						東京大学出版会			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
概念は理解しづらいと思いますが言葉の意味を捉えるようにすると良いと思います。講義内容のAOOは、教科書の範囲を示しております。予習として教科書右側の「MEMO」にある用語と意味を読んでください。									

授業科目名	リハビリテーション概論Ⅱ								
担当者	照屋 若夏/ 豊里 竹彦								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	8	時間数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)①将来的な作業療法研究活動の基盤を作るため、作業療法研究における倫理の必要性和研究の成果を解釈し、適用していく方法を学ぶ。また、作業療法研究の方法を知る。 ②リハビリテーションチームと多職種連携について、体験的に学ぶ。									
(到達目標)①基本的な研究方法の知識を持ち、研究者倫理について説明できる ②各職種の専門性について理解できる ③各職種とコミュニケーションを取りながら症例の到達目標を設定できる									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	基本的な研究方法について						講義	豊里 竹彦	
2	研究者倫理について						講義	豊里 竹彦	
3	作業療法学研究の方法						講義	豊里 竹彦	
4	作業療法学研究の方法						講義	豊里 竹彦	
5	チーム医療とコミュニケーション(症例を通して)						講義・演習	照屋 若夏	
6	チーム医療とコミュニケーション(症例を通して)						講義・演習	照屋 若夏	
7	多職種理解とチーム連携(症例を通して)						講義・演習	照屋 若夏	
8	多職種理解とチーム連携(症例を通して)						講義・演習	照屋 若夏	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (40) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席・態度) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
資料配布									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど） 多職種連携とチーム医療は、アクティブラーニングを用いて、実際の症例さんのデータをもとに話し合いながら目標設定していきます。研究方法も含め、実習や臨床にでても大変役に立つ講義内容になっています。									

授業科目名	リハビリテーション医学								
担当者	渡名喜 良明								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)疾患とそのリハビリテーションにつき、基本的な事項と概要の理解をすすめる。									
(到達目標)疾患とそのリハビリテーションの概要が理解できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	脳卒中						講義	渡名喜 良明	
2	脳卒中						講義	渡名喜 良明	
3	脳卒中						講義	渡名喜 良明	
4	脳卒中						講義	渡名喜 良明	
5	外傷性脳損傷						講義	渡名喜 良明	
6	パーキンソン症候群						講義	渡名喜 良明	
7	多発性硬化症・神経・筋疾患						講義	渡名喜 良明	
8	脊髄損傷						講義	渡名喜 良明	
9	四肢切断						講義	渡名喜 良明	
10	運動器・関節リウマチ						講義	渡名喜 良明	
11	慢性疼痛脳性麻痺						講義	渡名喜 良明	
12	心筋梗塞						講義	渡名喜 良明	
13	呼吸器						講義	渡名喜 良明	
14	生活習慣病						講義	渡名喜 良明	
15	まとめ・試験						講義・試験	渡名喜 良明	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハビリテーション総論						診断と治療社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 教科書中心に講義します。									

授業科目名	社会福祉学								
担当者	宮城 美智子								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)この講義は、人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法について学ぶことを目的とする。また、保健医療と福祉の連携についてもふれる。									
(到達目標)①現代社会の特質と福祉政策の意義や理念を理解する。 ②社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ③ニーズと社会資源について理解し福祉政策の課題について理解する。 ④ソーシャルワークについて理解する。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
私語はつつしむこと。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	オリエンテーション							講義	宮城 美智子
2	社会福祉とは何か							講義	宮城 美智子
3	社会福祉の歴史							講義	宮城 美智子
4	社会福祉法制							講義	宮城 美智子
5	最低生活保障と生活保護制度①							講義	宮城 美智子
6	最低生活保障と生活保護制度②							講義	宮城 美智子
7	児童福祉と次世代育成							講義	宮城 美智子
8	ソーシャルワークの理解							講義	宮城 美智子
9	障がい者の自立と福祉①							講義	宮城 美智子
10	障がい者の自立と福祉②							講義	宮城 美智子
11	高齢者の生活と福祉①							講義	宮城 美智子
12	高齢者の生活と福祉②							講義	宮城 美智子
13	地域福祉の展開と地域包括ケアシステム①							講義	宮城 美智子
14	地域福祉の展開と地域包括ケアシステム②							講義	宮城 美智子
15	まとめ							講義・試験	宮城 美智子
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (10) % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (積極性) (20) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
新 社会福祉とは何か			大久保秀子			中央法規			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
医療や福祉サービスを必要とする方がたの良き理解者となることを目指して、真摯な姿勢で学んでほしい。 授業スケジュール ※事前に説明した上で、変更する場合があります。									

授業科目名	基礎作業学 I								
担当者	金城 盛長								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 沖縄伝統楽器・三線の基本的な知識と演奏法の指導。人の繋がりやその楽しさを伝える。									
(到達目標) 1. 三線の基礎知識やウチナー口的基本的な発音が身につく。 2. 歌三線の楽譜(工工四)ククンシーが読めるようになる。 3. 歌三線の演奏ができるようになる。(学園祭での演奏発表など)									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
三線の授業に関わらない私語は禁止する。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	三線の基礎知識と三線の楽譜(ククンシー)の読み方						講義	金城 盛長	
2	沖縄口と琉歌の読み方(八・八・八・六)、歌の練習						講義	金城 盛長	
3	歌と口三線の練習、勘所を覚える、チューナーの使い方						講義	金城 盛長	
4	三線の構え方と右手(バチ)の練習と調弦(ちんだみ)の練習、 右手の練習、押すい壺①、チューリップ						講義・演習	金城 盛長	
5	三線の構え方と右手の練習、左手(勘所)運指の練習 チューリップ・じんじん・Happy Birthday・ていんさぐぬ花・安里屋ユンタ・安波節 娘ジントーヨー・肝がなさ節・童神・海の声・島人ぬ宝・唐船どーいの歌の練習						講義・演習	金城 盛長	
6	三線の運指、チューリップ・じんじん・Happy Birthday to you!・ていんさぐぬ花(歌三線)						講義・演習	金城 盛長	
7	三線の運指、チューリップ・じんじん・Happy Birthday to you!・ていんさぐぬ花(歌三線)						講義・演習	金城 盛長	
8	ていんさぐぬ花・安波節・安里屋ゆんた・娘ジントーヨー・肝がなさ節(歌三線)						講義・演習	金城 盛長	
9	ていんさぐぬ花・安波節・安里屋ゆんた・娘ジントーヨー・肝がなさ節(歌三線)						講義・演習	金城 盛長	
10	チューリップ・童神・島人ぬ宝・海の声・ていんさぐぬ花・安里屋ゆんた・安波節(歌三線)						講義・演習	金城 盛長	
11	チューリップ・童神・島人ぬ宝・海の声・ていんさぐぬ花・安里屋ゆんた・安波節(歌三線)						講義・演習	金城 盛長	
12	チューリップ・童神・島人ぬ宝・海の声・ていんさぐぬ花・安里屋ゆんた・安波節(歌三線)						講義・演習	金城 盛長	
13	ていんさぐぬ花・安里屋ゆんた・安波節・唐船どーい(歌三線)						講義・演習	金城 盛長	
14	ていんさぐぬ花・安里屋ゆんた・安波節・唐船どーい(歌三線)						講義・演習	金城 盛長	
15	試験・まとめ						講義・試験	金城 盛長	
<input type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (20) % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業態度) (20) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	基礎作業学Ⅱ								
担当者	嘉数 栄司/ 富山 容子								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 作業活動を理解し、作業療法の基本的な治療技術を理解する									
(到達目標) 体験した作業活動について特徴を理解する									
履修における注意事項 (受講ルールなど)									
<p>陶芸 汚れてもいい服装、もしくはエプロン着用。 爪を短く切りそろえる。 布巾を持参すること(作業中に手を湿らせたり、後片付けの際に道具を拭いたりするのに使用)。使い捨てペーパーは使用不可。</p> <p>精神科臨床における作業活動では、医学的エビデンスに基づいて行われている作業活動の一部を紹介・体験してもらいます。身体活動もありますので動きやすい服装で受講してください。</p>									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	作業学総論							講義	専任教員
2	作業活動体験(陶芸①) 課題①「紐作り」成形							演習	富山 容子
3	作業活動体験(陶芸②) 課題①「紐作り」成形							演習	富山 容子
4	作業活動体験(陶芸③) 課題①「紐作り」削り							演習	富山 容子
5	作業活動体験(陶芸④) 課題②「手びねり」成形							演習	富山 容子
6	作業活動体験(陶芸⑤) 課題②「手びねり」成形							演習	富山 容子
7	作業活動体験(陶芸⑥) 課題②「色化粧土での加飾」							演習	富山 容子
8	作業活動体験(陶芸⑦) 課題③「タタラ作り」成形							演習	富山 容子
9	作業活動体験(陶芸⑧) 課題③「タタラ作り」成形							演習	富山 容子
10	精神科臨床における作業活動(創作活動)							演習	嘉数 栄司
11	精神科臨床における作業活動(身体活動①)							演習	嘉数 栄司
12	精神科臨床における作業活動(身体活動②)							演習	嘉数 栄司
13	精神科臨床における作業活動(認知機能リハビリテーション)							演習	嘉数 栄司
14	作業活動まとめと理解							講義	嘉数 栄司
15	まとめと試験							講義・試験	
<p>■期末試験 (20) % ■提出物 (80) % □小テスト () % □実技試験 () % □口頭試問 () % □発表 () % □その他 () () %</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>									
教科書									
書名			著者			出版社			
ひとと作業・作業活動			山根寛			三輪書店			
参考書									
書名			著者			出版社			
<p>教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)</p> <p>課題1『碗』、課題2『動物』、で制作したいデザインを考えて決めておく。当日、資料・写真を見ながらの制作もよしとする。</p>									

授業科目名	基礎作業学Ⅲ								
担当者	金城 光政/ 新里 碧/ 福嶺 牧子								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)作業活動を用いた基本的な支援、治療技術を理解する。									
(到達目標)作業活動の特徴及び作業活動と人との相互作用について説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
作業を実施する上で材料や道具の特性を事前に把握し怪我などの事故が起きないように管理すること。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	総論(作業活動、作業分析について)						講義	新里 碧	
2	園芸活動						演習	新里 碧	
3	園芸活動						演習	新里 碧	
4	園芸活動						演習	新里 碧	
5	園芸活動						演習	新里 碧	
6	園芸活動						演習	新里 碧	
7	園芸活動						演習	新里 碧	
8	造形表現活動						講義	金城 光政/ 福嶺 牧子	
9	造形表現活動						演習	金城 光政/ 福嶺 牧子	
10	造形表現活動						演習	金城 光政/ 福嶺 牧子	
11	造形表現活動						演習	金城 光政/ 福嶺 牧子	
12	造形表現活動						演習	金城 光政/ 福嶺 牧子	
13	造形表現活動						演習	金城 光政/ 福嶺 牧子	
14	造形表現活動						演習	金城 光政/ 福嶺 牧子	
15	まとめとテスト							新里 碧	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (100) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
ひとと作業・作業活動 新版			山根寛			三輪書店			
参考書									
書名			著者			出版社			
作業学			長崎重信監修			メジカルビュー社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
作品制作では、結果よりも過程(丁寧な取り組み、気づきが多い等)を求めます。									

授業科目名	基礎作業学Ⅳ								
担当者	久高 幸枝/ 専任教員								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 作業が治療として成り立つ要件を理解する。 人が行う作業についての枠組み、意味や概念について理解を深める。									
(到達目標) 1. 生活行為における目的と意味のある作業を説明することができる。 2. 作業と結果の特性を説明することができる。 3. 作業の分析方法を説明することができる。 4. 作業の利用について説明することができる。 5. 作業が活きる条件を説明することができる。 6. 作業を介した関わりのポイントを説明することができる。 7. 革細工の技法を説明することができる。									
履修における注意事項 (受講ルールなど)									
課題提出について、やむを得ない理由により課題提出ができない場合は、事前連絡がある場合に受け付けます。 講義中の飲食および携帯電話の使用は許可がない限り原則禁止です。 講義を遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	作業療法と生活行為(総論)						講義	久高 幸枝	
2	作業の意味・形態・機能(作業の見方)1						講義	久高 幸枝	
3	作業の意味・形態・機能(作業の見方)2						講義	久高 幸枝	
4	作業の力						講義	久高 幸枝	
5	作業の利用と選択						講義	久高 幸枝	
6	作業が活きる条件						講義	久高 幸枝	
7	作業を介した関わり1						講義	久高 幸枝	
8	作業を介した関わり2						講義	久高 幸枝	
9	作業分析(総論)						講義	久高 幸枝	
10	包括的作業分析						講義	久高 幸枝	
11	限定的作業分析						講義	久高 幸枝	
12	革細工1						講義	久高 幸枝	
13	革細工2						講義	久高 幸枝	
14	革細工3						講義	久高 幸枝	
15	まとめと試験						講義/試験	久高 幸枝	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (30) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席の報告連絡、受講態度) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
ひとと作業・作業活動 第2版			山根 寛			三輪書店			
標準作業療法学 作業療法概論			二木淑子、能登真一			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
作業って何だろう? 作業科学入門 第2版			吉川 ひろみ			医歯薬出版			
標準作業療法学 基礎作業学 第3版			濱口 豊太			医学書院			
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
講義の前に指定された教科書のページを読んで、わからないことは調べ、それでも難しいものはリストアップしておいてください。 講義の進捗状況によって予定していた講義内容や方法が変更になることがあります(事前にお知らせします)。									

授業科目名	作業療法特論								
担当者	専任教員/ 非常勤講師								
開講年次	3年	開講期	3年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)これまで学習してきた作業療法に関する知識・技術を整理する。									
(到達目標)作業療法に必要な知識・技術を説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
教科書は毎回変わりますので事前に案内します(1~2年で使用した教科書全てを保管しておいてください)。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	国家試験対策						講義	専任教員	
2	国家試験対策						講義	専任教員	
3	国家試験対策						講義	専任教員	
4	国家試験対策						講義	専任教員	
5	国家試験対策						講義	専任教員	
6	国家試験対策						講義	専任教員	
7	国家試験対策						講義	専任教員	
8	国家試験対策						講義	専任教員	
9	国家試験対策						講義	専任教員	
10	国家試験対策						講義	専任教員	
11	国家試験対策						講義	専任教員	
12	国家試験対策						講義	専任教員	
13	国家試験対策						講義	専任教員	
14	国家試験対策						講義	専任教員	
15	試験②						まとめ・試験	専任教員	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	作業療法概論								
担当者	吉岡 美和								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)作業療法という専門領域、作業療法士という専門職を理解する。									
(到達目標)作業療法に関することについてその概要を説明することができる。 作業療法の領域と対象者を理解できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
課題提出について、欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けますので担当講師に申し出てください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション、作業の意味					講義	吉岡 美和		
2	作業療法の歴史					講義	吉岡 美和		
3	作業療法の領域					講義	吉岡 美和		
4	作業療法における倫理、理学療法作業療法					講義	吉岡 美和		
5	作業療法のプロセス					講義	吉岡 美和		
6	作業療法のプロセス					講義・演習	吉岡 美和		
7	作業療法の対象者を理解する(作業療法を観る①)					演習	吉岡 美和		
8	作業療法の対象者を理解する(作業療法を観る②)					演習	吉岡 美和		
9	課題解決能力と学ぶ姿勢					講義	吉岡 美和		
10	根拠に基づいた作業療法					講義	吉岡 美和		
11	社会における作業療法士の役割					講義	吉岡 美和		
12	作業療法士が働く領域を知る(見学)					演習	吉岡 美和		
13	作業療法士が働く領域を知る(見学)					演習	吉岡 美和		
14	作業療法士が働く領域を知る(発表)					演習	吉岡 美和		
15	まとめとテスト					講義・試験	吉岡 美和		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
作業療法学概論 第4版			能登真一			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
作業療法を観る			菊池恵美子・齋藤佑樹編集			CBR			
作業で語る事例報告第2版			齋藤佑樹編集			医学書院			
作業療法の話をしよう			吉川ひろみ編集			医学書院			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 教科書や配布資料、その他の文献を積極的に読んでほしいと思います。									

授業科目名	作業療法管理学								
担当者	下里 綱/ 嘉数 栄司/ 照屋 若夏								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)①作業療法の機能の質と安全性を理解する ②セルフコントロールの必要性を理解することができる									
(到達目標)①医療上の事故等を理解し、安全を確保することができる ②セルフコントロールについて何かしらの行動が起こせるようになる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション マネジメントとは ストレス・タイム・感染マネジメント						講義	照屋 若夏	
2	職業倫理・情報のマネジメント						講義	照屋 若夏	
3	身分法と倫理綱領						講義	照屋 若夏	
4	医療の質とリスクマネジメント						講義・実技	照屋 若夏	
5	OSCE 実技テスト						演習	照屋 若夏	
6	制度						講義	嘉数 栄司	
7	研究法・キャリア開発						講義	嘉数 栄司	
8	職能団体						講義	下里 綱	
9	業務管理						講義	下里 綱	
10	業務管理						講義	下里 綱	
11	多職種連携と地域連携						講義	下里 綱	
12	多職種連携と地域連携						講義	下里 綱	
13	卒後教育						講義	下里 綱	
14	教育の役割・養成教育制度						講義	照屋 若夏	
15	まとめ						講義	照屋 若夏	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (OSCE) (30) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハビリテーション管理学			斎藤秀之 能登真一			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	作業療法評価法Ⅰ								
担当者	久高 幸枝/ 新里 碧								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)作業療法における評価の基礎知識ならびに必要な性について学ぶ。 意識、バイタルサイン、生体の観察、身体計測の基礎知識・計測技術を学ぶ。									
(到達目標)1. 作業療法における評価の必要性と意義について理解する。 2. 身体計測を実施できるようになるために、生体の観察と触察方法について理解する。 3. 身体機能障害を有する患者の作業療法評価を実施できるようになるために、形態測定法を習得する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
演習の際は動きやすい服装をすること。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	作業療法評価の意義と目的						講義	新里 碧	
2	作業療法評価の手順と手段						講義	新里 碧	
3	面接・観察法						講義	久高 幸枝	
4	面接・観察法						講義	久高 幸枝	
5	面接・観察法						講義	久高 幸枝	
6	国際生活機能分類(ICF)						講義	新里 碧	
7	意識状態の評価						講義	新里 碧	
8	バイタルサインの測定						講義・演習	新里 碧	
9	バイタルサインの測定						講義・演習	新里 碧	
10	体表解剖の観察と触診						講義・演習	新里 碧	
11	体表解剖の観察と触診						講義・演習	新里 碧	
12	形態測定の意味と目的						講義・演習	新里 碧	
13	形態測定法(四肢長計測法)						講義・演習	新里 碧	
14	形態測定法(四肢周径計測法)						講義・演習	新里 碧	
15	まとめ						講義・試験	新里 碧	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準作業療法学 作業療法評価学			岩崎テル子他			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	作業療法評価法Ⅱ								
担当者	富盛 真太郎								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 感覚・反射・筋緊張の評価の目的および方法を学び、各検査方法実施できるよう学習する。									
(到達目標) 1) 解剖学・生理学・運動学の観点から感覚・反射・筋緊張を理解する。 2) 感覚・反射・筋緊張のメカニズムを説明できる。 3) 感覚・反射・筋緊張の評価を実施できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	感覚評価の意義と目的・知覚障害による日常生活での問題						講義	富盛 真太郎	
2	感覚・知覚の分類、モダリティ、受容器、感覚神経伝導路						講義	富盛 真太郎	
3	末梢神経損傷と中枢神経疾患による知覚障害の違い						講義	富盛 真太郎	
4	感覚検査の実際(一般的注意)						講義・演習	富盛 真太郎	
5	感覚検査法(静的触覚検査・動的触覚検査)						講義・演習	富盛 真太郎	
6	感覚検査法(静的・動的二点識別検査)						講義・演習	富盛 真太郎	
7	感覚検査法(痛覚・温度覚検査)						講義・演習	富盛 真太郎	
8	感覚検査法(関節覚検査・深部知覚)						講義・演習	富盛 真太郎	
9	反射評価の意義と目的						講義	富盛 真太郎	
10	反射の生理学的メカニズム						講義・演習	富盛 真太郎	
11	深部腱反射・表在反射・病的反射の検査法						講義・演習	富盛 真太郎	
12	筋緊張検査の意義と目的						講義	富盛 真太郎	
13	筋緊張の異常(痙性と固縮、錐体路障害と錐体外路障害)						講義	富盛 真太郎	
14	筋緊張の検査						講義・演習	富盛 真太郎	
15	まとめ						試験	富盛 真太郎	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (30) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席・態度) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準作業療法専門分野 作業療法評価学 第3版			監修：矢谷令子 編集：山口昇、能登真一			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	作業療法評価法Ⅲ								
担当者	古川 宗宏/ 富盛 真太郎								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 作業療法における評価の基礎知識ならびに必要な性について学ぶ。 関節可動域測定法、徒手筋力検査法の基礎知識・検査技術を学ぶ。									
(到達目標) 1. 身体機能障害を有する患者の作業療法評価を実施できるようになるために、関節可動域測定法を習得する。 2. 身体機能障害を有する患者の評価と治療を実施できるようになるために、徒手筋力検査法を習得する。									
履修における注意事項 (受講ルールなど)									
演習の際は動きやすい服装をすること。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	関節可動域測定の意義と目的					講義	古川 宗宏		
2	関節可動域測定法(肩関節・肘関節)					演習	古川 宗宏		
3	関節可動域測定法(前腕・手関節・指関節)					演習	古川 宗宏		
4	関節可動域測定法(股関節)					演習	古川 宗宏		
5	関節可動域測定法(膝関節・足関節)					演習	古川 宗宏		
6	関節可動域測定法(頸部・体幹)					演習	古川 宗宏		
7	関節可動域測定法の治療への示唆					演習	古川 宗宏		
8	徒手筋力検査法の意義と原理					講義	富盛 真太郎		
9	徒手筋力検査法(上肢の筋力テスト1)					演習	富盛 真太郎		
10	徒手筋力検査法(上肢の筋力テスト2)					演習	富盛 真太郎		
11	徒手筋力検査法(下肢の筋力テスト1)					演習	富盛 真太郎		
12	徒手筋力検査法(下肢の筋力テスト2)					演習	富盛 真太郎		
13	徒手筋力検査法(頸部・体幹筋の筋力テスト1)					演習	富盛 真太郎		
14	徒手筋力検査法の治療への示唆					演習	富盛 真太郎		
15	まとめ・試験					講義・試験	富盛 真太郎		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準作業療法学 作業療法評価学			岩崎テル子他			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	作業療法評価法Ⅳ								
担当者	古川 宗宏								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)協調運動・バランス機能・上肢機能・脳神経について、その生理学的機構や機能を学ぶ。また、これらを理解するとともに検査方法について学び、実践の場で実施できるようにする。									
(到達目標)①協調運動障害の生理学的機構とその評価について理解し、実施できる。 ②バランス機能を理解し、その評価について実施できる。 ③上肢機能を理解し、その評価について実施できる。 ④脳神経の生理学的機構とその評価について理解し、実施できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	協調運動の解剖学的・生理学的基礎						講義	古川 宗宏	
2	協調運動の分類						講義	古川 宗宏	
3	協調運動障害の検査法						講義	古川 宗宏	
4	協調運動障害の検査法						実技	古川 宗宏	
6	上肢機能の捉え方						講義	古川 宗宏	
8	上肢機能の検査法						講義	古川 宗宏	
9	上肢機能の検査法						実技	古川 宗宏	
10	バランス機能の捉え方①						講義	古川 宗宏	
11	バランス機能の捉え方②						講義	古川 宗宏	
12	バランスの検査法						実技	古川 宗宏	
13	脳神経の解剖学的・生理学的基礎						講義	古川 宗宏	
12	脳神経の検査法						講義	古川 宗宏	
13	脳神経の検査法						実技	古川 宗宏	
14	検査の組み立てと実施(症例を通して)						演習・実技	古川 宗宏	
15	まとめ・試験						講義・試験	古川 宗宏	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準作業療法学専門分野作業療法評価学第3版						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど） 講義では資料を配布します。スライドと配布資料を見ながら講義を進めていきます。									

授業科目名	作業療法評価法Ⅴ								
担当者	照屋 若夏								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)高次脳機能障害のメカニズムを理解し、その評価方法(神経心理学的検査含む)を実践できるようにする。									
(到達目標)①脳損傷と高次脳機能障害の概念・発生機序が理解できる。 ②高次脳機能障害の各症状について理解し、評価方法を述べることができる。 ③高次脳機能障害の各症状について評価を選択し、実施できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	脳の働きと高次脳機能障害						講義	照屋 若夏	
2	失語症の概念と評価						講義	照屋 若夏	
3	失認と関連症状の概念						講義	照屋 若夏	
4	失認と関連症状の評価						講義・演習	照屋 若夏	
5	失行・行為障害の概念						講義	照屋 若夏	
6	失行・行為障害の評価						講義・演習	照屋 若夏	
7	無視症候群・空間性障害の概念						講義	照屋 若夏	
8	無視症候群・空間性障害の評価						講義・演習	照屋 若夏	
9	注意障害の概念						講義	照屋 若夏	
10	注意障害の評価						講義・演習	照屋 若夏	
11	記憶障害の概念						講義	照屋 若夏	
12	記憶障害の評価						講義・演習	照屋 若夏	
13	遂行機能障害と社会行動障害の概念						講義	照屋 若夏	
14	遂行機能障害と社会行動障害の評価						講義・演習	照屋 若夏	
15	まとめ						講義・試験	照屋 若夏	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
高次脳機能作業療法学			能登 真一			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
病期がみえる⑦ 脳・神経						メディックメディア			
神経内科学						医学書院			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 記憶することが多いですが、臨床がイメージできるととても楽しい分野です。そのために調べてもらったり、動画をみたり、臨床の話をしながらすすめていきます。わからないことがあれば気軽に質問してください。わからないことを積み残さないようにしましょう！									

授業科目名	作業療法評価法Ⅵ								
担当者	久高 幸枝								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)精神科作業療法が対象とする疾患を持つ対象者の理解について、具体的な方法と考え方を学ぶ									
(到達目標)1. 精神科作業療法の進め方を説明することができる 2. 評価の目的と手順を具体的に説明することができる 3. 評価過程と評価結果のまとめ方を説明することができる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
連絡や相談なく課題の提出が遅れた場合は受け付けないことがあります。 講義中の携帯電話の使用は許可が無い限り原則禁止です。 講義中は名札を着用し、遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	精神科作業療法の評価(総論)					講義	久高 幸枝		
2	評価の方法と内容					講義	久高 幸枝		
3	評価手段と分類					講義	久高 幸枝		
4	評価計画立案と実施					講義	久高 幸枝		
5	観察と面接1					講義	久高 幸枝		
6	観察と面接2					講義	久高 幸枝		
7	作業遂行能力の評価1(箱作り)					講義	久高 幸枝		
8	作業遂行能力の評価2(箱作り)					講義	久高 幸枝		
9	認知機能障害の評価1(BACS-J)					講義	久高 幸枝		
10	認知機能障害の評価2(BACS-J)					講義	久高 幸枝		
11	社会生活機能の評価1(Rehab、LASMI、GAF)					講義	久高 幸枝		
12	社会生活機能の評価1(Rehab、LASMI、GAF)					講義	久高 幸枝		
13	全体像の統合と解釈					講義	久高 幸枝		
14	目標設定と治療計画の立案					講義	久高 幸枝		
15	まとめと試験					講義/試験	久高 幸枝		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (15) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出欠報告、受講態度) (5) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版			堀田英樹 他			中央法規			
標準作業療法学 作業療法評価学 第4版			能登真一 他			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
精神障害と作業療法 新版			山根寛			三輪書店			
生活を支援する 精神障害作業療法 第2版			香山明美 他			医歯薬出版			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
参考文献はその都度紹介します。 講義の順番は前後する場合があります(事前にお知らせします)。									

授業科目名	身体障害の作業療法 I								
担当者	富盛 真太郎								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 1. 身体障害領域の各疾患の障害像について学ぶ。 2. 障害像をもとに検査・測定について学び、評価から治療・訓練・指導までを学ぶ。 3. 作業療法的視点で広げ、繋げることを学習する。									
(到達目標) 1)各時期別リハのリスク管理を整理することができる。 2)各時期別リハの作業療法の特徴を説明できる。 3)脳血管障害と頭部外傷の違いを理解し、頭部外傷の治療や法制度を説明出来る									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
特になし									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	脳血管障害の分類・病態理解					講義	富盛 真太郎		
2	中枢性麻痺 中枢性麻痺と末梢性麻痺の違い					講義・演習	富盛 真太郎		
3	片麻痺機能検査					講義・演習	富盛 真太郎		
4	片麻痺機能検査 実技					実技	富盛 真太郎		
5	中枢神経障害の評価					講義	富盛 真太郎		
6	治療訓練の指導 医学的リハビリテーションの流れ					講義	富盛 真太郎		
7	治療訓練指導 治療目的とアプローチ					講義	富盛 真太郎		
8	急性期					講義	富盛 真太郎		
9	回復期					講義	富盛 真太郎		
10	維持期					講義	富盛 真太郎		
11	頭部外傷①					講義	富盛 真太郎		
12	頭部外傷②					講義	富盛 真太郎		
13	頭部外傷③					講義	富盛 真太郎		
14	リスク管理					講義	富盛 真太郎		
15	まとめ					試験	富盛 真太郎		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準作業療法専門分野 身体機能作業療法学 第3版			編集：山口昇、玉垣努			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	身体障害の作業療法Ⅱ								
担当者	古川 宗宏								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)神経変性疾患の障害像について学び、評価から治療・訓練・指導までの一連の流れを作業療法的視点で広げ、繋げることを学習する。									
(到達目標)①神経変性疾患別の病態やリスクについて理解し、説明できる。 ②病態および病期別の評価方法を理解し、説明できる。 ③各疾患の作業療法の特徴を理解し、説明できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	神経変性疾患について						講義	古川 宗宏	
2	パーキンソン病の病態(疾患特性)						講義	古川 宗宏	
3	パーキンソン病の病態(疾患特性)						講義	古川 宗宏	
4	パーキンソン病の評価とICF						講義	古川 宗宏	
5	パーキンソン病の治療						講義	古川 宗宏	
6	パーキンソン病の訓練・指導						講義	古川 宗宏	
7	筋萎縮性側索硬化症の病態(疾患特性)						講義	古川 宗宏	
8	筋萎縮性側索硬化症の評価とICF						講義	古川 宗宏	
9	筋萎縮性側索硬化症の治療						講義	古川 宗宏	
10	筋萎縮性側索硬化症の訓練・指導						講義	古川 宗宏	
11	脊髄小脳変性症の病態(疾患特性)						講義	古川 宗宏	
12	脊髄小脳変性症の評価とICF						講義	古川 宗宏	
13	脊髄小脳変性症の治療						講義	古川 宗宏	
14	脊髄小脳変性症の訓練・指導						講義	古川 宗宏	
15	まとめ・試験						講義・試験	古川 宗宏	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
身体機能作業療法学 第3版						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
病気がみえる7脳神経						MEDIC MEDIA			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 講義では資料を配布します。スライドと配布資料を見ながら講義を進めていきます。									

授業科目名	身体障害の作業療法Ⅲ								
担当者	安里 初乃/ 吉岡 美和								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)内部疾患障害に対する作業療法の必要性を理解し、治療に必要な医学的知識とリスク管理および安全な作業療法の実施方法について学習する。									
(到達目標)解剖学・生理学・運動学の観点から内部疾患を理解する 内部疾患の症状の特徴を説明できる 内部疾患による生活障害を説明できる									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	内部疾患の作業療法概論						講義	吉岡 美和	
2	糖尿病の作業療法(機能解剖と症状の理解)						講義	吉岡 美和	
3	糖尿病の作業療法(評価と理解)						講義	吉岡 美和	
4	循環器疾患の作業療法(機能解剖と症状の理解)						講義	吉岡 美和	
5	循環器疾患の作業療法(評価と治療)						講義	吉岡 美和	
6	がんの作業療法(基礎知識)						講義	吉岡 美和	
7	がんの作業療法(評価と治療)						講義	吉岡 美和	
8	緩和ケアと作業療法						講義	吉岡 美和	
9	内部疾患と遂行機能および生活の質						演習	吉岡 美和	
10	呼吸器疾患の基礎知識						演習	吉岡 美和	
11	感染予防策と手技						講義・演習	安里 初乃	
12	喀痰吸引講義						講義・演習	安里 初乃	
13	喀痰吸引演習1						講義・演習	安里 初乃	
14	喀痰吸引演習2						講義・演習	安里 初乃	
15	試験						試験	吉岡 美和	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (実技参加状況) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
PT・OTビジュアルテキスト身体機能作業療法学2 内部疾患編			小林隆司			羊土社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	身体障害の作業療法Ⅳ								
担当者	古川 宗宏/ 三代 達也								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 脊髄損傷・関節リウマチ・排尿排便障害の作業療法アプローチについて理解する。 障害像を元に検査・測定について学び、評価から治療・訓練・指導までの一連の流れを作業療法の視点で上げ、つなげることが出来る。									
(到達目標) 1. 脊髄損傷・関節リウマチの障害像を説明できる 2. 泌尿器疾患の障害像を説明できる 3. 障害像に基づいた作業療法評価、アプローチを列挙できる									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	脊髄損傷とは						講義	古川 宗宏	
2	医学的治療と作業療法						講義	古川 宗宏	
3	神経症状(運動麻痺・感覚麻痺)						講義	古川 宗宏	
4	神経症状(自律神経症状)						講義	古川 宗宏	
5	合併症・併発症・心理状態						講義	古川 宗宏	
6	作業療法評価						講義	古川 宗宏	
7	機能レベル別作業療法						講義	古川 宗宏	
8	機能レベル別作業療法						講義	古川 宗宏	
9	下部尿路機能障害・排便障害(機能解剖と症状の理解)						講義	古川 宗宏	
10	下部尿路機能障害・排便障害(評価と治療)						講義	古川 宗宏	
11	関節リウマチ RAの臨床症状について						講義	古川 宗宏	
12	RAの関節症状について						講義	古川 宗宏	
13	RAの作業療法評価						講義	古川 宗宏	
14	RAの作業療法アプローチ						講義	古川 宗宏	
15	まとめ・試験						試験	古川 宗宏	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
病気が見える Vol.11 運動器・整形外科						MEDIC MEDIA			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	身体障害の作業療法Ⅴ								
担当者	富盛 真太郎								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)身体障害領域の各疾患の障害像について学ぶ。 障害像を元に検査測定について学び、評価から治療・訓練・指導までの一連の流れを作業療法の視点で広げ、つながることを学習する。									
(到達目標)1.手外科領域患者の作業療法を臨床で実践できるために、必要な基礎知識および技術を理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	手外科(総論)						講義	富盛 真太郎	
2	手の機能解剖						講義	富盛 真太郎	
3	Hand rehabilitationの目的、作業療法の役割、評価						講義	富盛 真太郎	
4	骨関節疾患①						講義	富盛 真太郎	
5	骨関節疾患②						講義	富盛 真太郎	
6	骨関節疾患③						講義	富盛 真太郎	
7	末梢神経障害①						講義	富盛 真太郎	
8	末梢神経障害②						講義	富盛 真太郎	
9	末梢神経障害③						講義	富盛 真太郎	
10	腱損傷①						講義	富盛 真太郎	
11	腱損傷②						講義	富盛 真太郎	
12	熱傷①						講義	富盛 真太郎	
13	熱傷②						講義	富盛 真太郎	
14	その他整形外科疾患						講義	富盛 真太郎	
15	試験						試験	富盛 真太郎	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
病気が見えるVol.11運動器・整形外科						MEDIC MEDIA			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	身体障害の作業療法Ⅵ								
担当者	吉岡 美和								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)神経筋疾患・難病の障害像を知り、必要な評価・治療を実施するための医学的知識と技術を学び、回復が困難な場合においても作業療法士として対象者の生活にどのように関わることができるか学習する。									
(到達目標)①神経・筋の疾患による症状と生活障害のつながりを説明できる ②対象者を理解するために必要な評価項目を列挙・実施できる ③生活障害改善のための治療プログラムを列挙できる									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	神経筋疾患総論、分類						講義	吉岡 美和	
2	変性疾患・脱髄性疾患の理解						講義	吉岡 美和	
3	Guillain-Barreおよび重症筋無力症の作業療法						講義	吉岡 美和	
4	多発性硬化症および多発性筋炎の作業療法						講義	吉岡 美和	
5	進行性筋ジストロフィー症および筋緊張性ジストロフィー症の作業療法						講義	吉岡 美和	
6	廃用症候群・過用症候群・全身管理の理解と治療						講義	吉岡 美和	
7	リスク管理を理解する						講義	吉岡 美和	
8	在宅療養の環境管理						講義	吉岡 美和	
9	事例検討(ICFの理解)①						講義	吉岡 美和	
10	事例検討(ICFの理解)②						講義	吉岡 美和	
11	事例検討(ICFの理解)③						講義	吉岡 美和	
12	事例検討(作業療法を理解する)①						講義	吉岡 美和	
13	事例検討(作業療法を理解する)②						講義	吉岡 美和	
14	神経筋疾患に対する作業療法介入						講義	吉岡 美和	
15	まとめ						講義・試験	吉岡 美和	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (GW参加状況) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
病気がみえる 7 脳・神経						MEDIC MEDIA			
参考書									
書名			著者			出版社			
標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第4版						医学書院			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	精神障害の作業療法 I								
担当者	久高 幸枝								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)精神科作業療法の役割や基本的視点を理解する									
(到達目標)1. 回復過程における作業療法の目的を説明できる 2. 統合失調症スペクトラムの特徴を説明できる 3. 統合失調症の回復過程に沿った作業療法の支援について説明できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
連絡や相談なく課題の提出が遅れた場合は受け付けないことがあります。 講義中の携帯電話の使用は許可が無い限り原則禁止です。 講義中は名札を着用し、遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	精神科医療の基礎知識						講義	久高 幸枝	
2	精神障害に対する作業療法の歴史						講義	久高 幸枝	
3	作業療法の目的と役割						講義	久高 幸枝	
4	精神科作業療法の治療構造と要素1						講義	久高 幸枝	
5	精神科作業療法の治療構造と要素2						講義	久高 幸枝	
6	精神科作業療法の治療構造と要素3						講義	久高 幸枝	
7	統合失調症の特徴と回復過程1						講義	久高 幸枝	
8	統合失調症の特徴と回復過程2						講義	久高 幸枝	
9	退院支援の基本的な考え方						講義	久高 幸枝	
10	急性期の全体像と作業療法1						講義	久高 幸枝	
11	急性期の全体像と作業療法2						講義	久高 幸枝	
12	回復期の全体像と作業療法1						講義	久高 幸枝	
13	回復期の全体像と作業療法2						講義	久高 幸枝	
14	維持期の全体像と作業療法						講義	久高 幸枝	
15	まとめとテスト						講義/試験	久高 幸枝	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (15) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出欠報告・GW参加度) (5) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
生活を支援する 精神障害作業療法 第3版			香山明美 他			医歯薬出版			
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版			堀田英樹 他			中央法規			
参考書									
書名			著者			出版社			
精神障害と作業療法 新版			山根寛			三輪書店			
作業療法マニュアル73 精神科作業療法部門運用実践マニュアル			日本作業療法士協会						
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
参考文献はその都度紹介します。 講義の順番は前後する場合があります(事前にお知らせします)。									

授業科目名	精神障害の作業療法Ⅱ								
担当者	久高 幸枝								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)精神科作業療法治療的枠組みを理解する。 認知症に対する作業療法について理解する。									
(到達目標)1. 作業療法の流れを説明できる 2. 精神科作業療法で扱われる対象関係について説明できる 3. 認知症の疾患特性について説明できる 4. 認知症に対する治療、援助のポイントを説明できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
課題は期限内に提出してください。連絡・相談なく遅れる場合は受け付けないことがあります。 講義中の携帯電話の使用は許可がない限り原則禁止です。 講義中は名札を着用、遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	精神科作業療法の流れ						講義	久高 幸枝	
2	精神科作業療法の治療機序						講義	久高 幸枝	
3	精神科作業療法の思考過程(評価1)						講義	久高 幸枝	
4	精神科作業療法の思考過程(評価2)						講義	久高 幸枝	
5	精神科作業療法の思考過程(評価3)						講義	久高 幸枝	
6	精神科作業療法の思考過程(治療計画の立案1)						講義	久高 幸枝	
7	精神科作業療法の思考過程(治療計画の立案2)						講義	久高 幸枝	
8	精神科作業療法の思考過程(効果判定)						講義	久高 幸枝	
9	認知症の理解1						講義	久高 幸枝	
10	認知症の理解2						講義	久高 幸枝	
11	認知症の理解3						講義	久高 幸枝	
12	認知症に対する介入と援助1						講義	久高 幸枝	
13	認知症に対する介入と援助2						講義	久高 幸枝	
14	認知症に対する介入と援助3						講義	久高 幸枝	
15	まとめと試験						講義/試験	久高 幸枝	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (15) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出欠席報告、受講態度) (5) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
精神障害と作業療法 新版			山根 寛			三輪書店			
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版			堀田英樹 他			中央法規			
参考書									
書名			著者			出版社			
生活を支援する 精神障害作業療法 第2版			香山明美、小林正義、鶴見隆彦			医歯薬出版			
高齢者のその人らしさを捉える作業療法			藪脇健司、藤本一博			文光堂			
認知障害ケースブック			池田学			MEDICAL VIEW			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
参考文献はその都度紹介します。 講義の順番は前後する場合があります(事前にお知らせします)。									

授業科目名	精神障害の作業療法Ⅲ								
担当者	嘉数 栄司								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)各疾患の障害特性を学び、作業療法の治療構造を学ぶ									
(到達目標)作業療法士の治療的役割を理解する									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	気分障害における作業療法①						講義	嘉数 栄司	
2	気分障害における作業療法②						講義	嘉数 栄司	
3	気分障害における作業療法③						講義	嘉数 栄司	
4	気分障害における作業療法④						講義	嘉数 栄司	
5	気分障害における作業療法⑤						講義	嘉数 栄司	
6	神経症性障害における作業療法①						講義	嘉数 栄司	
7	神経症性障害における作業療法②						講義	嘉数 栄司	
8	神経症性障害における作業療法③						講義	嘉数 栄司	
9	神経症性障害における作業療法④						講義	嘉数 栄司	
10	神経症性障害における作業療法⑤						講義	嘉数 栄司	
11	人格障害における作業療法①						講義	嘉数 栄司	
12	人格障害における作業療法②						講義	嘉数 栄司	
13	国家試験の傾向と対策①						講義	嘉数 栄司	
14	国家試験の傾向と対策②						講義	嘉数 栄司	
15	試験・まとめ						講義・試験	嘉数 栄司	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (5) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (5) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
精神疾患の理解と精神科作業療法			朝田隆・中島直・堀田英樹			中央法規			
参考書									
書名			著者			出版社			
作業療法学全書 精神障害			富岡詔子・小林正義編			協同医書			
現代臨床精神医学			大熊輝雄			金原出版			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	精神障害の作業療法Ⅳ								
担当者	久高 幸枝/ 照屋 若夏								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)疾患特性とそれに対する作業療法の実践課程を理解する									
(到達目標)1. 各疾患の特性を説明できる 2. 各疾患に対する作業療法のポイントを説明できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
課題は期限内に提出してください。連絡・相談なく遅れる場合は受け付けないことがあります。 講義中の携帯電話の使用は許可がない限り原則禁止です。 講義中は名札を着用、遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	摂食障害に対する作業療法1					講義	久高 幸枝		
2	摂食障害に対する作業療法2					講義	久高 幸枝		
3	依存症候群に対する作業療法1					講義	久高 幸枝		
4	依存症候群に対する作業療法2					講義	久高 幸枝		
5	依存症候群に対する作業療法3					講義	久高 幸枝		
6	依存症候群に対する作業療法4					講義	久高 幸枝		
7	児童思春期の精神障害に対する作業療法1					講義	久高 幸枝		
8	児童思春期の精神障害に対する作業療法2					講義	久高 幸枝		
9	児童思春期の精神障害に対する作業療法3					講義	久高 幸枝		
10	児童思春期の精神障害に対する作業療法4					講義	久高 幸枝		
11	てんかんに対する作業療法1					講義	久高 幸枝		
12	てんかんに対する作業療法2					講義	久高 幸枝		
13	器質精神障害に対する作業療法1					講義	照屋 若夏		
14	器質精神障害に対する作業療法2					講義	照屋 若夏		
15	まとめとテスト					講義/試験	久高 幸枝		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (15) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出欠報告、受講態度) (5) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
精神障害と作業療法 新版			山根 寛			三輪書店			
精神疾患の理解と作業療法 第3版			堀田英樹			中央法規			
参考書									
書名			著者			出版社			
生活を支援する 精神障害作業療法 第2版			香山明美 他			医歯薬出版			
標準作業療法学 精神機能作業療法学 第3版			医学書院						
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
参考文献はその都度紹介します。 講義の順番は前後する場合があります(事前にお知らせします)。									

授業科目名	精神障害の作業療法Ⅴ								
担当者	久高 幸枝/ 専任教員								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)精神科に関連する治療技法を理解する。									
(到達目標)1. 認知機能障害に対するアプローチを説明することができる。 2. 身体合併症に対するアプローチを説明することができる。 3. 心理教育の目的と方法を説明できる。 4. SSTの実践方法について説明することができる。 5. WRAPを作ることができる 6. 回想法について説明することができる。 7. レクリエーション療法を企画・運営することができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
連絡・相談なしに課題提出が遅れた場合は、受け付けないことがあります。 講義中の携帯電話の使用は原則禁止です。 講義を遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	精神科で利用される治療技法(総論)						講義	久高 幸枝	
2	集団プログラム1						講義	久高 幸枝	
3	集団プログラム2						講義	久高 幸枝	
4	元気回復行動プラン(WRAP)1						講義	久高 幸枝	
5	元気回復行動プラン(WRAP)2						講義	久高 幸枝	
6	認知機能障害に対する介入1						講義	久高 幸枝	
7	認知機能障害に対する介入2						講義	久高 幸枝	
8	精神科における運動プログラム						講義	久高 幸枝	
9	心理教育						講義	久高 幸枝	
10	生活技能訓練(SST)						講義	久高 幸枝	
11	回想法1						講義	久高 幸枝	
12	レクリエーション療法1						講義	久高 幸枝	
13	レクリエーション療法2						講義	久高 幸枝	
14	レクリエーション療法3						講義	久高 幸枝	
15	まとめとテスト						講義/試験	久高 幸枝	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (15) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席報告、受講態度) (5) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
配布資料を使って講義を行い、参考文献はその都度紹介します。 講義の順番は前後する場合があります(事前にお知らせします)。									

授業科目名	発達障害の作業療法Ⅰ								
担当者	久貝 直美/ 新里 碧/ 大城 由美子/ 比嘉 昌吾								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)発達障害児の理解のために主として1歳までの反射・反応を含め正常運動発達について学ぶ。また、1歳以降の作業療法に必要な認知、言語・情動、行動、社会性等の領域の基本的な知識について学ぶ。									
(到達目標)1. 正常発達の基礎知識を身につける。 2. 子どもの認知・情動・行動や遊び、上肢機能等の発達について基礎知識を身につける。 3. グループによるまとめと発表を通してを子どもの生活技能の発達と課題を理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
初回到配布する講義進行表に記載された教科書の該当ページを事前学習として一読して講義に臨むこと。 新里分の講義はweb復習クイズを実施。各講義終了時に当日の学びの振り返りシートを入力し提出。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	①-1:子どもの発達の概要 ①-2:発育の4原則(特に感受性期) NHK:赤ちゃんー成長の不思議な道のり(VTR)						講義	新里 碧	
2	②:1歳までの運動発達 NHK:赤ちゃんー運動発達の神秘(VTR)						講義・クイズ	新里 碧	
3	③-1:1歳までの反射(原始反射) ③-2:原始反射あるある?						講義・クイズ	新里 碧	
4	④:立ち直り反応・平衡反応						講義・クイズ	新里 碧	
5	⑤0歳～3歳の認知・社会性・言語の発達 (DVD:乳幼児の心理発達・その不思議)						講義・クイズ	新里 碧	
6	⑥0歳～3歳の認知・社会性・言語の発達 (DVD:乳幼児の心理発達・その不思議)						講義・クイズ	新里 碧	
7	⑦3歳～6歳の認知・概念/思考・言語・社会性の発達 (DVD:3歳児からの心理発達)						講義・クイズ	新里 碧	
8	⑧3歳～6歳の認知・概念/思考・言語・社会性の発達 (DVD:3歳児からの心理発達)						講義・クイズ	新里 碧	
9	障がい児と保育・遊び①						講義・クイズ	比嘉 昌吾	
10	障がい児と保育・遊び②						講義	大城 由美子	
11	上肢機能の発達①						講義	久貝 直美	
12	上肢機能の発達②						講義	久貝 直美	
13	あそびの発達①						講義	大城 由美子	
14	あそびの発達②						講義	大城 由美子	
15	まとめ						試験	新里 碧	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (90) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
知りたかった! PT・OTのための発達障害ガイド			新田收他編			金原出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
毎回の講義の進行はおおよそ下記の通り。1)Web復習クイズ(10分程度)→2)教科書講義該当範囲の黙読(10分程度)→3)当日分の講義概要の説明→4)講義(50～60分程度)→5)当日分の学修記録(10分程度)→6)講義終了 9回～14回は外部講師予定(シラバスと講義内容が異なる場合があります)									

授業科目名	発達障害の作業療法Ⅱ								
担当者	久貝 直美/ 専任教員/ 大城 由美子/ 比嘉 昌吾								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 作業療法の対象となる、主として脳性麻痺及び狭義の発達障害(自閉スペクトラム症、注意欠如多動性障害、学習障害)について基礎知識と臨床を学ぶ。									
(到達目標) 1. 作業療法の対象になる脳性麻痺に関する医学的背景について理解し、説明できる。 2. 作業療法の対象になる脳性麻痺の分類・特徴・評価等に理解し説明できる。 3. 作業療法の対象になる狭義の発達障害に関する医学的背景について理解し、説明できる。 4. 作業療法の対象になる狭義の発達障害の内容・特徴・評価等に理解し説明できる。 5. 地域・学校における発達障害作業療法の役割について理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
初回到配布する講義進行表に記載された教科書の該当ページを事前学習として一読して講義に臨むこと。 講義3回目から14回目まで毎回web復習クイズを実施。各講義終了時に当日の学びの振り返りシートを記載し提出。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	発達障害とは						講義	大城 由美子	
2	運動機能障害を主訴とする群－脳性麻痺とは－						講義	久貝 直美	
3	運動機能障害を主訴とする群－脳性麻痺の分類と特徴－						講義	久貝 直美	
4	運動機能障害を主訴とする群－脳性麻痺の評価－						講義	久貝 直美	
5	脳性麻痺の臨床像と作業療法-1						講義	久貝 直美	
6	脳性麻痺の臨床像と作業療法-2						講義	久貝 直美	
7	運動機能障害を主訴とする群－その他(筋ジストロフィー・二分脊椎)－						講義	久貝 直美	
8	知的機能障害を主訴とする群－精神遅滞・ダウン症－						講義	比嘉 昌吾	
9	狭義の発達障害とは						講義	比嘉 昌吾	
10	発達障害(自閉スペクトラム症)						講義	比嘉 昌吾	
11	発達障害(限局性学習症, 注意欠如多動症)						講義	比嘉 昌吾	
12	発達障害の臨床像と評価・作業療法-1						講義	比嘉 昌吾	
13	発達障害の臨床像と評価・作業療法-2						講義	比嘉 昌吾	
14	地域・学校における発達障害作業療法の役割						講義	大城 由美子	
15	まとめ						講義・試験	専任教員	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
知りたかった! PT・OTのための発達障害ガイド			新田收他編			金原出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	老年期障害の作業療法								
担当者	照屋 若夏								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)老年期における作業療法の役割を理解し、作業療法の評価と治療に必要な技術を身につける									
(到達目標)①老年期における作業療法の役割を説明できる ②老年期作業療法のプロセスを理解し、評価・治療技術を身につける ③老年期作業療法におけるリスクを管理し、基本的態度を身につける									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	高齢者とのコミュニケーション						講義	照屋 若夏	
2	作業療法的視点で高齢者を理解する(事例を通して)①						講義	照屋 若夏	
3	作業療法的視点で高齢者を理解する(事例を通して)②						講義・演習	照屋 若夏	
4	作業療法的視点で高齢者を理解する(事例を通して)③						講義	照屋 若夏	
5	作業療法的視点で高齢者を理解する(事例を通して)④						講義	照屋 若夏	
6	ライフステージとしての高齢期						講義	照屋 若夏	
7	高齢化社会と社会福祉						講義	照屋 若夏	
8	老年期作業療法の実施場所						講義	照屋 若夏	
9	老年期の生活活動障害(テーマを通して考える)						演習	照屋 若夏	
10	地域包括ケアシステムの中での作業療法士の役割						講義	照屋 若夏	
11	老年期作業療法の治療(認知症を中心に)						講義	照屋 若夏	
12	老年期作業療法の治療(症例を通して)						講義	照屋 若夏	
13	介護予防における作業療法(プログラム立案)						講義	照屋 若夏	
14	介護予防における作業療法(プログラム実施)						講義・演習	照屋 若夏	
15	まとめ						講義・試験	照屋 若夏	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (30) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
高齢者のその人らしさを捉える作業療法			藪脇健司、藤本一博			文光堂			
参考書									
書名			著者			出版社			
高齢期作業療法学 第3版						医学書院			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	義肢装具学 I								
担当者	吉岡 美和/ 砂田 宏典								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)義肢・装具について作業療法に必要な基礎知識を学ぶ。									
(到達目標)義肢装具の対象となる患者の評価と治療が実施できるようになるために、その歴史と総論を理解する。作業療法に必要な義肢装具の名称、目的、分類、基本的な特性について理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
義肢装具士と作業療法士が担当する講義です。臨床の話や実際に義肢・装具を見て、触れることで講義を進めていきます。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	義肢装具学総論						講義	吉岡 美和	
2	上肢の解剖・機能						講義	吉岡 美和	
3	義手総論						講義・演習	吉岡 美和	
4	下肢装具総論						講義・演習	吉岡 美和	
5	体幹装具総論						講義・演習	吉岡 美和	
6	上肢装具総論						講義・演習	吉岡 美和	
7	代表的疾患と装具の適応について						講義・演習	吉岡 美和	
8	義肢装具士とチーム医療、義肢装具						講義・演習	砂田 宏典	
9	義足の種類と特徴						講義・演習	砂田 宏典	
10	義足の種類と特徴						講義・演習	砂田 宏典	
11	義足の種類と特徴						講義・演習	砂田 宏典	
12	義手の種類と特徴						講義・演習	砂田 宏典	
13	体幹装具、小児疾患装具の種類とチェックポイント						講義・演習	砂田 宏典	
14	下肢装具、継手、材料の特徴と種類						講義・演習	砂田 宏典	
15	まとめと試験						講義・試験	吉岡 美和	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
作業療法全書 改訂版3版 第9巻 作業療法技術学 I 義肢装具学			一般社団法人 日本作業療法士協会 (監修)			協同医書出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	義肢装具学Ⅱ								
担当者	吉岡 美和/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 上肢切断者に対する評価と治療について学ぶ。 上肢装具の評価と治療について学ぶ。									
(到達目標) 上肢切断者の評価と治療が実施できるようになるために、上肢切断と義手の特性について理解する。 上肢装具を治療的に応用できるようになるために、上肢装具の特性と適応する疾患について理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
義手・上肢装具を実際に見て、触れながら講義を進めていきます。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	上肢切断の作業療法					講義・演習	吉岡 美和		
2	義手の構成要素					講義・演習	吉岡 美和		
3	義手の訓練					講義・演習	吉岡 美和		
4	義手のチェックアウト					講義・演習	吉岡 美和		
5	筋電義手について					講義	非常勤講師		
6	義手の適応疾患と実際					講義・演習	吉岡 美和		
7	まとめ①					講義・演習	吉岡 美和		
8	上肢装具の分類と目的					講義・演習	吉岡 美和		
9	上肢装具に対する作業療法の役割/適応疾患と実際(装具)①					講義・演習	吉岡 美和		
10	適応疾患と実際(装具)②					講義・演習	吉岡 美和		
11	スプリント製作(型紙作製)					講義・演習	吉岡 美和		
12	スプリント製作					演習	吉岡 美和		
13	スプリント製作					演習	吉岡 美和		
14	スプリントのチェックアウト・まとめ②					講義・演習	吉岡 美和		
15	総まとめ					講義・試験	吉岡 美和		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (60) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
作業療学全書 改訂版3版 第9巻 作業療法技術学Ⅰ 義肢装具学			一般社団法人 日本作業療法士協会			協同医書出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	日常生活活動Ⅰ								
担当者	吉岡 美和								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)「生活」の概念を理解し、作業療法と「生活」「作業」とのつながりについて考える。また、狭義の日常生活や日常生活関連活動の具体的な評価方法について学習する。									
(到達目標)①「生活」「作業」の概念を説明できる ②日常生活活動および日常生活関連活動の評価ができる ③生活を支える作業療法の概念と知識を理解する									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	生活の中の作業						講義	吉岡 美和	
2	日常生活活動の概念、範囲、意義						講義	吉岡 美和	
3	ADLと国際障害分類						講義	吉岡 美和	
4	作業の概念とその目的						講義	吉岡 美和	
5	評価の構造						講義	吉岡 美和	
6	評価と治療介入の関係						講義	吉岡 美和	
7	代表的な評価法を理解する(Barthl index)						講義	吉岡 美和	
8	代表的な評価法を理解する(FIM)						講義	吉岡 美和	
9	代表的な評価法を理解する(COPM)						講義	吉岡 美和	
10	代表的な評価法を理解する(その他)						講義	吉岡 美和	
11	統合と解釈(ICFを用いて)統合と解釈(MTDLPを用いて)						講義	吉岡 美和	
12	統合と解釈(MTDLPを用いて)						講義	吉岡 美和	
13	作業遂行の課題と支援の視点①						講義	吉岡 美和	
14	作業遂行の課題と支援の視点②						講義	吉岡 美和	
15	まとめ						講義・試験	吉岡 美和	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (講義参加状況) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
作業療法学全書 第11巻 日常生活活動						協同医書出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
標準作業療法学 作業療法評価学						医学書院			
作業ってなんだろう 作業科学入門						医歯薬出版株式会社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	日常生活活動Ⅱ								
担当者	吉岡 美和/ 専任教員/ 富盛 真太郎								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)ひとが生活する上で必要な作業の遂行の分析方法を学び、介助技法を修得する。									
(到達目標)①介助技法を学ぶ。 ②正常動作の分析と表現方法を知る。 ③対象者の動作の特徴を知る									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	介助技法の基本						講義	富盛 真太郎	
2	起居動作の介助技法①						実技	専任教員/ 富盛 真太郎	
3	起居動作の介助技法②						実技	専任教員/ 富盛 真太郎	
4	移乗動作の介助技法①						実技	専任教員/ 富盛 真太郎	
5	移乗動作の介助技法②						実技	専任教員/ 富盛 真太郎	
6	動作分析の作業療法的視点を学ぶ						講義	富盛 真太郎	
7	動作分析(座位:正常)①						演習	専任教員/ 富盛 真太郎	
8	動作分析(座位:正常)②						演習	専任教員/ 富盛 真太郎	
9	ADL分析(食事:異常パターン)①						演習	専任教員/ 富盛 真太郎	
10	ADL分析(食事:異常パターン)②						演習	専任教員/ 富盛 真太郎	
11	IADL分析(立位を含む動作:異常パターン)①						演習	専任教員/ 富盛 真太郎	
12	IADL分析(立位を含む動作:異常パターン)②						演習	専任教員/ 富盛 真太郎	
13	動画を用いた対象者の観察演習①						講義・演習	専任教員/ 富盛 真太郎	
14	動画を用いた対象者の観察演習②						講義・演習	専任教員/ 富盛 真太郎	
15	実技試験(起居～移乗動作介助技法)						講義・演習	専任教員/ 富盛 真太郎	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (20) % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (実技・演習参加状況) (60) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
資料は随時配布									

授業科目名	職業関連活動								
担当者	嘉数 栄司/ 宮里 政士/ 古賀 雅都								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人にとっての職業の意義や職業リハビリテーション活動について学ぶ。また就労支援に関連する法制度等を理解し、職業関連活動における作業療法士の役割を学習する。									
(到達目標)①働くことの意義について理解し、説明することができる。 ②就労支援に必要な評価や援助方法を列挙することができる。 ③就労支援における作業療法士の役割を説明することができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	講義オリエンテーション・人と職業(働くとは)						講義	嘉数 栄司	
2	働くことの意義						講義	嘉数 栄司	
3	職業関連活動総論①						講義	嘉数 栄司	
4	職業関連活動総論②						講義	嘉数 栄司	
5	障害者雇用の現状と課題						講義	嘉数 栄司	
6	障害者の就労に関連する法制度①						講義	嘉数 栄司	
7	障害者の就労に関連する法制度②						講義	嘉数 栄司	
8	就労支援における評価①						講義	嘉数 栄司	
9	就労支援における評価②						講義	嘉数 栄司	
10	就労支援における評価③						講義	嘉数 栄司	
11	就労支援における作業療法士の役割①						講義	嘉数 栄司	
12	就労支援における作業療法士の役割②						講義	古賀 雅都	
13	就労支援の実際①						講義・演習	宮里 政士	
14	就労支援の実際②						講義・演習	宮里 政士	
15	試験・まとめ						講義・試験	嘉数 栄司	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (5) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (5) % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (施設見学) (10) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
適宜資料を配布します									
参考書									
書名			著者			出版社			
作業療法学全書 職業関連活動			平賀昭信・岩瀬義昭他			協同医書			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	作業療法治療学演習 I								
担当者	新里 碧 / 専任教員 / 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 自律的学習スキル・批判的思考を身につける。検査測定実施、コミュニケーションスキル等、学際的・統合的手法を体験する。体験をもとに情報を整理し、的確な記録の実際を学ぶ。									
(到達目標) ①自律的学習スキル・批判的思考を身につける。 ②検査測定実施、コミュニケーションスキル等、学際的・統合的手法を体験する。 ③体験をもとに情報を整理し、的確な記録の実際を学ぶ。									
履修における注意事項 (受講ルールなど)									
オリエンテーションで説明します。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション						講義	新里 碧	
2	シナリオ1: 症例提示、実習日誌記載						講義	新里 碧	
3	シナリオ2: 症例観察、症例日誌記載						講義	新里 碧	
4	シナリオ3: 他部門情報収集計画						講義	新里 碧 / 専任教員	
5	シナリオ4: 評価計画						講義	新里 碧 / 専任教員	
6	評価演習						演習	新里 碧	
7	評価の実施(OSCE)、シナリオ5: ICF作成						演習	新里 碧 / 専任教員 / 非常勤講師	
8	評価の実施(OSCE)、シナリオ5: ICF作成、振り返り						演習	新里 碧 / 専任教員 / 非常勤講師	
9	評価まとめ、統合と解釈、目標設定						講義	新里 碧	
10	CVAの評価と治療						講義	新里 碧	
11	CVAの治療プログラム立案						講義	新里 碧	
12	CVAの治療プログラム立案						講義	新里 碧	
13	CVAの治療プログラム実施(OSCE)						演習	新里 碧 / 専任教員 / 非常勤講師	
14	CVAの治療プログラム実施(OSCE)、振り返り						演習	新里 碧 / 専任教員 / 非常勤講師	
15	まとめ						講義	新里 碧 / 専任教員	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (40) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (30) % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席・態度) (30) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
配布資料									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
作業療法評価、治療に必要と思われる文献で予習・復習すること。									

授業科目名	作業療法治療学演習Ⅱ								
担当者	照屋 若夏/ 新城 麻美/ 専任教員/ 多和田 裕太/ 東江 音弥								
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)PBL(問題基盤型学習・問題解決型学習)を基に自律的学習スキル・問題解決的思考を身につけながら、精神科作業療法の一連の流れを模擬的に経験する。また、アクティブラーニング型授業による、対話的で体験的な授業から、コミュニケーションスキルの向上や職業人としての資質の向上を目指していく。									
(到達目標)①臨床における精神科作業療法の一連の流れを理解することができる ②自律的学習スキル・問題解決的思考を身につけることができる ③症例や他職種から受け入れてもらえる・信頼される基本的態度を身につけることができる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
オリエンテーションで説明します									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション					講義	照屋 若夏		
2	シナリオ1(統合失調症)					講義・演習	照屋 若夏		
3	シナリオ2(統合失調症)					講義・演習	照屋 若夏		
4	シナリオ3(統合失調症)評価演習					講義・演習	照屋 若夏/ 専任教員		
5	シナリオ4(統合失調症)日誌 記録					講義・演習	照屋 若夏		
6	シナリオ5(統合失調症) ICF					講義	照屋 若夏		
7	評価まとめ OSCE					演習	照屋 若夏/ 専任教員		
8	振り返り・まとめ					演習	照屋 若夏/ 専任教員		
9	統合失調症・認知症の評価					講義	照屋 若夏		
10	統合失調症・認知症の評価と治療					講義・演習	照屋 若夏		
11	統合失調症・認知症の治療プログラム立案					講義	照屋 若夏		
12	統合失調症・認知症の治療プログラム立案					講義・演習	照屋 若夏/ 専任教員		
13	統合失調症・認知症の治療プログラム実施 OSCE					演習	照屋 若夏/ 専任教員		
14	統合失調症・認知症の治療プログラム実施 OSCE					演習	照屋 若夏/ 専任教員		
15	振り返り・まとめ					演習	照屋 若夏/ 専任教員		
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (40) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (40) % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席・態度) (20) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
資料配布									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) クラスメイトや教員と会話をしたり、相談したりする「対話」を大切にしたい内容になっています。精神科の臨床では見えない心を「対話」を通して考えていきますので、短期臨床実習や総合実習に向けてより実践的に学べる内容になっています。									

授業科目名	地域作業療法学 I								
担当者	下里 わかな/ 嘉数 栄司/ 具志堅 智/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)地域リハビリテーションに関連する法制度及び施策について学習し、地域社会における作業療法士の役割を理解することができる。									
(到達目標)①地域リハビリテーションの概要を理解し、説明することができる。 ②地域作業療法の役割を理解し、説明することができる。 ③地域リハビリテーションに関連する法制度及び施策を理解し、作業療法士の視点からライフステージに応じた課題解決策を提案することができる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	講義オリエンテーション・地域リハビリテーションとは							嘉数 栄司	
2	地域作業療法学総論①							嘉数 栄司	
3	地域作業療法学総論②							嘉数 栄司	
4	社会保障制度							嘉数 栄司	
5	介護保険制度①							嘉数 栄司	
6	介護保険制度②							嘉数 栄司	
7	障害者総合支援法①							嘉数 栄司	
8	障害者総合支援法②							嘉数 栄司	
9	病院および診療所の概要とOTの役割							嘉数 栄司	
10	介護老人保健施設および介護老人福祉施設の概要とOTの役割							嘉数 栄司	
11	通所リハビリテーションおよび通所介護の概要とOTの役割							嘉数 栄司	
12	訪問リハビリテーションの概要とOTの役割							嘉数 栄司	
13	行政の概要とOTの役割							非常勤講師	
14	地域包括支援センターの概要とOTの役割							非常勤講師	
15	試験・まとめ							嘉数 栄司	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (5) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (5) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
地域作業療法学 ゴールドマスターテキスト			長崎重信			メジカルビュー社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	地域作業療法学Ⅱ								
担当者	新里 碧								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 福祉用具に関わる基本的な作業療法について理解する。 作業療法士としての用具を用いた支援のあり方を学ぶ。									
(到達目標)・福祉用具の定義や概念、制度について理解する。 ・福祉用具に対する作業療法士の役割を理解する。 ・福祉用具の適応とアセスメントの流れを理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
・教科書と配布資料を中心に進めます。 ・演習の際は動きやすい服装をお願いします。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	福祉用具総論						講義	新里 碧	
2	リスクマネジメント						講義	新里 碧	
3	福祉用具の選定と適応(褥瘡)						講義	新里 碧	
4	福祉用具の選定と適応(起居/床上)						講義	新里 碧	
5	福祉用具の選定と適応(移乗:ボード/シート)						講義	新里 碧	
6	福祉用具の選定と適応(移乗:ボード/シート)						演習	新里 碧	
7	福祉用具の選定と適応(移乗:ボード/シート)						演習	新里 碧	
8	福祉用具の選定と適応(移乗:リフト)						講義	新里 碧	
9	福祉用具の選定と適応(移乗:リフト)						演習	新里 碧	
10	福祉用具の選定と適応(移乗:リフト)						演習	新里 碧	
11	福祉用具の選定と適応(姿勢/座位保持)						講義	新里 碧	
12	福祉用具の選定と適応(移動:車いす)						講義	新里 碧	
13	福祉用具の選定と適応(移動:車いす)						講義・演習	新里 碧	
14	福祉用具の選定と適応(移動:歩行)						講義・演習	新里 碧	
15	まとめ						講義・試験	新里 碧	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
作業療法学全書(改訂第3版)福祉用具の使い方・住環境整備						協同医書出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	地域作業療法学Ⅲ								
担当者	新里 碧 / 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 作業療法士として福祉用具を用いた支援のあり方を学ぶ。 住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。 予防に寄与する基本的な作業療法について理解する。									
(到達目標) 福祉用具について体験し、適用や選択ができる。福祉用具種別に応じたアセスメント、支援の実際について説明できる。 住宅改修の基礎技術について説明できる。福祉用具供給システムについて説明できる。 予防作業療法の目的と意義、関連した評価、プログラムについて説明できる。 自助・共助を促進する方法について説明できる。 自助・共助を促進する方法について説明できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
自助具作成やレポートの提出があります。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	福祉用具の選定と適応(食事)						講義	新里 碧	
2	福祉用具の選定と適応(整容・更衣)						講義	新里 碧	
3	福祉用具の選定と適応(排泄)						講義	新里 碧	
4	福祉用具の選定と適応(入浴)						講義	新里 碧	
5	福祉用具の選定と適応(コミュニケーション)						講義	新里 碧	
6	福祉用具の選定と適応(環境制御装置)						講義	新里 碧	
7	福祉用具の選定と適応(家事/余暇活動)						講義	新里 碧	
8	バリアフリーとユニバーサルデザイン、作業療法と住環境整備						講義	新里 碧	
9	建築の基礎知識と図面の見方、描き方						講義	新里 碧	
10	障害別住宅改造の留意点						講義	新里 碧	
11	障害別住宅改造の留意点						講義	新里 碧	
12	予防作業療法と在宅支援の実際						講義	非常勤講師	
13	在宅支援の事例						講義	新里 碧	
14	在宅支援の事例						講義	新里 碧	
15	在宅支援の事例、まとめ						講義	新里 碧	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (100) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
作業療法学全書 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備			日本作業療法士協会 監修			協同医書出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	地域作業療法学Ⅳ								
担当者	嘉数 栄司/ 新城 麻美/ 東江 音弥								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)精神障害領域における対象者の地域生活や法制度等を理解し、作業療法士の視点から具体的支援策を提案することができる。									
(到達目標)									
①精神障害領域に関連する社会資源(法制度等)について理解を深めることができる。 ②精神障害領域の地域生活支援における作業療法の役割を理解し、説明することができる。 ③作業療法士の視点から地域社会で暮らす対象者の支援策を提案することができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	講義オリエンテーション・精神障害リハビリテーションとは						講義	嘉数 栄司	
2	精神保健医療福祉の動向						講義	嘉数 栄司	
3	精神障害領域に関連する法制度①						講義	嘉数 栄司	
4	精神障害領域に関連する法制度②						講義	嘉数 栄司	
5	作業療法士の役割と課題						講義	嘉数 栄司	
6	代表的な検査・評価尺度						講義	嘉数 栄司	
7	外来作業療法の役割と支援の実際						講義	嘉数 栄司	
8	精神科デイケアの役割と支援の実際						講義	嘉数 栄司	
9	精神科訪問サービスの役割と支援の実際						講義	嘉数 栄司	
10	司法精神科作業療法と医療観察法①						講義	嘉数 栄司	
11	司法精神科作業療法と医療観察法②						講義	嘉数 栄司	
12	精神障害者の衣食住						講義・演習	嘉数 栄司	
13	事例検討①						講義・演習		
14	事例検討②						講義・演習		
15	試験・まとめ						講義・試験	嘉数 栄司	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (90) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (5) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (5) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
生活を支援する精神障害作業療法			香山明美・小林正義・鶴見隆彦			医歯薬出版			
作業療法マニュアル73 精神科作業療法部門運用実践マニュアル			日本作業療法士協会編			日本作業療法士協会			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	見学実習								
担当者	専任教員								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	20	時間数	40	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションで働く作業療法士の活動を見学を通して学ぶ。作業療法の役割と位置づけ、他職種との連携などを通してリハビリテーションチームとは何かを体験する。地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割や、リハビリテーションマネジメントについて学ぶ。</p> <p>作業療法士に必要な態度・技能・知識・能力を臨床現場で学ぶ。</p>									
<p>(到達目標)1. 生活の中での作業療法の目的を知る。 2. 作業療法士に関わるひとや職種を知る。 3. 地域における作業療法士の業務内容や作業療法士の考えを学ぶ。 4. 社会人として必要なコミュニケーション技術を学び、実践できる。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
オリエンテーション、施設実習前後の学内学習、施設実習、報告会を含む取り組みを総合して成績を評価します。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	オリエンテーション					講義	専任教員		
	施設実習前学習					講義/演習	専任教員		
	施設実習(5日間)					実習			
	施設実習後実習					講義/演習	専任教員		
	報告会					発表	専任教員		
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % ■その他(実習への取り組みを総合して評価) (100) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	総合臨床実習								
担当者	専任教員								
開講年次	3年	開講期	3年前期, 3年後期	授業回数	405	時間数	810	単位数	21
授業の概要・到達目標									
(概要)臨床実習指導者の指導のもと、作業療法対象者の全体像を把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技能及び態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。									
(到達目標)1. 倫理観や基本的態度を身につける。 2. 許容される臨床技能を実践できる。 3. 臨床実習指導者の臨床思考過程を説明し、作業療法計画を立案できる。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
オリエンテーション、実習前後の学内学習、臨床実習、報告会を含む取り組みを総合して評価します。									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
	オリエンテーション						講義	専任教員	
	実習前学習						講義/演習	専任教員	
	実習前評価						試験	専任教員	
	臨床実習(9週間)						実習		
	実習後学習						講義/演習	専任教員	
	実習後評価						試験	専任教員	
	報告会						発表	専任教員	
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (実習への取り組みを総合して評価) (100) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	人体の科学								
担当者	嘉数 栄司/ 吉岡 美和/ 古川 宗宏/ 照屋 若夏/ 新里 碧/ 専任教員/ 富盛 真太郎								
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)(概要)①人体のしくみを解剖学的、生理学的に理解するための知識を身につける ②人体の動きのしくみを力学的に理解するための知識を身につける									
(到達目標)(到達目標)生物の基本構造や物質の基本構造、物理学の基本法則を再確認し、生物や化学、物理の知識を人体のしくみと結びつけ総合的に理解できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	生命の基本単位 細胞について						講義・演習	照屋 若夏	
2	細胞膜の構造や性質 浸透圧について						講義・演習	照屋 若夏	
3	生体内に存在する物質と分子構造について						講義・演習	照屋 若夏	
4	セントラルドグマについて						講義・演習	照屋 若夏	
5	神経のしくみと刺激伝導について						講義・演習	古川 宗宏	
6	細胞間の情報伝達システムについて						講義・演習	古川 宗宏	
7	特殊感覚について						講義・演習	古川 宗宏	
8	ホメオスタシスについて						講義・演習	吉岡 美和	
9	体内での酸塩基平衡について						講義・演習	吉岡 美和	
10	体温調節のしくみについて						講義・演習	嘉数 栄司	
11	循環による酸素の運搬について						講義・演習	新里 碧	
12	自然免疫と獲得免疫について						講義・演習	新里 碧	
13	モーメント 身体のでこについて						講義・演習	富盛 真太郎	
14	関節モーメントとその応用						講義・演習	富盛 真太郎	
15	まとめ						試験	専任教員	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (50) % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
イラストで学ぶ人体のしくみとはたらき 第3版			田中越郎			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

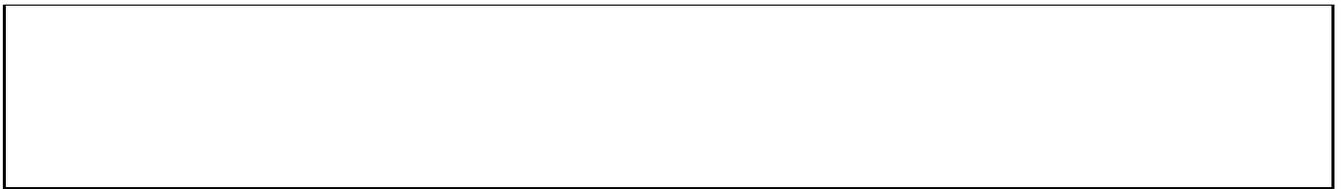
シラバス 2025

言語聴覚学科

授業科目名	内科学								
担当者	藤田 次郎								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要) COVID-19のパンデミックで医療従事者への社会からの期待が増している。まず医療従事者を目指すに際し、自身の感染対策に留意する。また超高齢社会となり、複数の内科的疾患をもつリハビリテーション対象者が急増している。チーム医療の共通言語としての内科学の理解をすすめ、各疾患の概念、症候、病態、治療について概説する。結果として、内科的疾患を有する対象者の病態把握に必要な基礎知識を習得できるようにする。</p> <p>(到達目標) 1. 内科的疾患の症候、診断学的手法について説明できる。 2. 内科的疾患の概念、病態について説明できる。 3. 内科的疾患の予防や改善、生活習慣病について説明できる。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
対面授業における感染対策(基本的にマスク着用、手指衛生)に留意する。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	緊急トピックス:感染症対策(COVID-19をインフルエンザと対比して)						講義	藤田 次郎	
2	内科学とは						講義	藤田 次郎	
3	内科的診断と治療の実際						講義	藤田 次郎	
4	症候学						講義	藤田 次郎	
5	循環器疾患						講義	藤田 次郎	
6	呼吸器疾患						講義	藤田 次郎	
7	消化器疾患						講義	藤田 次郎	
8	中間ふりかえり・まとめ						講義・試験	藤田 次郎	
9	肝胆膵疾患						講義	藤田 次郎	
10	血液・造血器疾患						講義	藤田 次郎	
11	代謝性疾患						講義	藤田 次郎	
12	内分泌疾患						講義	藤田 次郎	
13	腎・泌尿器疾患						講義	藤田 次郎	
14	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全						講義	藤田 次郎	
15	感染症						講義	藤田 次郎	
16	期末試験						試験	藤田 次郎	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準PTOT 内科学						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	小児科学								
担当者	栗田 久多佳								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	11	時間数	22	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)健康な小児の成長と発達、栄養、小児保健について学習する。系統別、臓器別に小児病学を概説する。									
(到達目標)1.健康な小児の身体的発達に必要な要素について理解する。 2.小児に特徴的な疾患や先天異常について理解する。 3.小児保健について理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	小児科学総論 / 成長と発達 / 小児の栄養						講義	栗田 久多佳	
2	小児の保健 / 先天異常 / 感染症・寄生虫疾患						講義	栗田 久多佳	
3	新生児 / 栄養代謝性疾患 / 周産期医学						講義	栗田 久多佳	
4	腫瘍性疾患 / 血液・造血器疾患						講義	栗田 久多佳	
5	循環器疾患						講義	栗田 久多佳	
6	呼吸器疾患						講義	栗田 久多佳	
7	神経筋疾患、精神医学的疾患						講義	栗田 久多佳	
8	消化器疾患						講義	栗田 久多佳	
9	内分泌疾患 / 腎・泌尿器疾患						講義	栗田 久多佳	
10	免疫アレルギー疾患						講義	栗田 久多佳	
11	試験						試験	栗田 久多佳	
期末試験 (100) % 提出物 () % 小テスト () % 実技試験 () % 口頭試問 () % 発表 () % その他 () () %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
コメディカルのための専門基礎分野テキスト									
小児科学						中外医学社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	リハビリテーション医学								
担当者	奥村 須江子/ 下里 真司/ 喜久村 かおり/ 久高 将臣/ 金城 賢弥/ 溝田 康司/ 専任教員/ 前田 武俊								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)リハビリテーション専門医の立場からリハビリテーションに必要な医学的知識について解説する。									
(到達目標)1.リハビリテーション医学の対象となる疾患について理解を深める。 2.リハビリテーションを行う上での医師との連携について考える。 3.リハビリテーション医学における評価が分かるようになる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	リハビリテーション医学総論 A、B、C、D、E						講義	渡名喜 良明	
2	リハビリテーション医学総論 A、B、C、D、E リハ医学 A障害の評価 ~ ~ ~						講義	渡名喜 良明	
3	リハ医学 A障害の評価 知能障害 言語障害 高次脳機能障害 心理障害						講義	喜久村 かおり	
4	リハ医学 A障害の評価 摂食嚥下障害 上肢評価 ADL・ APDL評価						講義	喜久村 かおり	
5	リハ医学 B臨床検査 C治療 ~ + 心理的アプローチとカウンセリング						講義	渡名喜 良明	
6	リハ医学 日常生活評価 FIM BI 臨床での活用						講義	末吉 恒一郎	
7	リハ医学 C治療 補装具						講義	島袋 公史	
8	疾患各論 A脳疾患 1脳血管障害 2脳外傷 3低酸素脳症 4遷延性意識障害						講義	喜久村 かおり	
9	疾患各論 B脊髄疾患 / D 小児疾患						講義	渡名喜 良明	
10	疾患各論 Cリウマチと近縁疾患 / G関節疾患 / H外傷 / I脊椎疾患						講義	下里 真司	
11	疾患各論 E神経筋疾患 / F末梢神経障害						講義	溝田 康司	
12	疾患各論 J内部疾患 / K末梢循環障害						講義	前田 武俊	
13	疾患各論 L切断 / Oその他疾患						講義	渡名喜 良明	
14	疾患各論 N高齢者のリハビリテーション(廃用症候群含む)						講義	久高 将臣	
15	まとめ・ふりかえり						講義・試験	専任教員	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
リハビリテーション医学テキスト						南江堂 第4版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									



授業科目名	精神医学								
担当者	安里 克也/ 専任教員								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	10	時間数	20	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)・精神障害・症状を理解し、患者さんのケアに活かす ・医療者が自身のメンタルヘルスを保つ重要性、そのコツを学ぶ									
(到達目標)1. 精神障害・症状を理解し、患者さんのケアに活かせる。 2. メンタルケアについて学び、自身や周囲の人に活かせる。 3. 興味が出たことは自分で調べることができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	精神医学総論						講義	安里 克也	
2	精神療法						講義	安里 克也	
3	メンタルヘルス対策						講義	安里 克也	
4	統合失調症						講義	安里 克也	
5	うつ病・躁うつ病						講義	安里 克也	
6	自殺予防対策						講義	安里 克也	
7	発達障害						講義	安里 克也	
8	アルコール・薬物依存症						講義	安里 克也	
9	認知症						講義	安里 克也	
10	振り返りとまとめ						講義	安里 克也	
11	試験						試験	専任教員	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 精神医学			監修/奈良勲、鎌倉矩子			医学書院			
精神看護学 臨床で活かすケア改訂第2版									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	形成外科学								
担当者	金谷 文則/ 高橋 智佐子/ 黒田 周一/ 専任教員/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	10	時間数	20	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)・医療従事者に必要な形成外科学の知識を身につける									
(到達目標)1. 一般的外傷の処置の仕方を理解し、緊急時には実践できるようになる 2. 口唇裂 口蓋裂について手術を理解し、他のコメディカルに口頭説明および図示解説ができる 3. 皮膚科学に関し、皮膚の角化 免疫機能 吸収機能を説明できる 感覚器としての皮膚の機能を説明することができる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	総論 :皮膚科学(1)						講義	高橋 智佐子	
2	総論 :皮膚科学(2)						講義	高橋 智佐子	
3	総論 :感染症と標準予防策standard precaution、コロナ感染とパンデミック						講義	黒田 周一	
4	総論 :創傷治癒機転 形成外科・皮膚科・整形外科の守備範囲						講義	黒田 周一	
5	各論 :頭部・眼瞼・鼻部・耳						講義	黒田 周一	
6	各論 :顔面骨骨折・軀幹						講義	黒田 周一	
7	各論 :形成・再建外科の実際(顎顔面、頭頸部を除く)						講義	黒田 周一	
8	口唇口蓋裂(1)						講義	黒田 周一	
9	口唇口蓋裂(2)						講義	黒田 周一	
10	まとめ・ふりかえり						講義・試験	専任教員	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表()% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
ナースのための新形成外科学									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
配布資料:「標準PTOT 内科」皮膚科学の際、使用 配布資料:系統看護学講座 専門 皮膚 成人看護学 皮膚科学の際、使用									

授業科目名	心理測定法								
担当者	嘉数 栄司/ 小渡 結佑/ 長嶺 知里/ 島袋 尚美								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人間の行動・認知・思考・感情など質的なものを測るための方法を体験的に学ぶ中で、心理測定の意義・方法を知り根拠のある言語聴覚療法実施に役立てる。 では発達・知能検査について取り上げ、演習や実施を通して検査の実施から結果の解釈までの一連の流れを体験する。									
(到達目標)1. 主な知能・発達検査の構成を知り特徴について説明できる。 2. 検査を実施する目的と検査者の倫理を理解する。 3. 検査結果をまとめ、報告書を作成できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
基礎知識に関しては、小テストを実施します。その他、									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	プロローグ～心理測定法を学ぶ意義						講義	長嶺 知里	
2	心理測定における統計の基礎						講義	島袋 尚美	
3	心理測定における統計の基礎						講義	島袋 尚美	
4	発達・教育研究における測定 知能検査とは～知的機能の評価法～						講義	小渡 結佑	
5	発達・教育研究における測定 知能検査 (WISC)						講義	小渡 結佑	
6	発達・教育研究における測定 知能検査 (WISC)						講義	小渡 結佑	
7	発達・教育研究における測定 知能検査 (WISC)						講義	小渡 結佑	
8	発達・教育研究における測定 知能検査 (WISC)						講義	小渡 結佑	
9	発達・教育研究における測定 精神発達の評価法 (K-ABC)						講義	小渡 結佑	
10	発達・教育研究における測定 精神発達の評価法 (K-ABC)						講義	小渡 結佑	
11	発達・教育研究における測定 精神発達の評価法 (K-ABC)						講義	小渡 結佑	
12	注意機能の評価法						講義	長嶺 知里	
13	高次脳機能の評価法						講義	長嶺 知里	
14	気分障害に関連した臨床評価法						講義	嘉数 栄司	
15	まとめ・小テスト							専任教員	
期末試験()% 提出物(70)% 小テスト(30)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	心理測定法								
担当者	吉田 望								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)人間の行動・認知・思考・感情など質的なものを測るための方法を体験的に学ぶ中で、心理測定の意義・方法を知り根拠のある言語聴覚療法実施に役立てる。では演習を通して、各測定法の理論と方法を体験的に学ぶ。									
(到達目標)1.人間の質的側面を測るための方法について理解する 2.それぞれの測定方法の内容を理解する									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	ガイダンス、知覚研究における測定(1)						講義	吉田 望	
2	知覚研究における測定(2)						講義	吉田 望	
3	知覚研究における測定(3)						講義	吉田 望	
4	知覚研究における測定(3)						演習	吉田 望	
5	教育研究における測定						講義	吉田 望	
6	教育研究における測定						演習	吉田 望	
7	認知研究における測定						講義	吉田 望	
8	小テスト						試験	吉田 望	
9	小テスト解説、社会心理学における測定(1)						講義	吉田 望	
10	社会心理学における測定(2)						講義	吉田 望	
11	心理臨床における測定(1)						講義	吉田 望	
12	心理臨床における測定(2)						演習	吉田 望	
13	心理臨床における測定(3)						講義	吉田 望	
14	期末試験						試験	吉田 望	
15	期末試験解説、まとめ						講義	吉田 望	
期末試験(60)% 提出物()% 小テスト(40)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	言語聴覚障害								
担当者	専任教員/非常勤講師								
開講年次	3年	開講期	3年前期,3年後期	授業回数	33	時間数	66	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要) 国家試験に向け言語聴覚士に必要な基礎知識をまとめる									
(到達目標) 言語聴覚士国家試験の基礎・専門基礎分野の問題の傾向をつかむ 言語聴覚士国家試験の基礎・専門基礎分野の問題に慣れ、知識を定着させる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
	基礎医学	医学総論	解剖学	生理学	病理学		講義	専任教員/非常勤講師	
	臨床医学	内科学	小児科学	精神医学	耳鼻咽喉科学		講義	専任教員/非常勤講師	
	臨床医学	リハビリテーション医学	臨床神経学	形成外科学			講義	専任教員/非常勤講師	
	臨床歯科医学						講義	専任教員/非常勤講師	
	音声言語聴覚医学	発声発語系	聴覚系	神経系			講義	専任教員/非常勤講師	
	社会福祉・教育	心理学					講義	専任教員/非常勤講師	
	失語・高次脳機能障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	言語発達障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	発声発語障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	聴覚障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	試験						試験	専任教員	
	基礎医学	医学総論	解剖学	生理学	病理学		講義	専任教員/非常勤講師	
	臨床医学	内科学	小児科学	精神医学	耳鼻咽喉科学		講義	専任教員/非常勤講師	
	臨床医学	リハビリテーション医学	臨床神経学	形成外科学			講義	専任教員/非常勤講師	
	臨床歯科医学						講義	専任教員/非常勤講師	
	音声言語聴覚医学	発声発語系	聴覚系	神経系			講義	専任教員/非常勤講師	
	社会福祉・教育	心理学					講義	専任教員/非常勤講師	
	失語・高次脳機能障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	言語発達障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	発声発語障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	聴覚障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	試験						試験	専任教員	
	基礎医学	医学総論	解剖学	生理学	病理学		講義	専任教員/非常勤講師	
	臨床医学	内科学	小児科学	精神医学	耳鼻咽喉科学		講義	専任教員/非常勤講師	
	臨床医学	リハビリテーション医学	臨床神経学	形成外科学			講義	専任教員/非常勤講師	
	臨床歯科医学						講義	専任教員/非常勤講師	
	音声言語聴覚医学	発声発語系	聴覚系	神経系			講義	専任教員/非常勤講師	
	社会福祉・教育	心理学					講義	専任教員/非常勤講師	
	失語・高次脳機能障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	言語発達障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	発声発語障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	聴覚障害学						講義	専任教員/非常勤講師	
	試験						試験	専任教員	
期末試験()% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(試験を3回実施)(100)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説(最新版)			言語聴覚士国家試験対策委員会			大揚社			

言語聴覚士テキスト（最新版）	編著大森孝一	医歯薬出版
参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
各科目の教科書		
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	言語聴覚障害診断学								
担当者	宇杉 竜一/ 外間 ひより/ 亀浜 優保/ 山城 理奈/ 志良堂 竜馬/ 洲鎌 優奈/ 小渡 結佑/ 松下 真一郎/ 上								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 言語病理学的診断を行うためには、多様な検査を熟知し観察眼を養うことが求められる。この講義では特に神経心理学的視点からコミュニケーション障害を評価する技術を学ぶ。									
(到達目標) 言語聴覚療法に関連する評価の意義や目的を理解する。 評価結果を適切に解釈し支援方針の立案に繋がられる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
ポートフォリオを活用して講義内容の整理統合を行います。 各コマ受講毎に必ず振り返りシートを記入して下さい。 配布資料は紛失しないように専用ファイルに綴じて整理する事を心がけて下さい。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	評価と診断の目的や検査から診断までの流れを理解する。					講義	小渡 結佑		
2	主訴や問題把握のための情報収集および報告書作成の概要を理解する。					講義	小渡 結佑		
3	小児発達障害の捉え方・全体像					講義	松下 真一郎		
4	小児発達障害のリハビリテーションの実際					講義	松下 真一郎		
5	小児検査 発達・知能検査					講義・実技	小渡 結佑		
6	小児検査 言語発達検査(LCスケール、LCSA)					講義・実技	中野 江美		
7	成人検査 SLTA実技					実技	比嘉 梓		
8	成人検査 SLTA実技					実技	比嘉 梓		
9	失語症演習					演習	比嘉 梓		
10	失語症演習					演習	比嘉 梓		
11	成人検査 高次脳機能障害					講義・実技	長嶺 知里		
12	成人検査 高次脳機能障害					講義・実技	長嶺 知里		
13	成人検査 高次脳機能障害					講義・実技	長嶺 知里		
14	研究法概論					講義・実技	宇杉 竜一		
15	臨床の実際					講義	宇杉 竜一		
期末試験()% 提出物(40)% 小テスト()% 実技試験(60)% 口頭試問()% 発表()% その他() ()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者			出版社				
言語聴覚士のための臨床実習テキスト					建帛社				
参考書									
書名		著者			出版社				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	言語聴覚障害診断学								
担当者	×森 真希子/ ×赤嶺 洋子/ ×大瀧 貴之/ 松下 真一郎/ 専任教員/ 長嶺 知里/ ×渡慶次 夏海/ 渡邊								
開講年次	3年	開講期	3年前期,3年後期	授業回数	31	時間数	62	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)臨床実習に向けてこれまでに学習した知識や技術を再構築する									
(到達目標)1.文献の検索、文献の要約をし、自分の意見を述べるようになる 2.机上での知識を整理して臨床の現場でのイメージができるようになる 3.臨床実習に備えて、意識を高める									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	言語聴覚障害診断学 概論						講義	長嶺 知里	
2	文献抄読ゼミ						ゼミ	専任教員	
3	文献抄読ゼミ						ゼミ	専任教員	
4	文献抄読ゼミ						ゼミ	専任教員	
5	発声発語器官系の検査 音声機能検査						講義	×森 真希子	
6	聴覚の評価						講義	×森 真希子	
7	機能性構音障害						講義	×大瀧 貴之	
8	失語症 症例検討						演習	×渡慶次 夏海	
9	失語症 症例検討						演習	×渡慶次 夏海	
10	失語症 症例検討						演習	×渡慶次 夏海	
11	失語症 症例検討						演習	×渡慶次 夏海	
12	発達知能検査						講義	×大瀧 貴之	
13	言語検査						講義	×大瀧 貴之	
14	摂食嚥下障害の評価と治療						講義	×渡慶次 夏海	
15	言語発達障害						講義	矢崎 真一	
16	小児を対象とした評価・訓練の実際						講義	松下 真一郎	
17	小児を対象とした評価・訓練の実際						講義	松下 真一郎	
18	成人を対象とした評価・訓練の実際						講義	渡邊 真由美	
19	成人を対象とした評価・訓練の実際						講義	非常勤講師	
20	症例検討						講義	専任教員	
21	症例検討						講義	専任教員	
22	言語聴覚障害に関する検査						講義	長嶺 知里	
23	言語聴覚障害に関する検査						講義	長嶺 知里	
24	言語聴覚障害に関する検査						講義	長嶺 知里	
25	言語聴覚障害に関する検査						講義	長嶺 知里	
26	言語聴覚障害に関する検査						講義	長嶺 知里	
27	失語症ケース発表						講義	×渡慶次 夏海	
28	失語症ケース発表						講義	×渡慶次 夏海	
29	運動障害性構音障害の評価・訓練						講義	長嶺 知里	
30	高次脳機能障害の評価・訓練						講義	長嶺 知里	
31	まとめ						講義	専任教員	
期末試験(40)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(50)% その他(ポートフォリオ)(10)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	言語聴覚障害各論									
担当者	×森 真希子/ ×赤嶺 洋子/ ×大瀨 貴之/ 専任教員/ 谷本 由莉/ 仲村 隆仁/ 長嶺 知里/ ×渡慶次 夏海/									
開講年次	3年	開講期	3年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2	
授業の概要・到達目標										
(概要)これまでの言語聴覚障害学についての分野ごとで内容を振り返り、知識を整理し統合する。										
(到達目標) 言語聴覚士国家試験の各領域ごと別に問題の傾向をつかむ 言語聴覚士国家試験の各領域ごと別に問題に慣れ、知識を定着させる										
履修における注意事項(受講ルールなど)										
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。										
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者	
	医学系	病理学						講義	非常勤講師	
	医学系	内科学						講義	非常勤講師	
	医学系	臨床神経学						講義	非常勤講師	
	医学系	臨床神経学						講義	非常勤講師	
	心理系	知覚・学習・認知心理						講義	非常勤講師	
	心理系	心理測定法						講義	非常勤講師	
	心理学	臨床心理学						講義	非常勤講師	
	心理学	生涯発達心理学						講義	非常勤講師	
	音声言語系	音声学						講義	非常勤講師	
	音声言語系	音声学						講義	非常勤講師	
	音声言語系	音響学						講義	非常勤講師	
	音声言語系	音響学						講義	非常勤講師	
	音声言語系	言語学						講義	非常勤講師	
	音声言語系	言語学						講義	非常勤講師	
	成人系	失語症						講義	×赤嶺 洋子	
	成人系	失語症						講義	×渡慶次 夏海	
	成人系	高次脳機能障害						講義	×赤嶺 洋子	
	成人系	高次脳機能障害						講義	×赤嶺 洋子	
	小児系	言語発達障害 総論						講義	×大瀨 貴之	
	小児系	言語発達障害 評価・指導						講義	×大瀨 貴之	
	発声発語系	音声障害						講義	×森 真希子	
	発声発語系	機能的構音障害						講義	×大瀨 貴之	
	発声発語系	器質性構音障害						講義	島袋 亜香里	
	発声発語系	運動障害性構音障害						講義	長嶺 知里	
	発声発語系	摂食嚥下障害						講義	×渡慶次 夏海	
	発声発語系	摂食嚥下障害						講義	×渡慶次 夏海	
	発声発語系	吃音						講義	非常勤講師	
	聴覚系	聴覚医学、聴覚検査						講義	×森 真希子	
	聴覚系	補聴器・人工内耳						講義	仲村 隆仁/ 谷本 由莉	
	聴覚系	成人・小児聴覚障害						講義	×森 真希子	
	期末試験()% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(100)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書										
	書名	著者					出版社			
	言語聴覚士テキスト(第3版)	編著大森孝一 他					医歯薬出版株式会社			
	各教科の教科書									
参考書										
	書名	著者					出版社			

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	失語・高次脳機能障害								
担当者	稲嶺 葉月/ 渡慶次 夏海/ 比嘉 梓/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)失語症について基礎知識を下に評価の捉え方を学ぶ。 失語症の検査の概要を理解し、実践することができる。 高次脳機能障害について、で学んだ知識が定着し、「評価-訓練-予後」を複合的に考えられる。模擬症例に対して一連の流れを実践できる。									
(到達目標) 失語症の症状を捉えタイプを分類することができる 認知神経心理学的視点より失語症を理解できる 失語症の検査の種類、手続きがわかる 高次脳機能障害の評価と問題点の整理、訓練立案ができる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
試験の受験基準は学則の出席日数に準ずる。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	失語症 振り返り						講義	比嘉 梓	
2	失語症候群 純粋系						講義	比嘉 梓	
3	失語症候群 純粋系						講義	比嘉 梓	
4	失語症候群 純粋系						講義	比嘉 梓	
5	表層・音韻・深層失読						講義	比嘉 梓	
6	表層・音韻・深層失読						講義	比嘉 梓	
7	定期試験						試験	比嘉 梓	
8	失語症の評価のプロセス						講義	比嘉 梓	
9	失語症の評価のプロセス						試験	比嘉 梓	
10	失語症の検査:総合検査 SLTA/WAB/DD2000						講義・演習	比嘉 梓	
11	失語症の検査:掘り下げ検査 SLTA-ST/CADL/重度失語症検査						講義・演習	比嘉 梓	
12	失語症の検査:掘り下げ検査 トークンテスト/SPA/TLPA						講義・演習	比嘉 梓	
13	失語症の検査 失語症に対する高次脳機能評価						講義・演習	比嘉 梓	
14	まとめ						講義	比嘉 梓	
15	定期試験2						試験	比嘉 梓	
16	前頭葉と高次脳機能障害						講義	稲嶺 葉月	
17	脳外傷による高次脳機能障害、全般的な高次脳機能障害の振り返り						講義	稲嶺 葉月	
18	視空間障害へのリハビリテーション						講義	稲嶺 葉月	
19	聴覚認知、触覚認知、身体・病態認知へのリハビリテーション						講義	稲嶺 葉月	
20	記憶障害に対するリハビリテーション						講義	稲嶺 葉月	
21	前頭葉系に対するリハビリテーション						講義	稲嶺 葉月	
22	脳梁離断、脳外傷に対するリハビリテーション						講義	稲嶺 葉月	
23	認知コミュニケーションに対するリハビリテーション						講義	稲嶺 葉月	
24	認知症に対するリハビリテーション						講義	稲嶺 葉月	
25	ケーススタディ						講義	稲嶺 葉月	
26	ケーススタディ						講義	稲嶺 葉月	
27	症例発表						発表	稲嶺 葉月	
28	症例発表						発表	稲嶺 葉月	
29	失行に対するリハビリテーション						講義	渡慶次 夏海	
30	高次脳:試験						試験・振り返り	稲嶺 葉月	
期末試験()% 提出物()% 小テスト(0)% 実技試験()% 口頭質問()% 発表(30)% その他(定期試験)(70)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準言語聴覚障害学 失語症 第2版			藤田郁代編			医学書院			
なるほど!失語症の評価と治療			小嶋知幸			金原出版株式会社			

参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
言語聴覚士ドリル+プラス失語症	宮本恵美	診断と治療社
標準失語症検査マニュアル 改訂第2版	一般社団法人日本高次脳機能障害学会編	新興医学出版社
標準言語聴覚障害 高次脳機能障害 第3版	阿部昌子、吉村貴子 編	医学書院
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど) 参考書の言語聴覚士ドリルは、復習(振り返り学習)として活用して下さい。		

授業科目名	失語・高次脳機能障害								
担当者	山口 喜七郎/ 狩俣 三千男/ 比嘉 梓								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)失語症 (前期)で修得した基礎知識を活用し、具体的な評価の視点やその解釈学び、最適な治療・支援へつなげられるよう理解を深める。									
(到達目標)1、認知神経心理学的視点から失語症を評価することが出来るようになる 2、失語症の人の抱える問題点をICFを使って整理し、全体像が把握できる 3、対象に合わせた訓練を立案することが出来るようになる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
講義の後半は、失語症当事者を招致し評価・目標設定・訓練立案まで実践形式の講義内容を予定しています。学生として、ふさわしいコミュニケーション態度が求められる。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	評価・診断って何?							講義	比嘉 梓
2	全体像を把握するために必要な情報って何?							講義・演習	比嘉 梓
3	やってみよう! インテーク面接							講義・演習	比嘉 梓
4	チームで働くとは、他職種から何を情報収集する?							講義・演習	比嘉 梓
5	失語症と他の障害を鑑別できるかな?(スクリーニング検査)							講義・演習	比嘉 梓
6	デイリーを書いてみよう!							講義・演習	比嘉 梓
7	デイリーを書いてみよう!(模擬患者)							講義・演習	比嘉 梓
8	SLTAプロフィールを分析してみよう							講義・演習	比嘉 梓
9	SLTAプロフィールを分析してみよう							講義・演習	比嘉 梓
10	SLTAプロフィールを分析してみよう							講義・演習	比嘉 梓
11	SLTAプロフィールを分析してみよう							講義・演習	比嘉 梓
12	失語症の人の問題点をICFで整理してみよう!							講義	比嘉 梓
13	失語症の治療の原則							講義	比嘉 梓
14	各期の言語治療の特徴と役割							講義・演習	比嘉 梓
15	失語症治療の理論と技法							講義・演習	比嘉 梓
16	失語症治療の理論と技法							講義・演習	比嘉 梓
17	失語症治療の理論と技法							講義	比嘉 梓
18	訓練計画の立て方・目標設定							講義	比嘉 梓
19	機能訓練 語彙訓練							講義	比嘉 梓
20	機能訓練 構文訓練							講義	比嘉 梓
21	機能訓練 文字訓練・発語失行の治療							講義・演習	比嘉 梓
22	臨床の実際							講義・演習	比嘉 梓
23	まとめ・振り返り							試験	比嘉 梓
24	失語症者を評価し実際に訓練を計画してみよう							演習	比嘉 梓
25	失語症者を評価し実際に訓練を計画してみよう							演習	比嘉 梓
26	失語症者を評価し実際に訓練を計画してみよう							演習	比嘉 梓
27	失語症者を評価し実際に訓練を計画してみよう							演習	比嘉 梓
28	失語症者を評価し実際に訓練を計画してみよう							演習	比嘉 梓
29	報告書にまとめて発表してみよう!							演習	比嘉 梓
30	報告書にまとめて発表してみよう!							演習	比嘉 梓
期末試験(80)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(20)% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準言語聴覚障害 失語症学			藤田育代他			医学書院			

なるほど！失語症の評価と治療	小嶋知幸	金原出版株式会社
参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		
<p>理解度の確認と不足の知識への自主学習へつなげて欲しい。 受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>		

授業科目名	言語発達障害								
担当者	小渡 結佑/ 中野 江美								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 言語発達障害 及び で学んだ各障害の概要を基に、様々なタイプの言語発達障害に対する評価の意義、方法、解釈を学ぶ。									
(到達目標) 言語発達障害児者に対する評価の意義を理解する。 言語発達の状況を客観的に知るための評価技法を身につける。 各種特性を把握するための評価技法を身につける。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
座学以外にも調べ学習や演習があり、コマごとに講義スタイルが変化します。 講義のはじめに話すコマのめあてをしっかりと理解して受講して下さい。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション 小児領域の評価について						講義	小渡 結佑	
2	臨床のアセスメントの実際 情報収集の概要						講義	小渡 結佑	
3	発達スクリーニング検査にふれる<遠城寺式乳幼児分析的発達検査を中心に>						講義・実技	小渡 結佑	
4	知能検査認知・学習検査を知る<WISC- 、WISC- 、K-ABC >						講義・実技	小渡 結佑	
5	言語検査について知る。						講義・実技	小渡 結佑	
6	言語検査にふれる①<S-S法を中心に>						講義・実技	小渡 結佑	
7	言語検査にふれる <S-S法を中心に>						講義・実技	小渡 結佑	
8	言語検査にふれる③<S-S法を中心に>						講義・実技	小渡 結佑	
9	言語検査にふれる③<絵画語い発達検査、質問応答関係検査を中心に>						講義・実技	小渡 結佑	
10	言語検査にふれる④<LCスケールを中心に>						講義・実技	中野 江美	
11	学習障害・ASDなどの検査を知る						講義・実技	小渡 結佑	
12	評価の解釈と問題点の整理						講義・実技	小渡 結佑	
13	評価の解釈と問題点の整理<ケース検討>						講義・実技	小渡 結佑	
14	症例検討						講義	小渡 結佑	
15	試験							小渡 結佑	
期末試験(60)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

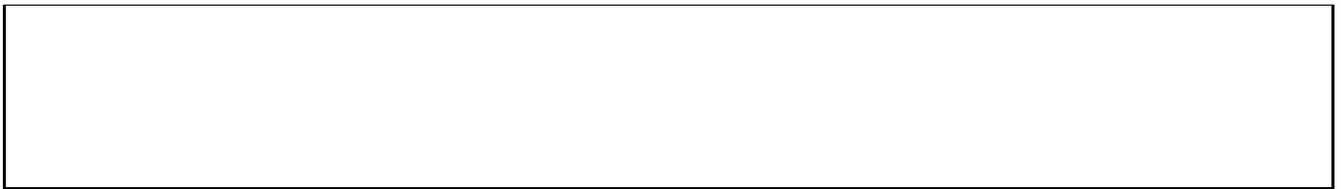
授業科目名	言語発達障害								
担当者	中野 江美								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要) 言語発達障や発達障害児者 (ASD、LD、ADHD、SLI) に対する効果的な支援を行えるようになるために支援の枠組みと支援技法について学ぶ。 受講後は本人および家族の現在だけでなく将来を見据えた具体的な支援を提案できる。</p>									
<p>(到達目標) 言語発達障害に対する技法の名称と方法を述べるができる。 言語発達段階や障害に応じた訓練方法を関係づけて説明できる。 模擬症例に対して評価・訓練立案を行い、症例発表を実施できる。</p>									
履修における注意事項 (受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	言語領域別の見方と総合評価					講義	中野 江美		
2	前言語期の評価とまとめ					講義	中野 江美		
3	前言語期の指導					講義	中野 江美		
4	前言語期の事例検討					講義	中野 江美		
5	語彙の段階の評価・指導					講義	中野 江美		
6	語彙の段階の事例検討					講義	中野 江美		
7	中間の振り返り					講義・試験	中野 江美		
8	語順・統語の段階の評価・指導					講義	中野 江美		
9	語順・統語の段階の事例					講義	中野 江美		
10	発達障害の指導					講義	中野 江美		
11	SLIと知的障害の指導					講義	中野 江美		
12	地域支援 (母子保健事業など)					講義	中野 江美		
13	症例検討					講義	中野 江美		
14	症例検討					講義	中野 江美		
15	期末試験					講義・試験	中野 江美		
期末試験 (45) % 提出物 (5) % 小テスト () % 実技試験 () % 口頭試問 () % 発表 () % その他 (中間試験) (50) %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語発達障害学 (第2版)			玉井ふみ、深浦順一			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	言語発達障害								
担当者	小渡 結佑/ 上原 久人/ 新嘉喜 映佳/ 赤嶺 洋子/ 大城 由美子/ 中野 江美/ 比嘉 貴子/ 又吉 文子								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	10	時間数	20	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)脳性麻痺、重度心身障害について、その発達と抱えている問題を理解する。 STとしてのアプローチ、チームでのアプローチを理解する。									
(到達目標) 医学的な視点から脳性麻痺、重度心身障害の基礎知識を学ぶ。 重度心身障害児者を支援するための機関とその役割を理解する。 重度心身障害児者に関わる職種との役割について理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
講義毎に担当講師宛の感想文を記入してもらおう。その提出状況も評価対象であるので毎回必ずこと。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	重度心身障害とは:看護師の立場から						講義	比嘉 貴子	
2	重度心身障害の療育:PT・OT・STの役割						講義	上原 久人	
3	重度心身障害の療育:PT・OT・STの役割						講義	大城 由美子	
4	重度心身障害の療育:保育士の役割						講義	又吉 文子	
5	周産期からみる重度心身障害						講義	新嘉喜 映佳	
6	小児演習						演習	中野 江美/ 小渡 結佑	
7	小児演習②						演習	中野 江美/ 小渡 結佑	
8	事例検討(発表)						演習	中野 江美/ 小渡 結佑	
9	事例検討(発表)						演習	中野 江美/ 小渡 結佑	
10	演習方法、保護者との面接方法						演習	中野 江美/ 小渡 結佑	
11	まとめ・ふりかえり						試験	小渡 結佑/ 中野 江美	
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(50)% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準言語聴覚障害学シリーズ 言語発達障害学 第2版									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	言語発達障害								
担当者	専任教員/ 眞喜屋 佳恵								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)脳性麻痺の発達と抱えている問題を理解する。 STとしてのアプローチ、チームでのアプローチを理解する。 実技は動きやすい服装。									
(到達目標)1.脳性麻痺の定義、運動障害について理解・説明ができる 2.脳性麻痺の言語発達障害、嚥下障害について理解・説明できる 3.脳性麻痺の訓練指導内容について理解・説明できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	発達について						講義	眞喜屋 佳恵	
2	正常運動発達						講義	眞喜屋 佳恵	
3	脳性麻痺の基礎						講義	眞喜屋 佳恵	
4	脳性麻痺の基礎						講義	眞喜屋 佳恵	
5	脳性麻痺の言語発達障害						講義	眞喜屋 佳恵	
6	脳性麻痺の口腔運動機能の問題						講義	眞喜屋 佳恵	
7	脳性麻痺の呼吸機能の問題						講義	眞喜屋 佳恵	
8	脳性麻痺の摂食機能の問題						講義	眞喜屋 佳恵	
9	脳性麻痺の言語発達障害への取り組み						講義	眞喜屋 佳恵	
10	姿勢コントロール						講義	眞喜屋 佳恵	
11	Speechへの取り組み						講義	眞喜屋 佳恵	
12	摂食への取り組み						講義	眞喜屋 佳恵	
13	Communicationへの取り組み						講義	眞喜屋 佳恵	
14	脳性麻痺児、者へのQOLを高めるために						講義	眞喜屋 佳恵	
15	まとめ・ふりかえり						講義・試験	専任教員	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表()% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚療法 臨床マニュアル改訂第2版									
「言語発達障害」			笠井新一郎編			建帛社			
参考書									
書名			著者			出版社			
障害児の摂食・嚥下・呼吸リハビリテーション			金子芳洋			医歯薬出版株式会社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

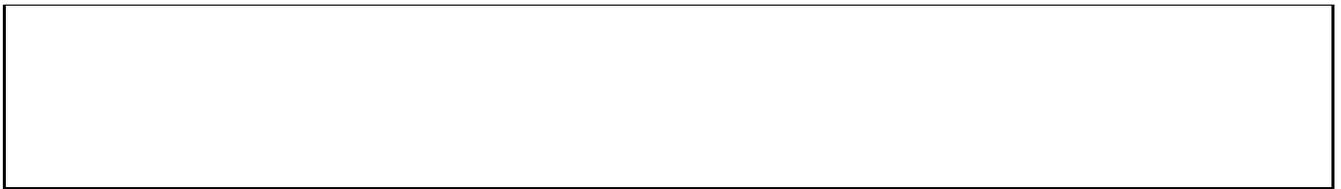
授業科目名	音声障害								
担当者	新城 亮太								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 音声・喉頭科学の基礎知識をベースに発声の仕組みや声の特徴、声の問題について総括し、分析的観察・評価、また音声治療の手技とその根拠を学習する。									
(到達目標) 発声のメカニズムを説明することができる 音声の評価法について目的別に説明することができる 音声障害の原因疾患を理解し、更に疾患ごとに違う治療方法について説明できる									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
私語は慎むこと。疑問がある場合にはどのような方法でも良いのでその日に解決するよう努めること。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	発声の仕組み 音声に関する解剖生理の復習						講義	新城 亮太	
2	音声障害の原因と症状、障害メカニズム						講義	新城 亮太	
3	音声障害の原因となる疾患とその治療						講義	新城 亮太	
4	音声障害の症状と診断						講義	新城 亮太	
5	音声障害の評価						講義	新城 亮太	
6	まとめ・振り返り						講義	新城 亮太	
7	音声治療の種類・目的・適用						講義	新城 亮太	
8	音声障害の行動学的治療						講義	新城 亮太	
9	無喉頭音声						講義	新城 亮太	
10	気管切開とコミュニケーションの問題						講義	新城 亮太	
11	まとめ・振り返り						講義	新城 亮太	
12	空気力学的検査、音響分析						講義	新城 亮太	
13	音声治療の取り組み方、代表的な症例の音声治療						講義	新城 亮太	
14	機能性音声障害の音声治療						講義	新城 亮太	
15	最終振り返り						講義	新城 亮太	
期末試験 (50) % 提出物 () % 小テスト (50) % 実技試験 () % 口頭試問 () % 発表 () % その他 () () %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
音声障害治療学			編著：廣瀬肇、著：城本修、生井友紀子			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									
受講後は30分程度でよいので必ず復習すること。そうすることによって講義で学んだ内容が定着します。									

授業科目名	機能性構音障害								
担当者	中野 江美								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要) 構音障害を適正に評価するためには音声学と歯科口腔外科学の知識を融合させる必要がある。1年次に学んだ音声学と歯科口腔外科の知識がここで花開くのです。それらをもとに機能性構音障害の病態を理解し対象児に対する適切な支援とは何かを模索し深めていく講義にしたいと考えている。</p> <p>(到達目標) 日本語の発音に必要な音の構音点および構音方法を確実にする。 機能性構音障害の症状や発話特徴を理解する。 適切な評価および支援を立案、実施できる。</p>									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
<p>「構音」を理解するためには、実際に口やノドを見て、触れて、動かして体感する事が望ましい。毎回、講義の前には歯磨き・うがいなどの口腔ケアをして下さい。</p>									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	構音の発達過程や機能性構音障害の定義を知ろう。					講義	中野 江美		
2	評価・訓練の流れ、未熟性構音と異常構音の特徴を理解しよう。					講義	中野 江美		
3	構音検査の目的と正しい実施方法を習得しよう					講義	中野 江美		
4	構音検査の目的と正しい実施方法を習得しよう					実技	中野 江美		
5	模擬症例の音声評価					講義	中野 江美		
6	模擬症例の音声評価 (まとめと発表)					講義	中野 江美		
7	中間の振り返り					講義・試験	中野 江美		
8	訓練の目的と基本的な流れ、語音聞き取り訓練					講義	中野 江美		
9	舌の運動訓練について					講義	中野 江美		
10	音の産生訓練について、異常構音別の訓練方法					講義	中野 江美		
11	模擬症例に対して訓練プログラムを立案しよう					講義	中野 江美		
12	訓練プログラムを実施しよう					演習	中野 江美		
13	模擬症例の評価まとめ、訓練を立案しよう					演習	中野 江美		
14	模擬症例の評価まとめ、訓練を立案しよう					演習	中野 江美		
15	講義の振り返り、期末試験					講義・試験	中野 江美		
期末試験 (45) % 提出物 (5) % 小テスト () % 実技試験 () % 口頭試問 () % 発表 () % その他 (中間の振り返り) (50) %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
改訂機能性構音障害			本間慎治			建帛社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									



授業科目名	器質性構音障害								
担当者	伊禮 美由紀/ 小渡 結佑/ 専任教員/ 大城 健/ 長嶺 知里/ 島袋 亜香里/ 比嘉 梓								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 器質性疾患(口唇口蓋裂および口腔腫瘍など)の理解と言語臨床家の役割を理解していく講義となっている。評価・治療・訓練のみではなく、器質性構音障害を有する患者・家族に関わる言語聴覚士が理解しておくべき内容について学んでいく。									
(到達目標) 器質性疾患(口唇口蓋裂、口腔腫瘍など)や解剖学的な知識について理解できるようになる。器質性構音障害の発話特徴や症状を理解し、適切な評価の選択、支援が立案できるようになる。チームアプローチの重要性を理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	器質性構音障害の定義と疾患						講義	長嶺 知里	
2	口唇口蓋裂の基礎知識 疫学・問題点						講義	長嶺 知里	
3	口唇口蓋裂の基礎知識 治療方針、手術						講義	大城 健	
4	口唇口蓋裂を有する児の言語						講義	島袋 亜香里	
5	口唇口蓋裂の臨床の実際 言語(1)						講義	島袋 亜香里	
6	口唇口蓋裂の臨床の実際 言語(2)						講義	島袋 亜香里	
7	口唇口蓋裂の臨床の実際 言語(3)						講義	島袋 亜香里	
8	口唇口蓋裂の臨床の実際 言語(4)						講義	島袋 亜香里	
9	口腔腫瘍 舌切除、顎切除						講義	大城 健	
10	口腔腫瘍の臨床の実際						講義	比嘉 梓	
11	舌・口唇の形態異常と機能障害						講義	小渡 結佑	
12	舌・顎の形態異常と補綴						講義	大城 健	
13	口腔疾患を有する対象者への口腔ケア						講義	伊禮 美由紀	
14	チームアプローチの実際						講義	大城 健	
15	まとめ・ふりかえり						講義・試験	専任教員	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害						建帛社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	評価法								
担当者									
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 評価実習に向け、医療従事者として必要な知識を身につける。 発声発語機能および摂食嚥下機能において評価・訓練の立案が行えるように基礎的事項を学ぶ。									
(到達目標) バイタルの確認や感染防御について理解し実践できる 吸引の基礎的な技術について理解する 摂食嚥下障害の評価・訓練立案ができるようになる 発声・発語障害の評価・訓練立案ができるようになる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
ポートフォリオを活用して講義内容の整理統合を行います。 各コマ受講毎に必ず振り返りシートを記入して下さい。 配布資料は紛失しないように専用ファイルに綴じて整理する事を心がけて下さい。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	スクリーニング検査(STAD)						講義・実技	小渡 結佑	
2	スクリーニング検査 実技確認試験						実技試験	専任教員	
3	栄養の基礎知識とリハビリテーション栄養の実際						講義	城間 かおり	
4	摂食嚥下障害						講義	新城 亮太	
5	摂食嚥下障害						講義	新城 亮太	
6	急性期の摂食嚥下機能リハビリテーション						講義・実技	具志堅 亮祐	
7	バイタルサインについて・感染防御技術とは						講義	伊藤 義則	
8	血圧測定・感染防御技術						演習	小渡 結佑/伊藤 義則	
9	血圧測定・感染防御技術						演習	小渡 結佑/伊藤 義則	
10	吸引演習						演習	藤澤 宗司/鈴木 菜乃花	
11	吸引演習						演習	藤澤 宗司/鈴木 菜乃花	
12	器質性構音障害						講義	島袋 亜香里	
13	機能性構音障害						講義	中野 江美	
14	実際の臨床「リスクマネジメントの考え方」						講義	× 稲嶺 葉月	
15	臨床の実際～摂食嚥下領域～						講義	大城 健太	
期末試験()% 提出物(40)% 小テスト()% 実技試験(60)% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚士のための臨床実習テキスト成人編・小児編						建帛社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									



授業科目名	運動障害性構音障害								
担当者	長嶺 知里								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)運動障害性構音障害を理解するには運動系と神経系の知識を持つことが求められる。序盤では神経・筋の基礎理解を促し、それを発声発語器官に汎用させる。中盤以降は「疾病 運動障害 構音障害」の関係を意識し、評価の視点を身に着ける。</p>									
<p>(到達目標) 神経・筋の基本的な構造と機能を説明できる。 タイプ分類を理解し、疾病と運動障害と構音障害の関係を理解し構音障害の発生機序を説明できる。 AMSDを正しく実施する。</p>									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
<p>文字で覚えるのではなく、身体構造から発話イメージをしながら受講する。学生同士で教え合っ、皆で共通理解が持てるようになって欲しい。 実技練習も回数を重ね自主的に取り組むこと。</p>									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	運動障害性構音障害とは？概要を理解しよう。						講義	長嶺 知里	
2	発声発語器官の解剖と機能を知ろう						講義	長嶺 知里	
3	発声発語器官の解剖と機能を知ろう						講義	長嶺 知里	
4	運動系を理解しよう。						講義	長嶺 知里	
5	運動系を理解しよう。						講義	長嶺 知里	
6	発声発語器官の障害で生じる発話特徴を知ろう。						講義	長嶺 知里	
7	中間まとめ						講義・試験	長嶺 知里	
8	タイプごとの発話特徴を知る(弛緩性、痙性)						講義	長嶺 知里	
9	タイプごとの発話特徴を知る(運動低下性、運動過多性、UUMN)						講義	長嶺 知里	
10	評価の流れを知る						講義	長嶺 知里	
11	AMSDの実技						実技	長嶺 知里	
12	AMSDの実技						実技	長嶺 知里	
13	AMSD実技確認						実技・試験	長嶺 知里	
14	運動障害性構音障害の検査バッテリーを知る						講義	長嶺 知里	
15	まとめ、期末試験						講義・試験	長嶺 知里	
<p>期末試験(40)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験(20)% 口頭試問()% 発表()% その他(中間まとめ)(40)%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>									
教科書									
書名			著者			出版社			
ディサースリア臨床標準テキスト 第2版			西尾正輝			医歯薬出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
ディサースリア臨床標準テキスト 完全対応ワークブック			西尾正輝			医歯薬出版			
神経原性発声発語障害 dysarthria			苅安誠			医歯薬出版			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

発話特徴を真似してみよう。分からない事はなんでも聞いて下さい。学生同士でも質問しあうことで理解が深まります。

授業科目名	運動障害性構音障害								
担当者	長嶺 知里/ 長嶺 翔太								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 当科目 (前期) で修得した運動障害の基礎知識をベースに適切な評価方法を学び、さらに、評価の結果から最適な支援プログラムを立案するための技術を体得する。受講後、信頼性の高い評価のもとエビデンスに基づいた支援方法を提案できるようになって欲しい。									
(到達目標) AMSD等の標準化された検査を正しく実施し、評価に活用できる。 運動障害性構音障害の原因になっている運動の問題を正しく評価できる。 タイプや症状に応じて適切な支援プログラムを立案し実施できる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
「構音」を理解するためには、実際に口やノドを見て、触れて、動かして体感する事が望ましい。毎回、講義の前には歯磨き・うがいなどの口腔ケアをして下さい。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	運動障害性構音障害 で学んだ事をおさらいしよう。国家試験対策。					講義	長嶺 知里		
2	AMSDの各項目の解釈を知る					講義	長嶺 知里		
3-4	発声発語器官の評価を学び、実践しよう					講義・実技	長嶺 知里		
5	運動障害と摂食嚥下機能、栄養との関係性を理解しよう					講義・実技	長嶺 知里		
6	呼吸機能、発声機能へのアプローチを学ぶ					講義・実技	長嶺 知里		
7	鼻咽腔閉鎖機能、口腔構音機能へのアプローチを学ぶ					講義・実技	長嶺 知里		
8	発話速度の調整法、プロソディー訓練を学ぶ					講義・実技	長嶺 知里		
9-10	MTPSSE					講義・実技	長嶺 知里		
11	ICFを書いてみよう					講義・実技	長嶺 知里		
12	デイリーを書いてみよう					講義・実技	長嶺 知里		
13-14	ケーススタディ					講義・実技	長嶺 知里		
15	全体のまとめ・確認テスト					講義・試験	長嶺 知里		
期末試験 (60) % 提出物 (10) % 小テスト () % 実技試験 () % 口頭試問 () % 発表 () % その他 (発表点) (30) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
ディサースリア臨床標準テキスト 第2版			西尾正輝			医歯薬出版			
ディサースリアの基礎と臨床 第3巻			西尾正輝						
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

眠らず、学生同士で励まし合って受講して欲しい。臨床をイメージしながら恥ずかしがらず学生同士で発声発語器官の動きを見てみよう

授業科目名	吃音								
担当者	井上 瞬/ 苅安 誠/ 小渡 結佑/ 村山 大三郎/ 非常勤講師/ 平良 和								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)吃音の概要、症状、訓練について学ぶ。吃音の人の抱える問題について総合的に整理し、その本質について考える。									
(到達目標)吃音の概要(原因・症状・評価)などについて分かる。吃音の問題点を整理して、問題の本質がどこにあるの分かる。臨床で大切な事、言語聴覚士としてのあり方を考えることができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	イントロダクション						講義	小渡 結佑	
2	発話の基盤とその流暢性(苅安)						講義	苅安 誠	
3	吃音の定義と症候(苅安)						講義	苅安 誠	
4	吃音の原因と促進要因(苅安)						講義	苅安 誠	
5	発話の評価と鑑別診断(苅安)						講義	苅安 誠	
6	吃音の訓練指導と支援(苅安)						講義	苅安 誠	
7	リッカムプログラム(村山)						講義	村山 大三郎	
8	吃音の基礎/吃音の捉え方						講義	井上 瞬	
9	吃音臨床の実際						講義	井上 瞬	
10	吃音臨床の実際						講義	井上 瞬	
11	臨床の実際 小学校で起きていること						講義	平良 和	
12	臨床の実際 中学校で起きていること						講義	平良 和	
13	臨床の実際 成人の吃るひとたち						講義	平良 和	
14	臨床の実際 親の立場						講義	平良 和	
15	期末試験						講義	小渡 結佑	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	摂食・嚥下障害								
担当者	新城 亮太								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)「口から食べる」ことは、単なる栄養補給に留まらず、ヒトとして生きる喜びや目標に変わる事もある。現在、STは食べる機能の障害に対して重要な役割を担う職種となった。時に、症例の命に関わる難しい領域である。本講義では、摂食嚥下障害障害についての基礎知識を学習する。									
(到達目標)1、嚥下機能のメカニズムを理解し説明できる 2、正常の摂食嚥下動態を理解し観察力を養う 3、摂食嚥下障害の原因と病態を理解する									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
試験の受験基準は学則の出席日数に準ずる。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	嚥下のモデルと基礎的な解剖						講義	新城 亮太	
2	嚥下筋を覚えよう						講義	新城 亮太	
3	嚥下の神経とフィジカルアセスメント						講義	新城 亮太	
4	嚥下のCPG						演習	新城 亮太	
5	嚥下の基礎的用語を覚えよう						講義	新城 亮太	
6	症状別の嚥下障害を知ろう						講義	新城 亮太	
7	症状別の嚥下障害を知ろう						講義	新城 亮太	
8	まとめ・ふりかえり(中間)						試験	新城 亮太	
9	嚥下治療に必要な呼吸理学療法 of 知識						講義	新城 亮太	
10	フレイルと嚥下障害のサルコペニア						講義	新城 亮太	
11	神経筋疾患						講義	新城 亮太	
12	嚥下の手術と代替栄養法						講義	新城 亮太	
13	嚥下質問紙評価とフィジカルアセスメント of 実際						講義	新城 亮太	
14	嚥下質問紙評価とフィジカルアセスメント of 実際						講義	新城 亮太	
15	まとめふりかえり(期末)						試験	新城 亮太	
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学			倉知雅子			医歯薬出版株式会社			
嚥下障害ポケットマニュアル			藤島一郎			医歯薬出版株式会社			
参考書									
書名			著者			出版社			
プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部			坂井健雄 天野修 監訳			医学書院			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	摂食・嚥下障害								
担当者	新城 亮太/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)摂食嚥下障害 (前期)で学んだ知識を活用し、評価・訓練の考え方・手技を学習する。 問題点を包括的に捉え個人に合った、最適な治療・支援が選択できるよう理解を深める。									
(到達目標)1、摂食嚥下障害の評価・訓練の概要(目的・進め方)を理解する 2、問題点にあったアプローチを大まかに選択できる 3、チームアプローチ・栄養管理の重要性を理解する									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
基礎訓練では徒手的治療が主となるが、接触が相手に与える影響も含め、必要な配慮やコミュニケーション力も学んで欲しい。 4コマ目はKTバランスチャートの教科書が必須です!! 忘れないように!!									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	摂食嚥下障害の評価 (問診・フィジカルアセスメント)						講義	新城 亮太	
2	摂食嚥下障害の評価 (食事場面の観察・スクリーニング検査)						講義・演習	新城 亮太	
3	摂食嚥下障害の評価 (VF/VE)の読影とHRM						講義・演習	新城 亮太	
4	摂食嚥下障害の評価 (口から食べるバランスチャート:KTBC)						演習	新城 亮太	
5	摂食嚥下リハビリテーション(間接訓練)						講義	新城 亮太	
6	摂食嚥下リハビリテーションにおける運動学習理論と食事形態の基礎知識						講義	新城 亮太	
7	摂食嚥下リハビリテーション(直接訓練)						講義	新城 亮太	
8	摂食嚥下障害に対する肺理学療法～喀痰手技～						講義	新城 亮太	
9	嚥下の外科的手術と代替栄養法について						講義	新城 亮太	
10-11	症例を通してこれまでの知識をまとめよう						演習	新城 亮太	
12	摂食嚥下リハビリテーションにおける姿勢・ポジショニングの重要性						演習	×渡慶次 夏海	
13	まとめ・振り返り						試験	新城 亮太	
14-15	嚥下調整食(調理実習)						演習	非常勤講師	
期末試験(80)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(20)% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学			倉知雅子			医歯薬出版株式会社			
嚥下障害ポケットマニュアル			藤島一郎			医歯薬出版株式会社			
参考書									
書名			著者			出版社			
KT(口から食べる)バランスチャート			小山珠美			医学書院			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
実習で活用できる知識までに落とし込めるように復習を欠かさず! 特にやるべきはKTバランスチャート									

授業科目名	成人聴覚障害								
担当者	宮里 大輔/ 小渡 結佑								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 成人聴覚障害の多彩な背景について総括する。それを踏まえた上で、援助に必要な知識や技術を学習する。									
(到達目標) 成人聴覚障害の様々な背景を理解する。聴覚障害者の支援法の理論を学び実践的な技術を身につける。その上で多面的な援助が行えるようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
講義には耳鼻咽喉科で働く言語聴覚士や当事者も関わってくれています。それぞれの先生の立ち場を理解し、積極的に質問するなどして理解を深めて下さい。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	成人聴覚障害の総論						講義	小渡 結佑	
2	成人聴覚障害評価						講義	小渡 結佑	
3	成人聴覚障害の評価						講義	小渡 結佑	
4	成人聴覚障害の聴覚保障について 評価/介入						講義	小渡 結佑	
5	成人聴覚障害のコミュニケーションについて 評価/介入						講義	小渡 結佑	
6	聴覚障害総論 聴覚障害の概要						講義	宮里 大輔	
7	聴覚障害とライフステージ 小児の聴覚障害、成人の聴覚障害						講義	宮里 大輔	
8	聴覚系の構造・機能・障害 機能と構造、障害部位と難聴の種類						講義	宮里 大輔	
9	聴覚系の構造・機能・障害 難聴の原因と発症時期						講義	宮里 大輔	
10	聴覚系の構造・機能・障害 言語機能、随伴症状						講義	宮里 大輔	
11	環境調整について 評価/介入						講義	小渡 結佑	
12	高齢難聴者、加齢性難聴について						講義	小渡 結佑	
13	高齢難聴者への対応						講義	小渡 結佑	
14	社会資源、関連法規						講義	小渡 結佑	
15	まとめ・振り返り						講義	小渡 結佑	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準言語聴覚障害学 聴覚障害学			中村公枝、城間将江、鈴木恵子			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
複数の講師が担当する科目のため、資料のファインディングをしっかりと行うことが試験対策では重要になります。									

授業科目名	小児聴覚障害								
担当者	小渡 結佑/ 専任教員/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)先天性もしくは乳幼児期に難聴が発見された聴覚障害児に対するリハビリテーションについて総括し、聴覚障害に伴う感覚・言語コミュニケーション・社会性などの典型的な評価・指導法を学習する。									
(到達目標)乳幼児期の聴覚スクリーニングについて理解し、難聴が発見された場合どのように療育に繋がっていくのかを理解する。聴性の発達を理解し、行動観察による難聴の評価、乳幼児聴力検査の方法を習得する。聴覚障害のある乳幼児が抱える課題について理解を深め、その支援方法や支援を受けられる場所などを説明できるようになる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
私語は慎むこと。講義で分からないところは出来る限りその日のうちに質問して解決するよう努めること。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	小児聴覚障害総論						講義	小渡 結佑	
2	聴覚機能の発達						講義	小渡 結佑	
3	難聴児教育の歴史とコミュニケーションモード						講義	小渡 結佑	
4	先天性難聴の発生(ハイリスク要因)						講義	小渡 結佑	
5	遺伝性難聴について						講義	小渡 結佑	
6	新生児スクリーニング検査、乳幼児聴力検査						講義	小渡 結佑	
7	乳幼児聴力検査(実習に向けて実施方法の確認)						講義	小渡 結佑	
8	聴覚検査実習に向けて実施計画確認						講義	小渡 結佑	
9	乳幼児聴覚検査演習						演習	小渡 結佑	
10	乳幼児聴力検査演習						演習	小渡 結佑	
11	乳幼児聴力検査演習						演習	小渡 結佑	
12	乳幼児聴力検査演習						演習	小渡 結佑	
13	乳幼児聴力検査演習後まとめ						講義	小渡 結佑	
14	中間テスト						講義	小渡 結佑	
15	小児聴覚リハビリテーションの概要と評価						講義	小渡 結佑	
16	言語と発声発語評価						講義	小渡 結佑	
17	認知発達評価、情緒・社会性評価						講義	小渡 結佑	
18	小児聴覚障害の特徴、リハビリテーション支援						講義	小渡 結佑	
19	コミュニケーションと言語、音声言語 聴覚活用						講義	小渡 結佑	
20	子どもの発達段階と学習方法、言語指導段階						講義	小渡 結佑	
21	言語習得段階と学習課題						講義	小渡 結佑	
22	乳幼児の支援法、前言語期、単語獲得期の指導						講義	小渡 結佑	
23	学童期の支援法、文理解・表出、文法の指導、読み書きの指導						講義	小渡 結佑	
24	ミニテスト、思春期以降の指導						講義	小渡 結佑	
25	医療機関と教育機関の連携						講義	小渡 結佑	
26	ろう学校の役割、インクルーシブ教育とは						演習	小渡 結佑/ 非常勤講師	
27	乳幼児教育相談						演習	小渡 結佑/ 非常勤講師	
28	学びの報告会						講義	小渡 結佑/ 非常勤講師	
29	試験前まとめ学習						講義	小渡 結佑/ 非常勤講師	
30	まとめ						講義	小渡 結佑	
期末試験(60)% 提出物(20)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(20)% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版			中村公枝、城間将江、鈴木恵子			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

聴覚障害の知識だけでなく、児のあらゆる側面の発達についての理解や言語学、音声学に関する知識も必要になる。様々な科目との関連性も考えながら受講し、必要であれば色々な教科書を開き理解を深めてほしい。

授業科目名	聴覚障害疾患学								
担当者	新城 亮太								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)聴覚検査、聴覚医学の基礎知識をベースに聴覚障害に関連する疾患の症状や病態、検査結果について総括し、鑑別方法について理解を深める。									
(到達目標)耳科領域の疾患がどのように聴覚検査の結果に反映されるのかを理解し、検査選択の理由について説明できるようになる。検査結果から疾患を予測することができるようになる。耳科領域疾患の鑑別ができるようになる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
グループ学習の多い講義のため、積極的な発言や学ぶ姿勢を心がけること。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	聴覚医学、聴覚検査の復習、耳疾患の症状						講義	新城 亮太	
2	耳管機能検査、ティンパノメトリの解釈法						講義	新城 亮太	
3	外耳疾患の病態						講義	新城 亮太	
4	中耳疾患の病態						講義	新城 亮太	
5	中耳疾患の病態						講義	新城 亮太	
6	外耳中耳疾患の聴覚検査						講義	新城 亮太	
7	テスト、振り返り						講義	新城 亮太	
8	平衡機能とめまいについて						講義	新城 亮太	
9	平衡機能検査						講義	新城 亮太	
10	内耳疾患の病態 メニエール病、半規管の疾患、突発性難聴						講義	新城 亮太	
11	内耳疾患の病態 音響外傷、騒音性難聴、耳毒性薬物中毒内耳・後迷路障害の鑑別方法 検査						講義	新城 亮太	
12	内耳・後迷路疾患の病態 老人性難聴、側頭骨骨折、腫瘍、顔面神経麻痺						講義	新城 亮太	
13	機能性難聴と検査法、特異的な聴覚障害疾患						講義	新城 亮太	
14	内耳・後迷路疾患の聴覚検査						講義	新城 亮太	
15	最終まとめ						講義	新城 亮太	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
イラスト耳鼻咽喉科			森満保			文光堂			
聴覚検査の実際 改訂第4版			日本聴覚医学会			南山堂			
参考書									
書名			著者			出版社			
病気が見える 耳鼻咽喉科			医学情報科学研究所			メディックメディア			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
この講義は聴覚医学や聴覚検査との関連が深い。聴覚検査の演習シートなども活用し、国家試験に対応できる力を身につけていってほしい。									

授業科目名	補聴器・人工内耳								
担当者	小渡 結佑/ 谷本 由莉/ 仲村 隆仁								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)聴覚補償の機器について学び、聴覚活用について理解を深める。									
(到達目標)補聴器のフィッティングに関する基礎知識を身につける。補聴器の装用効果判定について学ぶ。人工内耳の適応判定から訓練までの一連の流れを理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	補聴器の構造と機能 補聴器の種類 フィッティングの概要							講義	仲村 隆仁
2	補聴器フィッティングにおける用語							講義	仲村 隆仁
3	補聴器特性の測定及び調整方法 利得目標の設定							講義	仲村 隆仁
4	補聴器の選択方法及び検討方法 装用時の決定							講義	仲村 隆仁
5	耳形採取							実技	仲村 隆仁
6	耳型採取							実技	仲村 隆仁
7	デジタル補聴器のフィッティングの実際							講義	仲村 隆仁
8	アナログ補聴器のフィッティングの実際							講義	仲村 隆仁
9	アナログ補聴器のフィッティングの実際							講義	仲村 隆仁
10	補聴器の装用効果判定							講義	谷本 由莉
11	人工内耳適応判定のための検査							講義	谷本 由莉
12	マッピング							講義	谷本 由莉
13	人工内耳装用訓練と指導							講義	谷本 由莉
14	人工聴覚器の種類と仕組み							講義	小渡 結佑
15	まとめ・ふりかえり							講義	小渡 結佑
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版			中村公枝、城間将江、鈴木恵子			医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	A A C								
担当者	金城 知子/ 小渡 結佑/ 新里 碧/ 知念 弘巳/ 知念 洋美/ 中野 江美/ 長嶺 知里/ 非常勤講師								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 言語聴覚障害の各々のコミュニケーションの特性を把握し、残存機能を活用したA A Cの選択、作成に関する知識を身につける。									
(到達目標) A A Cの概念やA A Cの具体的な方法を説明することができる 対象者に合わせた適切なA A Cを選択しA A Cを作成することができる 作成したA A Cの目的や使い方をプレゼンすることができる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
成績評価は、学則の出席に準じて実施する。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	A A Cとは何か? 総論						講義	知念 洋美	
2	知的能力障害児におけるAAC						講義	知念 洋美	
3	自閉症スペクトラム症におけるAAC						講義	中野 江美	
4	構音障害,成人言語障害におけるAAC						講義	長嶺 知里	
5	福祉用具使用に関する制度						講義	長嶺 知里	
6	スイッチの知識						講義	知念 弘巳	
7	スイッチの作成						講義	知念 弘巳	
8	姿勢保持とコミュニケーション						講義	金城 知子	
9	教育現場における支援方法の違い						講義	中野 江美/ 長嶺 知里	
10	臨床の実際						講義・演習	中野 江美/ 長嶺 知里	
11	臨床の実際						講義・演習	中野 江美/ 長嶺 知里	
12	プレゼンテーション						講義・発表	中野 江美/ 長嶺 知里	
13	プレゼンテーション						講義・発表	中野 江美/ 長嶺 知里	
14	聴覚障害におけるAAC						講義	小渡 結佑	
15	まとめ						試験	長嶺 知里	
期末試験(60)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(40)% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚士のためのA A C入門			知念洋美			協同医書出版社			
参考書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚療法シリーズ16 改訂A A C			久保健彦			建帛社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

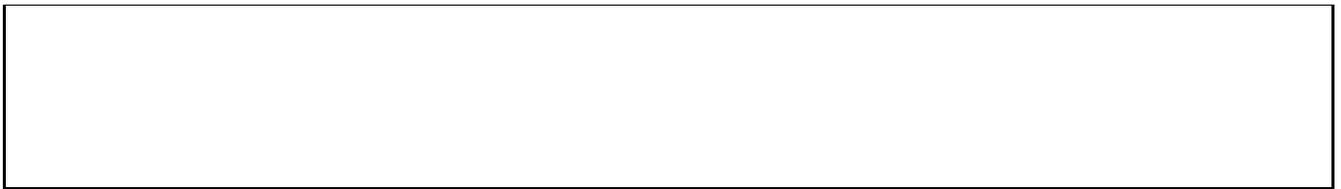
授業科目名	生物学								
担当者	佐藤 丈寛								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)・人体の機能や生命現象のメカニズムについて学ぶ。 ・生命現象を引き起こす物質や人体で生じる化学反応について学ぶ。									
(到達目標)1.細胞の構造と機能、遺伝情報をもとに様々なタンパク質がつくられる過程について理解する 2.栄養素の消化・吸収、代謝について理解する 3.血液をはじめとする体液の循環と調節について理解する 4.感覚受容器、神経やホルモン、筋収縮のしくみについて理解する									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	細胞の構造と細胞小器官の機能						講義	佐藤 丈寛	
2	DNA、RNA、タンパク質						講義	佐藤 丈寛	
3	遺伝情報の分配						講義	佐藤 丈寛	
4	発生と分化						講義	佐藤 丈寛	
5	消化と吸収						講義	佐藤 丈寛	
6	エネルギーと代謝						講義	佐藤 丈寛	
7	血液の機能と組成						講義	佐藤 丈寛	
8	生体防御機構						講義	佐藤 丈寛	
9	血液の循環と呼吸						講義	佐藤 丈寛	
10	体液調節と尿生成						講義	佐藤 丈寛	
11	神経の構造と機能						講義	佐藤 丈寛	
12	筋収縮のしくみ						講義	佐藤 丈寛	
13	刺激の需要のしくみ						講義	佐藤 丈寛	
14	ホルモンによる生理機能の調節						講義	佐藤 丈寛	
15	まとめ・ふりかえり						講義・試験	佐藤 丈寛	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
生理学・生化学につながるていねいな生物学			白戸亮吉、小川由香里、鈴木研太			羊土社			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	人間発達支援学								
担当者	稲嶺 しおり/ 亀谷 雄太郎/ 久貝 明人/ 金城 健太郎/ 中野 江美/ 渡邊 ゆかり/ 馬場 春奈/ 非常勤講師/								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)(概要)生まれてから死ぬまでの生涯に渡る心身の様々な変化と、ライフステージごとの特徴と課題について学ぶ。では生涯発達心理学を学ぶために必要な基本的概念や枠組みを学んだ後、領域ごとの発達について概観していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護」の中のSTの役割を学ぶ ・介護の基本的考えと具体的な介助場面 / 介助の中でリハビリテーションの視点を確認する ・施設見学実習 									
<p>(到達目標)(到達目標)1.病院や施設での介護の役割とSTの関連を知ることができるようになる(介助の視点・多職種連携について学ぶ)</p> <p>2.対象者へのケアとコミュニケーションについて学び、実践につなげる3.発達の基本概念について理解する。4.生涯発達を学ぶ枠組み(発達の研究方法や代表的な発達理論)について理解する。5.領域ごとの発達の道筋について理解する。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	プロローグ - 生涯と障害と 生涯発達心理学とは							講義	中野 江美
2	発達の基本概念							講義	中野 江美
3	発達理論							講義	中野 江美
4	発達理論							講義	中野 江美
5	発達理論をまとめよう							講義	中野 江美
6	愛着の発達							講義	中野 江美
7	知覚・認知の発達							講義	中野 江美
8	中間の振り返り							講義	中野 江美
9	身体と運動の発達							講義	中野 江美
10	情緒の発達							講義	中野 江美
11	パーソナリティの発達							試験	中野 江美
12	遊びと対人関係の発達							試験	中野 江美
13	ことばとコミュニケーションの発達							実技	中野 江美
14	ことばとコミュニケーションの発達							実技	中野 江美
15	まとめ・ふりかえり							実技	中野 江美
16	介護と看護・リハ職							実技	渡邊 ゆかり
17	排泄							実技	馬場 春奈
18	更衣介助							実技	久貝 明人
19	介護の基本							実技	亀谷 雄太郎
20	介護とコミュニケーション							実技	稲嶺 しおり
21	食事介助							実技	稲嶺 しおり
22	起居・移乗の介助							実技	金城 健太郎
23	ポジショニング							実技	金城 健太郎
24	入浴介助							実技	亀谷 雄太郎
25	介護基礎学総括							実技	久貝 明人
26	実技試験							実技	非常勤講師
27	学科試験							実技	非常勤講師
28	施設見学実習							実技	非常勤講師
29	施設見学実習							実技	非常勤講師
30	施設見学実習							実技	非常勤講師
<p>期末試験(50)% 提出物(10)% 小テスト()% 実技試験()%</p> <p>口頭試問()% 発表()% その他(中間の振り返り)(40)%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚士のための心理学			山田弘幸			医歯薬出版株式会社			

参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		
評価では試験結果を重視します。教科書や配布資料を中心に学習を進めてください。各、介助場面の中で、課題の特徴や介助方法だけでなく関わる対象者がどう感じているのか、どういう状況なのか等、個々に関心を向ける大切さを学んで欲しい。		

授業科目名	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学								
担当者	屋島 福太郎/ 江左 尚哉/ 山田 弦太/ 大門 勇太/ 非常勤講師/ 専任教員								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)一般耳鼻咽喉科学の基礎と臨床									
(到達目標)1.耳鼻咽喉科領域の発生、解剖と生理を理解する。 2.耳鼻咽喉科医の診察や診断、治療法について理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	耳 解剖 生理(聴覚生理・平衡生理)						講義	屋島 福太郎	
2	耳 診療法(診察・聴覚検査法・平衡機能検査・画像検査・治療法)						講義	屋島 福太郎	
3	耳 外耳疾患						講義	山田 弦太	
4	耳 中耳疾患						講義	山田 弦太	
5	耳 内耳疾患(先天性難聴 内耳炎 ウイルス性難聴 突発性難聴 音響外傷 老人性難聴 機						講義	屋島 福太郎	
6	耳 内耳疾患(BPPV メニエール病 前庭神経炎 外リンパ瘻 中毒性難聴 動揺病)						講義	屋島 福太郎	
7	耳 後迷路疾患 側頭骨骨折 顔面神経麻痺						講義	屋島 福太郎	
8	鼻 解剖 生理 診察法						講義	山田 弦太	
9	鼻 疾患:鼻腔 副鼻腔 顔面外傷 睡眠時無呼吸症候群						講義	山田 弦太	
10	口腔・咽頭 解剖 生理 診察法 疾患:扁桃 唾液 腫瘍 嚥下障害						講義	大門 勇太	
11	喉頭 解剖 生理 診察法						講義	大門 勇太	
12	喉頭 先天性疾患 外傷 炎症 腫瘍 喉頭麻痺						講義	大門 勇太	
13	気管・食道 解剖 生理 診察法 疾患						講義	江左 尚哉	
14	頸部 解剖 診察法 炎症 嚢胞 腫瘍						講義	江左 尚哉	
15	まとめ・ふりかえり						講義・試験	専任教員	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
病気がみえる vol.13			MWDICMEDIA						
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	臨床神経学								
担当者	伊泊 広二/ 奥村 須江子/ 喜久村 かおり/ 久高 将臣/ 専任教員/ 藤山 二郎								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)中枢神経の基礎を踏まえた上で、その疾患の症状や検査結果を概観し、病態についての基礎知識を習得する。									
(到達目標)1.神経疾患の知識を身につける 2.リハビリテーション専門職の立場で神経疾患やその症状による生活への影響を知る									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	総論:中枢神経系の解剖と機能						講義	藤山 二郎	
2	総論:神経学的検査法						講義	藤山 二郎	
3	総論:意識障害、運動麻痺、運動失調、感覚障害						講義	藤山 二郎	
4	総論:高次脳機能障害、構音・嚥下障害						講義	喜久村 かおり	
5	各論:脳血管障害 (脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、一過性脳虚血発作、その他)						講義	喜久村 かおり	
6	各論:認知症 (アルツハイマー型、脳血管性、クロイツフェルトヤコブ病、その他)						講義	藤山 二郎	
7	各論:脳腫瘍 グリオーマ、髄膜腫、転移性脳腫瘍、神経鞘腫、その他(水頭症など)						講義	伊泊 広二	
8	各論:外傷性脳損傷(脳挫傷、びまん性軸索損傷)、脊髄疾患						講義	伊泊 広二	
9	各論:変性疾患(脱髄性疾患、精髄小脳変性症と小脳萎縮、その他変性疾患 運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症、その他)、多発性硬化症、白質ジストロフィー、その他ニューロパチ-						講義	藤山 二郎	
10	各論:パーキンソン病・症候群 大脳基底核変性症(パーキンソン病、ハンチントン病、他)						講義	藤山 二郎	
11	各論:末梢神経障害(多発ニューロパチ-、多発根ニューロパチ-、その他ニューロパチ-) てんかん						講義	藤山 二郎	
12	各論:筋疾患(重症筋無力症、ミトコンドリア筋症、進行性筋ジストロフィー、多発筋炎) 感染性疾患(脳炎・髄膜炎、脳膿瘍、プリオン感染症)						講義	藤山 二郎	
13	各論:小児神経疾患						講義	藤山 二郎	
14	各論:神経疾患に多い合併症						講義	久高 将臣	
15	まとめ・ふりかえり						講義・試験	専任教員	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準PTOT 神経内科学						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									



授業科目名	形成外科学・臨床歯科口腔外科学								
担当者	非常勤講師								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)言語聴覚士に必要な形成外科学・歯科・口腔外科の知識を身につける									
(到達目標)1. STと歯科の関りを理解する。 2. 口腔領域の機能を理解する。 3. 口腔領域の疾患を理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	歯について						講義	非常勤講師	
2	う蝕と歯周病						講義	非常勤講師	
3	歯の発生と異常						講義	非常勤講師	
4	口腔・顔面・舌						講義	非常勤講師	
5	顔面・咽頭・咀嚼・嚙筋						講義	非常勤講師	
6	咀嚼機能について						講義	非常勤講師	
7	加齢による口腔機能障害						講義	非常勤講師	
8	唾液について						講義	非常勤講師	
9	総論:創傷治癒機転 形成外科・皮膚科・整形外科の守備範囲						講義	非常勤講師	
10	各論:頭部・眼瞼・鼻部・耳						講義	非常勤講師	
11	各論:顔面骨骨折・軀幹						講義	非常勤講師	
12	各論:形成・再建外科の実際(顎顔面、頭頸部を除く)						講義	非常勤講師	
13	口唇口蓋裂(1)						講義	非常勤講師	
14	口唇口蓋裂(2)						講義	非常勤講師	
15	まとめ・ふりかえり						講義・試験	非常勤講師	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
ナースのための新形成外科学									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
配布資料:「標準PTOT 内科」皮膚科学の際、使用 配布資料:系統看護学講座 専門 皮膚 成人看護学 皮膚科学の際、使用									

授業科目名	中枢神経機能学								
担当者									
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)リハビリテーションに必要な神経科学を学ぶ 脳や脳神経を中心にその機能を学ぶ									
(到達目標)1. 中枢神経の解剖学的名称を習得する。 2. 中枢神経の機能的な知識を得る事ができる。 3. 中枢神経を学ぶ楽しみを感じる事ができる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	神経の基礎						講義	宇杉 竜一	
2	神経系の構造						講義	宇杉 竜一	
3	大脳皮質、白質						講義	宇杉 竜一	
4	大脳基底核						講義	宇杉 竜一	
5	大脳辺縁系						講義	宇杉 竜一	
6	間脳(視床)						講義	宇杉 竜一	
7	脳幹、小脳、脊髄						講義	宇杉 竜一	
8	運動制御						講義	宇杉 竜一	
9	体性感覚						講義	宇杉 竜一	
10	視覚聴覚機能						講義	宇杉 竜一	
11	味覚嗅覚嚥下機能						講義	宇杉 竜一	
12	注意記憶機能						講義	宇杉 竜一	
13	言語機能						講義	宇杉 竜一	
14	脳の画像化						講義	宇杉 竜一	
15	まとめ・ふりかえり						講義・試験	宇杉 竜一	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
絵でみる脳と神経									
神経科学-脳の探求-									
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	聴覚医学								
担当者	専任教員/ 野澤 圭/ 屋島 福太郎/ 新崎 直輝								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	10	時間数	20	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要) 聴器の発生、構造・機能を部位ごとに詳細に解説した上で、病態についての理解を深める。									
(到達目標) 1. 聴器の解剖・生理、聴覚伝導路について理解を深める。 2. その上で聴覚障害に関連する疾患の病態を理解する。 3. 聴覚検査の検査結果を読み取る力を身につける。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	聴覚と平衡 1) 聴覚系の発生、構造と機能 2) 蝸牛機能 3) 聴覚中枢伝導路 4) 聴覚検査法							講義	新崎 直輝
2	聴覚と平衡 1) 平衡系の発生、構造と機能 2) 前庭、半規管の生理 3) 平衡機能検査法							講義	新崎 直輝
3	中耳・外耳疾患 1) 急性中耳炎 2) 滲出性中耳炎 3) 慢性中耳炎 4) 真珠腫性中耳炎 5) 中耳炎合併症							講義	新崎 直輝
4	中耳・外耳疾患 1) 耳硬化症 2) 外耳炎、外耳道異物 3) 側頭骨骨折 4) 中・外耳奇形							講義	野澤 圭
5	内耳疾患 1) 音響性難聴 2) 突発性難聴 3) 聴神経腫瘍 4) 内耳奇形 5) 遺伝性難聴							講義	野澤 圭
6	内耳疾患 1) メニエル病 2) 頭位変換性めまい 3) 前庭神経炎 4) 外リンパ瘻 5) その他(中枢性、起立性調節障害、 椎骨脳底動脈循環不全等)							講義	野澤 圭
7	顔面神経 1) 顔面神経の臨床解剖 2) 顔面神経の機能検査 3) 顔面神経麻痺の病態と治療、リハビリ							講義	屋島 福太郎
8	補聴器 1) 補聴器のしくみ 2) 補聴器の種類と特徴 3) 補聴器の調整 4) 身体障害者福祉法等関連法令							講義	屋島 福太郎

9	人工聴覚器 1) 小児難聴医療の取り組み (新生児聴覚スクリーニング、乳幼児健診) 2) 医学的適応(人工聴覚器と補聴器の境界) 3) 人工内耳 4) 人工中耳	講義	屋島 福太郎
10	まとめ・ふりかえり	講義・試験	専任教員
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%			
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
	書名	著者	出版社
参考書			
	書名	著者	出版社
	イラスト耳鼻科		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)			

授業科目名	臨床心理学								
担当者	松本 大進/ 長嶺 知里								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)何らかの心の問題を抱えた人々を理解するためには、心理学的なアプローチの方法を身に着ける必要がある。こころの病を理解するための異常心理学、アセスメントおよび心理療法の要点について理解する。									
(到達目標)1. 臨床心理学の基礎知識を解釈する。 2. 心理アセスメントを系統立てて説明できる。 3. 評価・アプローチの臨床を想像する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
臨床現場でも必要な知識ですが、国家試験でも出題頻度の高い科目です。居眠りしないように理解に努めてください。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	パーソナリティ						講義	長嶺 知里	
2	発達各期における心理臨床的問題						講義	長嶺 知里	
3	発達各期における心理臨床的問題(不登校を中心に)						講義	松本 大進	
4	異常心理						講義	長嶺 知里	
5	異常心理(PTSDを中心に)						講義	松本 大進	
6	異常心理						講義	長嶺 知里	
7	臨床心理学的アセスメント(発達検査)						講義	松本 大進	
8	臨床心理学的アセスメント(発達検査)						講義	長嶺 知里	
9	臨床心理学的アセスメント(知能検査)						講義	長嶺 知里	
10	臨床心理学的アセスメント(知能検査)						講義	長嶺 知里	
11	臨床心理学的アセスメント(パーソナリティ検査)						講義	長嶺 知里	
12	心理療法						講義	長嶺 知里	
13	心理療法(行動療法・認知療法)						講義	松本 大進	
14	心理療法						講義	長嶺 知里	
15	まとめ						講義・試験	長嶺 知里	
期末試験(75%)% 提出物(35%)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語聴覚士のための心理学 第2版			山田弘幸			医歯薬出版株式会社			
参考書									
書名			著者			出版社			
リハベーシック 心理学・臨床心理学			内山靖、藤井浩美、立石雅子			医歯薬出版株式会社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
配布資料と教科書を組み合わせて、復習を大切にしてください。									

授業科目名	生涯発達心理学								
担当者	中野 江美								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)生まれてから死ぬまでの生涯に渡る心身の様々な変化と、ライフステージごとの特徴と課題について学ぶ。では で学んだ内容を発達時期ごとに捉え直し、青年期以降の発達についても概観し、各発達時期で生じやすい心理臨床的問題についても扱っていく。									
(到達目標)1.各発達時期の特徴と課題について理解する。2.青年期の発達の特徴を理解し、自己理解を深める。3.各発達時期に生じやすい心理臨床的問題について関心を持ち、理解する。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
教科書持参のこと									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	各時期の特徴 胎児期～新生児期						講義		
2	各時期の特徴 乳児期						講義		
3	各時期の特徴 幼児期						講義	中野 江美	
4	各時期の特徴 幼児期						講義	中野 江美	
5	各時期の特徴 児童期						講義	中野 江美	
6	各時期の特徴 児童期						講義	中野 江美	
7	中間テスト						講義	中野 江美	
8	各時期の特徴 青年期						講義	中野 江美	
9	各時期の特徴 青年期						講義	中野 江美	
10	各時期の特徴 成人期						講義	中野 江美	
11	各時期の特徴 成人期						講義	中野 江美	
12	各時期の特徴 老年期						講義	中野 江美	
13	各時期の特徴 老年期						講義	中野 江美	
14	各時期における心理臨床的問題						講義	中野 江美	
15	期末試験						講義	中野 江美	
期末試験(45)% 提出物(5)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(中間の振り返り)(50)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
生涯発達心理学			前原武子			ナカニシヤ出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	言語発達学演習								
担当者	小渡 結佑								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)ことばは地球の中で人間だけが持つ奇跡の能力である。この講義では赤ちゃんがことばを獲得する神秘を科学的に検証し、そのことばがどのような過程を経て変化し活用されていくかを追いたいと考えている。									
(到達目標)1.人間がことばを獲得し活用するまでの過程を理解する。 2.どんな仕組みでことばを獲得するか理論的に考える。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	言語発達学演習のオリエンテーション						講義	小渡 結佑	
2	保育園、特別支援学校について						講義	小渡 結佑	
3	保育園実習にむけて事前学習						講義	小渡 結佑	
4	保育園実習①						演習	小渡 結佑	
5	保育園実習②						演習	小渡 結佑	
6	保育園実習③						演習	小渡 結佑	
7	保育園実習④						演習	小渡 結佑	
8	保育園実習後報告会						講義	小渡 結佑	
9	特別支援学校にむけての事前学習						講義	小渡 結佑	
10	特別支援学校実習①						実習	小渡 結佑	
11	特別支援学校実習②						実習	小渡 結佑	
12	特別支援学校実習③						実習	小渡 結佑	
13	特別支援学校実習④						実習	小渡 結佑	
14	実習後報告会準備						実習	小渡 結佑	
15	特別支援学校実習後報告会						発表	小渡 結佑	
期末試験(80)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(発表)(20)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
言語発達障害学 第2版						医学書院			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
試験と発表点で評価を行います。 講義の後半では実際に保育園に行き、子どもと触れ合いの中から課題を出しますので講義でもイメージしながら進めましょう。									

授業科目名	言語聴覚障害の評価と診断								
担当者	長嶺 知里								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標									
(概要)(概要)言語聴覚士および言語聴覚障害について総合的に理解する。									
(到達目標)(到達目標)1、言語聴覚士の仕事内容が分かる 2、スピーチチェーンを用いてコミュニケーション障害を理解出来る 3、言語聴覚障害の種類について大まかに説明出来る									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
言語障害について、文字で覚えるのではなく、患者様の家族へ説明できるようになる。学生同士協力して課題に取り組む。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	言語聴覚士が関わる領域～こどもからおとなまで～					講義	長嶺 知里		
2	言語とコミュニケーション					講義	長嶺 知里		
3	話し言葉・スピーチ(SPEECH)とは。それに必要な産出機構					講義	長嶺 知里		
4	食べる					講義	長嶺 知里		
5	聞く					講義	長嶺 知里		
6	言語・ランゲージ(LANGUAGE)とは。そして脳					講義	長嶺 知里		
7	失語症					講義	長嶺 知里		
8	まとめ					講義	長嶺 知里		
9	コミュニケーションに必要な要素					講義	長嶺 知里		
10	音声障害と吃音,構音障害					講義 発表	長嶺 知里		
11	摂食嚥下障害					講義 発表	長嶺 知里		
12	言語発達障害					講義 発表	長嶺 知里		
13	高次脳機能障害					講義 発表	長嶺 知里		
14	聴覚障害					講義 発表	長嶺 知里		
15	まとめ・ふりかえり					講義	長嶺 知里		
期末試験(40)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(20)% その他(中間まとめ)(40)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準言語聴覚障害学			藤田育代他			医学書院			
絵でわかる言語障害・言語のメカニズムから対応まで			毛束真知子			Gakken			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									
言語聴覚士の対象範囲、活躍の場は広いです。自分が言語聴覚士として活躍するイメージを持って、楽しく学んでほしい。									

授業科目名	失語・高次脳機能障害								
担当者	羽鳥 訓秀/ 下里 綱/ 長嶺 知里/ 比嘉 梓								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要) 失語・高次脳機能障害の定義や基本概念、神経心理学的な考え方について知る。 各々の症状、責任病巣、検査についての知識を身につける。									
(到達目標) 失語症の症状が説明出来る 失語症のタイプを分類することができる 様々な高次脳機能障害の定義、症状、責任病巣、発現メカニズムについて説明できる 各々の高次脳機能障害についての評価方法を選択できる									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
試験の受験資格は学則に順ずる。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	失語症とは? 失語症の定義について・原因疾患							講義	比嘉 梓
2	失語症の言語症状 聴く							講義	比嘉 梓
3	失語症の言語症状 -1 話す							講義	比嘉 梓
4	失語症の言語症状 読む							講義	比嘉 梓
5	失語症の言語症状 書く							講義	比嘉 梓
6	失語の言語症状まとめ・振り返り							講義、まとめ	比嘉 梓
7	定期試験A-1							試験	比嘉 梓
8	失語症の随伴症状・近縁症状とは失語症候群							講義	比嘉 梓
9	失語症候群 古典的分類から失語症を考える							講義	比嘉 梓
10	失語症候群 古典的分類から失語症を考える							講義	比嘉 梓
11	失語症候群 皮質下で起こる失語症							講義	比嘉 梓
12	失語症候群 交叉性失語症候群							講義	比嘉 梓
13	失語症候群 進行性失語/小児失語							講義	比嘉 梓
14	講義のまとめ・振り返り							講義、まとめ	比嘉 梓
15	定期試験A-2							試験	比嘉 梓
16	総論:高次脳機能障害とは							講義	長嶺 知里
17	総論:脳と高次脳機能							講義	長嶺 知里
18	視覚認知の障害							講義	長嶺 知里
19	視空間障害							講義	長嶺 知里
20	視覚認知の障害							講義	長嶺 知里
21	定期試験B-1							試験、まとめ	長嶺 知里
22	触覚認知の障害							講義	長嶺 知里
23	身体意識・病態認知の障害							講義	長嶺 知里
24	行為・動作の障害							講義	下里 綱
25	記憶障害							講義	長嶺 知里
26	前頭葉と高次脳機能障害							講義	長嶺 知里
27	脳梁離断症状							講義	長嶺 知里
28	認知症							講義	羽鳥 訓秀
29	脳外傷による高次脳機能障害、認知コミュニケーション障害							講義	長嶺 知里
30	定期試験B-2							試験、まとめ	長嶺 知里
期末試験()% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭質問()% 発表()% その他(定期試験1~4)(100)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版			編藤田郁代			医学書院			
標準言語聴覚障害学 失語症 第3版			藤田郁代編			医学書院			

参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
なるほど！失語症の評価と治療	小嶋知幸	金原出版株式会社
言語聴覚士ドリル+プラス	著宮元恵美	診断と治療社
病気がみえる		MEDICMEDIA
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	聴覚検査演習								
担当者	新城 亮太/ 小渡 結佑								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標									
(概要)聴覚検査は耳科領域の疾患の診断に用いられる。検査は目的ごといくつもある。その検査の方法を理解し、結果の解釈をするための知識を身につける。									
(到達目標)検査を正しい方法で実施し、結果を正しく解釈することができるようになる。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
聴覚検査の中には危険が伴うものもあることを理解し、検査は方法を守って慎重に行うこと。検査機器は注意深く丁寧に扱うこと。									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	純音聴力検査の方法 気導聴力検査 気導聴力検査のマスキング							講義	新城 亮太
2	気導聴力検査演習① 片耳							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
3	気導聴力検査演習① 片耳							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
4	気導聴力検査演習② 両耳							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
5	気導聴力検査演習② 両耳							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
6	純音聴力検査の方法 骨導聴力検査 骨導聴力検査のマスキング							講義	新城 亮太
7	骨導聴力検査演習① 片耳							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
8	骨導聴力検査演習① 片耳							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
9	骨導聴力検査演習② 両耳							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
10	骨導聴力検査演習② 両耳							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
11	純音聴力検査実技総合テスト							実技	新城 亮太/ 小渡 結佑
12	純音聴力検査実技総合テスト							実技	新城 亮太/ 小渡 結佑
13	演習その -1 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
14	演習その -1 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
15	演習その -2 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
16	演習その -2 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
17	演習その -1 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
18	演習その -1 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
19	演習その -2 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
20	演習その -2 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
21	演習その -1 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
22	演習その -1 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
23	演習その -2 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
24	演習その -2 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
25	演習その -1 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
26	演習その -1 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
27	演習その -2 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
28	演習その -2 (ABR、OAE・ティンパ・SR、SISI・自記、語音聴力・弁別)							演習	新城 亮太/ 小渡 結佑
29	振り返り、演習シート記入							演習	新城 亮太
30	最終試験、振り返り							講義	新城 亮太
期末試験 (50) % 提出物 (35) % 小テスト () % 実技試験 (15) % 口頭試問 () % 発表 () % その他 () () %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
聴覚検査の実際			日本聴覚医学会編			南山堂			
参考書									
書名			著者			出版社			

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		
演習シートは全てに合格の印鑑がもらえるように計画的に遂行して下さい。演習シートのファイルや講義ノートは国家試験勉強に使えるように整えておくこと。		

シラバス 2025

介護福祉学科

授業科目名	人間の尊厳と自立								
担当者	国吉 智恵								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)介護福祉を实践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。 一つは福祉理念の歴史の変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。 【ねらい】 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。</p>									
<p>(到達目標) (1)人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。 (2)人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できるようにする。</p>									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
出席状況（授業時間数の3分の2以上） 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	人間の尊厳について1					講義	国吉 智恵		
2	人間の尊厳について2					講義	国吉 智恵		
3	自立と自律1					講義	国吉 智恵		
4	自立と自律2					講義	国吉 智恵		
5	人権について1					講義	国吉 智恵		
6	人権について2					講義	国吉 智恵		
7	人権について3					講義	国吉 智恵		
8	人権について4					講義	国吉 智恵		
9	人間の尊厳と自立について1					講義	国吉 智恵		
10	人間の尊厳と自立について2					講義	国吉 智恵		
11	人間の尊厳と自立について3					講義	国吉 智恵		
12	人間の理解1					講義	国吉 智恵		
13	人間の理解2					講義	国吉 智恵		
14	人間の理解3					講義	国吉 智恵		
15	まとめ、試験					講義	国吉 智恵		
期末試験 (90) % 提出物 () % 小テスト () % 実技試験 () % 口頭試問 () % 発表 () % その他 (出席状況) (10) %									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
最新・介護福祉士養成講座「1 人間の理解」						中央法規出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	人間関係とコミュニケーション								
担当者	国吉 智恵								
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。 【ねらい】 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする</p>									
(到達目標)(1)人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できるようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	人間関係について1					講義	国吉 智恵		
2	人間関係について2					講義	国吉 智恵		
3	人間関係について3					講義	国吉 智恵		
4	人間関係について4					講義	国吉 智恵		
5	人間関係について5					講義	国吉 智恵		
6	コミュニケーションについて1					講義	国吉 智恵		
7	コミュニケーションについて2					講義	国吉 智恵		
8	コミュニケーションについて3					講義	国吉 智恵		
9	コミュニケーションについて4					講義	国吉 智恵		
10	コミュニケーションについて5					講義	国吉 智恵		
11	介護における尊厳の保持と自立支援1					講義	国吉 智恵		
12	介護における尊厳の保持と自立支援2					講義	国吉 智恵		
13	介護における尊厳の保持と自立支援3					講義	国吉 智恵		
14	介護における尊厳の保持と自立支援4					講義	国吉 智恵		
15	まとめ、試験					講義	国吉 智恵		
期末試験(90)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
最新・介護福祉士養成講座 「1 人間の理解」						中央法規出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	人間関係とコミュニケーション								
担当者	緒方 茂樹/ 徳盛 裕元/ 非常勤講師/ 富山 廣太								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。 【ねらい】 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。									
(到達目標)(2)介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活動等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォローシップ等、チーム運営の基本を理解できるようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	イントロダクション、システムについて						講義	緒方 茂樹	
2	システムについて						講義	緒方 茂樹	
3	システムについて						講義	緒方 茂樹	
4	施設管理の実際 特養 施設管理						講義	富山 廣太	
5	施設管理の実際 中間管理者 人材教育管理						講義	富山 廣太	
6	"						講義	富山 廣太	
7	"						講義	富山 廣太	
8	施設管理の実際 在宅 起業運営管理						講義	徳盛 裕元	
9	"						講義	徳盛 裕元	
10	対人援助に基づくロールプレイ						講義、演習	徳盛 裕元	
11	"						講義、演習	徳盛 裕元	
12	組織におけるコミュニケーション						講義、演習	徳盛 裕元	
13	"						講義、演習	徳盛 裕元	
14	まとめ、発表						講義、演習	徳盛 裕元	
15	まとめ、発表						講義、演習	徳盛 裕元	
期末試験(90)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
最新・介護福祉士養成講座 「1 人間の理解」						中央法規出版			
最新・介護福祉士養成講座 「5 コミュニケーション技術」						中央法規出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	社会の理解								
担当者	羽鳥 訓秀/ 具志堅 新志/ 国吉 智恵								
開講年次	1年,2年	開講期	1年前期,1年後期,2年前期	授業回数	30	時間数	60	単位数	
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。</p> <p>【ねらい】 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得とする学習とする。 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。</p>									
<p>(到達目標)(1)個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できるようにする。 (2)地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のため制度・施策を理解できるようにする。 (3)社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できるようにする。 (4)高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者福祉の現状と課題を理解できるようにする。 (5)障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉の現状と課題を理解できるようにする。 (6)人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解できるようにする。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	第1章 社会と生活のしくみ 第1節 活の基本機能、第2節 ライフスタイルの変化						講義	具志堅 新志	
2	第3節 家族の機能と役割、第4節 社会・組織の機能と役割						講義	具志堅 新志	
3	第5節 地域、地域社会、第6節 地域社会における生活支援						講義	具志堅 新志	
4	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 第1節 地域福祉の発展						講義	具志堅 新志	
5	第2節 地域共生社会						講義	具志堅 新志	
6	第3節 地域包括ケア						講義	具志堅 新志	
7	まとめ、試験						講義	具志堅 新志	
8	第4章 高齢者保健福祉と介護保険 高齢者保健福祉の動向						講義	羽鳥 訓秀	
9	高齢者保健福祉に関する法的系						講義	羽鳥 訓秀	
10	介護保険制度1 介護保険制度の創設の背景						講義	羽鳥 訓秀	
11	介護保険制度2 社会保障全体からみた立ち位置						講義	羽鳥 訓秀	
12	介護保険制度3 介護保険制度のサービス種類等						講義	羽鳥 訓秀	
13	介護保険制度4 介護保険サービス内容等						講義	羽鳥 訓秀	
14	介護保険制度5 介護保険制度のまとめ						講義	羽鳥 訓秀	
15	まとめ、試験						講義	羽鳥 訓秀	
16	第3章 社会保障制度 第1節 社会保障の基本的な考え方(目的・機能・範囲)						講義	国吉 智恵	
17	第3節 日本の社会保障制度のしくみ 社会保障制度の基礎理解(自己負担)、年金制度						講義	国吉 智恵	
18	第2節 日本の社会保障制度の発達 年金制度						講義	国吉 智恵	
19	第4節 現代社会と社会保障制度 医療保険制度						講義	国吉 智恵	
20	第6章 介護実践に関する諸制度 第1節 個人の権利を守る制度、第2節 保健医療に関する制度 雇用・労災制度、豆テスト(年金・医療)						講義	国吉 智恵	
21	第3節 貧困と生活困窮に関する制度、第4節 地域生活を支援する制度 生活保護法、生活困窮者支援法						講義	国吉 智恵	
22	社会保障制度の歴史、まとめ、試験						講義	国吉 智恵	
23	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 障害者保健福祉の動向、障害者の定義						講義	羽鳥 訓秀	
24	障害者保健福祉に関する制度1 障害の定義とは						講義	羽鳥 訓秀	
25	障害者保健福祉に関する制度2 障害者総合支援法(旧法含む)						講義	羽鳥 訓秀	
26	障害者保健福祉に関する制度3 障害者総合支援法(制度内容、種類)						講義	羽鳥 訓秀	

27	障害者総合支援制度1 障害者総合支援法の手続き、介護実践に関する諸制度	講義	羽鳥 訓秀
28	障害者総合支援制度2 介護実践に関連する諸制度について	講義	羽鳥 訓秀
29	障害者総合支援制度3 障がい福祉分野のまとめ	講義	羽鳥 訓秀
30	まとめ、試験	講義	羽鳥 訓秀
期末試験(90)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表()% その他(出席状況)(10)%			
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
	書名	著者	出版社
	最新・介護福祉士養成講座 「2 社会と制度の理解」		中央法規出版
参考書			
	書名	著者	出版社
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)			

授業科目名	介護の基本								
担当者	安里 初乃/ 池原 大介/ 渡慶次 司								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	45	時間数	90	単位数	
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。</p> <p>・介護福祉士法の立案月に「介護デー」と題し、福祉施設を見聞し福祉精神の涵養を図る。</p> <p>・医療福祉の施設を見学し、介護を必要とする人の理解、施設の概要や場の特性等を学ぶ。</p> <p>【ねらい】</p> <p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>(到達目標)(1)複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できるようにする。</p> <p>(2)地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できるようにする。</p> <p>(3)介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。</p> <p>(4)ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できるようにする。</p> <p>(5)介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できるようにする。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験 発表会企画・運営・レポート									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	介護デー (一日体験ボランティア学習:介護を必要とする人の実際の生活を学ぶ)							渡慶次 司	
2	介護デー							渡慶次 司	
3	介護デー							渡慶次 司	
4	介護デー							渡慶次 司	
5	介護デー報告会準備							渡慶次 司	
6	介護デー報告会準備							渡慶次 司	
7	介護デー報告会準備							渡慶次 司	
8	介護デー報告会							渡慶次 司	
9	介護デー報告会							渡慶次 司	
10	介護デー報告会							渡慶次 司	
11	介護デー報告会							渡慶次 司	
12	点字図書館の変遷について							渡慶次 司	
13	救護園の変遷について(よみたん救護園、いしみね救護園)							渡慶次 司	
14	生活支援における福祉用具の重要性							安里 初乃/ 渡慶次 司	
15	福祉用具の種類、適切な福祉用具を選ぶための視点							安里 初乃/ 渡慶次 司	
16	尊厳を支える介護 (介護のイメージ、介護とは何か、お世話と介護の違い)							渡慶次 司	
17	尊厳を支える介護 (高齢化率、ADL、IADL、QOLについて)							渡慶次 司	
18	尊厳を支える介護 (生活にとって大切な要素について)							渡慶次 司	
19	介護を必要とする人の理解 (障がいをもった人の暮らしを支える介護について)							渡慶次 司	
20	尊厳を支える介護とは (介護デー実習の内容をグループで共有する)							渡慶次 司	
21	介護福祉士を取り巻く状況 (日本の介護の歴史・介護問題の背景等)							渡慶次 司	
22	介護福祉士を取り巻く状況 (日本の介護の歴史・介護問題の背景等)							渡慶次 司	
23	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ (社会福祉士及び介護福祉士法の改正)							渡慶次 司	
24	ノーマライゼーションの考え方、ノーマライゼーションの実現、その他							渡慶次 司	
25	利用者主体の考え方とその具体的な取り組み							渡慶次 司	
26	介護を必要とする人の理解 (居宅介護生活の実際をビデオ視聴から学ぶ)							渡慶次 司	
27	介護を必要とする人の理解 (Aさんのケースから学ぶ)							渡慶次 司	
28	介護サービス (介護保険サービスの種類:施設・居宅・地域密着型サービス)							渡慶次 司	
29	介護サービス (介護保険サービスのまとめ)							渡慶次 司	
30	まとめ、試験							渡慶次 司	
31	自立に向けた介護 (ICFの考え方、ICFのモデルの基本的特徴の理解)							渡慶次 司	

32	自立に向けた介護 (リハビリテーションの考え方・概念・実際)		渡慶次 司
33	介護従事者の倫理 (職業倫理、介護と人権、介護福祉士の倫理性)		渡慶次 司
34	介護従事者の倫理 (利用者の人権と介護、身体拘束禁止、高齢者虐待)		渡慶次 司
35	自立に向けた介護 (自立支援・自己選択、自立支援の考え方、その他)		渡慶次 司
36	自立に向けた介護 (個別ケアの考え方、個別ケアの具体的展開、その他)		渡慶次 司
37	まとめ(試験)		渡慶次 司
38	介護実践における連携 (生活課題解決の多職種連携の必要性を学ぶ)		渡慶次 司
39	介護実践における連携 (事例をもとにグループ演習、まとめ、発表)		渡慶次 司
40	生活障害の理解と生活環境の重要性 (望ましい生活環境を整えることの大切さを学ぶ)		渡慶次 司
41	介護従事者の安全 (介護従事者の身体への健康障害の現状について)		渡慶次 司
42	介護従事者の安全 (ノーリフティングポリシーに基づいた移動・移乗介助)		渡慶次 司
43	介護従事者の安全 (ノーリフティングポリシーに基づいた移動・移乗介助)		渡慶次 司
44	地域密着型サービス(小規模多機能型居住介護、認知症対応型共同生活介護)		渡慶次 司
45	まとめ(試験)		渡慶次 司
期末試験(60)% 提出物(30)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況) (10)%			
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			

教科書

書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座「介護の基本」		中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座「介護の基本」		中央法規出版

参考書

書名	著者	出版社

教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)

授業科目名	介護の基本								
担当者	池原 大介/ 渡慶次 司/ 藤田 次郎								
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	45	時間数	90	単位数	
授業の概要・到達目標									
<p>(概要)介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支える仕組み、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。</p> <p>・介護福祉法の立案月に「介護デー」と題し、福祉施設を見聞し福祉精神の涵養を図る。</p> <p>・医療福祉の施設を見学し、介護を必要とする人の理解、施設の概要や場の特性等を学ぶ。</p> <p>他の領域の専門性を取り入れ、生活支援の視点から統合されることの重要性を学び、生活支援を行うための根拠となる知識を習得する。</p> <p>【ねらい】</p> <p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>(到達目標)(6)介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できるようにする。</p> <p>(7)多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できるようにする。</p> <p>(8)介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。</p> <p>(9)介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。</p> <p>・他の領域で学んだ「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の視点から介護の専門性を理解し、生活支援の根拠が説明できる。</p> <p>・さまざまな状態・状況にある「利用者理解」と、それをもとにした「利用者にあった生活支援技術・その根拠」を広く学ぶことによって、求められている介護福祉士像に一步近づくことができる。</p>									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)</p> <p>授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p> <p>発表会企画・運営・レポート</p>									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	介護デー (一日体験ボランティア学習;介護を必要とする人の実際の生活を学ぶ)							池原 大介	
2	介護デー							池原 大介	
3	介護デー							池原 大介	
4	介護デー							池原 大介	
5	介護デー報告会・準備							池原 大介	
6	介護デー報告会・準備							池原 大介	
7	介護デー報告会・準備							池原 大介	
8	介護デー報告会							池原 大介	
9	介護デー報告会							池原 大介	
10	介護デー報告会							池原 大介	
11	介護デー報告会							池原 大介	
12	介護保険施設見学 (介護医療院)							池原 大介	
13	介護保険施設見学 (介護医療院)							池原 大介	
14	介護保険施設見学 (介護医療院)							池原 大介	
15	介護保険施設見学 (介護医療院)							池原 大介	
16	介護デーオリエンテーション							池原 大介	
17	職業倫理							池原 大介	
18	介護実践における連携							池原 大介	
19	介護実践における連携							池原 大介	
20	介護における安全の確保とリスクマネジメント(安全管理、対策)							池原 大介	
21	介護における安全の確保とリスクマネジメント(安全管理、対策)							池原 大介	
22	介護サービス提供の場の特性(障害サービス)							池原 大介	
23	介護における安全の確保とリスクマネジメント(感染管理、対策)							池原 大介/ 藤田 次郎	
24	介護における安全の確保とリスクマネジメント(感染管理、対策)							池原 大介	
25	介護にかかわる人の健康管理、労働環境							池原 大介	
26	介護にかかわる人の健康管理、労働環境							池原 大介	
27	まとめ(試験)							池原 大介	
28	介護サービス提供の場の特性(介護老人福祉施設)							池原 大介	

29	介護サービス提供の場の特性(介護老人福祉施設)		池原 大介
30	介護サービス提供の場の特性(訪問介護)		池原 大介
31	まとめの学習		池原 大介
32	まとめの学習		池原 大介
33	まとめの学習		池原 大介
34	まとめの学習		池原 大介
35	まとめの学習		池原 大介
36	まとめの学習		池原 大介
37	まとめの学習		池原 大介
38	まとめの学習		池原 大介
39	まとめの学習		池原 大介
40	まとめの学習		池原 大介
41	まとめの学習		池原 大介
42	まとめの学習		池原 大介
43	まとめの学習		池原 大介
44	まとめの学習		池原 大介
45	まとめの学習		池原 大介

期末試験 (60) % 提出物 (30) % 小テスト () % 実技試験 () %
 口頭試問 () % 発表 () % その他 (出席状況) (10) %

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教科書

書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座	「3 介護の基本」	中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座	「4 介護の基本」	中央法規出版

参考書

書名	著者	出版社

教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)

--

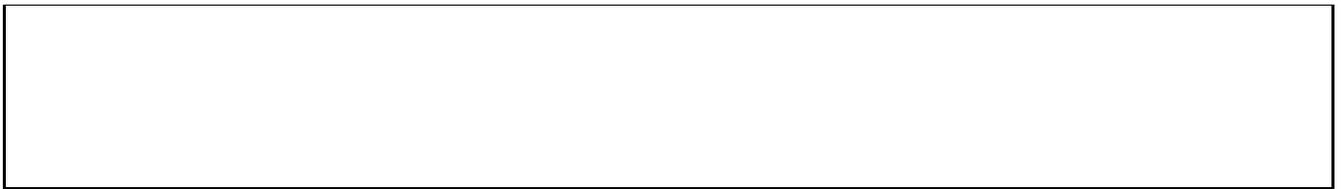
授業科目名	コミュニケーション技術								
担当者	具志堅 新志/ 池原 大介/ 渡慶次 司								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)(概要)コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。									
(到達目標)[ねらい] 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	コミュニケーションについて、自己紹介・他己紹介								渡慶次 司/ 池原 大介
2	介護におけるコミュニケーションの意義と目的、支援の対象、援助関係								池原 大介
3	コミュニケーション態度に関する基本技術(自己覚知、受容・共感・傾聴)、話を聴く態度								池原 大介
4	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本、動機づけとは(外発的動機づけ・内発的動機づけ)								渡慶次 司
5	目的別のコミュニケーション技術・ものの見方、非合理的な信念と合理的な信念、リフレーミング								渡慶次 司
6	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション技術 第1節コミュニケーション障害への対応の基本								具志堅 新志
7	第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援								具志堅 新志
8	第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援								具志堅 新志
9	第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援								具志堅 新志
10	第4章 家族とのコミュニケーション								具志堅 新志
11	利用者の特性(状況・状態)に応じたコミュニケーション技法								池原 大介
12	1. コミュニケーション障害の理解								池原 大介
13	2. コミュニケーション障害のある利用者への対応								池原 大介
14	ロールプレイ、討議法、プロセスレコード								池原 大介
15	まとめ・試験								池原 大介
16	第5章 介護におけるチームのコミュニケーション 第1節 チームのコミュニケーションとは								池原 大介
17	第2節 報告・連絡相談の技術								池原 大介
18	第2節 報告・連絡相談の技術 演習								池原 大介
19	第3節 記録の技術 記録の意義・目的・記録の種類								池原 大介
20	第3節 記録の方法と書き方、記録の実際								池原 大介
21	第3節 記録の実際								池原 大介
22	第4節 会議・議事進行・説明の技術、 第6節 情報の活用と管理のための技術								池原 大介
23	第5節 事例検討に関する技術								池原 大介
24	第5節 事例検討に関する技術、演習								池原 大介
25	まとめ・試験								池原 大介
26	記録活用・情報の保護と管理、情報通信技術(IT) 1. 介護記録項目や帳票のカスタマイズ								池原 大介
27	2. ロボット介護機器とセンサー								池原 大介
28	3. 介護ICT/IOLに必要なネット環境システム連携								池原 大介
29	4. 介護ビッグデータ								池原 大介
30	5. 介護AI まとめ・試験								池原 大介
期末試験(90)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()%									
口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									

教科書		
書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座		
参考書		
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	生活支援技術A(生活・移動)								
担当者	安里 初乃/ 宮城 祥子/ 城田 紘行/ 池原 大介/ 渡慶次 司/ 比嘉 寛								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】									
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・実技試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	生活を支援する視点、生活支援の基本的な考え方 家庭生活の理解(家事の意義と目的) 家事支援における介護技術(調理・洗濯・掃除・ごみ捨て・衣類の管理) " (買い物・家庭経営・家計の管理)								宮城 祥子
2	生活を支援する視点、生活支援の基本的な考え方 家庭生活の理解(家事の意義と目的) 家事支援における介護技術(調理・洗濯・掃除・ごみ捨て・衣類の管理) " (買い物・家庭経営・家計の管理)								宮城 祥子
3	生活を支援する視点、生活支援の基本的な考え方 家庭生活の理解(家事の意義と目的) 家事支援における介護技術(調理・洗濯・掃除・ごみ捨て・衣類の管理) " (買い物・家庭経営・家計の管理)								宮城 祥子
4	生活を支援する視点、生活支援の基本的な考え方 家庭生活の理解(家事の意義と目的) 家事支援における介護技術(調理・洗濯・掃除・ごみ捨て・衣類の管理) " (買い物・家庭経営・家計の管理)								宮城 祥子
5	まとめ・試験								宮城 祥子
6	移動の意義と目的・演習 車椅子の名称、車椅子での移動 ・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等) 歩行介助・杖歩行 {3動作歩行、障害物(段差や溝)越え、 階段(段差)の上り下り}の介助等								安里 初乃/ 池原 大介/ 渡慶次 司/ 比嘉 寛
7	移動の意義と目的・演習 車椅子の名称、車椅子での移動 ・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等) 歩行介助・杖歩行 {3動作歩行、障害物(段差や溝)越え、 階段(段差)の上り下り}の介助等								安里 初乃/ 池原 大介/ 渡慶次 司/ 比嘉 寛
8	移動の意義と目的・演習 車椅子の名称、車椅子での移動 ・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等) 歩行介助・杖歩行 {3動作歩行、障害物(段差や溝)越え、 階段(段差)の上り下り}の介助等								安里 初乃/ 池原 大介/ 渡慶次 司/ 比嘉 寛
9	移動の意義と目的・演習 車椅子の名称、車椅子での移動 ・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等) 歩行介助・杖歩行 {3動作歩行、障害物(段差や溝)越え、 階段(段差)の上り下り}の介助等								安里 初乃/ 比嘉 寛

10	移動の意義と目的・演習 車椅子の名称、車椅子での移動 ・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等) 歩行介助・杖歩行 {3動作歩行、障害物(段差や溝)越え、 階段(段差)の上り下り}の介助等		安里 初乃/比嘉 寛
11	移動の意義と目的・演習 車椅子の名称、車椅子での移動 ・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等) 歩行介助・杖歩行 {3動作歩行、障害物(段差や溝)越え、 階段(段差)の上り下り}の介助等		安里 初乃/比嘉 寛
12	移動の意義と目的・演習 車椅子の名称、車椅子での移動 ・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等) 歩行介助・杖歩行 {3動作歩行、障害物(段差や溝)越え、 階段(段差)の上り下り}の介助等		安里 初乃/比嘉 寛
13	移動の意義と目的・演習 車椅子の名称、車椅子での移動 ・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等) 歩行介助・杖歩行 {3動作歩行、障害物(段差や溝)越え、 階段(段差)の上り下り}の介助等		安里 初乃/比嘉 寛
14	移動の意義と目的・演習 車椅子の名称、車椅子での移動 ・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等) 歩行介助・杖歩行 {3動作歩行、障害物(段差や溝)越え、 階段(段差)の上り下り}の介助等		安里 初乃/比嘉 寛
15	まとめ・試験		安里 初乃
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験(40)% 口頭試験()% 発表()% その他(出席状況)(10)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
書名		著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術」			中央法規出版
「7 生活支援技術」、「8 生活支援技術」			中央法規出版
参考書			
書名		著者	出版社
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)			

授業科目名	生活支援技術B（環境・睡眠）								
担当者	安里 初乃/ 池原 大介/ 渡慶次 司								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】									
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。 (4)健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解できるようにする。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・実技試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	・ベッドメイキングの意義と目的・寝具の選択,リネン類のたたみ方,必要物品,その他の留意点、デモンストレーション ・環境整備の意義と方法							講義・実技	渡慶次 司/ 池原 大介
2	・ベッドメイキングの意義と目的・寝具の選択,リネン類のたたみ方,必要物品,その他の留意点、デモンストレーション ・環境整備の意義と方法							実技	渡慶次 司/ 池原 大介
3	・ベッドメイキングの意義と目的・寝具の選択,リネン類のたたみ方,必要物品,その他の留意点、デモンストレーション ・環境整備の意義と方法							実技	渡慶次 司/ 池原 大介
4	・ベッドメイキングの意義と目的・寝具の選択,リネン類のたたみ方,必要物品,その他の留意点、デモンストレーション ・環境整備の意義と方法							実技	渡慶次 司/ 池原 大介
5	ベッドメイキングの実際							実技	渡慶次 司/ 安里 初乃
6	ベッドメイキングの実際							実技	渡慶次 司/ 安里 初乃
7	ベッドメイキングの実際							実技	渡慶次 司/ 安里 初乃
8	ベッドメイキングの実際							実技	安里 初乃/ 池原 大介
9	ベッドメイキング(実技試験)							実技	安里 初乃/池原 大介/渡慶次 司/中田 正珠
10	ベッドメイキング(実技試験)							実技	安里 初乃/池原 大介/渡慶次 司/中田 正珠
11	ベッドメイキング(実技試験)							実技	安里 初乃/池原 大介/渡慶次 司/中田 正珠
12	ベッドに臥床している人がいる場合のシーツ交換の実際							実技	安里 初乃/池原 大介/渡慶次 司/中田 正珠
13	ベッドに臥床している人がいる場合のシーツ交換の実際							実技	安里 初乃/池原 大介/渡慶次 司/中田 正珠
14	ベッドに臥床している人がいる場合のシーツ交換の実際							実技	安里 初乃/池原 大介/渡慶次 司/中田 正珠
15	ベッドに臥床している人がいる場合のシーツ交換の実際							実技、講義	安里 初乃/池原 大介/渡慶次 司/中田 正珠
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験(40)% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術」						中央法規出版			
「7 生活支援技術」、「8 生活支援技術」						中央法規出版			
参考書									
書名			著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									



授業科目名	生活支援技術C(食事・調理)								
担当者	安里 初乃/ 金城 典子/ 池原 大介/ 渡慶次 司								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】									
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。 (3)生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得できるようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・実技試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント 食事介助の実際(おいしく食べることを支える食事の支援) 誤嚥・窒息・脱水の予防のための日常生活の留意点、他職種連携協働							渡慶次 司/ 池原 大介	
2	食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント 食事介助の実際(おいしく食べることを支える食事の支援) 誤嚥・窒息・脱水の予防のための日常生活の留意点、他職種連携協働							渡慶次 司/ 池原 大介	
3	食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント 食事介助の実際(おいしく食べることを支える食事の支援) 誤嚥・窒息・脱水の予防のための日常生活の留意点、他職種連携協働							渡慶次 司/ 池原 大介	
4	食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント 食事介助の実際(おいしく食べることを支える食事の支援) 誤嚥・窒息・脱水の予防のための日常生活の留意点、他職種連携協働							渡慶次 司/ 池原 大介	
5	食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント 食事介助の実際(おいしく食べることを支える食事の支援) 誤嚥・窒息・脱水の予防のための日常生活の留意点、他職種連携協働							池原 大介/ 渡慶次 司	
6	食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント 食事介助の実際(おいしく食べることを支える食事の支援) 誤嚥・窒息・脱水の予防のための日常生活の留意点、他職種連携協働							渡慶次 司/ 池原 大介	
7	口腔ケアの基礎と実際(ブラッシング) 口腔ケアの実際(口腔清拭、義歯の取り扱い)まとめ							渡慶次 司/ 池原 大介	
8	食事・口腔ケアのまとめ・試験							安里 初乃	
9	弁当の日,オリエンテーション							金城 典子	
10	栄養素について							金城 典子	
11	献立の立て方,食品の購入・保存							金城 典子	
12	調理の基本							金城 典子	
13	高齢者の栄養と食							金城 典子	
14	疾患と食事							金城 典子	
15	まとめ、試験							金城 典子	
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験(40)% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術」						中央法規出版			
「7 生活支援技術」「8 生活支援技術」						中央法規出版			
参考書									
書名			著者			出版社			

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	生活支援技術D (身じたく・手話)								
担当者	春日 晴樹/ 渡慶次 司/ 池原 大介								
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	15	時間数	30	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】									
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・実技試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	身だしなみの意義と目的・実際(ひげや爪の手入れ,化粧) 身だしなみの実際						渡慶次 司/ 池原 大介		
2	身だしなみの意義と目的・実際(ひげや爪の手入れ,化粧) 身だしなみの実際						渡慶次 司/ 池原 大介		
3	身だしなみの意義と目的・実際(洗髪) 身だしなみの実際						渡慶次 司/ 池原 大介		
4	身だしなみの意義と目的・実際(洗髪) 身だしなみの実際						渡慶次 司/ 池原 大介		
5	まとめ、筆記試験						渡慶次 司/ 池原 大介		
6	手話は世界共通かどうか,ろう教育と手話について,数字の表現方法						春日 晴樹		
7	指文字の練習 学科試験の内容と学習・挨拶の練習						春日 晴樹		
8	指文字の練習 プリント単語練習						春日 晴樹		
9	前回までの復習						春日 晴樹		
10	実技試験練習 自己紹介(名前,住所,家族,趣味)						春日 晴樹		
11	介護に必要な単語・医療用語						春日 晴樹		
12	指文字,住所(地名),趣味,色の練習						春日 晴樹		
13	復習,実技試験で気をつけること						春日 晴樹		
14	まとめ、実技・筆記試験						春日 晴樹		
15	まとめ、実技・筆記試験						春日 晴樹		
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験(40)% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者			出版社				
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術」					中央法規出版				
「7 生活支援技術」、「8 生活支援技術」					中央法規出版				
参考書									
書名		著者			出版社				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	生活支援技術E（排泄・住居）																				
担当者	安里 初乃/ 松本 京子/ 池原 大介/ 渡慶次 司/ 平田 正見																				
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数													
授業の概要・到達目標																					
(概要)生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】																					
(到達目標)(1)生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できるようにする。 (2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。																					
履修における注意事項（受講ルールなど）																					
出席状況（授業時間数の3分の2以上） 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・実技試験																					
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。																					
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者														
1	排泄の意義と目的・実際、アセスメントの視点 排泄を支える介護の工夫(我慢させない工夫,羞恥心に配慮した排泄できる環境づくり・安全・的確な排泄の介助の技法(トイレ、ポータブルトイレ)					講義・演習	池原 大介/ 平田 正見														
2	排泄の意義と目的・実際、アセスメントの視点 排泄を支える介護の工夫(我慢させない工夫,羞恥心に配慮した排泄できる環境づくり・安全・的確な排泄の介助の技法(トイレ、ポータブルトイレ)					実技	安里 初乃/ 平田 正見														
3	排泄の意義と目的・実際、アセスメントの視点 排泄を支える介護の工夫(我慢させない工夫,羞恥心に配慮した排泄できる環境づくり・安全・的確な排泄の介助の技法(トイレ、ポータブルトイレ)					実技	安里 初乃/ 池原 大介/ 平田 正見														
4	排泄を支える介護の工夫(採尿器・差し込み便器)					演習・実技	城田 隼行/ 安里 初乃/ 池原 大介														
5	排泄を支える介護の工夫(採尿器・差し込み便器)					実技	城田 隼行/ 安里 初乃														
6	排泄を支える介護の工夫(採尿器・差し込み便器)					実技	城田 隼行/ 安里 初乃/ 池原 大介														
7	まとめ、試験						安里 初乃														
8	住環境の整備の意義と目的						松本 京子														
9	安心して快適な生活の場作り						松本 京子														
10	住まいの役割と機能						松本 京子														
11	快適な屋内環境						渡慶次 司														
12	安全に暮らすための生活環境						池原 大介/ 渡慶次 司														
13	居住環境の設備における多職種との連携						池原 大介/ 渡慶次 司														
14	生活支援における福祉用具の重要性						池原 大介/ 渡慶次 司														
15	まとめ、課題・試験						安里 初乃														
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験(40)% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)%																					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。																					
教科書																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術」</td> <td></td> <td>中央法規出版</td> </tr> <tr> <td>「7 生活支援技術」、「8 生活支援技術」</td> <td></td> <td>中央法規出版</td> </tr> </tbody> </table>										書名	著者	出版社	最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術」		中央法規出版	「7 生活支援技術」、「8 生活支援技術」		中央法規出版			
書名	著者	出版社																			
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術」		中央法規出版																			
「7 生活支援技術」、「8 生活支援技術」		中央法規出版																			
参考書																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										書名	著者	出版社									
書名	著者	出版社																			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）																					

授業科目名	生活支援技術F（入浴・清潔）								
担当者	安里 初乃/ 池原 大介/ 渡慶次 司/ 平田 正見								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	15	時間数	30	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】									
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・実技試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	入浴の意義と目的・演習・アセスメント・安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 特殊浴槽 シャワー浴					講義・演習	平田 正見		
2	入浴の意義と目的・演習・アセスメント・安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 特殊浴槽 シャワー浴					実技	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
3	入浴の意義と目的・演習・アセスメント・安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 特殊浴槽 シャワー浴					実技	平田 正見/安里 初乃		
4	入浴の意義と目的・演習・アセスメント・安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 特殊浴槽 シャワー浴					実技	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
5	全身清拭デモンストレーション・アセスメント					講義・演習	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
6	全身清拭デモンストレーション・アセスメント					実技	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
7	全身清拭デモンストレーション・アセスメント					実技	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
8	全身清拭デモンストレーション・アセスメント					実技	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
9	全身清拭実習					実技	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
10	全身清拭実習					実技	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
11	全身清拭実習					実技	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
12	全身清拭実習					実技	平田 正見/池原 大介/安里 初乃		
13	部分浴の実際(手浴,足浴等)					実技	渡慶次 司/安里 初乃		
14	部分浴の実際(手浴,足浴等)					実技	渡慶次 司/安里 初乃		
15	まとめ、試験					実技・講義	安里 初乃		
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験(40)% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者			出版社				
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術」					中央法規出版				
「7 生活支援技術」、「8 生活支援技術」					中央法規出版				
参考書									
書名		著者			出版社				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)									

授業科目名	生活支援技術G(着脱・被服)								
担当者	安里 初乃/ 宮城 祥子/ 池原 大介/ 渡慶次 司/ 比嘉 寛								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。									
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・実技試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛	
2	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
3	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
4	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
5	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
6	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
7	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
8	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
9	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
10	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
11	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
12	衣服の着脱の意義と目的・実際 (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
13	衣服の着脱の介助の実際、まとめ							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
14	衣服の着脱の介助の実際、まとめ							比嘉 寛/池原 大介/安里 初乃	
15	衣服の着脱の介助の実際、まとめ(試験)							安里 初乃	
16	家事支援における介護技術・オリエンテーション							宮城 祥子	
17	家事支援における介護技術 1							宮城 祥子	
18	" 2							宮城 祥子	
19	" 3							宮城 祥子	
20	" 4							宮城 祥子	
21	基礎縫い - 1							宮城 祥子	

22	- 2		宮城 祥子
23	- 3		宮城 祥子
24	ミシン操作		宮城 祥子
25	"		宮城 祥子
26	ボタンホール,ホック等		宮城 祥子
27	"		宮城 祥子
28	課題作品作成		宮城 祥子
29	"		宮城 祥子
30	まとめ・試験		宮城 祥子
期末試験 (50) % 提出物 () % 小テスト () % 実技試験 (40) % 口頭試問 () % 発表 () % その他 (出席状況) (10) %			
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			

教科書

書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座「8 生活支援技術」		中央法規出版 2020年
講師持参印刷資料		

参考書

書名	著者	出版社

教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)

--

授業科目名	生活支援技術統合（形態機能別、福祉用具・総合実技）								
担当者	安里 初乃/ 伊波 翔吾/ 金城 知子/ 山内 満美/ 城間 真喜子/ 池原 大介/ 仲井間 憲吾/ 渡慶次 司								
開講年次	1年,2年	開講期	1年後期,2年前期,2年後期	授業回数	30	時間数	60	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】									
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。 (5)人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解できるようにする。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・実技試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	実技試験デモンストレーション ・事例(障害のある利用者の介護)							実技・演習	池原 大介/ 山内 満美/ 渡慶次 司
2	実技試験の演習 ・事例(障害のある利用者の介護)							実技・演習	池原 大介/ 山内 満美/ 渡慶次 司
3	実技試験の演習 ・事例(障害のある利用者の介護)							実技・演習	池原 大介/ 山内 満美/ 渡慶次 司
4	実技試験の演習 ・事例(障害のある利用者の介護)							実技・演習	池原 大介/ 山内 満美/ 渡慶次 司
5	まとめ・試験							実技試験	池原 大介/ 山内 満美/ 渡慶次 司
6	・リフトリーダーとしての役割と心構え ・腰痛予防対策等について							講義	金城 知子
7	・介護者の腰痛発生状況とその原因 ・腰痛予防に関する法令、指針等 ・腰痛予防策 ・労働衛生管理の進め方 ・機器導入効果の検証方法							講義	金城 知子
8	・吊具の種類と特徴 ・リフトの種類と特徴 ・介護作業のアセスメント							講義・演習	金城 知子
9	・スライディングボード ・スライディングシート ・マルチグローブ ・電動ベッド							講義・演習	金城 知子
10	・リフト等の使い方 ・リフト等の指導方法 ・機種別(選択)実技							講義・演習	金城 知子
11	・リフト等の使い方 ・リフト等の指導方法 ・機種別(選択)実技							講義・演習	金城 知子
12	・リフト等の事故事例 ・リフト等導入の取り組み事例							講義・演習	金城 知子
13	まとめ・試験							実技試験	金城 知子
14	視覚障害のある人の介護の実際 ・講義オリエンテーション							講義	池原 大介
15	点字について 五十音・氏名							実技・演習	池原 大介
16	視覚障害者移動介助の基本的な留意点							実技・演習	池原 大介
17	屋内歩行 廊下・階段実技							実技・演習	池原 大介
18	屋外歩行の実技 白杖操作・単独歩行実技							実技・演習	池原 大介
19	屋外車いす介助 買い物支援							実技・演習	池原 大介
20	まとめ・筆記試験								
21	終末期における介護の意義と目的・アセスメント							講義	池原 大介/ 山内 満美
22	医療との連携 終末期における介護・臨終時の介護(ビデオ視聴) ・沖縄県内の葬祭の違い ・他都道府県との葬祭の違い							講義	池原 大介/ 山内 満美
23	エンゼルケアの実際(演習)							実技・演習	池原 大介/ 山内 満美
24	エンゼルケアの実際(演習)							実技・演習	池原 大介/ 山内 満美
25	災害時における生活支援 1.被災者を巡る様々な支援の実際 2.災害者特性に応じた生活支援							講義・演習	池原 大介
26	災害時における生活支援 1.被災者を巡る様々な支援の実際 2.災害者特性に応じた生活支援							講義・演習	池原 大介
27	応急手当の知識と技術 1.傷病者の応急手当 2.応急手当の実際							講義・演習	池原 大介/ 伊波 翔吾
28	応急手当の知識と技術 1.傷病者の応急手当 2.応急手当の実際							講義・演習	池原 大介/ 伊波 翔吾

29	3. 緊急時の対応 一般的な救急法(ALS) 傷病者への対応 AEDの使い方	講義・演習	池原 大介/ 伊波 翔吾
30	まとめ、実技試験		池原 大介
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験(40)% 口頭試験()% 発表()% その他(出席状況)(10)%			
<p style="color: red;">ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
	書名	著者	出版社
	最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術」		中央法規出版
	「7 生活支援技術」、 「8 生活支援技術」		中央法規出版
参考書			
	書名	著者	出版社
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)			

授業科目名	介護過程								
担当者	金城 要/ 池原 大介/ 渡慶次 司								
開講年次	1年,2年	開講期	1年前期,1年後期,2年前期,2年後期	授業回数	75	時間数	150	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。 【ねらい】									
(到達目標)(1)介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できるようにする。 (2)個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験、発表会企画・運営・レポート提出									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	介護過程を学ぶ前に(自分自身を表現する)(自己紹介)							金城 要	
2	介護過程を学ぶ前に(くらしとは?)							金城 要	
3	利用者の思いや願いに気づく(かかわるとは?)							金城 要	
4	問題解決思考について							金城 要	
5	"							金城 要	
6	介護過程について(意義と目的)							金城 要	
7	介護過程について(生活支援の考え方と介護過程の必要性)							金城 要	
8	"							金城 要	
9	介護過程の理解(介護過程の全体像)							金城 要	
10	介護過程の理解(アセスメント)							金城 要	
11	介護過程の理解(情報収集)							金城 要	
12	介護過程の理解(情報の分析)							金城 要	
13	介護過程の理解(課題の明確化)							金城 要	
14	事例演習							金城 要	
15	まとめ、筆記試験							金城 要	
16	介護過程について振り返り(介護過程の全体像、アセスメント、ICF等)							渡慶次 司	
17	介護サービス計画(ケアプラン)、介護計画とは、介護目標の設定等							渡慶次 司	
18	Wさんの事例をICFの6つの構成要素に分ける(グループ演習・発表・解説)							渡慶次 司	
19	アセスメントについて(優先順位の判断基準)、実際の高齢者DVDを視聴し、ICFの視点を学ぶ							渡慶次 司	
20	介護計画の立案について(事例:Kさんの小規模多機能型居宅介護)							渡慶次 司	
21	事例研究(介護計画書)の発表から学ぶ 1							渡慶次 司	
22	事例研究(介護計画書)の発表から学ぶ 2							渡慶次 司	
23	事例研究(介護計画書)の発表から学ぶ 3							渡慶次 司	
24	入浴を拒否するYさんの事例の解説、介護過程の個人ワーク、(左上下肢による安定した車いす操作ができる短期目標に対しての具体的な援助内容・方法)							渡慶次 司	
25	フェイスシートからアセスメントシートへの記入方法							渡慶次 司	
26	事例:アルツハイマー型認知症の事例について(グループ演習)							渡慶次 司	
27	「介護過程」展開の実際、事例1「グループホームにおける認知症高齢者」							渡慶次 司	
28	「介護過程」展開の実際、事例1「グループホームにおける認知症高齢者」 ・個人ワーク、ペアワーク							渡慶次 司	
29	「介護過程」展開の実際、事例1「グループホームにおける認知症高齢者」 ・まとめ、解説							渡慶次 司	
30	まとめ、筆記試験							渡慶次 司	
31	介護過程とケアマネジメントの関係性							渡慶次 司	
32	ケアプランと個別援助計画の関係性							渡慶次 司	
33	チームアプローチにおける介護福祉士の役割							渡慶次 司	
34	情報の共有とアセスメントツールの活用							渡慶次 司	

35	情報の共有とアセスメントツールの活用		渡慶次 司
36	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開		渡慶次 司
37	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開		渡慶次 司
38	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開		渡慶次 司
39	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開		渡慶次 司
40	まとめ、筆記試験		渡慶次 司
41	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(障がい施設)		金城 要
42	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(障がい施設)		金城 要
43	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(訪問介護)		金城 要
44	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(介護老人福祉施設)		金城 要
45	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(介護老人福祉施設)		金城 要
46・47	実習中間の振り返り(介護過程の展開の進行状況)		池原 大介
48・49	実習の振り返りと事例研究について		池原 大介
50・51	事例研究について		池原 大介
52～61	事例研究の資料作成		池原 大介
62～66	事例研究発表の準備		池原 大介
67・68	事例研究発表		池原 大介/ 渡慶次 司
69～73	事例研究発表		池原 大介/ 渡慶次 司
74・75	事例研究発表		池原 大介/ 渡慶次 司

期末試験(60)% 提出物(30)% 小テスト()% 実技試験()%
 口頭試験()% 発表()% その他(出席状況)(10)%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教科書

書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座「9 介護過程」「10介護総合演習・介護実習」		中央法規出版
介護福祉教育研究会 「楽しく学ぶ介護過程」		久美株式会社 2012年

参考書

書名	著者	出版社

教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)

授業科目名	発達と老化の理解								
担当者	安里 初乃/ 砂川 昌信/ 青野 健治/ 石垣 順子/ 専任教員/ 仲里 艶子/ 長嶺 千寿子/ 非常勤講師/ 木本 豊								
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	時間数	60	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)発達と老化の理解では、介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。									
(到達目標)(1)人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できるようにする。 (2)老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できるようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、発表会企画・運営・レポート提出、筆記試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容						方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	発達とは						講義	長嶺 千寿子	
2	人間の発達段階と発達課題						講義	長嶺 千寿子	
3	身体的機能・心理的機能・社会的機能の発達						講義	長嶺 千寿子	
4	発達段階の特徴と課題(乳幼児期)						講義	長嶺 千寿子	
5	発達段階の特徴と課題(学童期)						講義	長嶺 千寿子	
6	老年期の定義/老化とは						講義	石垣 順子	
7	老年期の発達課題						講義	石垣 順子	
8	老年期をめぐる今日的課題						講義	石垣 順子	
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 その他保健医療職との連携						講義	安里 初乃	
10	老化にともなう身体的な変化と生活への影響1						講義	安里 初乃	
11	高齢者の特性 運動器 1 骨格系						講義	砂川 昌信	
12	高齢者の特性 運動器 2 筋系						講義	砂川 昌信	
13	高齢者の特性 呼吸器1						講義	青野 健治	
14	高齢者の特性 呼吸器2						講義	青野 健治	
15	まとめ、中間試験						講義	安里 初乃	
16	健康長寿に向けての健康(高齢者と健康)						講義	安里 初乃	
17	高齢者の症状・疾患の特徴 (腎、泌尿器系)						講義	安里 初乃	
18	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響						講義	安里 初乃	
19	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 感染症 精神疾患						講義	安里 初乃	
20	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 社会的変化						講義	安里 初乃	
21	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 循環器						講義	安里 初乃	
22	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 消化器						講義	安里 初乃	
23	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 脳、神経						講義	安里 初乃	
24	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 皮膚、感覚系						講義	安里 初乃	
25	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 悪性新生物						講義	安里 初乃	
26	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 内分泌 代謝系						講義	木本 豊	
27	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 内分泌 代謝系						講義	木本 豊	
28	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 歯、口腔疾患						講義	木本 豊	
29	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 歯、口腔疾患						講義	木本 豊	
30	まとめ、筆記試験						講義	安里 初乃	
期末試験(90%)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
最新・介護福祉士養成講座 「12 発達と老化の理解」						中央法規出版			
参考書									

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	認知症の理解								
担当者	徳盛 裕元/ 非常勤講師								
開講年次	1年,2年	開講期	1年前期,2年前期	授業回数	30	時間数	60	単位数	
授業の概要・到達目標									
<p>(概要) 認知症の理解では、認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。さらに利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。</p> <p>(到達目標) (1) 認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解できるようにする。 (2) 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解できるようにする。 (3) 認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなぐことができるようにする。 (4) 認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できるようにする。 (5) 認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようにする。</p>									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
出席状況（授業時間数の3分の2以上） 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	認知症の基本的理解・メカニズムの理解					講義・演習	非常勤講師		
2	第4章 1節 パーソンセンタードケアの技術					講義・演習	徳盛 裕元		
3	第2節 1～2 アセスメント センター方式の理解					講義・演習	徳盛 裕元		
4	第2節 3～4 ひもときシートの理解 演習4-2					講義・演習	徳盛 裕元		
5	第3節 認知症の人とのコミュニケーション					講義・演習	徳盛 裕元		
6	第3節 演習ロールプレイ					講義・演習	徳盛 裕元		
7	第4章4節 認知症の人へのケア DVDドキュメント介護～看取りまで 演習					講義・演習	徳盛 裕元		
8	第4章4節 認知症の人へのケア テキスト中心に確認					講義・演習	徳盛 裕元		
9	第4章5節 認知症の人へのさまざまなアプローチ					講義・演習	徳盛 裕元		
10	第4章6節 認知症の人の終末期医療と介護					講義・演習	徳盛 裕元		
11	第4章7節 環境づくり 演習「心地よい環境を考える」					講義・演習	徳盛 裕元		
12	五感に働きかける環境 演習4-4					講義・演習	徳盛 裕元		
13	第5章 家族への支援					講義・演習	徳盛 裕元		
14	第6章 認知症の人の地域生活支援					講義・演習	徳盛 裕元		
15	テスト ふりかえり					講義・試験	徳盛 裕元		
期末試験（90）％ 提出物（ ）％ 小テスト（ ）％ 実技試験（ ）％ 口頭試問（ ）％ 発表（ ）％ その他（出席状況）（10）％									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名		著者			出版社				
最新・介護福祉士養成講座 「13 認知症の理解」					中央法規出版				
参考書									
書名		著者			出版社				
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）									

授業科目名	障害の理解								
担当者	×渡慶次 夏海/ 安森 盛一/ 安里 初乃/ 久高 幸枝/ 古川 宗宏/ 緒方 茂樹/ 新城 亮太/ 石垣 順子								
開講年次	1年,2年	開講期	1年前期,2年前期	授業回数	30	時間数	60	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。 【ねらい】 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、(到達目標)(1)障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できるようにする。 (2)医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できるようにする。 (3)障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができるようにする。 (4)障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できるようにする。 (5)障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようにする。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容							方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	障害理解の基礎							講義	緒方 茂樹
2	ICF 制度法律の面からみた基礎理解							講義	緒方 茂樹
3	ノーマライゼーション							講義	緒方 茂樹
4	合理的配慮と基礎的環境整備							講義	緒方 茂樹
5	障害の受容							講義	緒方 茂樹
6	中間試験							講義	緒方 茂樹
7	知的障害							講義	緒方 茂樹
8	視覚・聴覚・言語障害							講義	緒方 茂樹
9	肢体不自由・重複障害							講義	緒方 茂樹
10	精神障害・高次脳機能障害							講義	緒方 茂樹
11	内部障害							講義	緒方 茂樹
12	発達障害 ASD特性							講義	緒方 茂樹
13	ASD 演習							講義、演習	緒方 茂樹
14	ASD 事例研究							講義、演習	緒方 茂樹
15	まとめ・終講試験							講義	緒方 茂樹
16-17	言語・聴覚障害のある人の生活の理解								×渡慶次 夏海 新城 亮太
18-19	精神障害のある人と家族支援								久高 幸枝 久高 幸枝
20-21	高次脳機能障害のある人の生活の理解								古川 宗宏 古川 宗宏
22-24	重複障害(盲ろう)、知的障害、発達障害のある人の生活の理解								安森 盛一 安森 盛一 安森 盛一
25-29	内部障害、難病のある人の生活の理解								石垣 順子 石垣 順子 石垣 順子 石垣 順子 石垣 順子
30	まとめ、筆記試験								安里 初乃
期末試験(90)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況)(10)%									
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書									
書名			著者			出版社			
最新・介護福祉士養成講座「14 障害の理解」						中央法規出版			

最新・介護福祉士養成講座 「13 障害の理解」		中央法規出版
参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
最新・介護福祉士養成講座 「8 生活支援技術」		
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	こころとからだのしくみ								
担当者	粟國 美由紀/ 安里 初乃/ 久高 将臣/ 緒方 茂樹/ 石垣 順子/ 専任教員								
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期	授業回数	60	時間数	120	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。 こころとからだのしくみの知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。 【ねらい】 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。									
(到達目標)(1)介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できるようにする。 (2)生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようにする。									
履修における注意事項(受講ルールなど)									
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、発表会企画・運営、 筆記試験(中間・終講)									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	こころのしくみ - 心身の調和・生命の維持と恒常性のしくみ					講義、	安里 初乃		
2	からだのしくみ - こころとからだの関係					講義	安里 初乃		
3	からだの形と臓器の場所、からだの部位の名称					講義	安里 初乃		
4	からだの部位の役割 - 細胞・組織・器官					講義	安里 初乃		
5	息をすることに関連したしくみ - 呼吸器					講義	安里 初乃		
6	活動・移動に関連したしくみ - 骨・関節・筋肉					講義	久高 将臣		
7	活動・移動に関連したしくみ - 骨・関節・筋肉					講義	久高 将臣		
8						講義	久高 将臣		
9-10	活動・移動に関連したしくみ - 脳・神経系					講義	安里 初乃		
						講義	久高 将臣		
11-13	感覚器系					講義	久高 将臣		
						講義	安里 初乃		
						講義	安里 初乃		
14~15	食べるに関連したしくみ - 消化器					講義、演習	安里 初乃		
						講義	安里 初乃		
16	まとめ、中間試験					講義、試験	安里 初乃		
17~18	食べるに関連したしくみ - 代謝・内分泌					講義、演習	安里 初乃		
						講義	安里 初乃		
19~20	排泄に関連したしくみ - 腎・泌尿器					講義 演習	安里 初乃		
						講義	安里 初乃		
21-22	生殖に関連したしくみ - 生殖器					講義	安里 初乃		
						講義	安里 初乃		
23-24	からだの中を循環するしくみ - 血液成分・リンパ					講義	安里 初乃		
						講義	安里 初乃		
25-26	からだの中を循環するしくみ - 循環器					講義、演習	安里 初乃		
						講義、演習	安里 初乃		
27	「生きている証」の測定 - バイタルサイン測定方法					講義、演習	安里 初乃		
28	「生きている証」の測定 - バイタルサイン測定方法					講義、演習	安里 初乃		
29	バイタルサイン測定演習とまとめ					講義、演習	安里 初乃		
30	まとめ、終講試験					講義	安里 初乃		
31	AD/HD 障害特性					講義	緒方 茂樹		
32	AD/HD 事例					講義	緒方 茂樹		
33	自閉症スペクトラム障害特性					講義	緒方 茂樹		
34	ADS 演習					講義	緒方 茂樹		

35	脳の構造	講義	緒方 茂樹
36	シナプスとニューロン	講義	緒方 茂樹
37	脳の機能局在	講義	緒方 茂樹
38	睡眠の質	講義	緒方 茂樹
39	適応機制	講義	緒方 茂樹
40	まとめ、筆記試験	講義、試験	緒方 茂樹
41	後期ガイダンス入浴、清潔の保持に関連したしくみと変化への対応	講義	安里 初乃
42	皮膚・汗・褥瘡	講義	安里 初乃
43~45	排泄に関連したしくみと変化への対応 排泄器官、便、尿、ストーマ	講義	安里 初乃
		講義、演習	安里 初乃
		講義、演習	安里 初乃
46~47	身じたくに関連したしくみと変化への対応	講義	安里 初乃
		講義、演習	安里 初乃
48	運動器官、関節可動域、良肢位	講義	安里 初乃
49	まとめ、筆記試験	講義、試験	安里 初乃
50~51	身じたくに関連したしくみと変化への対応	講義	安里 初乃
		講義、演習	安里 初乃
52~53	食事に関連したしくみと変化への対応 栄養素の種類とはたらき	講義	安里 初乃
		講義、演習	安里 初乃
54~55	睡眠に関連したしくみと変化への対応 - 自律神経、レム・ノンレム	講義	安里 初乃
		講義	安里 初乃
56~58	「死」のとりえ方・終末期から危篤・死亡時のからだの理解 - エンゼルケア	講義	安里 初乃
		講義、演習	安里 初乃
		講義、演習	安里 初乃
59	エンゼルケア・医療従事者との連携	講義、演習	安里 初乃
60	まとめ、終講試験	講義、試験	安里 初乃

期末試験 (90) % 提出物 () % 小テスト () % 実技試験 () %
 口頭試問 () % 発表 () % その他 (出席状況) (10) %

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教科書

書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成校座「11 ことごとからだのしくみ」		中央法規出版
最新・介護福祉士養成校座「6 生活支援技術」		中央法規出版

参考書

書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成校座「7 生活支援技術」		中央法規出版
最新・介護福祉士養成校座「8 生活支援技術」		中央法規出版

教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)

< 教科書 > 最新・介護福祉士養成校座「14 障害の理解」中央法規出版

授業科目名	医療的ケア（基本研修）								
担当者	安里 初乃/ 伊波 翔吾/ 奥村 みどり/ 石垣 順子/ 末吉 幸恵								
開講年次	1年,2年	開講期	1年後期,2年前期,2年後期	授業回数	40	時間数	80	単位数	
授業の概要・到達目標									
(概要)医療的ケアでは、医療的ケア実施の基礎と喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)、経管栄養(基礎的知識・実施手順)について学ぶ。 【ねらい】 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。									
(到達目標)(1)医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するために感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解できるようにする。 (2)喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解できるようにする。 (3)経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解できるようにする。 (4)安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得できるようにする。									
履修における注意事項（受講ルールなど）									
出席状況(授業時間座学50時間以上・実技各5回以上) 授業に取り組む姿勢、実技へ取り組む姿勢、筆記試験									
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。									
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	講義オリエンテーション、『医療的ケア』導入の経緯 総論:人間と社会 介護職と医療的ケア 介護福祉士が喀痰吸引等を行うことに関わる制度					講義	安里 初乃		
2	総論:保健医療に関する制度					講義	奥村 みどり		
3	総論:医療的行為に関する法律・チーム医療と介護職との連携					講義	奥村 みどり		
4	総論:喀痰吸引や経管栄養の安全な実施					講義	奥村 みどり		
5	総論:感染予防・職員の感染予防 手袋ガウンの装着等演習					講義・演習	奥村 みどり		
6	総論:療養環境の清潔、消毒法・滅菌と消毒					講義	奥村 みどり		
7	総論:健康状態の把握 バイタルサイン、急変状態について					講義	奥村 みどり		
8	救急蘇生法の実際(模型人形での訓練) 1.救急法受講オリエンテーション 2.基礎講習-心臓マッサージ・人工呼吸法・AEDの取り扱い方法					講義、実技	伊波 翔吾		
9	救急蘇生法の実際(模型人形での訓練) 1.救急法受講オリエンテーション 2.基礎講習-心臓マッサージ・人工呼吸法・AEDの取り扱い方法					講義、実技	伊波 翔吾		
10	まとめ、終講試験					講義	安里 初乃		
11	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 呼吸のしくみとはたらき いつもと違う呼吸状態						末吉 幸恵		
12	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 喀痰吸引とは 人工呼吸器と吸引						末吉 幸恵		
13	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 子どもの吸引について						末吉 幸恵		
14	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意						石垣 順子		
15	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 呼吸器系感染症と予防 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認						石垣 順子		
16	第 部 第2章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説概論 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持						伊波 翔吾		

17	第 部 第2章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 吸引の技術と留意点、		伊波 翔吾
18	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 急変・事故発生時の対応と事前対策		石垣 順子
19	第 部 第2章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 喀痰吸引にともなうケア、報告および記録		伊波 翔吾
20	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 介護職員による喀痰吸引のケア実施の手引き		安里 初乃
21	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 消化器系のしくみとはたらき、消化吸収とよくある消化器の症状		安里 初乃
22	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養法とは 注入する内容に関する知識 経管栄養上の留意点		安里 初乃
23	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 子どもの経管栄養、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意		安里 初乃
24	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養に関する感染と予防		安里 初乃
25	第 部 第1章 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 急変・事故発生時の対応事前対策		安里 初乃
26	第 部 第2章 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持		安里 初乃
27	第 部 第2章 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 経管栄養の技術と留意点、経管栄養にともなうケア、報告および記録		安里 初乃
28	第 部 第3章 介護職員等による喀痰吸引のケア実施手引き 口腔内鼻腔内、気管カニューレ吸引	講義	安里 初乃
29	第 部 第3章 介護職員等による経管栄養のケア実施の手引き 胃ろう、経管栄養の通常手順	講義	安里 初乃
30	第 部 介護職員等による喀痰吸引等の研修評価票	講義	安里 初乃
31	まとめ、終講試験	講義	安里 初乃
32	喀痰吸引 介護職員等評価票 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ吸引	講義	安里 初乃
33	喀痰吸引 介護職員等評価票 口腔内・鼻腔内・気管カニューレ吸引	講義	安里 初乃
34	経管栄養 介護職員等評価票 経鼻経管・胃ろう腸瘻経管栄養	講義	安里 初乃
35	経管栄養 介護職員等評価票 経鼻経管・胃ろう腸瘻経管栄養	講義	安里 初乃
36	・吸引法の技術確認とデモスト、演習オリエンテーション 口腔内吸引法 鼻腔内吸引法 気管チューブ内吸引法、滅菌手袋着脱法、ガウンテクニック ・経管栄養法の技術確認とデモ 演習オリエンテーション 経鼻経管栄養法 胃ろう栄養法	講義	安里 初乃
37	・吸引法の技術確認とデモスト、演習オリエンテーション 口腔内吸引法 鼻腔内吸引法 気管チューブ内吸引法、滅菌手袋着脱法、ガウンテクニック ・経管栄養法の技術確認とデモ 演習オリエンテーション 経鼻経管栄養法 胃ろう栄養法	演習	安里 初乃/ 石垣 順子
38	・吸引法の技術確認とデモスト、演習オリエンテーション 口腔内吸引法 鼻腔内吸引法 気管チューブ内吸引法、滅菌手袋着脱法、ガウンテクニック ・経管栄養法の技術確認とデモ 演習オリエンテーション 経鼻経管栄養法 胃ろう栄養法	演習	安里 初乃/ 石垣 順子
39	実技達成度チェック、実技試験、まとめ	演習	安里 初乃/ 石垣 順子
40	実技達成度チェック、実技試験、まとめ	演習	安里 初乃/ 石垣 順子
期末試験 (60) % 提出物 () % 小テスト () % 実技試験 (40) %			

口頭試問()% 発表()% その他()()%

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教科書

書名	著者	出版社
喀痰吸引・経管栄養研修テキスト	(株)全国訪問看護事業協会 編集	中央法規出版株式会社

参考書

書名	著者	出版社

教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)

--